病院年報

第２９号（平成２８年度）

八尾市立病院

基本理念

一．地域住民の健康な生活を守るため、高度で良質な医療を提供します。
一．信頼される市の中核病院として、地域に密着した医療を推進します。
一．市民に誇れる公立病院として、品格ある病院運営を実践します。

基本方針

１．医療安全を重視し、医療ニーズに対応した高度医療・急性期医療を充実させます。
２．地域の医療機関との連携の強化と、保健・福祉分野との役割分担により、地域完結型の医療を確立します。
３．救急医療、小児・周産期医療、災害医療などの政策医療を確保します。
４．患者の意思と権利を尊重し、市民に信頼される病院をめざします。
５．良心に基づく運営と公民協働による健全経営の維持により、職員が誇れる病院を追求します。
６．医療従事者の教育・研修の充実により、医療水準の向上に努めます。

患者の権利章典

１．個人の人格および価値観は尊重され、だれでも等しく安全で良質な医療を受ける権利があります。
２．自分の受ける医療について、必要な情報が提供され、十分な説明を受けた上で、自分の意思で治療方法などを選択し、決定する権利があります。
３．自分の受ける医療について、納得できるまで質問でき、さらに不明の点があれば診療情報の提供やカルテ開示を求める権利があります。
４．個人情報および診療情報は厳密に保護され、プライバシーを尊重される権利があります。
５．自分の受ける医療について、他の医師の意見を聞いたり（セカンドオピニオンを含む)、他の医療機関を受診する権利があります。
６．自分の健康に関する情報を正しく伝えるとともに、他の患者の診療を妨げないように配慮する責務があります。

平成 28 年度病院年報　挨拶

現在の我が国は世界にも類を見ない超高齢社会に突入し、医療への社会的ニーズが変化している。今後の地域医療構想の行方を見極め、市立病院に求められる役割を実現していくため、「３本の矢を“市立病院チーム”一丸となり推進していく」というメッセージのもとに病院運営を進めている。

１本目の矢は「急性期病院機能の充実」である。国が進める地域包括ケアシステム構想の中で、当院が果たすべき役割として、高度で良質な医療を提供できる急性期病院機能を充実させることが重要である。その実現のために高度医療機器（手術室装備、放射線治療装置、血管造影装置など）の整備を推進しており、実際の診療現場においてその威力を発揮している。地域医療構想が本格化する未来に向けて緩和ケア病棟などの病床機能の再編は今後の課題である。

２本目の矢は「地域医療支援病院としての活動の継続」である。平成 24 年 11 月に地域医療支援病院の承認を受け、地域の医療機関の先生方との連携をさらに深めており、紹介率 50%以上・逆紹介率 70%以上を今年度も維持した。活動の継続のためには、患者サポート・相談機能や病診薬連携システムなどを活用した情報提供機能、二次救急部門の充実が必要である。救急搬送の応需率は年々高くなってきているが、一方、長年の課題である内科系診療科の更なる充実も重要と考えている。また、市民向けの情報提供として、八尾市立病院公開講座を継続するとともに、市民の求める場所に当院スタッフが出向き、求める内容の講演を行う出前講座にも取り組んでいる。

３本目の矢は「地域がん診療連携拠点病院としての活動の定着化」である。平成 27 年４月に府指定から国指定の連携拠点病院と格上げになったが、実績や機能についての要件のハードルが高く、活動の定着化には病院の総合力が問われている。地域医療連携室・がん相談支援センター・緩和ケアセンターの統合的な強化が必須であり、がん診療連携拠点にふさわしい病院づくりを進めている。緩和ケアについては、厚生労働省の指針にそった研修会を平成 28 年度も当院で開催し、その重要性は院内全体に周知・認識されている。今後も、院内の地域がん診療連携拠点病院運営委員会を中心に、病院内の情報共有化と目標とする方向性を明確にして有機的な統合を図ることにより、種々の課題を解決すべく一層の努力が必要である。

「高度で良質な医療の提供」「地域に密着した医療の推進」「品格ある病院運営の実践」といった病院の基本理念の実現のためには、３本の矢を束ねる組織力が必要である。幹部会議を中心とした病院全体の総合力のもとに平成 28 年度まで連続 6 年間黒字を達成してきたが、従来から進めてきたチーム医療を発展させ、職員並びに市民が誇れる病院をめざし、更なる取り組みを進めていきたい。

病院長　星田　四朗

目　　次

病院の沿革
病院の沿革 1
病院の現況
概要 5
認定・指定 6
機構 7
院内管理体制 8
院内会議・委員会 9
病院職員
１．病院職員 14
２．人員配置表 18
八尾市立病院自衛消防組織編成表 20
診療局の現況
診療局の現況 21
内科の現況 22
血液内科の現況 26
消化器内科の現況 27
循環器内科の現況 29
外科の現況
一般外科・消化器外科 31
呼吸器外科 33
乳腺外科の現況 35
脳神経外科の現況 37
整形外科の現況 39
形成外科の現況 40
産婦人科の現況 41
小児科の現況 43
新生児集中治療部の現況 45
眼科の現況 47
耳鼻咽喉科の現況 48
泌尿器科の現況 50
皮膚科の現況 52
リハビリテーション科の現況 54
麻酔科の現況 55
放射線科の現況
放射線科・放射線診断科 56
放射線治療科 59
歯科口腔外科の現況 60
病理診断科の現況 62
集中治療部の現況 64
救急診療科の現況 65
中央手術部の現況 66
通院治療センターの現況 67
内視鏡センターの現況 69
糖尿病センターの現況 71
健診センターの現況 73
中央検査部の現況 74
ＭＥセンターの現況 77
がん相談支援センターの現況 79
緩和ケアセンターの現況 82
栄養科の現況 84

薬剤部の現況・・・ 86
臨床研究センターの現況・・・ 94
地域医療連携室の現況・・・ 98
診療情報管理室の現況・・100
医療安全管理室の現況・・106
感染対策管理室の現況・・108
看護部の現況
看護部の現況・・・110
1．看護部委員会活動状況・・・112
2．認定看護師の活動状況・・・115
3．院外活動状況・・・119
4．体験学習受け入れ・・119
事務局の現況
事務局企画運営課の現況・・120
ＰＦＩ事業の現況
八尾医療ＰＦＩ株式会社（ＳＰＣ）の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
経営状況
1．収益費用明細書
（1）収益の部・・・124
（2）費用の部・・・125
2．資本的収入及び支出明細書（税抜）
（1）資本的収入の部・・・126
（2）資本的支出の部・・・126
3．比較貸借対照表（税抜）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・126
4．経営分析表・・・127
5．財務分析表・・・128
業務状況
1．患者状況
（1）外来患者数・・・129
（2）入院患者数・・・129
（3）外来･入院別、診療科別、月別患者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・130
（4）地域別患者数・・132
（5）診療科別救急取扱患者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・133
（6）紹介率・・135
（7）逆紹介率・・・136
（8）逆紹介時の診療科別月別診療情報提供数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・137
2．診療収益状況（税抜）
（1）医業収益（外来）・・・138
（2）医業収益（入院）・・・138
（3）診療科別診療収益・・・139
3．ＴＱＭ活動・・・140
4．チーム医療活動・・141
5．大規模災害発生時のトリアージ応急救護訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・142
6．自衛消防訓練・・・142
7．八尾市立病院公開講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・143
8．八尾地域医療合同研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・144
9．業績集
（1）刊行論文、著書・・145
（2）学会発表・・146
（3）研究会発表・・150
（4）講演・・151
（5）院内研究会・・154
（6）学会司会・・・155

病　院　の　沿　革

病　院　の　沿　革

昭和	21 年	5 月	日本医療団八尾病院開設、八尾町西郷
昭和	23 年	4 月	八尾市誕生、市立八尾市民病院と名称変更
昭和	24 年	8 月	八尾市太子堂(現 南太子堂)に木造２階建、延324坪の新築工事着工
昭和	25 年	2 月	市立八尾市民病院開院、内科・外科・産婦人科・歯科・放射線科の５科を設置 病床数32床
		8 月	皮膚泌尿器科開設、中央館完成、20床増床、病床数52床
昭和	26 年	10 月	結核病棟完成、50床増床、病床数102床
昭和	28 年	2 月	八尾市民病院の名称を廃止、八尾市立病院と呼称、小児科開設
		4 月	眼科・耳鼻咽喉科開設(診療科９科)
		6 月	本館棟完成、76床増床、病床数178床
		9 月	中央館第１病棟７床増床、病床数185床
昭和	29 年	12 月	看護婦宿舎増築及び中央館改造工事完成、２床増床、病床数187床
昭和	31 年	1 月	整形外科独立(診療科10科)
		10 月	平屋建一般病棟新築竣工(新館と呼称、後に南館と名称変更) 40床増床、病床数227床
昭和	32 年	2 月	円形伝染病棟竣工、鉄筋３階建370坪、66床
		5 月	円形看護婦宿舎竣工
		8 月	総合病院の承認を受ける
昭和	33 年	11 月	基準看護『１類』、基準給食の実施の承認を受ける
昭和	34 年	4 月	市立４診療所(西郡、大正、南高安、高安)市立病院に統合 (その後35、36年にいずれも民間移管或いは廃止)
昭和	36 年	1 月	中央検査科独立
		10 月	全病棟に基準寝具実施
		12 月	新館(北館)・玄関棟・レントゲン棟竣工、病床数309床
昭和	39 年	1 月	泌尿器科独立
		4 月	昭和39年度会計から企業会計方式採用(地方公営企業法一部適用)
昭和	41 年	4 月	歯科廃止
		7 月	南館病室増築工事完成
		10 月	中館新築工事完成、病床数339床
昭和	42 年	4 月	社会保険診療報酬点数表『乙表』に切り替え
昭和	44 年	1 月	放射線科Ｘ線テレビ装置購入
昭和	47 年	2 月	基準看護『特類』承認、リハビリ棟新築、看護婦宿舎増築工事竣工
昭和	48 年	3 月	アイソトープ治療装置購入
		8 月	本館、北館及びコバルト60棟改築工事完成 病床数412床(一般346床、伝染66床)
昭和	49 年	10 月	基準看護『特２類』実施
昭和	50 年	1 月	公立病院特例債借入(668,400千円)
昭和	52 年	12 月	中館２階分娩室改修工事完了
昭和	53 年	3 月	Ｘ線新型テレビ装置設置
		4 月	八尾市立病院院内学級開設
		11 月	スプリンクラー設置
昭和	54 年	11 月	病院事業経営健全化団体指定の認可
昭和	55 年	9 月	南館病棟増改築工事完成。病床数446床(一般380床、伝染66床)
昭和	56 年	11 月	理学療法科開設
昭和	57 年	12 月	コバルト60線源入替え
昭和	58 年	3 月	病院事業経営健全化措置実施要領による経営健全化完了
		9 月	全身用コンピュータＸ線断層撮影装置設置
昭和	59 年	9 月	多項目自動血球計数装置設置
昭和	60 年	9 月	医事業務を中心にコンピュータ導入
昭和	62 年	10 月	Ｘ線テレビ撮影装置(ジャイロ)入替え、カセッテレスＸ線テレビ装置設置
		11 月	人間ドック開設
昭和	63 年	5 月	内科改装
		7 月	中館２階病棟基準看護『特３類』実施
		11 月	病棟科別再編成

平成　元 年	５ 月	外科・整形外科・皮膚科改装
平成　２ 年	１ 月	循環器Ｘ線検査システム及びＤＳＡ装置設置
	５ 月	小児科・泌尿器科改装
	７ 月	コバルト60線源入替え
	12 月	内視鏡ビデオ情報システム設置
平成　３ 年	３ 月	東側駐車場増設整備
	５ 月	産婦人科・眼科改装
平成　４ 年	５ 月	耳鼻咽喉科改装
平成　５ 年	１ 月	ＣＴ装置新機種に更新設置
	４ 月	内科、外科、小児科以外の診療科につき土曜日休診を実施
		内科において、午後の一般外来診療を開始
	８ 月	来院者用駐車場有料化実施
	９ 月	中館３階、南館３階病棟『特３類』実施
		病棟科別病床再編成
	12 月	北館４階病棟『特３類』実施
平成　６ 年	４ 月	産婦人科　土曜日の外来診療を開始
		医局を診療局と改称し、診療局長を置く。看護科は医局より独立
	８ 月	ＭＲＩ装置設置
	10 月	内視鏡室改装
平成　７ 年	５ 月	南館１階・２階病棟『特３類』実施
	７ 月	新看護2.5対１、Ａ加算、13対１看護補助に移行
		病棟科別病床再編成
平成　８ 年	２ 月	適時適温給食実施
		病診連携窓口設置
	３ 月	八尾市立病院建設基金条例施行
	４ 月	病衣貸与実施
		看護相談窓口開設
	７ 月	ＪＲ八尾駅に広告看板を設置
	12 月	理学療法科をリハビリテーション科と改称
平成　９ 年	３ 月	中館２階病棟詰所及び新生児室他改修
	４ 月	病院建設準備室設置
	５ 月	正面玄関増改築
	６ 月	新看護２対１、Ａ加算に移行
		薬の相談窓口設置
平成　10 年	１ 月	夜間小児急病診療開始（平日の火曜日・木曜日午後５時から午後12時まで）
		入院患者（内科、整形外科、眼科）に対する服薬指導実施
	３ 月	コバルト60線源入替え
	４ 月	救急告示認定（内科・外科・産婦人科）
		産婦人科の土曜日休診を実施
	８ 月	貸与病衣の使用料徴収開始
平成　11 年	１ 月	外来患者に対する薬剤情報提供の実施
	３ 月	伝染病床廃止、病床数380床
	９ 月	入院患者に対する服薬指導の拡大
		（耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科の患者にも拡大）
	12 月	伝染病棟取り壊し、跡地を駐車場利用
平成　12 年	１ 月	夜間小児急病診療の拡大
		（第２、４、５土曜日午後５時から午後12時までについても実施）
	３ 月	新病院建設用地の購入
		中館２階病棟、分娩室改修
		新市立病院建設事業に伴う久宝寺遺跡発掘調査着手
	６ 月	夜間小児急病診療の拡大
		（第２、４金曜日午後５時から午後12時までについても実施）
	７ 月	市立病院創立50周年記念行事「健康バンザイ」開催
		ＮＨＫ総合テレビジョン「関西クローズアップ」で市立病院新人看護職員の看護体験放映
平成　13 年	２ 月	医療事故防止マニュアルの発行
	３ 月	八尾市医師会地域医療情報ネットワークに参画

	８ 月	新病院起工式
	10 月	市民参加の患者サービス検討会議設置
平成 14 年	２ 月	北館４階病棟に24時間監視体制の病室（ＨＣＵ）を設置
	４ 月	院外処方箋の全面実施
	９ 月	ＰＦＩ事業（新病院維持管理・運営事業）実施方針の公表
平成 15 年	４ 月	臨床研修病院の指定（医科）
	11 月	新病院定礎式（21日）
	12 月	新病院建物の引き渡し（26日）
平成 16 年	３ 月	八尾医療ＰＦＩ株式会社との契約締結（26日）
	４ 月	新病院竣工式（21日）
		新病院市民見学会（24、25日）
	５ 月	新病院開院（１日）新たに循環器科、神経内科、脳神経外科、歯科口腔外科を設置し、全16診療科となる。病床数380床
		小児救急診療を輪番制（火曜日・木曜日・土曜日）で開始
		地域医療連携室設置
		総合医療情報システムを導入
		新しく高度医療機器（結石破砕装置、磁気共鳴画像診断装置、放射線治療装置、血管造影撮影装置、Ｘ線テレビシステム、Ｘ線ＣＴ、ガンマカメラ、骨密度測定検査装置、乳房Ｘ線撮影装置）を導入
		ＩＣＵ、ＨＣＵ、ＮＩＣＵを完備
		新病院外来診療開始（７日）
	７ 月	ＰＦＩ事業に関し、モニタリング委員会、事業評価部会を設置
		大阪府自治体病院開設者協議会会長就任
	８ 月	日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver. 4 認定（一般病院）
	11 月	女性専門外来開始
平成 17 年	２ 月	自治体病院協議会見学会
	３ 月	病院建設準備室が解散
	５ 月	新病院移転一周年記念講演会開催
	10 月	分娩休止
		病院各委員会見直し・再編
		まちなかステーションにインターネットコーナー設置
平成 18 年	３ 月	まちなかステーションに住民票等自動交付機設置
		旧病院解体工事着手
	４ 月	分娩再開
		院内敷地内全面禁煙開始
	５ 月	ナースキャップ廃止
	10 月	２階フロアに市民ギャラリー設置
	11 月	旧病院解体工事完了
平成 19 年	４ 月	病院事務局機構改革（一課へ統合）
		診療情報管理室設置
	５ 月	小児病棟にプレイルーム設置
		ＮＩＣＵ増床（３床→６床）
	10 月	臨床研修病院の指定（歯科）
	11 月	大阪府地域周産期母子医療センターの認定
平成 20 年	２ 月	がん相談支援センター設置
	４ 月	クレジットカードによる診療費の精算開始
		医療安全管理室設置
	５ 月	ＩＣＵ施設基準届出
	６ 月	７：１入院基本料に移行
	７ 月	乳がん検診の拡大（土曜日）
		ＤＰＣ（診断群分類別包括評価）開始
	11 月	従来の16科に、形成外科・病理診断科を加え、全18診療科となる
平成 21 年	２ 月	八尾市立病院改革プラン策定
	３ 月	院内保育開始
	４ 月	地方公営企業法全部適用体制への移行（病院事業管理者を設置）
		大阪府がん診療拠点病院指定
	５ 月	新型インフルエンザ発生のため拠点型発熱外来を設置
	６ 月	女性専門外来休止

	７ 月	八尾市立病院ＰＦＩ事業検証のための実態調査･分析実施
	８ 月	日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver.6.0 認定
平成 22 年	１ 月	太陽光発電システム設置
	２ 月	ＭＲＩ装置を増設
	３ 月	陰圧病床設置
		医局拡張工事実施
	７ 月	心臓オンコール開始
	９ 月	八尾市災害医療センターとして､大規模災害を想定したトリアージ訓練を実施
	10 月	八尾市立病院開院60周年記念講演会開催
	12 月	八尾市立病院開院60周年記念誌発行
平成 23 年	３ 月	JR久宝寺駅２階部分ペデストリアンデッキ接続に伴い､２階南エントランス開通
		東日本大震災の被災地(宮城県石巻市)に看護協会を通じて看護師を派遣
	４ 月	従来の18科に､消化器内科･腫瘍内科を加え､全20診療科となる
	５ 月	東日本大震災の被災地(岩手県大槌町)に日本医師会災害医療チーム（ＪＭＡＴ）として医療チーム（医師２名、看護師２名、薬剤師２名、事務員２名）を派遣
		登録医制度、開放病床の運用開始
	６ 月	電子カルテシステムを更新（サーバ、パッケージ、端末機器、ネットワーク）
平成 24 年	２ 月	八尾市立病院経営計画策定
	４ 月	従来の20科に､血液内科、乳腺外科を加え､神経内科を取り下げ、全21診療科となる
		ボランティア「スマイル」活動開始
		糖尿病センター設置
		中河内地域感染防止対策協議会立ち上げ
	10 月	大阪府がん診療拠点病院指定更新
		せせらぎの運用開始
	11 月	地域医療支援病院承認
	12 月	病院・診療所・薬局連携ネットワークシステム稼動
平成 25 年	３ 月	マンモグラフィ機器を更新
		ＣＴ装置を更新（16列から80列へ）
		院内インターネット環境整備
	８ 月	薬剤師の病棟への常駐配置開始
		市立病院看護師による健康相談の開始
	10 月	海外招請講演会（MEET THE EXPERTS）を開催
		がんばれ八尾市立病院応援寄付金制度の創設
	12 月	肝臓がんよろず専門外来開設
平成 26 年	１ 月	機能拡充のための施設整備に向けた駐輪場の解体
	４ 月	緩和ケアセンター設置
		臨床研究センター設置
		市立病院出前講座開始
	５ 月	市立病院薬剤師によるお薬相談の開始
		市立病院機能拡充工事開始
	６ 月	第36回日本癌局所療法研究会を開催
	８ 月	日本医療機能評価機構機能評価3rdG:Ver.1.0認定
	12 月	新型インフルエンザ等対応訓練を実施
平成 27 年	２ 月	八尾市立病院経営計画（Ver.Ⅱ）策定
	３ 月	北館工事完成、北館内覧会実施
		がんシンポジウム開催（中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会主催）
	４ 月	基本理念、基本方針の改訂
	５ 月	八尾市立病院ＰＦＩ事業検証実施
	６ 月	ICU増床（５床から６床へ）、外来化学療法室増床（９床から16床へ）
	７ 月	患者サポート・ケアセンター設置
	８ 月	駐輪場ラック設置
	９ 月	血管撮影装置を更新
		市立病院機能拡充工事竣工
平成 28 年	２ 月	放射線治療装置を更新
	３ 月	がんシンポジウム開催（中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会主催）
	４ 月	感染対策管理室設置
平成 29 年	１ 月	がんシンポジウム開催（中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会主催）
	２ 月	血管撮影装置を増設
		PFI事業期間終了後の八尾市立病院の維持管理・運営事業に関する検討報告書作成

病　院　の　現　況

概　　要

１．施設の概要

位　　置　　八尾市龍華町１丁目３番１号
敷 地 面 積　　14,999.98 ㎡
建 物 延 面 積　　40,470.38 ㎡（駐車場・駐輪場含む）
（本館 39,160.28 ㎡、北館 1,310.10 ㎡）

２．診 療 科 目

内科・血液内科・消化器内科・循環器内科・腫瘍内科・外科・乳腺外科・脳神経外科・整形外科・形成外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・リハビリテーション科・麻酔科・放射線科・歯科口腔外科・病理診断科

３．受 付 時 間

外 来 診 療　　（初診・再診）　　平日　午前８時 45 分～午前 11 時 30 分
（予約のある方）　　平日　午前８時 45 分～午後２時 30 分
休診日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始
救 急 診 療　　内科・外科（24 時間受付）
小児救急診療　　火曜日・土曜日（午前９時～翌午前８時）

４．病　床　数

380 床
内訳　　特別室７室（７床）、個室 81 室（81 床）、４床室 66 室（264 床）、
ＨＣＵ７室（14 床）、ＮＩＣＵ（６床）、　ＩＣＵ（６床）、無菌病室（２床）

５．病　　棟

８階病棟　（東）　　外科
８階病棟　（西）　　内科（消化器・一般）
７階病棟　（東）　　泌尿器科、形成外科、眼科、皮膚科、内科（腫瘍・血液、透析）
７階病棟　（西）　　内科（循環器・血液・腫瘍）
６階病棟　（東）　　整形外科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科
６階病棟　（西）　　小児科
６階病棟（ＮＩＣＵ）新生児集中治療部
５階病棟　（東）　　内科（呼吸器・糖尿・感染・一般）、脳神経外科、（救急病床）、外科
５階病棟　（西）　　産婦人科、外科、内科
３階病棟（ＩＣＵ）　集中治療部

６．外　来　等

［本館］４　　階　　リハビリテーション科、通院治療センター
３　　階　　手術部門、ＩＣＵ、検査部門、管理諸室
２　　階　　総合待合、一般外来、医事部門、放射線部門、生理検査部門、
がん相談支援センター、健診センター、地域医療連携室、
患者サポート・ケアセンター
１　　階　　救急部門、糖尿病センター、放射線治療、核医学検査、ＳＰＤ部門、
滅菌・消毒部門、薬剤部門、栄養部門、防災センター、まちなかステーション
地下１階　　駐車場
［北館］　　院内保育ルーム、防災備蓄倉庫、大会議室、図書室

認　定　・　指　定

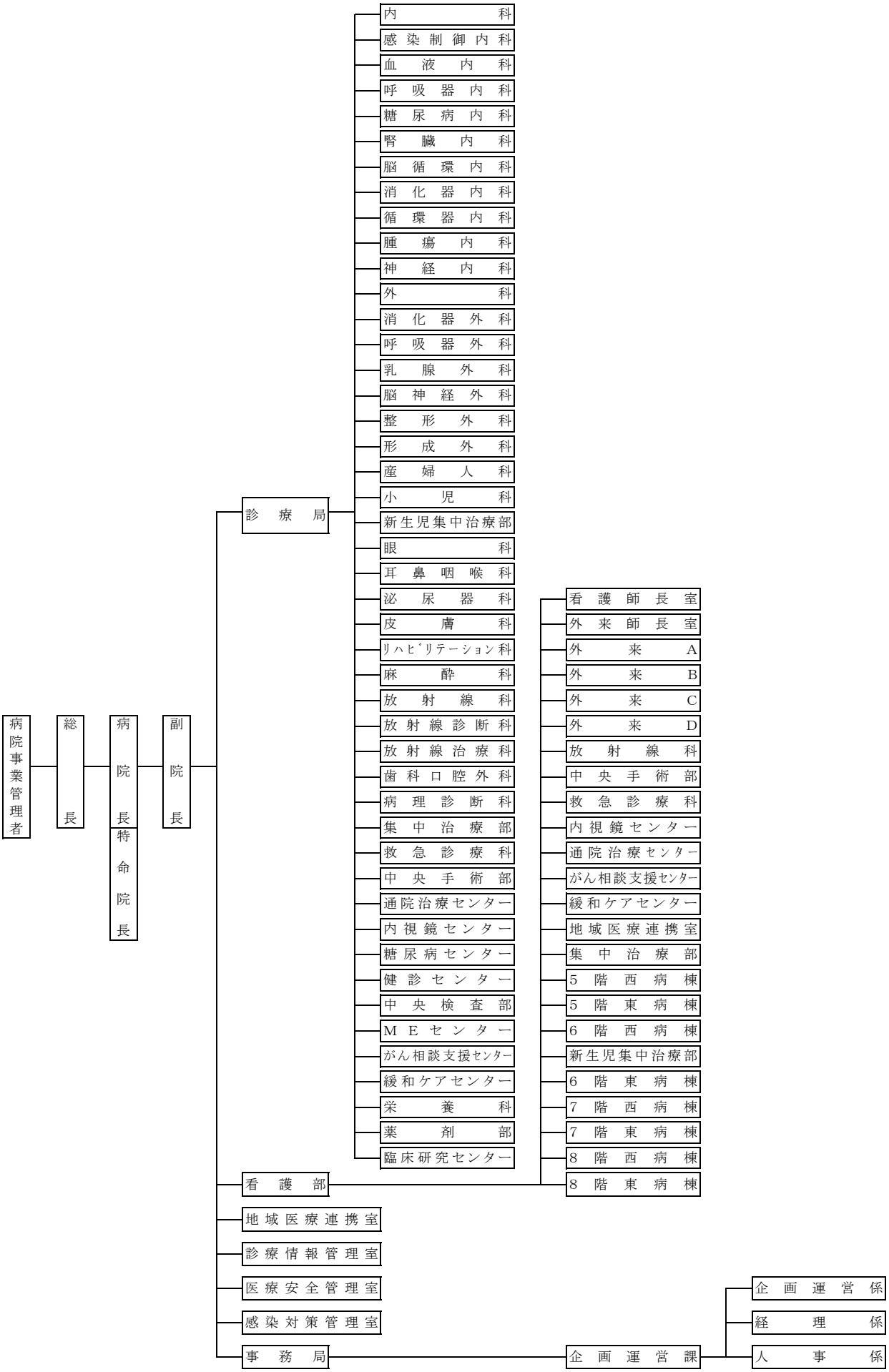
＜各種学会認定（専門）医制による研修施設＞

日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医制度研修施設
日本泌尿器科学会専門医制度教育施設
日本小児科学会専門医制度研修施設
日本小児科学会専門医研修支援施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本内科学会認定医教育関連病院
日本麻酔科学会研修施設
日本皮膚科学会認定専門医制度研修施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本周産期・新生児医学会
周産期（新生児）専門医制度暫定研修施設
日本周産期・新生児医学会
母体・胎児専門医制度補完研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本透析医学会専門医制度認定施設
母体保護法指定医師研修機関
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本老年医学会認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本肝臓学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会指導認定施設
日本臨床細胞学会認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設（Ｂ認定）
日本形成外科学会認定施設
日本緩和医療学会認定研修施設
呼吸器外科専門医制度基幹施設関連施設
日本病理学会専門医制度認定病院
日本糖尿病学会認定教育施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設

＜指定医療機関＞

日本医療機能評価機構認定病院
臨床研修指定病院（医科）
臨床研修指定病院（歯科）
保険医療機関
労災保険指定医療機関
労災保険二次健診等給付医療機関
大阪府結核指定医療機関
生活保護法指定医療機関
障害者指定自立支援医療機関
障害者指定自立支援医療機関（精神通院医療）
児童福祉法育成医療指定医療機関
未熟児養育医療指定養育医療機関
原子爆弾被爆者一般疾病指定医療機関
救急告示指定病院
母体保護法指定医療機関
指定難病医療費助成制度指定医療機関
小児慢性特定疾病医療費助成制度指定医療機関
妊婦一般健康診査取扱機関
乳児一般健康診査取扱機関
Ｂ型肝炎母子感染防止事業取扱機関
国民健康保険療養取扱機関
母子保健法指定医療機関
児童福祉施設（助産施設）
公害健康被害補償法公害医療機関
マンモグラフィ検診施設画像認定施設
大阪府特定給食施設
新生児聴性脳幹反応（ＡＢＲ）実施病院
日本静脈経腸栄養学会・ＮＳＴ稼動認定施設
日本栄養療法推進協議会認定ＮＳＴ稼動施設
大阪府地域周産期母子医療センター認定医療機関
地域がん診療連携拠点病院指定医療機関
地域医療支援病院
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会
インプラント実施施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会
エキスパンダー実施施設

機　　構


病院事業管理者
総長
病院長
特命院長
副院長
診療局
内科
感染制御内科
血液内科
呼吸器内科
糖尿病内科
腎臓内科
脳循環内科
消化器内科
循環器内科
腫瘍内科
神経内科
外科
消化器外科
呼吸器外科
乳腺外科
脳神経外科
整形外科
形成外科
産婦人科
小児科
新生児集中治療部
眼科
耳鼻咽喉科
泌尿器科
皮膚科
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科
麻酔科
放射線科
放射線診断科
放射線治療科
歯科口腔外科
病理診断科
集中治療部
救急診療科
中央手術部
通院治療センター
内視鏡センター
糖尿病センター
健診センター
中央検査部
ＭＥセンター
がん相談支援ｾﾝﾀｰ
緩和ケアセンター
栄養科
薬剤部
臨床研究センター
看護部
看護師長室
外来師長室
外来A
外来B
外来C
外来D
放射線科
中央手術部
救急診療科
内視鏡センター
通院治療センター
がん相談支援ｾﾝﾀｰ
緩和ケアセンター
地域医療連携室
集中治療部
5階西病棟
5階東病棟
6階西病棟
新生児集中治療部
6階東病棟
7階西病棟
7階東病棟
8階西病棟
8階東病棟
地域医療連携室
診療情報管理室
医療安全管理室
感染対策管理室
事務局
企画運営課
企画運営係
経理係
人事係

院 内 管 理 体 制

病院事業管理者

病院長 ― 企画会議

〈診療系〉
- 医事紛争対策委員会
- 医療事故対策会議
- 診療情報開示判定委員会

〈安全系〉
- 危機管理対策委員会
  - └危機管理マニュアル部会

〈運営系〉
- モニタリング委員会
  - └事業評価部会
- 行財政改革（経営健全化）推進会議
  - └専門部会（収益部会、費用部会）
- 経営計画評価委員会
- 維持管理・運営事業検討委員会

幹　部　会　議

- 診療科部長会

運営会議

〈診療系〉
- 臨床研究審査委員会
- 医療機器等整備委員会
- パス委員会
- 栄養委員会
- チーム医療推進委員会
  - └呼吸器ケアチーム
  - └栄養管理チーム（ＮＳＴ）
  - └褥瘡対策チーム
- 薬事委員会
- 診療材料検討委員会
- 地域がん診療拠点病院運営委員会
  - └緩和ケアチーム
  - └化学療法部会
    - └レジメン審査部会

〈安全系〉
- 医療安全管理委員会
  - └医療安全推進部会
  - └周術期血栓対策部会
- 院内感染対策委員会
  - └院内感染対策チーム（ＩＣＴ）
- 医療ガス安全管理委員会
- 肝炎感染防止対策委員会
- 放射線安全委員会
- 輸血療法委員会
- 省エネルギー推進委員会
  - └省エネ部会
- 倫理問題検討委員会

〈運営系〉
- 地域医療支援委員会
- 救急医療運営委員会
  - └救急対策チーム
- 情報システム管理委員会
- 診療情報・がん登録管理委員会
- 情報管理委員会
- 中央手術部運営委員会
- 放射線科運営委員会
- 中央検査部運営委員会
- ＩＣＵ運営委員会
- 診療報酬委員会
- 外来運営委員会
- 病棟運営委員会
- 病床運営委員会
  - └退院調整チーム
- 広報委員会
- 年報編集委員会
- 業務入札審査委員会
- ＮＩＣＵ運営委員会
- ＤＰＣ・コーディング委員会

〈人事（教育・研修）系〉
- 臨床研修管理委員会
  - └臨床プログラム部会
  - └臨床研修活性化部会
- 接遇改善委員会
- 教育研修委員会
- 図書委員会
- 職員任採用委員会
- 安全衛生委員会
- 職員分限懲戒審査委員会
- 職員被服委員会
- ＴＱＭ活動実行委員会
- 病院勤務医等負担軽減検討委員会
- 専門研修プログラム連絡協議会

- 医局内部会議
- 看護部内部会議
- 薬剤部内部会議
- 中央手術部内部会議
- 中央検査部内部会議
- リハビリテーション科内部会議
- がん相談支援センター内部会議
- 栄養科内部会議
- 地域医療連携室内部会議
- 診療情報管理室内部会議
- 医療安全管理室内部会議
- 事務局内部会議
- ＳＰＣ内部会議

院内会議・委員会

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
1	企画会議	基本理念、基本方針、診療機能等、病院経営における重要かつ基本的事項について、病院幹部職員の円滑な意思形成に基づく的確な意思決定を期する	必要の都度	植田武彦 病院事業管理者	星田四朗、佐々木洋、兒玉　憲、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、植野茂明、門井洋二、山内雅之
2	幹部会議	病院事業の充実・発展と効率的運用を期する	毎週木曜日	星田四朗 病院長	植野茂明、植田武彦、佐々木洋、兒玉　憲、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、門井洋二、山内雅之
3	運営会議	円滑な管理運営を期するために連絡・調整を行う	第4水曜日	福井弘幸 副院長	植野茂明、植田武彦、佐々木洋、星田四朗、兒玉　憲、田中一郎、西山謹司、森明富美子、門井洋二、上水流雅人、浅岡伸光、上田高志、外堀直子、中生浩之、井出義人、蔵　昌宏、山崎　肇、福島幸男、平井良介、武平春雄、黒田昇平、北村尚洋、原田美永子、山中トモエ、甲斐幸代、千種保子、山田智子、青木美加子、佐藤美代子、山内雅之、菱井義則、朴井　晃、小枝伸行、橋本将延、古東文夫
4	医療事故対策会議	医療事故の適切な対応を図る	必要の都度	星田四朗 病院長	田中一郎、西山謹司、福井弘幸、佐々木洋、植田武彦、森明富美子、植野茂明、山中トモエ、山崎　肇、門井洋二、朴井　晃
5	医事紛争対策委員会	医事紛争等の問題対策を行う	必要の都度	星田四朗 病院長	佐々木洋、植田武彦、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、植野茂明、朴井　晃
6	診療情報開示判定委員会	診療情報の開示に係る事務を適正かつ迅速に処理する	必要の都度	星田四朗 病院長	植田武彦、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、植野茂明
7	業務入札審査委員会	委託業務等に関し、入札業者指名等の決定等を行う	必要の都度	植野茂明 事務局長	星田四朗、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、朴井　晃、葛原秀明
8	行財政改革（経営健全化）推進会議	市財政改革推進本部による「新しい行財政改革大綱」に基づき、八尾市立病院の運営および財政改革並びに経営の健全化を推進する	必要の都度	植田武彦 病院事業管理者	星田四朗、佐々木洋、兒玉　憲、植野茂明、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、山崎　肇、浅岡伸光、平井良介、千種保子、山内雅之、菱井義則、朴井　晃、小枝伸行、門井洋二、橋本将延
9	経営健全化推進会議専門部門（収益部会）	病院経営健全化を推進する上で、増収に向けての内容について検討する	必要の都度	田中一郎 副院長	西山謹司、植野茂明、山内雅之、千種保子、浅岡伸光、平井良介、朴井　晃、宮田克爾、大和篤史、門井洋二、橋本将延
10	経営健全化推進会議専門部門（費用部会）	病院経営健全化を推進する上で、コスト削減に向けての内容について検討する	必要の都度	福井弘幸 副院長	西山謹司、植野茂明、山内雅之、森明富美子、山崎　肇、菱井義則、朴井　晃、小枝伸行、門井洋二、橋本将延、葛原秀明、小山修司
11	職員任採用委員会	八尾市立病院に勤務する企業職員の任採用に関して必要な事項を定める	必要の都度		
12	職員分限懲戒審査委員会	職員の分限懲戒に関して適正を期する	必要の都度		
13	臨床研究審査委員会	医薬品の製造販売承認申請又は承認事項一部変更承認申請の際に提出すべき資料の収集の為に行う治験、使用成績調査、特定使用成績調査、製造販売後臨床試験および副作用・感染症報告および医療行為について倫理的な観点から審議する	年8回（4・5・7・8・10・11・1・2月）の第3金曜日	西山謹司 副院長	山田嘉彦、森本　卓、高木圭一、森明富美子、山中トモエ、山崎　肇、鈴木慎也、植野茂明、山本恵郎、鵜飼万貴子、井上幸子、西田一明、辻　京子
14	モニタリング委員会	維持管理・運営事業の実施にともない、PFI事業に関する事業評価を適正に行う	年4回	植野茂明 事務局長	佐々木洋、兒玉　憲、星田四朗、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、山内雅之、朴井　晃
15	事業評価部会	業務ごとの個別のモニタリング評価を行う	第3火曜日	菱井義則 事務局次長	久保田勝、大江洋介、山崎　肇、黒田昇平、山中トモエ、山田智子、森佳代子、青木美加子、浅岡伸光、平井良介、宮田克爾、門井洋二
16	教育研修委員会	八尾市立病院の理念を踏まえ、病院職員の資質と能力の向上を図り、安全で高度な医療サービスを提供する	必要の都度	福井弘幸 副院長	森本　卓、大江洋介、佐藤美代子、丸山明子、小川充恵、浅岡伸光、河野和男、葛原秀明、中田亮太、小枝伸行

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
17	専門研修プログラム連絡協議会	専門医の研修達成状況など研修プログラムの精度を検証し、その質を維持向上させる。	必要の都度	田中一郎 副院長	星田四朗、大江洋介、宮城琢也、渡部徹也、 松山　仁、森本　卓、小多田英貴、福島幸男、 山田嘉彦、中野智巳、三岡智規、都築　貴、 三宅ヨシカズ、川島貴之、高木圭一、池本慎一、 荒木　裕、竹田雅司、服部英喜
18	臨床研修管理委員会	医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を協力型臨床研修病院と臨床研修協力施設と共に臨床研修病院群として行う	必要の都度	星田四朗 病院長	田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、 植野茂明、久保研二、柏井洋平、塩野　茂、 梅本清嗣、下山弘展、田中規文、元村正明
19	臨床プログラム部会	臨床研修に関する情報収集及びプログラムを作成する	必要の都度	田中一郎 副院長	大江洋介、宮城琢也、渡部徹也、松山　仁、 森本　卓、小多田英貴、福島幸男、山田嘉彦、 中野智巳、三岡智規、都築　貴、三宅ヨシカズ、 川島貴之、高木圭一、池本慎一、荒木　裕、 竹田雅司、服部英喜、柏井洋平、塩野　茂、 梅本清嗣、下山弘展、田中規文、元村正明
20	臨床研修活性化部会	臨床研修に関するプログラムの内容を検討する	必要の都度	福井弘幸 副院長	田中一郎、宮城琢也、福島幸男、松山　仁、 渡部徹也、大江洋介、小多田英貴、山本陽子、 前川祐樹
21	接遇改善委員会	八尾市立病院の理念を踏まえた患者サービスの向上を図る	第2木曜日	田中一郎 副院長	山中トモエ、桑山真輝、山崎　肇、平井良介、 浅岡伸光、吉田正雄、朴井　晃、門井洋二、 山本恵郎
22	TQM活動実行委員会	TQM活動研修会や発表会の開催を通して、TQM活動の活性化と定着化に向けた啓発を行う	必要の都度	星田四朗 病院長	植野茂明、森明富美子、山田智子、畑中邦子、 丸山明子、川筋晶子、長谷圭吾、政岡佳久、 山内雅之、小枝伸行、門井洋二、橋本将延
23	職員被服委員会	八尾市立病院に勤務する職員に対する被服の種類および貸与数量等の変更に際して、意見の調整を行う	必要の都度	星田四朗 病院長	森明富美子、平井良介、浅岡伸光、黒田昇平、 森本美百、葛原秀明
24	倫理問題検討委員会	日常診療の中で起こる様々な倫理的問題を、医学的、倫理的及び社会的観点から公正な立場で協議、助言する	年4回（3、6、9、12月） 第2月曜日	田中一郎 副院長	山中トモエ、蔵　昌宏、福島幸男、池田嘉一、 神田ゆか、吉野知子、香川雅一、宮田克爾
25	情報管理委員会	病院で取り扱う個人情報を含む全ての情報管理や院内の情報機器、外部記録ネットワーク媒体（USBメモリ等）、ネットワーク及び外部とのデータ通信等における保安管理、セキュリティ及び適切な運用を図る	必要の都度	植野茂明 事務局長	星田四朗、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、 森明富美子、朴井　晃、葛原秀明、門井洋二、 橋本将延
26	情報システム管理委員会	システム運用に係る院内の全体調整や方針の策定、システム機器の管理に関する検討、およびシステム利用に係る管理運営を行う	第3月曜日	三岡智規 部長	小枝伸行、西山謹司、大江洋介、廣瀬　創、 千種保子、近藤純代、小川充恵、葛原秀明、 山本恵郎、竹内良平
27	診療情報・がん登録管理委員会	診療録の管理を適切に行うことにより病院機能の向上を図る	第3金曜日	福井弘幸 副院長	小枝伸行、山本恵郎、原田美永子、中山麻祐子、 幸田怜子、芹川千智、宮崎　薫、西野淳子、 山田智子
28	パス委員会	診療計画・実施プロセスの標準化による、医療の質の向上、効率化、医療安全対策等、病院運営の向上を図る	偶数月の 第2火曜日	都築　貴 部長	上田高志、森佳代子、山下春美、佐藤浩二、 小枝伸行、浅岡伸光、黒田昇平
29	診療報酬委員会	保険診療の適正化を図る	第4月曜日	星田四朗 病院長	三岡智規、高木圭一、柏山康江、森佳代子、 宮田克爾、山本恵郎、原田美永子
30	DPC・コーディング委員会	DPC請求にかかる検討を行う	第4火曜日	星田四朗 病院長	福井弘幸、千種保子、青木美加子、山崎　肇、 西野淳子、原田美永子、藤谷彩香、宮田克爾、 門井洋二、山本恵郎、
31	広報委員会	地域各医療機関や市民等に広く病院事業の広報を行う	必要の都度	門井洋二 GM	田中一郎、山田智子、菱井義則、畑中博文
32	年報編集委員会	病院運営の記録の保存を行う	必要の都度	田中一郎 副院長	山内雅之、大江洋介、上水流雅人、長谷圭吾、 平井良介、千種保子、坂手亜衣子、山本恵郎、 原田美永子
33	薬事委員会	薬品の購入および適正使用等に関する事項を検討し、院内で使用する薬品の合理的運営を図る	偶数月の 第3水曜日	星田四朗 病院長	山崎　肇、中野智巳、高木圭一、松山　仁、 福井弘幸、山田嘉彦、北野こずえ、小枝伸行、 門井洋二、廣瀬　淳、奥田浩也、千種保子
34	診療材料検討委員会	診療材料の採用・取消および適正価格・適正使用等に関する事項を検討し、院内で使用する材料の合理的管理運営を図る	第2火曜日	福井弘幸 副院長	上水流雅人、渡部徹也、橋本安司、山中トモエ、 神田ゆか、植村佳子、植田真理、門井洋二、 廣瀬　淳、奥田浩也
35	図書委員会	図書の適切な購入と管理を行う	必要の都度	西山謹司 副院長	廣瀬　創、大江洋介、森本千穂、岩崎　浩、 政岡佳久、佐藤美代子、神田ゆか、山本恵郎

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
36	医療機器等整備委員会	資産購入および適正使用に関する事項を検討し、その合理的運用を図る	奇数月の第1火曜日	星田四朗 病院長	植田武彦、兒玉　憲、佐々木洋、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、池本慎一、荒木　裕、森明富美子、山崎　肇、平井良介、浅岡伸光、植野茂明、山内雅之、門井洋二
37	外来運営委員会	外来診療部門の運営の円滑化、効率化および患者サービスの向上を図る	第2金曜日	大江洋介 部長	渡部徹也、松山　仁、山田智子、森佳代子、佐藤美代子、中尾由美子、横山敬子、藤本史朗、小枝伸行、橋本将延、畑中博文
38	救急医療運営委員会	救急医療の円滑な推進を図る	第3金曜日	福島幸男 部長	渡部徹也、大江洋介、中村昌司、松山　仁、中野智巳、三岡智規、都築　貴、池田嘉一、山田智子、森佳代子、中尾由美子、佐藤美代子長谷川和恵、松村圭司、山内雅之、門井洋二
39	救急対策チーム	救急患者の症例検討を行い、救急医療の技術向上をめざす	第1・3金曜日	中村昌司 副医長	中村昌司、廣瀬　創、福岡秀忠、前川祐樹、伊藤資世、山本陽子、米井辰一、奥野未佳、吉田朋世、中尾由美子
40	病棟運営委員会	病棟の業務の円滑な推進を図る	偶数月の第4月曜日	池本慎一 診療局次長	木戸里佳、三岡智規、井出義人、柏山康江、杉村美貴、青木美加子、中谷成美、黒田昇平、小枝伸行、山本恵郎、藤谷彩香、山本恭子
41	ICU運営委員会	ICU病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	年4回（5、8、11、2月）第1月曜日	池田嘉一 部長	大江洋介、渡部徹也、福島幸男、都築　貴、藪田浩一、青木美加子、松川麻由美、長谷圭吾、長山俊明、四ツ井敦
42	NICU運営委員会	NICU病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	奇数月の第4月曜日	田中一郎 副院長	道之前八重、山田嘉彦、青木美加子、生藤由紀子、安田幸代、井澤初美、森本千穂、長山俊明、廣瀬　淳
43	中央手術部運営委員会	所轄の機器・施設整備等に関する調整、所轄の業務内容変更等に伴う各診療科の調整を行う	年4回（4、7、10、1月）第1月曜日	上水流雅人 部長	神田ゆか、佐々木洋、松山　仁、森本　卓、都築　貴、三岡智規、山田嘉彦、川島貴之、三宅ヨシカズ、池本慎一、小多田英貴、濱口裕弘、宮城琢也、山本佳司、森明富美子
44	中央検査部運営委員会	業務運営の円滑かつ効率的な運用を行う	偶数月の第4金曜日	服部英喜 部長	浅岡伸光、福井弘幸、福島幸男、中野智巳、山田智子、葛原秀明、鈴木慎也、駒　美佳子
45	放射線科運営委員会	所轄の機器・施設整備等に関する調整、所轄の業務内容変更等に伴う各部局間の調整を行う	奇数月の第1月曜日	荒木　裕 部長	平井良介、西山謹司、松村圭司、河野和男、渡部徹也、橋本安司、池本慎一、山田智子、小山修司
46	放射線安全委員会	所轄の機器、施設設備等に関する調査、研究、調整を行い、所轄業務内容の変更等に伴う各部局間の調整を行う	必要の都度	西山謹司 副院長	荒木　裕、山中トモエ、小林信道、平井良介、岩崎　浩、黒木好深
47	病床運営委員会	病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	偶数月の第1月曜日	千種保子 看護部科長	福井弘幸、久保田勝、大江洋介、柏山康江、青木美加子、北村尚洋、宮田克爾、山本佳司、山本恵郎
48	退院調整チーム	退院困難な要因を有する入院中の患者への退院支援計画を検討する	必要の都度	佐藤美代子 看護師長	北村尚洋、片山　愛、廣岡　球、竹丸信子蓬郷千里、中村育子、高倉陽子、深谷若菜長谷圭悟、宮田克爾
49	病院勤務医等負担軽減検討委員会	医師の事務作業負担を軽減することを目的として医師事務作業補助者を配置するにあたり、その業務の内容と役割分担を整理把握する体制を確保する	必要の都度	田中一郎 副院長	川島貴之、森佳代子、山田智子、巽　理、松山　仁、佐々木高綱、濱口　裕弘、宮田克爾
50	栄養委員会	給食業務および臨床栄養業務が病院の本義に則したものとして、適切に推進され、かつ円滑な運用を行う	奇数月の第3金曜日	田中一郎 副院長	黒田昇平、木戸里佳、山田嘉彦、安田幸代、千種保子、井澤初美、柏山康江、菱井義則、橋本将延、楠本和馬、北山博文
51	省エネルギー推進委員会	院内における省エネルギー活動を効率的に推進する	必要の都度	植野茂明 事務局長	田中一郎、森明富美子、朴井　晃、門井洋二、四ツ井敦、前川直義
52	省エネ部会	院内のエネルギー使用状況や具体的対策等について適切な運用を図る	必要の都度	森明富美子 看護部長	大石　馨、楠本　恵、下田美鈴、播本靖子、西村勢津子、尾野優子、奥田清美、沖本桂子、西本恵美子
53	危機管理対策委員会	危機管理の対策を行う	必要の都度	星田四朗 病院長	植田武彦、兒玉　憲、佐々木洋、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、植野茂明、山内雅之、朴井　晃、門井洋二
54	危機管理マニュアル部会	危機管理の対策に関するマニュアル作成を行う	必要の都度	田中一郎 副院長	千種保子、福島幸男、甲斐幸代、松川麻由美、中尾由美子、平井良介、山崎　肇、山内雅之、朴井　晃、四ツ井敦

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
55	安全衛生委員会	労働安全衛生法の規定に基づき、職場における安全および衛生の維持向上並びに職員の健康保持増進を図る	第4月曜日	植野茂明 事務局長	山崎　肇、山本俊明、上水流雅人、森明富美子、平井良介、森本美百、中尾由美子、蓬郷千里、川筋晶子、徳上美智子
56	肝炎感染防止対策委員会	病院内の肝炎の感染防止に関する予防対策の監視と指導、職員へのワクチン接種及び接種計画、感染が生じた場合の感染の原因についての疫学調査を実施する	必要の都度	福井弘幸 副院長	山本俊明、長谷圭悟、浅岡伸光、森佳代子
57	医療安全管理委員会	患者が安心して医療を受けられる環境整備を促進し、患者が医師および医療機関を信頼するとともに、医療提供者が安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第2月曜日	池本慎一 診療局次長	山中トモエ、尾山明美、安田幸代、田中一郎、篠田幸紀、谷本　敬、三岡智規、山田智子、山崎　肇、長山俊明、浅岡伸光、平井良介、宮田克爾、門井洋二
58	医療安全推進部会	医療安全管理委員会における事故の発生原因、再発防止策の検討結果・決裁事項の職員への周知、毎月1回の院内ラウンドの実施、内部監査の実施、および危険予知トレーニングを実施する	第4月曜日	安田幸代 看護師長	上岡いずみ、山中トモエ、谷本　敬、中谷成美、駒　美佳子、松村圭司、小川卓也、長山俊明、黒田昇平、佐藤雅子、石田真美、瀬古佳奈、加藤圭美、白石麻有未、東原有紀、山崎香名、吉井孝子、牧瀬良子、岡田つづみ、古波蔵奈緒、吉本弘深、吉藤真理子、葛原秀明、宮田克爾、四ツ井敦
59	周術期血栓対策部会	周術期の血栓対策について検討する	必要の都度	上水流雅人 部長	東　浩司、谷本　敬、永井健一、平松久仁彦、松浦美幸、篠田幸紀、近藤純代、神田ゆか、松川麻由美、小川充恵、寺西ふみ子
60	医療ガス安全管理委員会	実施責任者に保守点検業務を実施させる。医療ガス設備に係る新設および増設工事、部分改造、修理等にあたっては臨床各部門にその旨、周知徹底を図るとともに、その使用に先立ち、厳正な試験および検査を行い、安全確認を行う	年1回	上水流雅人 部長	薮田浩一、森本千穂、神田ゆか、葛原秀明、長山俊明、四ツ井敦、佐藤直道
61	院内感染対策委員会	感染対策に関して、患者が安心して医療が受けられる環境を整えること、そして患者が医師および医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第3木曜日	服部英喜 部長	中野智巳、星田四朗、兒玉　憲、山本奈穂、山崎　肇、浅岡伸光、森明富美子、神田ゆか、甲斐幸代、植野茂明、四ツ井敦、吉年雅子、黒田昇平、平井良介
62	院内感染対策チーム(ICT)	病院内の感染症の防止、発生時に必要な対策に関する情報収集、院内の啓発活動、施設・設備の点検および改善、微生物学的検査を実施する	第3水曜日	服部英喜 部長	永井健一、薮田浩一、辻本和徳、長谷川和恵、西野多江子、松川麻由美、林　正美、甲斐幸代、四ツ井敦
63	輸血療法委員会	輸血療法の安全性確保と適正化を図る	奇数月の 第4木曜日	服部英喜 部長	上水流雅人、木津　崇、水田裕久、山崎　肇、浅岡伸光、松本数博、上岡いづみ、乾　美鈴、柏山康江、鈴木慎也、藤原美智代、川口珠恵、本多紀子
64	チーム医療推進委員会	医療の高度化、細分化に対応しつつ、医師及び各部門職員のパートナーシップのもとに質の高い医療を提供する	必要の都度	佐々木洋 総長	森明富美子、山崎　肇、兒玉　憲、橋村俊哉、井出義人、松山　仁、三宅ヨシカズ、服部英喜、蔵　昌宏、上水流雅人、佐藤美代子、甲斐幸代、横山敬子、中谷摩利子、柚木原和子、本多紀子、中西千賀子、佐藤浩二、寺西ふみ子、北村尚洋
65	呼吸器ケアチーム	安全な呼吸療法を行うためのスタッフへの教育、呼吸療法全般についての質の維持・向上、呼吸管理備品の整備、および呼吸管理の研究を行う	必要の都度	兒玉　憲 特命院長	橋村俊哉、渡部徹也、池田嘉一、津田　武、馬庭知弘、木村幸男、中西千賀子、岡田つづみ、岩崎綾子、永岡照美、坂中美奈子、生藤由紀子、村上雅美、山崎香名、長山俊明、中生浩之
66	栄養管理チーム(NST)	栄養管理のための調査・研究、および、医療従事者への教育を行う	第2水曜日 第4水曜日	松山　仁 医長	藤本史朗、黒田昇平、近藤純代、森本　卓、巽　　理、岸本幸次、中谷摩利子、西田明子、坂中美奈子、黒田昇平、早川裕起子
67	褥瘡対策チーム	褥瘡対策に関して、患者が安心して医療が受けられる環境を整えること、そして患者が医師および医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第2木曜日	三宅ヨシカズ 医長	高木圭一、横山敬子、杉村美貴、福島幸男、大江洋介、甲斐幸代、中谷摩利子、吉年雅子、西野多江子、中谷成美、早川裕起子、西　麻弥
68	地域がん診療連携拠点病院運営委員会	地域がん診療連携拠点病院に指定されたことを受け、八尾市立病院及び地域のがん診療の向上をめざす	必要の都度	佐々木洋 総長	星田四朗、兒玉　憲、西山謹司、福井弘幸、蔵　昌宏、井出義人、森明富美子、千種保子、佐藤美代子、植野茂明、山崎　肇、朴井　晃、小枝伸行、門井洋二、原田美永子

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
69	緩和ケアチーム	緩和ケア医療を実践する	毎週水曜日	蔵　昌宏 部長	長谷圭悟、西山謹司、木村幸男、橋村俊哉、 義間友佳子、新子祐介、山田智子、西村勢津子、 小林啓子、本多紀子、大和裕香、外堀直子、 陶山由季子、早川裕起子、大橋順子、江川　功
70	化学療法部会	各種悪性腫瘍に対する抗がん剤化学療法の診療計画・実施プロセスの標準化による、医療の質の向上、効率化、医療安全対策等、病院運営の向上を図る	奇数月の 第3金曜日	井出義人 センター部長	森本　卓、松山　仁、桑山真輝、木津　崇、 町田裕一、水田裕久、佐野　奨、山田智子、 森佳代子、柚木原和子、津江かおる、島田敏江、 佐藤浩二、小枝伸行、門井洋二
71	レジメン審査部会	各種悪性腫瘍に対する抗がん剤化学療法の診療計画・実施プロセスの標準化を図り、管理する	必要の都度	井出義人 センター部長	山﨑　肇、桑山真輝、森本　卓
72	経営計画評価委員会	八尾市立病院経営計画に基づく経営改善の取組み状況を点検・評価するため	年1回	植田武彦 病院事業管理者	星田四朗、佐々木洋、田中一郎、西山謹司、 福井弘幸、森明富美子、植野茂明、門井洋二、 貴島秀樹、谷田一久、津田慶子
73	地域医療支援委員会	地域医療支援病院の承認に向けた取り組みについて、地域医療機関の意見を聞き、承認後は地域における医療の確保のための必要な支援業務を審議する	年4回	星田四朗 病院長	貴島秀樹、福井弘幸、田中一郎、森明富美子、 佐藤美代子、植野茂明、冨田高明、豊口雅子、 西田一明、藤原正彦、高林弘の、東村博子
74	維持管理・運営事業検討委員会	PFI契約期間終了後の次期事業手法及び内容等に関する事項について調査・審議を行い、必要な決定を行う	必要の都度	植野茂明 事務局長	佐々木洋、星田四朗、兒玉　憲、田中一郎、 西山謹司、福井弘幸、森明富美子、山内雅之、 朴井　晃

病　院　職　員

1．病院職員

病院事業管理者	植　田　武　彦
総　　長	佐々木　　洋
病　院　長	星　田　四　朗
特　命　院　長	兒　玉　　憲
副　院　長	田　中　一　郎
副　院　長	西　山　謹　司
副　院　長	福　井　弘　幸
看　護　部　長	森　明　富美子
事　務　局　長	植　野　茂　明

所　属　名	補　職	氏　名	備　考
	総　長	佐々木　洋	
	病　院　長	星　田　四　朗	
	特　命　院　長	兒　玉　憲	（兼感染対策管理室長）
	副　院　長	田　中　一　郎	（兼診療局長）
	副　院　長	西　山　謹　司	（兼放射線治療科部長・がん相談支援センター長）
	副　院　長	福　井　弘　幸	（兼診療情報管理室長・地域医療連携室長・消化器内科部長（H28.10.1から））
内　科	部　長	大　江　洋　介	
感染制御内科	副　医　長	辻　本　和　徳	H29.3.31 退職
血　液　内　科	部　長	服　部　英　喜	（兼中央検査部医長）
	部　長	桑　山　真　輝	
消　化　器　内　科	部　長	宮　城　琢　也	H28.9.30 退職
	医　長	巽　理	
	医　長	木　津　崇	
	副　医　長	中　村　昌　司	
	嘱　託　員	伊　藤　資　世	H29.3.31 退職
	嘱　託　員	前　川　祐　樹	H29.3.31 退職
	嘱　託　員	岡　本　正　幸	
	嘱　託　員	李　恵　利　佳	H29.2.1 採用
循　環　器　内　科	部　長	渡　部　徹　也	（兼ＭＥセンター医長）
	医　長	篠　田　幸　紀	
	医　長	池　岡　邦　泰	
	医　長	南　坂　朋　子	H28.4.1 採用
	副　医　長	乾　礼　興	
	副　医　長	福　岡　秀　忠	
外科・消化器外科	部　長	松　山　仁	
	部　長	久　保　田　勝	H28.4.1 採用
	医　長	永　井　健　一	
	医　長	廣　瀬　創	
	医　長	橋　本　安　司	
	医　長	杢谷　友香子	H28.4.1 採用
	副　医　長	野　間　貴　之	H28.4.1 採用
呼　吸　器　外　科	医　長	木　村　幸　男	H28.4.1 採用
	医　長	馬　庭　知　弘	
乳　腺　外　科	部　長	森　本　卓	
	医　長	道下　新太郎	
脳　神　経　外　科	部　長	都　築　貴	
	医　長	有田　都史香	

所属名	補職	氏名	備考
整形外科	部長	三岡 智規	（兼リハビリテーション科医長）
	医長	平松 久仁彦	
	医長	杉田 憲彦	H29.3.31 退職
	副医長	松村 宣政	H29.3.31 退職
	副医長	辻井 聡	H28.4.1 採用
形成外科	医長	三宅 ヨシカズ	
	医長	仲野 雅之	
	嘱託員	松岡 祐貴	H28.4.1 採用
産婦人科	部長	山田 嘉彦	
	医長	水田 裕久	
	医長	吉澤 順子	
	医長	佐々木 高綱	
	医長	山口 永子	H29.3.31 退職
	副医長	松浦 美幸	
	副医長	山田 弘次	
	嘱託員	中野 和俊	H29.3.31 退職
小児科	部長	中野 智巳	
	医長	濱田 匡章	
	医長	能村 賀子	
	副医長	近藤 由佳	
	副医長	西川 宏樹	H28.4.1 採用　H29.3.31 退職
	嘱託員	藪本 仁美	
	嘱託員	吉川 侑子	H28.4.1 採用
新生児集中治療部	部長	道之前 八重	
耳鼻咽喉科	部長	川島 貴之	
	医長	日尾 祥子	
	医長	佐野 奨	
	嘱託員	奥野 未佳	H29.3.31 退職
	嘱託員	米井 辰一	H29.3.31 退職
泌尿器科	診療局次長	池本 慎一	（兼泌尿器科部長・医療安全管理室長）
	医長	町田 裕一	
	副医長	村尾 昌輝	
	嘱託員	山本 匠真	
皮膚科	部長	高木 圭一	
リハビリテーション科	嘱託員	新子 祐介	H29.3.31 退職
	係長	岩﨑 悟	
麻酔科	部長	小多田 英貴	
	医長	土屋 典生	
	医長	東 浩司	
	医長	谷本 敬	
	医長	橋村 俊哉	
	医長	藪田 浩一	（兼集中治療部医長）
	医長	山本 奈穂	
	副医長	義間 友佳子	
放射線科	部長	荒木 裕	
	部長	吉田 重幸	
	技師長	平井 良介	
	係長	河野 和男	
	係長	松村 圭司	
放射線診断科	医長	金澤 達	
放射線治療科	副医長	豊福 隆将	

所属名	補職	氏名	備考
歯科口腔外科	部長	濵口 裕弘	
	副医長	山本 奈穂	H28.4.1 採用
病理診断科	部長	竹田 雅司	
	嘱託員	西岡 陽介	
	係長	政岡 佳久	
集中治療部	部長	池田 嘉一	
救急診療科	部長	福島 幸男	
中央手術部	部長	上水流 雅人	（兼泌尿器科医長）
通院治療センター	部長	井出 義人	（兼消化器外科医長）
内視鏡センター	センター長	上田 高志	（兼消化器内科医長・内科医長（H28.7.1から））
糖尿病センター	センター長	木戸 里佳	（兼内科医長）
	医長	辻 真由美	（兼内科医長）
	副医長	小川 義高	（兼内科副医長）
	嘱託員	吉田 朋世	（兼内科医師）
健診センター	診療科特任部長	山本 俊明	
中央検査部	技師長	浅岡 伸光	
がん相談支援センター	係長	大和 裕香	
緩和ケアセンター	部長	蔵 昌宏	（兼麻酔科医長）
栄養科	係長	黒田 昇平	
薬剤部	診療局次長	山崎 肇	（兼薬剤部長・臨床研究センター長）
	薬剤部長補佐	長谷 圭悟	
	係長	松本 数博	
	係長	中谷 成美	
	係長	森本 千穂	
臨床研究センター	センター長補佐	香川 雅一	
診療局	嘱託員	井上 創輝	（研修医）
	嘱託員	桑原 冴	（研修医）H29.3.31 退職
	嘱託員	峯 健太朗	（研修医）
	嘱託員	長岡 達朗	（研修医）
	嘱託員	大垣 智慧	（研修医）H28.4.1 採用
	嘱託員	角谷 哲基	（研修医）H28.4.1 採用
	嘱託員	澤田 允宏	（研修医）H28.4.1 採用
	嘱託員	渡瀬 晴人	（研修医）H28.4.1 採用
	嘱託員	山田 佳那	（研修医）H28.4.1 採用　H29.3.31 退職
看護部	部長	森明 富美子	看護師長室
	次長	山中 トモエ	看護師長室（兼医療安全管理者・医療安全管理室看護師長）
	次長	千種 保子	看護師長室
	科長	山田 智子	看護師長室
	科長	青木 美加子	看護師長室（兼新生児集中治療部看護師長）
	科長	佐藤 美代子	看護師長室（兼地域医療連携室看護師長・がん相談支援センター看護師長）
	看護師長	横山 敬子	看護師長室
	看護師長	森 佳代子	外来師長室　H29.3.31 退職
	看護師長	神田 ゆか	中央手術部
	看護師長	尾山 明美	地域医療連携室
	看護師長	松川 麻由美	集中治療部
	看護師長	安田 幸代	５階西病棟
	看護師長	山下 春美	５階東病棟
	看護師長	井澤 初美	６階西病棟
	看護師長	杉村 美貴	６階東病棟
	看護師長	柏山 康江	７階西病棟
	看護師長	畑中 邦子	７階東病棟
	看護師長	丸山 明子	８階西病棟

所　属　名	補　職	氏　名	備　考
	看護師長	近藤　純代	８階東病棟
	看護係長	甲斐　幸代	看護師長室（兼感染管理者・感染対策管理室看護係長）
	看護係長	小﨑　博子	外来師長室
	看護係長	沢井　ゆかり	外来師長室
	看護係長	吉野　知子	外来師長室
	看護係長	渡壁　淳子	外来Ａ
	看護係長	黒江　みつ	外来Ｂ
	看護係長	藤原　美智代	外来Ｃ
	看護係長	北内　美和	外来Ｄ
	看護係長	黒木　好深	放射線科
	看護係長	青木　ひとみ	中央手術部
	看護係長	北村　亜矢子	中央手術部
	看護係長	中尾　由美子	救急診療科
	看護係長	蛭田　澄枝	内視鏡センター
	看護係長	柚木原　和子	通院治療センター
	看護係長	増田　王代	糖尿病センター　H29.3.31 退職
	看護係長	小林　啓子	緩和ケアセンター
	看護係長	上岡　いづみ	集中治療部
	看護係長	西原　君代	集中治療部
	看護係長	楠本　恵	５階西病棟
	看護係長	細川　富美	５階西病棟　H29.3.31 退職
	看護係長	大石　馨	５階東病棟
	看護係長	淺井　真由美	５階東病棟
	看護係長	播本　靖子	６階西病棟
	看護係長	石田　弘美	６階西病棟
	看護係長	下田　美鈴	６階東病棟
	看護係長	比嘉　和歌子	６階東病棟
	看護係長	蓬郷　千里	７階西病棟
	看護係長	尾野　優子	７階西病棟
	看護係長	西村　勢津子	７階東病棟
	看護係長	林　正美	７階東病棟
	看護係長	沖本　桂子	８階西病棟
	看護係長	中西　千賀子	８階西病棟
	看護係長	森本　美百	８階東病棟
	看護係長	奥田　清美	８階東病棟
	看護係長	西本　惠美子	新生児集中治療部
	看護係長	生藤　由紀子	新生児集中治療部
事務局	事務局長	植野　茂明	
	次長	山内　雅之	（兼企業出納員）
	次長	菱井　義則	
企画運営課	課長	朴井　晃	
	参事	小枝　伸行	
	課長補佐	葛原　秀明	
	課長補佐	宮田　克爾	
	企画運営係長	植村　佳子	
	企画運営係長	高草　恒平	
	経理係長	小山　修司	H29.3.31 退職
	人事係長	中田　亮太	

２.人員配置表

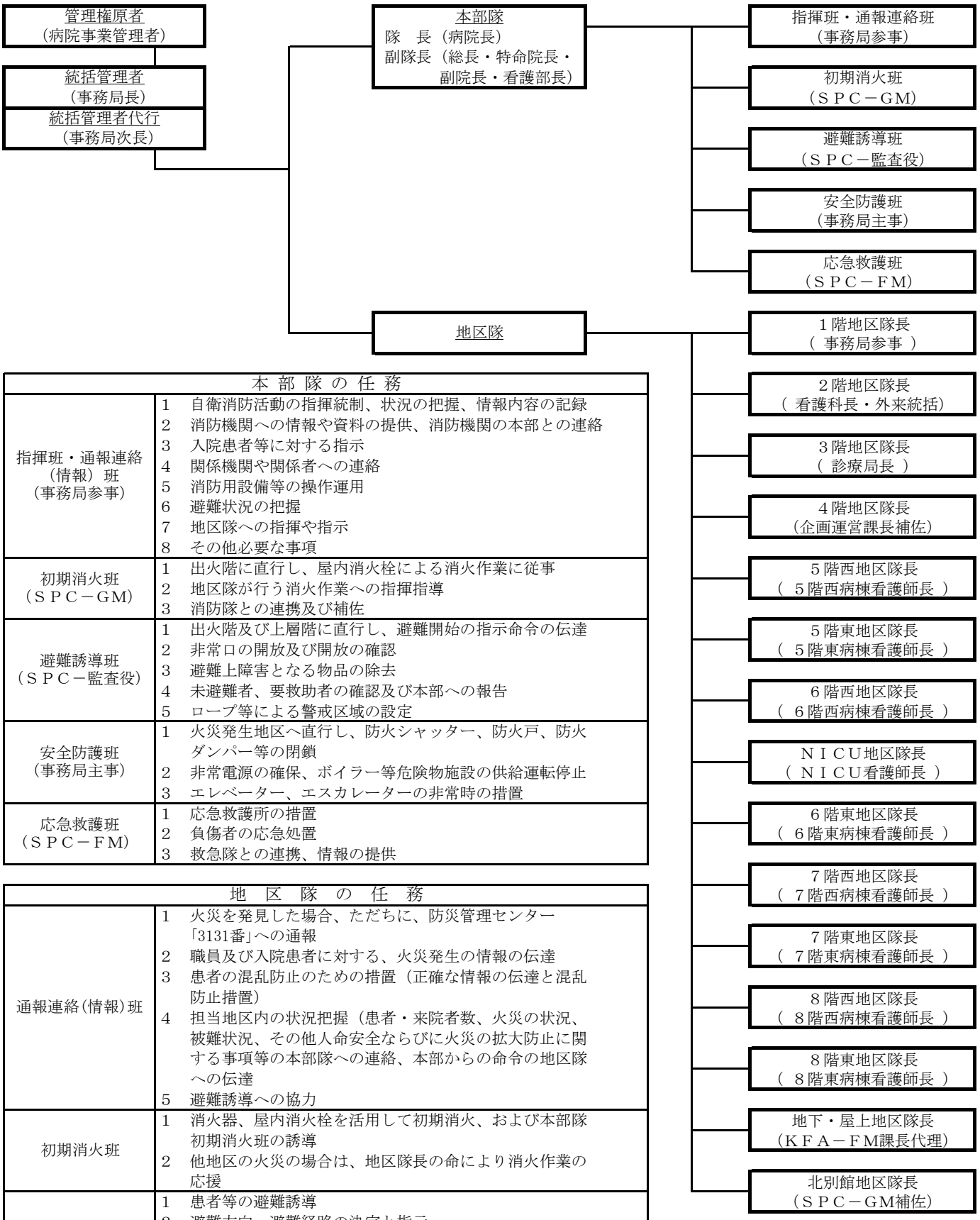
所属 / 職種		総長 病院長 特命院長 副院長	診療局																																
			内科	感染制御内科	血液内科	消化器内科	循環器内科	外科	消化器外科	呼吸器外科	乳腺外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	産婦人科	小児科	新生児集中治療部	耳鼻咽喉科	泌尿器科	皮膚科	リハビリテーション科	麻酔科	放射線科	放射線診断科	放射線治療科	歯科口腔外科	病理診断科	集中治療部	救急診療科	中央手術部	通院治療センター	内視鏡センター	糖尿病センター	健診センター	中央検査部	MEセンター	がん相談支援センター
医師	正規職員	4	兼5 1	1	2	兼2 3	6	1	兼2 6	2	2	2	5	2	7	兼1 5	1	3	兼2 3	1	兼1	兼1 8	2	1	兼1 1	2	1	兼1 1	1	1	1	1	3		兼1	兼1	兼1
	嘱託員	2				4								1	1	2		2	1		1						1						1	1			
医療技術員	正規職員																				4		17				4								10	1	2
	嘱託員																	2								2	1								1		1
	非常勤嘱託職員																				1																
	臨時的任用職員																																		1	1	
看護師	正規職員																																				
	嘱託員																																				
	非常勤嘱託職員																																				
	臨時的任用職員																																				
准看護師	正規職員																																				
	嘱託員																																				
	非常勤嘱託職員																																				
	臨時的任用職員																																				
事務職	正規職員																																				
	嘱託員																																				
	非常勤嘱託職員																																				
	臨時的任用職員																																				
技能労務職	正規職員																																				
	嘱託員																																				
	非常勤嘱託職員																																				
	臨時的任用職員																																				
正規職員		4	1	1	2	3	6	1	6	2	2	2	5	2	7	5	1	3	3	1	4	8	19	1	1	2	5	1	1	1	1	1	3		10	1	2
嘱託員		2				4								1	1	2		4	1		1					2	2						1	1	1		1
非常勤嘱託職員																					1																
臨時的任用職員																																			1	1	
合計		6	1	1	2	7	6	1	6	2	2	2	5	3	8	7	1	7	4	1	6	8	19	1	1	4	7	1	1	1	1	1	4	1	12	2	3

（単位：人）

									看護部																									事務局				合
緩和ケアセンター	栄養科	薬剤部	臨床研究センター	臨床研修医	医師事務作業補助者	地域医療連携室	診療情報管理室	医療安全管理室	感染対策管理室	看護師長室	外来師長室	外来A	外来B	外来C	外来D	放射線科	中央手術部	救急診療科	内視鏡センター	通院治療センター	がん相談支援センター	糖尿病センター	緩和ケアセンター	地域医療連携室	集中治療部	5階西病棟	5階東病棟	6階西病棟	新生児集中治療部	6階東病棟	7階西病棟	7階東病棟	8階西病棟	8階東病棟	管理職	企画運営課企画運営係	企画運営課経理係	企画運営課人事係	計
1						兼1	兼1	兼1	兼1																													107
				9																																		
			兼1																																			82
	3	21	1			3					2																							1				
	1																																					
		2																																				
									兼1												兼1			兼13					兼17									342
								1		8	6	1	1	1	1	3	25	2	2	3		1	2		21	25	27	23		23	25	24	24	29				
											4	1	1	1	4	2	1	1	1	3		2				2	1	1		1	3	2						
												1	1			1			1																			
											1					1	1			1										1	2	1		1					
												1	1	1																								11
											4			1	1				1						1													
																																		6	5	3	5	52
					5						10																	1						1				
					1																														2		3	
											10																											
																																						27
										5																												
										12																												
										10																												
1	3	21	1			3		1		8	8	2	2	2	1	3	25	2	2	3		1	2	3	21	25	27	23	17	23	25	24	24	29	7	5	3	5	470
	1			9	5					5	18	1	1	2	5	2	1	1	2	3		2			1	2	1	2		1	3	2			1				95
					1					12		1	1			1			1																2		3	23
		2								10	11					1	1			1									1	2	1		1						33
1	4	23	1	9	6	3		1		35	37	4	4	4	6	7	27	3	5	7		3	2	3	22	27	28	25	18	26	29	26	25	29	8	7	3	8	621

（平成29年３月31日現在）

八尾市立病院自衛消防組織編成表



本部隊の任務	
指揮班・通報連絡（情報）班（事務局参事）	1　自衛消防活動の指揮統制、状況の把握、情報内容の記録 2　消防機関への情報や資料の提供、消防機関の本部との連絡 3　入院患者等に対する指示 4　関係機関や関係者への連絡 5　消防用設備等の操作運用 6　避難状況の把握 7　地区隊への指揮や指示 8　その他必要な事項
初期消火班（ＳＰＣ－ＧＭ）	1　出火階に直行し、屋内消火栓による消火作業に従事 2　地区隊が行う消火作業への指揮指導 3　消防隊との連携及び補佐
避難誘導班（ＳＰＣ－監査役）	1　出火階及び上層階に直行し、避難開始の指示命令の伝達 2　非常口の開放及び開放の確認 3　避難上障害となる物品の除去 4　未避難者、要救助者の確認及び本部への報告 5　ロープ等による警戒区域の設定
安全防護班（事務局主事）	1　火災発生地区へ直行し、防火シャッター、防火戸、防火ダンパー等の閉鎖 2　非常電源の確保、ボイラー等危険物施設の供給運転停止 3　エレベーター、エスカレーターの非常時の措置
応急救護班（ＳＰＣ－ＦＭ）	1　応急救護所の措置 2　負傷者の応急処置 3　救急隊との連携、情報の提供

地区隊の任務	
通報連絡(情報)班	1　火災を発見した場合、ただちに、防災管理センター「3131番」への通報 2　職員及び入院患者に対する、火災発生の情報の伝達 3　患者の混乱防止のための措置（正確な情報の伝達と混乱防止措置） 4　担当地区内の状況把握（患者・来院者数、火災の状況、被難状況、その他人命安全ならびに火災の拡大防止に関する事項等の本部隊への連絡、本部からの命令の地区隊への伝達 5　避難誘導への協力
初期消火班	1　消火器、屋内消火栓を活用して初期消火、および本部隊初期消火班の誘導 2　他地区の火災の場合は、地区隊長の命により消火作業の応援
避難誘導班	1　患者等の避難誘導 2　避難方向、避難経路の決定と指示 3　避難上の支障物の排除と避難路の確保 4　避難状況の通報連絡係への報告
安全防護班	1　水損防止、電気、ガス等の安全装置、および防火戸、防火シャッターの操作
救護班	1　負傷者に対する応急措置

診 療 局 の 現 況

診 療 局 の 現 況

平成 28 年度は診療局として３つの目標を掲げた。まず１つ目は逆紹介率 70%以上を達成すること、２つ目は退院サマリの２週間以内作成率を 90%以上に維持すること、３つ目は初期臨床研修医を新たに４名確保することであった。１つ目の逆紹介率については、様々な取り組みを行った結果、累計 83.6%と目標をクリアすることができた。２つ目の２週間以内の退院サマリ作成率は１年を通して毎月 90%を超え、こちらも目標を達成することができた。３つ目の研修医の確保については、マッチングで４名、大阪市立大学と奈良県立医科大学の襷がけで１名ずつが採用となった。一方、今年度末で４名の初期研修医が滞りなく当院での臨床研修を修了されたが、このうち３名が、引き続き当院の後期研修医として勤務されることとなった。

主要な医師の人事として、４月から松山仁先生が外科部長に、井出義人先生が通院治療センター部長に、中野智巳先生が小児科部長にそれぞれ就任されたほか、久保田勝先生が消化器外科部長として赴任された。次に施設面でのトピックスとして血管造影撮影室の整備が挙げられる。当院における血管造影検査や血管内治療の件数増加は目覚ましいものがあり、それに対応すべく第２血管造影撮影室を新たに増設した。当院の循環器診療の更なる充実・発展に寄与するものと期待される。また、近年、医師の事務作業の増加に伴い、医師事務作業補助業務のニーズが高まっている。これまで当院では外来を中心に医師事務作業補助者を配置してきたが、更なる医師の負担軽減を目的に今年度は全病棟への配置を行った。今や医師個人だけでは診療が成り立たない時代となっており、医師事務作業補助者をはじめとしたコメディカルの協力は不可欠である。なお、今年度も地域医療連携を推進する目的で、５月と 10 月の２度にわたり八尾地域医療合同研究会を開催したほか、年５回の八尾市立病院公開講座も開催した。地域の医療機関や診療所との連携ならびに地域の住民の方々への情報提供は今後も積極的に取り組んでいきたい。

内科の現況

１．スタッフ

部　　長　　大江　洋介
医　　長　　木戸　里佳（兼糖尿病センター長）、辻　真由美（兼糖尿病センター医長）、
　　上田　高志（兼内視鏡センター長・消化器内科医長）
副 医 長　　辻本　和徳（平成 29. ３.31 退職）、小川　義高（兼糖尿病センター副医長）
嘱託医師　　吉田　朋世（兼糖尿病センター嘱託医師）
応援医師　　米田　正太郎、北村　哲也、竹内　　潤
　　武田　景敏、正田　英雄、松本　伸治

２．診療内容

１）感染制御内科

平成 26 年度から感染制御内科として常勤医師が１人在籍するようになり、一部の重症感染症の入院加療や、嘱託医師とともに週１回の専門外来診療を行っている。また当院は呼吸器内科常勤医不在のため、肺がん、肺結核・肺非結核性抗酸菌症、びまん性肺疾患、喀血の診断治療目的で当科常勤医が気管支鏡検査を担当している。他に、難治性感染症や特殊感染症、不明炎症、急性間質性肺炎などの呼吸器疾患についてのコンサルテーションを受けている。

院内活動では院内感染対策チーム（ＩＣＴ）の一員として、当科医師が加わり血液培養陽性症例やメロペネム投与例、広域抗生剤や抗 MRSA 薬の長期投与症例に対するカルテ上での介入、院内感染対策の立案・実施と教育・啓発、感染症アウトブレイク時の危機管理、職員の感染症に対する安全管理、耐性菌出現予防のための抗菌薬適正使用の推進などの活動も行っている。

２）糖尿病内科

１階の糖尿病センターで、糖尿病専門外来を行っている。糖尿病専門医の他に、糖尿病センター専属の看護師、管理栄養士、医師事務作業補助者がスタッフとして常駐し、多職種から成る『糖尿病チーム』を構成して、糖尿病診療を行っている。平成 27 年９月からは、限定的ではあるがチームに臨床心理士も加わり、より多面的に糖尿病患者の指導を行うべく工夫を重ねている。また早期腎症以上の腎臓合併症を有する患者を対象に、透析予防を目的として、毎回受診時に、看護師による問診・療養指導、管理栄養士による個別の食事指導を行っている（糖尿病透析予防指導)。透析予防指導対象外の患者についても、必要に応じて、療養指導、栄養指導、薬剤指導など個別の指導を随時行っている。腎臓内科医をはじめとする他科への紹介も積極的に行い、集学的治療を目指している。患者毎に胸部Ｘ線、心電図をはじめ、心臓・腹部・頸動脈の超音波検査などを定期予定検査として実施し、糖尿病患者に多くみられる大血管障害（動脈硬化）や悪性疾患の早期診断・治療にも取り組んでいる。合併症の進行した患者の足切断につながる足壊疽などの予防を目的に、看護師による足および神経障害のチェックを含めたフットケアも定期的に実施している。下肢血流評価も実施し、必要に応じて循環器内科医および形成外科医と積極的な連携を図っている。

平成 25 年度から１型糖尿病あるいは妊婦をおもな対象とするインスリンポンプの導入を開始

し、持続血糖モニター（ＣＧＭ）も導入した。機器も年々進化しており、現在は個人用のＣＧＭと連動する新たなインスリンポンプ（ＳＡＰ）が主流となっている。さらに、新しいタイプの血糖測定器（ＦＧＭ）（注；29 年３月時点では保険未収載）や同タイプのＣＧＭ機器を、今後導入の予定である。新しい機器も含めて、対象となる患者には積極的に導入を勧め、チームでの管理・指導を継続して行っている。またインスリンポンプ導入症例を主な対象者として、カーボカウント法の指導も行っている。このように、より専門的診療が可能になっており、他のメディカルスタッフとともによりよい糖尿病診療、とくにチーム医療の実践に取り組んでいる。糖尿病治療においては自己管理が非常に重要であり、とくに糖尿病教育に重点を置き、教育入院も積極的に行っている。

３）腎臓内科

当科では応援医師の協力を得て、腎不全、水電解質代謝異常、原発性糸球体疾患、尿細管・間質疾患、全身性疾患による腎障害、高血圧および腎血管障害、腎・尿路感染症、遺伝性腎疾患などの腎臓内科疾患の外来診療を週１回行っている。

血液透析の必要な入院患者については、ＩＣＵ医、循環器内科、泌尿器科に協力いただいている。また腎生検を含め腎炎などの入院加療は他院へ紹介している。透析導入は行っていない。

４）脳循環内科

平成 25 年度から脳循環内科として独立したが、スタッフは変わらないため診療内容は大きな変化はない。脳梗塞急性期の入院治療と脳梗塞ハイリスク患者の外来診療を行っている。また、脳神経外科と緊密な連携をとっており、合同カンファレンスも随時行っている。院内発症の脳梗塞についてのコンサルテーションも受けている。

５）神経内科

当科では神経系（大脳・小脳・脊髄・末梢神経）および、筋肉に生じる炎症、変性、血管障害などを中心に診療を行っている。常勤医師不在のため外来診療のみで、変性疾患・パーキンソン病・脊髄小脳変性症や、てんかん・頭痛などを診療している。外来は金曜日午後となっている。

入院患者のコンサルトにも対応している。

３．診療体制

１）感染制御内科

外来診療：水曜日の午後に気管支鏡検査を行っている。
金曜日の午前・午後に予約制の専門外来を行っている。

入院診療：入院患者のコンサルテーションについては随時受けている。

２）糖尿病内科

外来診療：糖尿病センターにおいて、月曜日から金曜日の毎日、予約制の専門外来を行っている。初診外来は、月曜日、水曜日、金曜日の午前に予約制で診療している。平成 27 年１月から地域の医療機関より新規に患者をご紹介いただく際に使用できる新たな連絡票の運用を開始し、ご要望に対してより適切な対応を行うことで、さらなる地域連携の活性化を目指している。療養指導、フットケア、個別食事指導、服薬指導は、必要に応じて随時行っている。

入院診療：クリニカルパスを用いて糖尿病教育入院を行っている（原則月曜日あるいは火曜日入院）。入院中、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師による個人あるいは集団指導を実施。他院から紹介の重症症例、糖尿病ケトアシドーシス（ＤＫＡ）などの緊急症例は随時対応している。妊婦症例を対象とした短期の教育入院も積極的に行っている。また限られた症例数ではあるが、一部内分泌疾患（下垂体機能低下、甲状腺疾患、副腎皮質機能低下など）の診療も行っている。

３）腎臓内科

外来診療：金曜日の午前と午後に診療を行っている。

入院診療：行っていない。

４）脳循環内科

外来診療：火曜日の午後（予約診）と水曜日（初診）を行っているが、待ち時間が長くなっている。かかりつけ医との病診連携を有効に活用したいと考えている。

入院診療：脳神経外科のバックアップを受けながら診療にあたっている。

検　　査：ＣＴ／ＭＲＩ／ＭＲ Ａｎｇｉｏ／ＳＰＥＣＴ(脳血流シンチ)／頚動脈エコー／心エコー／経食道心エコー／ホルター心電図・血圧計／血圧脈波（ＡＢＩ）／下肢血管エコー（動脈・静脈）などを活用している。

５）神経内科

外来診療：金曜日午後に診療を行っている。

入院診療：行っていない。

４．診療実績

１）感染制御内科

外来延患者数は 863 人で入院延患者数は 1,196 人であった。

２）糖尿病内科

外来延患者数は 4,679 人であり、そのうち糖尿病透析予防指導管理料を算定した延患者は 1,236 人、糖尿病合併症管理料を算定した延患者は 241 人、在宅療養指導料を算定した延患者は 252 人、在宅自己注射導入期加算を算定した延患者は 365 人であった。糖尿病教育入院患者数は 202 人であった。８月を除く毎月第３木曜日（13 時～）に、医師・薬剤師・管理栄養士など糖尿病チームスタッフによる糖尿病教室を開催しており、当院糖尿病患者会（いちょう会）会員をはじめ多くの一般市民に参加いただいている。延参加者数は 305 人、月平均 25.4 人であった。

３）腎臓内科

外来延患者数 1,075 人であった。

４）脳循環内科

平成 28 年度の外来延患者数は 781 人で（院内コンサルテーション件数は含めず）、入院延患者数は 1,600 人であった。

５）神経内科

外来延患者数 597 人と前年より増加している（これとは別に院内紹介を受け入れている）。入院患者は受け入れていない。

５．教育活動

１）感染制御内科：ＩＣＴとして、院内感染症研究会の企画立案、担当を行った。

２）糖 尿 病 内 科：臨床研修医４名に対して、入院患者を中心にした診療の研修を行った。
また大阪大学医学部の学生２名（５回生）の臨床実習を受け入れ、５日間実施した。

３）脳 循 環 内 科：臨床研修医６名の病棟研修を行った。

血液内科の現況

１．スタッフ

部　　長　　服部　英喜（兼中央検査部医長）、桑山　真輝

２．診療内容

血液内科は白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫をはじめとする造血器腫瘍、貧血一般、再生不良性貧血、血小板減少症などを診療対象疾患としている。中でも造血器腫瘍においては、寛解・治癒が望める症例では自己末梢血幹細胞移植をはじめとして積極的な化学療法を施行し、高齢者・合併症併発症例には長期延命のためＱＯＬ療法を図るなど、個々の患者の病態・年齢・背景に応じた治療を選択している。

３．診療体制

１）外来診療：血液内科専門予約外来　服部英喜部長は月曜日午前、木曜日午後、金曜日午前を担当している。桑山真輝部長は月曜日午後、水曜日午後、木曜日午前を担当している。一般内科初診外来（火曜日、金曜日共に午前）で主に血液疾患初診対応を行っている。

２）入院診療：７階西病棟にて原則的には無菌室２床、一般病床 18 床で運営している。

４．診療実績

平成 28 年度に血液内科で診療した血液疾患新規入院患者数は 95 名であった。内訳は悪性リンパ腫 32 名、急性白血病 10 名、多発性骨髄腫 11 名、骨髄異形成症候群 11 名、特発性血小板減少性紫斑病５名　その他 26 名（ＡＴＬ、自己免疫性溶血性貧血、再生不良性貧血、骨髄増殖性腫瘍など）であった。

入院症例の多い悪性リンパ腫の主なタイプの初発例での治療成績は以下の如くである（高齢・合併症などでＱＯＬ療法のみとなった症例などは省き、治療評価可能例に限る）。

びまん性大細胞型Ｂ細胞性　完全寛解率 81.8%（9 例/11 例）、濾胞性　同 66.7 率%（２例/３例）、ホジキン型　同 100 率%（３例/３例）。また１例（骨髄腫１名）に自己末梢血幹細胞移植を施行、寛解を維持できている。

５．教育活動

桑山真輝部長が平成 28 年９月に「血液検査の読み方」、服部英喜部長が同年 12 月に「院内感染疾患」についての研修医レクチャーを行った。

消化器内科の現況

１．スタッフ

副 院 長　　福井　弘幸（兼診療情報管理室長・地域医療連携室長、消化器内科部長）
部　　長　　宮城　琢也（平成 28.9.30 退職）
医　　長　　上田　高志（兼内視鏡センター長・内科医長）、巽　　理、木津　　崇
副 医 長　　中村　昌司
嘱託医師　　伊藤　資世（平成 29. ３.31 退職）、前川　祐樹（平成 29. ３.31 退職）、岡本正幸、
　　李　恵利佳

２．診療内容

消化器内科として毎日外来２～３診、また午後専門診察などの外来業務を担当、内視鏡検査・処置、超音波検査・処置などの検査処置を毎日担当、病棟では地域医療連携経由の紹介あるいは救急からの入院を中心とした病棟業務を担当している。

完全ペーパーレス・フィルムレスの電子カルテシステムの稼動により、内視鏡・超音波やＣＴ・ＭＲＩなどの画像を電子カルテ上で患者に提示可能である。また、内視鏡・腹部超音波画像はファイリングシステムにおいても管理され効率的な診療に役立っている。

専用透視室を備えた内視鏡センターを運営し、あらゆる内視鏡下治療手技（ＥＳＴ・ＥＮＢＤ・ステントなど）を施行している。地域医療連携室経由の紹介や救急入院が多いこともありＥＳＴなどの治療内視鏡件数が増加している。超音波下治療手技であるＰＴＣＤ・ステントなども専用透視室で施行している。膵腫瘍や胃粘膜下腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺生検（Ｅｕｓｆｎａ）も施行している。ダブルバルーン小腸内視鏡装置にて小腸病変の診断に役立てている。

早期胃癌・大腸癌・食道癌に対する内視鏡下治療は粘膜剥離術（ＥＳＤ）を施行している。

肝癌に対する治療も積極的に取り組み、ラジオ波焼灼術（ＲＦＡ）を平成 14 年から開始し症例を増やしている。肝癌予防に重要なウィルス性肝炎に対するインターフェロン治療を従来から取り組んでいたが現在はインターフェロンフリーの内服薬（ＤＡＡ）治療を多数施行している。

また、消化管出血に対する緊急内視鏡治療など救急医療にも積極的に取り組んでいる。

上記疾患を含め、胃癌・大腸癌などの消化管疾患、膵臓癌・肝癌などの消化器疾患、胆石・総胆管結石症、胆道癌などの胆道系疾患などあらゆる消化器疾患の診断治療に取り組んでいる。

３．診療体制

１）外来診療：月曜日から金曜日までの毎日、消化器内科専門診と消化器内科初診再診との
　　２～３診体制。
２）入院診療：病床数は最大 40 床を担当。
３）腹部超音波検査　：月曜日から金曜日までの毎日施行。

消化管内視鏡検査：上部消化管内視鏡検査；月曜日から金曜日までの毎日施行。
下部消化管内視鏡検査；月曜日から金曜日までの毎日施行。
内視鏡下・超音波下処置：月曜日から金曜日までの毎日、午後に施行。

４．診療実績

主要な検査・処置・治療件数

（単位：件）

肝臓癌の経皮ラジオ波焼灼術（ＲＦＡ）	20
内視鏡下早期胃癌切除術（ＥＳＤ）	70
内視鏡下早期大腸癌切除術（ＥＳＤ）	30
上部消化管内視鏡検査	3,318
下部消化管内視鏡検査	2,112
内視鏡下逆行性胆管膵管造影（ＥＲＣＰ）	163
超音波内視鏡（ＥＵＳ）	70
超音波内視鏡下穿刺生検（ＥＵＳ-ＦＮＡ）	8
内視鏡下食道静脈瘤治療（ＥＶＬ・ＥＩＳ）	28
Ｃ型肝炎インターフェロンフリー内服治療	123

５．教育活動

前期研修医１年５名が各２ヶ月間、消化器内科で研修を行った。
前期研修医２年１名が３ヶ月間、消化器内科で研修を行った。
研修医講座を７月 31 日、８月７日実施した。（中村副医長、前川医師）
看護師向けの勉強会を 11 月６日実施した。（福井副院長）
８西病棟看護師向けの勉強会を６回実施した。（福井副院長、上田医長、巽医長、木津医長、中村副医長、前川医師）

循環器内科の現況

１．スタッフ

病 院 長　　星田　四朗
部　　長　　渡部　徹也（兼ＭＥセンター医長）
医　　長　　篠田　幸紀、池岡　邦泰、南坂　朋子
副 医 長　　乾　　礼興、福岡　秀忠

２．診療内容

当科は、平成 16 年５月の新病院移転時に内科より独立した。診療内容としては、心筋梗塞・狭心症といった虚血性心疾患を中心に、心不全、不整脈といったほぼ全ての循環器疾患を扱っている。外来診療でも３Ｄ描出可能な心エコー図検査、冠動脈描出可能なマルチスライスＣＴ、非侵襲的に虚血診断のできるＲＩといった最新鋭装置にて診断を行えるようになった。外来の検査にて冠動脈疾患が疑われた場合、入院していただきカテーテル検査や治療を行う。患者の負担を減らすために従来は鼠径部から治療を行っていたが最近では多く手首から治療を行っている。再狭窄予防効果の強い薬剤流出性ステントが使用可能となり、長期的成績が著しく改善した。急性冠症候群（急性心筋梗塞・不安定狭心症）に対するカテーテル治療に関しては原則 24 時間対応を行っている。また、不整脈のカテーテルアブレーション治療や末梢血管治療にも力を入れ始め、心房細動や発作性上室性頻拍のカテーテルアブレーション治療、透析シャント治療や、総腸骨動脈、大腿動脈などのカテーテル治療も行うようになっている。平成 29 年 1 月には第二血管造影撮影室が新設された。

３．診療体制

１）外来診療：月曜日から金曜日まで循環器内科の初診・紹介患者に対応するため循環器内科医師が少なくとも 1 名外来を行っている。循環器患者の再診外来も行っている。また、原則として毎月第１月曜日の午後にペースメーカー外来を行っている。運動負荷心電図（トレッドミル）は月曜日・木曜日、負荷心筋シンチは月曜日・木曜日・金曜日、エコー（経胸壁心エコー、経食道心エコー、頚動脈エコー、深部静脈エコー、下肢動脈エコー）は毎日行っている。

２）入院診療：ベッド数は 24 床である。予定の心臓カテーテル検査・ペースメーカー・血管内治療は月曜日午後・火曜日・水曜日全日、金曜日午前中行っている。

３）救急体制：循環器内科として可能なかぎり 24 時間、365 日オンコール体制を目標に急性疾患に対応している。

４．診療実績

外来延患者数は、7,212 人、入院延患者数は、12,106 人であった。

代表的な手術・検査件数

（単位：件）

心臓カテーテル検査	505
経皮的冠動脈形成術（PCI）	296
ペースメーカー植え込み術	51
アブレーション	152
末梢血管形成術(EVT)	183
下大静脈フィルター	8
心エコー図	4,940
経食道心エコー図	120
心筋シンチ	604

新病院になってから５年目までは体勢も整い、いずれの検査治療数も増加していた。一時、医師数減少により治療件数も減少傾向であったが、平成 22 年７月より循環器医師４名体制となり内科（循環器系医師）２名と協力し心臓オンコール（24 時間救急受け入れ体制）を開始した。それに伴い症例数は増加傾向である。平成 23 年度は循環器系医師の退職により医師数は半減したが症例数の維持に努めてきた。平成 24 年度より４名体制となり可能な限り心臓コールの受け入れを継続している。平成 28 年からは６名体制となった。心エコー図、心筋シンチ、ホルター心電図、運動負荷検査等、診療内容は充実しており、カテーテル治療件数も一昨年度の約２倍にまで増加している。今後、病診連携を広めつつ、病院全体としての救急充実を図り、何れの数字も増加していくように努力していきたい。

５．教育活動

臨床研修医４名が２か月間隔で研修を行った。また、内科と協力して症例検討会を開催した。毎週、火曜日に入院患者の症例検討会、金曜日にカテーテル検査・治療の検討会を行っている。また、コメディカルに対する循環器勉強会も月２回行っており、スタッフ全体の医療に対するレベルアップを図っている。

外科の現況（一般外科・消化器外科）

１．スタッフ

総　　長　　佐々木　洋
部　　長　　松山　仁（外科部長）、久保田　勝（消化器外科部長）
医　　長　　井出　義人（兼通院治療センター部長）、永井　健一、廣瀬　　創、橋本　安司、
　　杢谷　友香子
副 医 長　　野間　貴之

２．診療内容

「一般外科」、「消化器外科」、「救急診療科」の３つを大きな診療分野の柱としている。食道・胃疾患を中心とする上部消化管疾患、大腸を中心とする下部消化管疾患、肝臓・胆のう・膵臓疾患、主に消化器癌を対象とする化学療法などを専門に行っている。一般的な外科疾患である急性虫垂炎やヘルニア、イレウス、急性腹膜炎などは、外科医師全員で対応し、救急診療業務には、24 時間オンコールの体制で協力している。各種外科疾患の中でも、本院の診療の柱である「がんの診療」には外科医師全員が高い専門性を維持しながら特に力を注いでいる。

３．診療体制

上部消化管疾患は松山仁部長・永井健一医長が、下部消化管疾患は井出義人部長・廣瀬創医長・杢谷友香子医長が、肝・胆・膵疾患は佐々木洋総長・久保田勝部長・橋本安司医長が担当している。初診・紹介患者を対象とした一般外科外来は毎日診療しており、その他、上部消化管外来、大腸外来、肝・胆・膵疾患外来、ストーマ外来などの専門外来も行っている。全身麻酔の手術は月曜日から金曜日の全日に、腰椎麻酔や局所麻酔の手術は月曜日午後・金曜日午前に行っている。ただし、手術日以外にも緊急手術や臨時手術を行うことも多い。検査関連では、上部消化管内視鏡検査は週１回、下部消化管内視鏡検査は週２回外科で分担実施している。また、通院治療センターでの業務についても、他科医師とともに外来患者の化学療法の実施に携わっている。

診療の特徴としては、①疾患別の専門的診療、②個々の患者の病態に見合った治療法の選択、③科学的根拠に基づいた医療（ＥＢＭ）の実践、④緩和医療・終末期医療を含め、最後まで看る体制、⑤クリニカルパス導入による医療の標準化と効率化の実践などである。

４．診療実績

総手術件数が 643 件であった。その内、608 件（94.6%）が全身麻酔手術で、腰椎麻酔手術は 20 件（3.1%）、腹腔鏡下手術は 382 件(59.4%)であった。また、緊急手術は 79 件（12.3%）であり、腹腔鏡下手術が 45 件含まれている。代表的な手術症例の内訳は次表のとおりである。

代表的疾患の手術件数

（単位：件）

	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
総数	643	607	560
全麻	608	455	472
腰麻	20	101	110
腹腔鏡手術	382	250	252
緊急手術	79	71	70
腹腔鏡	45	36	32
食道癌	12	10	3
胃癌	79	67	61
幽門側胃切除術	49	45	49
胃全摘・噴切術	30	22	12
その他	7	6	16
腹腔鏡	32	28	27
大腸癌	155	131	120
結腸癌	94	85	71
直腸癌	61	36	49
腹腔鏡	151	111	110
胆石症・胆嚢炎	67	36	53
腹腔鏡	67	35	50
肝癌	39	33	43
肝切除	37	32	40
肝切＋胆管切	2	1	3
胆・膵癌	24	20	13
ＨＰＤ	0	2	0
胆嚢癌	4	4	5
ＰＤ	10	11	5
ＤＰ他	10	3	3
内痔核	15	15	14
鼠径ヘルニア	129	124	93
腹腔鏡	67	11	4
虫垂炎	35	45	47
腹腔鏡	35	41	33

５．教育活動

臨床研修医２名に対して、計４か月間の外科臨床研修を指導した。また、大阪大学医学部５年生を対象にクリニカルクラークシップとして２週間の消化器外科実習を２グループ　計５名に行った。

外科の現況（呼吸器外科）

１．スタッフ

特命院長　　兒玉　　憲（兼感染対策管理室長）
医　　長　　木村　幸男、馬庭　知弘

２．診療内容

呼吸器外科では肺がん、転移性肺がん、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍（胸膜悪性胸膜中皮腫や孤立性線維性腫瘍など)、胸壁腫瘍などの腫瘍性病変、気胸、肺膿瘍、膿胸、胸部外傷など、ほぼすべての呼吸器外科疾患を治療している。

肺がんは今なお「難治性がん」の代表とされているがゆえに、その１次予防としての禁煙キャンペーン、禁煙外来（木村医師）や、２次予防としての早期発見に努めている。サイズが２cm 以下の肺がんで、高分解能ＣＴ上、すりガラス状陰影(ＧＧＯ)が優位な早期がんに対しては、主として縮小手術を行い呼吸機能の温存に努めるとともに、術中迅速肺切除マージン洗浄細胞診を行い、完全切除が行われたことを確認している。Ⅰ期肺がんに対しては完全胸腔鏡下肺葉切除を取り入れている。一方、Ⅱ－ ⅢA 期の進行肺がんに対しては、気管支形成術や拡大手術を行い、さらにⅢB － Ⅳ 期肺がんに対しては化学療法、分子標的薬治療、放射線治療、免疫療法（チェックポイント阻害剤）を組み入れた、いわゆる個別化医療(personalized medicine)あるいは精密医療(precision medicine)でもって治療成績向上を目指している。

転移性肺腫瘍や多発肺がんに対しては適応を明確にしたうえで、両側同時手術も行っている。手術可能な悪性胸膜中皮腫に対しては胸膜肺全摘術を行っている。

３．診療体制

１）外来診察：火曜日の午前、および木曜日の午前・午後に、初診、再診を問わず総合的に診察を行っているが、気胸や外傷など緊急処置が必要な場合は、緊急で随時受け入れている。また、紹介元より受診を急がれる場合は、地域医療連携室を通し、曜日を問わず可能な限り対応できるように努めている。セカンド・オピニオンを受け入れるとともに、他施設へのセカンド・オピニオンを希望された場合、適切な施設への推薦を行っている。遠方から来られた肺がん患者さんには、負担軽減のため術後地域連携クリニカルパスの運用も行っている。

２）手術治療：手術日は毎週火曜日午前・午後、ただし緊急手術は随時対応可能である。

３）入院治療：手術入院以外に、胸部外傷やドレナージ治療、放射線治療あるいは呼吸器悪性腫瘍在宅治療患者の後方支援としての入院の受け入れも可能な限り行っている。高齢者気管支鏡検査は１日入院で水曜日の午後に内科医の協力を得て施行している。

４．診療実績

手術件数

疾　患	術　式	症例数	在院死	胸腔鏡下
原発性肺がん	部分切除	24	0	20
	区域切除	5	0	4
	肺葉切除	40	0	30
	全摘	0	0	0
転移性肺腫瘍	部分切除	19	0	19
	区域切除	2	0	2
	肺葉切除	5	0	5
縦隔腫瘍		7	0	5
胸壁腫瘍	胸膜・肺全摘	1	0	0
	その他	3	0	1
気胸・膿胸		23	0	18
胸膜・肺・リンパ節生検		11	0	7
炎症性肺疾患その他		8	0	6
合　計		148	0	117

５．教育活動

英文論文 10 編を発表、学会への積極的な参加・発表を行い、情報発信に努めている。

呼吸器外科修練認定施設として、呼吸器外科専門医育成支援を行っている。

医療従事者あるいは一般市民を対象とした、研究会や公開講座において、呼吸器外科の情報伝達や教育活動を行っている。

乳腺外科の現況

１．スタッフ

部　　長　　森本　　卓
医　　長　　道下　新太郎

２．診療内容

乳がんの診断、治療全般を関連診療科と連携して行っている。乳がん検診で要精査となった方の二次検診（精密検査）や初期乳がんの治療、進行再発乳がんの治療および遺伝性乳がんのカウンセリング、検査を行っている。ガイドラインに基づいた標準治療を行いつつ、臨床試験・先進医療・治験に参加し、よりよい診療の提供を目指している。

金曜日の午後、土曜日は、八尾市乳がん検診を行っている。

３．診療体制

２名の乳腺専門医で外来・入院患者の診療を行っている。

１）外来診療：午前中は月曜日から金曜日まで毎日行っている。午後は予約のみである。
予約無し初診は各曜日の午前中に行っているが、事前予約は月曜日が中心であるが他の曜日も受け入れており全日行っている。
マンモグラフィー・トモシンセシスによる３次元マンモグラフィー、超音波、エラストグラフィーを併用している。組織診・細胞診は、可能な限り受診当日に施行している。
石灰化病変にはステレオガイド下マンモトーム生検を木曜日午後に施行している。
診断困難症例には超音波ガイド下マンモトーム生検を行っている。
大阪大学医学部・兵庫医科大学より外来診療、検診に応援医師を派遣してもらっている

２）手　　術：手術は水曜日の全日と金曜日午後に行っている。
ＲＩ法と色素法併用でのセンチネルリンパ節生検を実施している（同定率 99%以上)。常勤病理専門医によるリンパ節および切除断端の術中迅速病理診断を行っている。形成外科と連携して乳房再建を行っている（同時、異時)。

３）入院治療：乳がん看護認定看護師が入院中は病棟で対応、また外来でも心理的サポート、リンパ浮腫診断・治療においてもサポートしている。

４）化学療法：通院治療センターで行っている。

５）放射線治療：常勤放射線治療専門医が担当している。

６）術後の診療：地域の診療所と連携し、術後の経過観察・検査・ホルモン治療を連携して行っている。

４．診療実績

代表的な手術件数および検査件数

原発乳癌手術	162 例（乳房温存 56 例 乳房切除 106 例 同時再建 28 例）
ステレオガイド下マンモトーム生検	55 例　超音波ガイド下マンモトーム生検　33 例

高度先進医療では、「ＴＳ－１による術後補助化学療法」、臨床試験では、海外とのグローバル試験の「ＩＢＣＳＧのＳＯＬＥ」、全国規模の「ＪＢＣＲＧ」「ＣＳＰＯＲ－ＢＣ」、近畿地区では「ＫＢＣＳＧ」に参加している。

脳神経外科の現況

１．スタッフ

部　　長　　都築　　貴
医　　長　　有田　都史香
応援医師　　谷口　理章、中村　　元、馬場　貴仁、柳澤　琢史

２．診療内容

当科では、脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷・神経機能的疾患を主として担当している。

脳神経外科の診療では、手術適応の決定の為には正確な画像診断が必須であり、当院にはその為の診断機器が基本的に整備されている。マルチスライスＣＴにより、通常のＣＴ画像に加え、高解像度のＣＴアンギオグラフィーも使用している。ＣＴ画像を３Ｄ画像ワークステーションにより再構成することで従来の血管造影検査に遜色無く血管の形態的な異常をとらえることができ、術前シミュレーションには絶大な偉力を発揮する。またＭＲＩでは種々の撮像が可能であり、造影剤を使用しなくともＭＲアンギオグラフィーによる血管異常の描出も可能である。さらに頸部頸動脈エコー検査も随時可能であり血流速度や動脈硬化性病変の性状診断が迅速に可能である。これらの手法を用い、従来行われていた侵襲的検査を大幅に減少させ、より低侵襲で、かつ十分な画像診断情報を得ることが可能となっている。脳血流の評価にはＳＰＥＣＴを備えており、脳虚血に対する手術適応の決定に不可欠なものとなっている。これらの画像診断は放射線科および中央検査部の献身的な協力により可能となっている。

脳神経外科診療の中心はもちろん担当疾患の外科治療（手術）であるが、当院には手術を確実かつ安全に遂行するための機材として、手術用ナビゲーター（Ｓtealth Ｓtation)・神経内視鏡（ＥndoArm)・術中神経刺激装置（ＮＩＭ pulse)・術中脳血流ドップラー（ＥＺ Dop)・術中ＳＥＰ/ＭＥＰ/ＡＢＲモニタリング（Neuropack）を装備しており、これらの機材を積極的に導入し、神経機能予後の改善に役立てている。スタンダードな脳神経外科手術のみだけでなく、特殊で専門性の高い手術も大阪大学脳神経外科関連施設医師の応援協力を得て、当院で提供できる環境を整えている。

３．診療体制

１）外来診療：基本的には月曜日から金曜日までの午前１診体制であり、火曜日及び水曜日は予約のみだが午後１診の診療をしている。月曜日・水曜日・金曜日の外来診療に関しては大阪大学脳神経外科関連施設医師の応援を得ている。

２）入院診療：ベッド数は 10 床にて稼動している。現在は脳腫瘍・脳卒中に対する診療が中心となっている。予定手術は水曜日に行っている。血管造影検査は金曜日午後に行っている。

３）救急診療：常勤医２名であり、現時点では常時の対応はできないが、可能な限りオンコール体制で 24 時間対応している。

４．診療実績

外来延患者数 3,136 人、初診患者数 429 人であった。新入院患者数 130 人であった。手術は 63 件であり、脳血管障害や外傷の手術のみでは無く、悪性脳腫瘍や頭蓋底腫瘍の摘出術も施行しており、特殊な神経内視鏡手術や神経機能疾患の手術も含まれている。

５．教育活動

脳神経合同カンファレンスや病院主催のレジデントレクチャーで臨床研修医を適宜指導している。

整形外科の現況

１．スタッフ

部　　長　　三岡　智規（兼リハビリテーション科医長）
医　　長　　平松　久仁彦、杉田　憲彦（平成 29. ３.31 退職）
副 医 長　　松村　宣政（平成 29. ３.31 退職）、辻井　　聡
応 援 医 師　　黒田　昌之（脊椎外科担当）

２．診療内容

スポーツ外傷、関節疾患、外傷一般、脊椎疾患を中心に、診療を行った。

スポーツ整形外科では靭帯再建手術、半月板縫合術・切除術、肩脱臼に対する手術、肩腱板修復術を主に行っている。

関節外科では人工関節置換術を主に行っている。輸血を必要とする予定手術（人工関節置換術）に対しては外来にて術前貯血を行いできるだけ同種輸血を回避している。変形性関節症に対する骨切り手術が軌道にのった。脊椎外科は黒田医師が退職し、常勤医が不在となった。週１回の脊椎手術と脊椎専門外来のみとなったため、当院で対応しきれない脊椎疾患は近隣の医療機関に診療をお願いすることとなった。外傷患者を積極的に受け入れた。また、外来部門は、地域医療支援病院の趣旨に沿って、主に紹介患者や救急患者の診察を行った。

３．診療体制

膝・肩、スポーツ疾患の担当は三岡智規部長、平松久仁彦医師が担当。

松村宣政医師が担当する外傷部門も患者数が増加し、緊急手術症例も増加している。

４．診療実績

当科で施行している主な手術は、骨折治療はもちろんのこと、膝靭帯再建術、肩関節脱臼、腱板手術、人工関節置換術などの専門性の高い手術を行っている。

手術件数　（単位：件）

スポーツ関連手術	150	人工関節置換術	60
脊髄手術	70	骨折手術	160

形成外科の現況

１．スタッフ

医　　長　　三宅　ヨシカズ、仲野　雅之
嘱託医師　　松岡　祐貴

２．診療内容

当科は、平成 20 年７月１日に開設し、切断指救急を積極的に受け入れるとともに形成外科一般の診療にあたっている。切断指など手指外傷の救急診療には 24 時間オンコール体制をとっている。中小企業・工場の多い地域ということもあり、読売新聞の調査で、平成 28 年の切断指再接着手術は全国で 3 番目の症例数であった。また、他科とも協力し悪性腫瘍切除後の再建も行っている。特に乳がん切除後の乳房再建では、自家組織による再建だけでなく、乳房シリコンインプラントによる再建も行っている。

さらに表皮嚢腫、母斑、脂漏性角化症、脂肪腫などの良性腫瘍や基底細胞がん、有棘細胞がんなどの悪性腫瘍、瘢痕、眼瞼下垂、多合指症、耳介変形、顔面外傷、下肢静脈瘤など幅広い疾患の診療を行っている。

３．診療体制

１）外来診療：月曜日から木曜日の午前、金曜日は午後に一般外来を行っている。
　　火曜日の午後は専門外来「乳房再建外来」を行っている。
２）手　　術：月曜日、火曜日午前、木曜日午後、金曜日に手術を行っている。
３）救急体制：切断指などの手指外傷に対し 24 時間オンコール体制をとっている。

４．診療実績

手術件数　（単位：件）

	入院手術	外来手術	合　計
外傷	142	124	266
先天異常	10	6	16
腫瘍	109	428	537
瘢痕、ケロイド	8	17	25
難治性潰瘍	44	25	69
炎症・変性疾患	68	42	110
その他	28	22	50
合計	409	665	1,074

＊平成 28 年１月から 12 月末までの手術実績

５．教育活動

関西医科大学および大阪市立大学形成外科主催で年２～３回、各関連病院合同の症例検討会が開かれ、情報交換を行った。臨床研修医の形成外科研修として３名の研修医を受け入れた。また、関西医科大学第６学年学外臨床実習施設として１名の学外実習生を受け入れた。

産婦人科の現況

１．スタッフ

部　　長　　山田　嘉彦
医　　長　　水田　裕久、吉澤　順子、佐々木　高綱、山口　永子（平成 29. ３.31 退職）
副 医 長　　松浦　美幸、山田　弘次
嘱託医師　　中野　和俊（平成 29. ３.31 退職）
応援医師　　棚瀬　康仁、三宅　龍太

２．診療内容

１）産　科：当院はＮＩＣＵ６床を有し、ＯＧＣＳ（産婦人科治療相互援助システム）の参加病院として、地域の先生方からの切迫早産、合併症妊娠、分娩前後の急変患者などの搬入を積極的に受け入れている。ひと月あたりの分娩予約数を 80 件程度に制限をしている。

２）婦人科：月経困難症、子宮内膜症および更年期障害に対するホルモン療法を行っている。婦人科がんの治療に関しては各種ガイドラインに基づきながら、カンファレンスによって治療方針を決定し、手術療法、化学療法を行っている。腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術にも積極的に取り組んでいる。

３．診療体制

１）外来診療：午前は初診、産科再診、婦人科再診、の３診体制、午後は産科再診、手術前の説明、外来検査（生検など）および市民健診の子宮がん検診（水曜日）を行っている。水曜日と木曜日に各１名の応援医師が、奈良県立医科大学から派遣されている。

２）入院診療：ベッド数は 30 床。産科の分娩も、婦人科の手術も入院期間は概ね１週間以内と短期間で、病床の回転率は高くなっている。

３）手 術 日：月曜日、水曜日、木曜日の週３回である。悪性腫瘍の手術は主に木曜日に実施している。水曜日には、奈良県立医科大学から腹腔鏡手術のエキスパートである棚瀬康仁医師が来院されており、腹腔鏡手術の指導をお願いしている。そのほか、予定帝王切開術を、手術室のフリー枠を使用して、火曜日と金曜日にも行っている。

４．診療実績

平成 28 年度の分娩数は 778 件で、昨年度より増加した。外来患者数は平成 28 年度１日平均約 82.2 人であった。手術件数は 455 件（帝王切開は 162 件）で、婦人科浸潤がんの手術件数は 35 件であった。腹腔鏡下手術の件数は増加しており、116 件であった。

主な婦人科疾患に対する手術実績　（重複あり、単位：件）

子宮頸部上皮内病変	50	円錐切除術	54	腹腔鏡下異所性妊娠手術	8
浸潤子宮頸がん	9	腹式単純子宮全摘術	32	骨盤臓器脱手術	15
子宮内膜増殖症	2	腹式子宮筋腫核出術	2	子宮鏡手術	13
子宮体がん	12	腹式付属器腫瘍手術	18	拡大子宮全摘術（準広汎含む）	7
卵巣がん（境界悪性含む）	14	腹式異所性妊娠手術	0	広汎子宮全摘術	4
外陰がん	0	腹腔鏡下子宮全摘術	43	悪性腫瘍手術（大網切除術まで）	8
卵巣腫瘍	80	腹腔鏡下子宮筋腫核出術	3	悪性腫瘍手術（骨盤リンパ節郭清まで）	5
骨盤臓器脱	15	腹腔鏡下付属器手術	62	悪性腫瘍手術（傍大動脈リンパ節郭清まで）	7

分娩業務状況　（単位：件）

分娩数	778	帝王切開術	162
正常分娩	574	予定	102
異常分娩	204	緊急	60
双胎分娩	12	吸引分娩	42
		鉗子分娩	0

５．教育活動

スーパーローテートの初期研修として、２名が産婦人科研修を行った。毎週水曜日に術前症例検討会を行っている。隔週の水曜日に抄読会を行っている。また、病理診断科との合同カンファレンスを月に１回実施している。臨床研修医には、各種手術手技についてのプレゼンテーションを行ってもらい、その手技に対する理解度を定着させている。当施設は産婦人科専攻医研修指定施設である。奈良県立医科大学産婦人科教室から定期的に産婦人科専攻医の研修を受け入れている。平成 28 年度は中野和俊医師が産婦人科専攻医の研修を行った。

小児科の現況

１．スタッフ

副 院 長　　田中　一郎（兼診療局長）
部　　長　　中野　智巳
医　　長　　濱田　匡章、能村　賀子
副 医 長　　近藤　由佳、西川　宏樹（平成 29．3．31 退職）
嘱託医師　　薮本　仁美、吉川　侑子
応援医師　　柳本　嘉時

２．診療内容

新生児から中学生までを対象としているが、慢性疾患などでは年長者まで診療をしている。主な疾患としては呼吸器疾患、消化器疾患、気管支喘息、アレルギー性疾患、腎泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、神経疾患、血液疾患、川崎病、ＩｇＡ血管炎などの小児期特有の疾患、新生児・未熟児疾患、先天性疾患などそれぞれ専門担当医を決めて診療している。また、健診・予防業務として正常新生児の退院時健診、生後１か月健診、10 か月後期健診や各種予防接種も行っている。

３．診療体制

１）外来診療：午前は月曜日、木曜日が４診制、火曜日、水曜日、金曜日が３診制とし、一般外来を中心に、予約患者は１診、２診、予約外患者および救急は３診、４診で診療している。
午後は予約専門外来として、思春期・心身症外来を月曜日、アレルギー・膠原病・腎外来を月曜日･火曜日、１か月健診および後期健診を火曜日、予防接種を水曜日、発達外来と食物アレルギー外来を木曜日、内分泌外来とスキンケア外来を金曜日に行い、外来検査として火曜日と水曜日に心臓超音波検査を行っている。

２）入院診療：小児単独病棟として６階西病棟に一般病床とＮＩＣＵを有している。
院内学級には八尾市立龍華小学校から先生に専属で来ていただいており、慢性疾患患者の長期入院に際し、ベッドサイドや院内教室で授業を行っていただき助かっている。また、小児病棟恒例の七夕やクリスマスの催しにもご支援を賜っている。

３）救急診療：日勤帯は救急担当医を決めて対応している。時間外救急診療については、中河内小児救急輪番制を維持し、当院は、火曜日および土曜日を担当している。

４．診療実績

入院患者の内訳は肺炎などの呼吸器疾患、胃・腸炎などの消化器疾患といった急性感染症が大勢を占めていた。

代表的疾患件数

（単位：件）

肺炎・気管支炎	462	腸重積症	12
上気道炎・インフルエンザ・扁桃腺炎	65	消化器疾患（胃腸炎・腸重積症を除く）	23
胃・腸炎	88	新生児・未熟児疾患	169
クループ・喘息性気管支炎・気管支喘息	71	川崎病	42
感染症	65	リウマチ性疾患とその周辺疾患	16
細菌性・ウイルス性髄膜炎・脳炎・脳症	42	アレルギー疾患	18
神経・てんかん・熱性痙攣	59	食物アレルギー	314
腎炎・ﾈﾌﾛｰｾﾞ・尿路感染症・尿路系疾患	40	血液・凝固異常	27
内分泌・代謝疾患	51	その他	18

５．教育活動

臨床研修医７名が小児科研修を行った。また、奈良県立医科大学６回生３名がクリニカルクラークシップとして４～６月にそれぞれ４週間の臨床実習を行った。

近隣の小児科医との連携推進のために中河内小児科談話会を６月と 12 月に開催し、主に八尾市や柏原市、東大阪市の医師会員や勤務医の先生方が参加され、症例検討や情報交換を行った。

新生児集中治療部の現況

１．スタッフ

部　　長　　道之前　八重

２．診療内容

当院は地域周産期母子医療センターの認定を受けており、産婦人科は基礎疾患や産科的合併症のある母体の分娩と緊急母体搬送を積極的に受け入れている。当科はこれらのハイリスク分娩から出生した新生児、地域の開業産婦人科病院または大阪新生児相互援助システム（ＮＭＣＳ）から紹介となった病的新生児を診療している。早産の場合、具体的には当院で対応可能な在胎 28 週以上を対象としている。主な疾患は、新生児呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、胎便吸引症候群、空気漏出症候群、新生児無呼吸発作、未熟児動脈管開存症、直ちに外科的治療が必要でない先天性心疾患、先天性貧血、先天性血液凝固異常、黄疸、ビタミンＫ欠乏症、低血糖、新生児乳児消化管アレルギー、脳室内出血、脳室周囲白質軟化症、新生児痙攣、先天性肺炎、敗血症などの感染症、ダウン症候群などの染色体異常などである。心臓胸部、消化器および脳外科の外科的治療が必要な場合はＮＭＣＳなどを介して、より高次の専門施設に紹介している。

３．診療体制

１）分娩立会い：早産、多胎、胎児仮死徴候のある分娩、緊急帝王切開などのハイリスク分娩に立会い、新生児に蘇生処置を行いＮＩＣＵに入院させている。

２）入 院 診 療：新生児特定集中治療室管理料の加算対象は６床。緊急時は８床まで対応している（24 時間以内）。日勤はＮＩＣＵに専任する小児科医が入院治療を行い、ハイリスク分娩には複数名で立ち会っている。休日夜間はＮＩＣＵ当直医が常在し、ハイリスク分娩とＮＭＣＳによる緊急新生児搬送入院に 24 時間体制で対応している。定期的に産婦人科・小児科の合同カンファレンスを行い、母体と胎児情報の確保と新生児の入院経過のフィードバックを密に行っている。呼吸・循環管理を中心とした急性期の治療に加え、将来の健常な発育と発達につながる栄養管理、developmental care と育児支援を大切にしている。

３）外 来 診 療：当院ＮＩＣＵを退院または他院のＮＩＣＵから紹介された早産児、ＳＧＡ(small for date)は３歳ごろまでは発育と発達をフォローしている。新生児期と乳児期の栄養が非常に大切であることを定期的な診察を通して保護者に理解いただけるよう育児支援を行っている。ＳＧＡを含め低身長をきたした場合は成長ホルモン治療の適応があるかを診断し治療している。脳室周囲白質軟化症などによる脳性麻痺の早期発見に努め、八尾市立医療型児童発達支援センターなど小児リハビリテーションが可能な施設に紹介している。当院ＮＩＣＵを退院または他院のＮＩＣＵから紹介された在宅人工呼吸管理、在宅酸素、気管切開、胃瘻などの高度な医療的ケアが必要なお子さまの診療を行っている。ＲＳウイルスの流行時期９

～４月は、在胎 35 週台までの早産児、先天性心臓奇形、ダウン症のお子さまを対象にＲＳウイルス予防薬のシナジス（パリビズマブ）の投与を行っている。

４．診療実績

ＮＩＣＵ入院総数は 99 人である。このうち院内出生児は 96 人、大阪府新生児相互援助システム（ＮＭＣＳ）を介してご紹介いただいた新生児搬送が３人である。院内出生のうちＯＧＣＳと八尾市内の開業産婦人科からの緊急母体搬送からの出生児が９人である。

出生体重が 1,000g 未満の超低出生体重児は１人（院内出生）、出生体重が 1,000g 以上 1,500g 未満の極低出生体重児は３人（院内出生）である。気管内挿管・人工呼吸管理を施行したのは 12 人で経過良好だった。新生児死亡はなかった。

患　者　数

()内は前年度

在胎週数別入院数割合	（単位：%）
在胎 28～33 週	19（21）
在胎 34～36 週	40（33）
正期産児	41（46）

出生体重別入院数	（単位：件）
出生体重＜　1,000g	1（1）
1,000g ≦出生体重＜ 1,500g	3（8）
母体搬送(OGCS)からの出生児	9（8）
新生児搬送（NMCS）の受け入れ	3（4）

５．教育活動

平成 28 年度は院内新生児蘇生講習会を１回開催した。

眼 科 の 現 況

１．スタッフ

応援医師　　十河　　薫
視能訓練士　　合羽　利加、松本　温子

２．診療内容

当科では白内障、緑内障、糖尿病網膜症および入院中の未熟児網膜症診察を主に行っている。
現在は外来加療を中心とした診療体制になっており、外来加療を超え入院、手術が必要になった際は然るべき体制の施設へと紹介している。

３．診療体制

１）外来診療：すべて午前診で、木曜日を除く月曜日から金曜日まで１診制で行っている。
視野検査、眼鏡処方等の精密検査につきましては、午後に視能訓練士の予定と照合した上で改めて予約をとっている。検査結果については後日再診日に報告している。

４．診療実績

眼科検査では裸眼視力、矯正視力、光干渉断層計による黄斑部および視神経の撮影、網脈絡膜血管の造影として螢光眼底造影検査を施行している。
また網膜光凝固術、後発白内障に対するＹＡＧレーザー切開術、ドライアイに対するプラグ挿入等の外来手術、処置を行っている。

５．教育活動

学会への積極的参加。

耳鼻咽喉科の現況

１．スタッフ

部　　長　　川島　貴之
医　　長　　日尾　祥子、佐野　　奨
嘱託医師　　奥野　未佳（平成 29. ３.31 退職）、米井　辰一（平成 29. ３.31 退職）

２．診療内容

耳鼻咽喉科領域全般について、救急疾患、精密検査が必要な疾患、手術や入院加療を要する疾患を中心とした急性期病院としての診療を行っている。近隣には耳鼻咽喉科疾患での入院や手術に対応できる施設が少ないこともあり、八尾市内外の耳鼻咽喉科からの急性期病院としての期待は大きい。その役割を果たすため、当科では引き続き初診外来を紹介患者のみに限り、地域の病院や診療所からのニーズに可能な限り対応するようにしている。また病状の安定した患者を積極的に近隣耳鼻咽喉科診療所へ逆紹介することで、病院と診療所での役割分担を密に行っている。さらにスムーズな病診連携のために各地域の耳鼻咽喉科地域連携会を定期的に開催している。

手術治療では、顕微鏡や内視鏡を用いた耳科手術を積極的に行っている。また内視鏡による鼻・副鼻腔手術ではナビゲーションを使用した安全な手術を多数行っている。扁桃やアデノイドに対する手術や声帯ポリープ・喉頭腫瘍などに行う喉頭微細手術、その他、耳下腺・顎下腺・甲状腺などの良性腫瘍に対する手術なども積極的に行っている。いずれも低侵襲手術を基本方針とし、できる限り入院期間が短くなるよう努めている。低侵襲の一例として、最近では内視鏡のみを用いた耳科手術が普及しつつあるが、それらも積極的に行っている。なお、現時点では頭頸部悪性腫瘍に対しては診断のみ行い、治療については他院関連病院への紹介にて対応している。

３．診療体制

１）外来診療：月曜日から金曜日までの毎日、午前中に初診外来を行っている。なお、先述の通り初診は紹介患者に限っているが、当日紹介の受け入れもしているため、救急対応も可能である。再診外来も、月曜日から金曜日まで各医師が交替で行っているが基本的に予約制である。

２）特殊外来：金曜日（第１、３、５）の午後に幼児難聴外来、金曜日（第２、４）の午後に補聴器外来、また火曜日（第２、４）の午後に身体障害者認定外来を行い、幼少児から高齢者までの難聴患者へ対応している。また、入院患者の嚥下機能評価を行う嚥下外来を木曜日の午後に行っている。

３）入院診療：ベッド数は 15 床で、１日平均入院患者数は 18.0 人であり、１年を平均するとほぼフル稼働の状態が続いている。在院日数は短期化に努めている。手術日は、月曜日・水曜日・木曜日・金曜日の午前・午後に手術室での全身麻酔手術を、木曜日・金曜日の午後に外来での局所麻酔手術を行っている。全身麻酔は前日入院で、短期入院を考え、侵襲の少ない

手術では術翌日に退院としている。

4）大阪５大学と大阪府母子保健総合医療センター、大阪府立総合医療センターとならんで大阪府の新生児聴覚スクリーニング事業における精密検査施行病院となり、難聴児受け入れ病院として中河内地区の中核を担っている。

４．診療実績

1）外来診療：外来延患者数は 14,339 人で、対前年度比は 102.9%と増加傾向であった。当科は初診外来を紹介患者のみとしていることもあり、平成 28 年度 1 年間の紹介件数は 1,946 件と多い。その大半は当院で入院加療が必要な救急疾患や、手術が必要な疾患であり、急性期病院としての役割を果たしている。

2）入院診療：入院延患者数は 6,553 人であり、昨年度と比較して 7%増となった。
また手術室で行った主な手術件数は 566 件で、平成 27 年度に引き続き多い件数となった。

平成 28 年度の主な手術件数（一側を一件として計算）

鼓室形成術	82	口蓋扁桃摘出術	335
鼓膜形成術	4	アデノイド切除術	114
アブミ骨手術	1	舌・口腔・咽頭腫瘍摘出術	9
顔面神経減荷術	2	喉頭微細手術	38
外耳道腫瘍摘出術	6	気管切開術	10
内視鏡下鼻副鼻腔手術	126	甲状腺腫瘍手術	15
鼻中隔矯正術	50	耳下腺手術	11
下鼻甲介手術	96	顎下腺手術	8
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	1	頸嚢胞・頸部膿瘍手術	7
涙嚢鼻腔吻合術	2	リンパ節生検	11

５．教育活動

八尾耳鼻咽喉科医会研究会が年２回開催され、その際に講演活動を行っている。八尾市周辺地域の諸先生に当科の治療方針などを説明し、連携の強化を図っている。

また川島貴之部長は大阪大学医学部の臨床教授として、医学部の学生にクリニカルクラークシップの指導・教育を行っている。

泌尿器科の現況

１．スタッフ

部　　長　　池本　慎一(兼診療局次長・医療安全管理室長)
医　　長　　上水流　雅人（兼中央手術部部長)、町田　裕一
副 医 長　　村尾　昌輝
嘱託医師　　山本　匠真

２．診療内容

当科では膀胱・腎・前立腺・精巣などの泌尿生殖器癌、尿路結石症、尿路感染症、前立腺肥大症、過活動膀胱、副腎の内分泌疾患、停留精巣や膀胱尿管逆流症などの小児泌尿器科、尿失禁や膀胱脱などの婦人科との関連疾患を含め、ほぼすべての泌尿器科疾患を治療している。特に泌尿器癌の治療に重点を置き、手術療法、化学療法、放射線療法またこれらを組み合わせた集学的治療を行っている。膀胱癌はできるだけ膀胱温存治療をめざしている。外科系診療科では、より侵襲の少ない手術法として腹腔鏡下による手術が増加している。当科でも積極的に腹腔鏡手術を取り入れている。平成 28 年度では腎摘除術 22 例、腎尿管全摘除術 12 例、腎部分切除術 14 例の全例で腹腔鏡下手術が行われた。

尿路結石に対しては、体外衝撃波結石破砕装置を導入し、経尿道的尿管砕石術、経皮的腎砕石術と合わせてほぼ全ての尿路結石に対して治療が可能になっている。平成 26 年度より軟性尿管鏡を用いてレーザーで結石を破砕する軟性尿管鏡下レーザー砕石術も行っている。平成 26 年度軟性尿管鏡下レーザー砕石術は 43 例であったが平成 28 年度は 108 例まで手術件数が増加している。

平成 19 年末に常勤の腎臓内科医が不在となり、平成 20 年１月より当院外来通院中の慢性腎不全患者の血液透析導入及び維持透析業務を泌尿器科あるいは当科のサポートにて施行している。また急性腎不全の血液浄化及び重症患者の維持透析はＩＣＵにて施行し、適宜当科がサポートしている。また当院は腎移植施設の認定を受けており、平成 26 年１月には第一例目の生体腎移植を施行した。

３．診療体制

１）外来診療：午前診は２診を設け、水曜日以外は午後診も行っている。泌尿器科検査では内視鏡検査、超音波検査、ウロダイナミックスなどは必要に応じて随時外来で施行している。膀胱癌、前立腺癌に対する外来化学療法を主に月曜日、火曜日、木曜日、金曜日に行っている。平成 28 年度は前立腺癌に対する内分泌療法は延べ 1,222 件、前立腺癌、膀胱癌に対する外来化学療法は延べ 419 件行われた。

２）体外衝撃波結石破砕術：月曜日、木曜日、金曜日の午後に原則として１泊の入院扱いで施行しているが、尿管結石に対しては外来通院でも行っている。

３）入院診療：ベッド数は 20 床、平均在院日数約 8.1 日で稼動している。尿路生殖器癌に対する腹腔鏡下手術、内視鏡手術を中心とした集学的治療、前立腺生検術、前立腺肥大症に対する内視鏡手術、尿路結石症に対する軟性尿管鏡下レーザー砕石術を柱にしている。手術は月曜日、火曜日、水曜日、金曜日の４日間行っている。

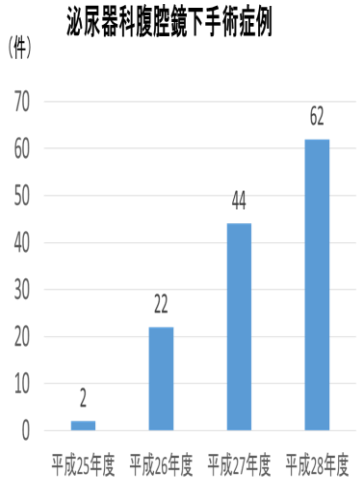
４．診療実績

外来患者数は平成 26 年度 15,606 人、平成 27 年度 16,291 人、平成 28 年度 16,814 人となっている。初診患者数は平成 26 年度 1,003 人、平成 27 年度 1,095 人、平成 28 年度 1,044 人となっている。延べ入院患者数は平成 26 年度 7,161 人、平成 27 年度 6,396 人、平成 28 年度 7,212 人となっている。平均在院日数は平成 26 年度 9.6 日、平成 27 年度 7.8 日、平成 28 年度 8.1 日となっている。腹腔鏡手術の増加に伴い平均在院日数も減少していると考えられる。手術室を利用した手術件数（体外衝撃波結石破砕術を除き、前立腺生検術を含む）は平成 26 年度 559 件、平成 27 年度 629 件、平成 28 年度 694 件と年々増加している。体外衝撃波結石破砕術は平成 26 年度 25 件、平成 27 年度 12 件、平成 28 年度８件行っている。軟性尿管鏡下レーザー砕石術の増加に伴って体外衝撃波結石破砕術の件数は減少している。新入院患者数は平成 25 年度 614 名、平成 26 年度 672 名、平成 27 年度 712 名、平成 28 年度 785 名と年々増加している。その内、前立腺癌の精査目的（前立腺生検術）、を含めると悪性腫瘍患者は全体の６割程度を占めている。疾患では膀胱癌が多く、経尿道的膀胱腫瘍切除術は 127 件行われた。前立腺癌は罹患率、死亡率ともに急速に増加しており本邦では男性の癌では罹患数は第１位、死亡数は第６位になっており年間 12,000 人以上が前立腺癌で死亡している。前立腺癌は血清ＰＳＡが鋭敏な腫瘍マーカーになっておりＰＳＡ検査の普及に伴い前立腺生検術が増加している。当科では平成 26 年度は 152 件、平成 27 年度は 151 件、平成 28 年度 147 件の前立腺生検術を行った。根治療法の適応のある患者に対しては前立腺全摘除術と放射線療法を提示し、臨床病期、病理所見、年齢等を鑑み、充分なインフォームド・コンセントを行った後にどちらを選択するかを患者に決めてもらっている。平成 28 年度の前立腺全摘除術は８件行われた。

平成 28 年度の血液浄化施行患者数は維持透析 93 件、透析導入 11 件であった。延べ 399 回の血液浄化を行った。

代表的な手術件数

経尿道的膀胱腫瘍切除術	127	内シャント造設術	11
経尿道的前立腺切除術	40	膀胱全摘除術	10
経尿道的尿管砕石術	108	腎摘除術	22
経尿道的膀胱砕石術	16	腎部分切除術	14
尿管ステント留置術	201	腎尿管全摘除術	12
経皮的腎瘻造設術	14	高位除睾術	8
経皮的尿路結石除去術	4		



５．教育活動

池本慎一部長は大阪市立大学医学部の非常勤講師として、医学部の５回生、６回生の学生に泌尿器科がんの講義を行っている。

皮膚科の現況

１．スタッフ

部　　長　　高木　圭一

２．診療内容

当科では月曜日から金曜日までの連日外来診療を行っている。平成 22 年５月までは２人での診療体制であったが、それ以降は１人体制である。

疾患の検査や治療内容についても、患者に対して最良の医療を提供していると考える。外来においては、皮膚科全般の疾患について診療を行っている。また、皮膚生検、慢性疾患診療、小型の腫瘍やあざの摘出なども行っている。皮膚生検は皮膚疾患を解明するためには非常に重要で、当科では積極的にこれを行い、治療に役立てている。また、脂漏性角化症、色素性母斑、疣贅などの良性腫瘍や、日光角化症などの悪性腫瘍の治療も症例により形成外科への紹介も含め積極的に行っている。また、掌蹠膿疱症や尋常性乾癬といった難治性皮膚疾患に対してはＵＶＡ、ＵＶＢを正確なジュール数で照射可能な光線療法機器を用いて治療を行っている。接触性皮膚炎や最近増加傾向にあるアレルギー性疾患の原因追求に非常に有用とされるパッチテストも随時行っている。

３．診療体制

１）外来診療：初診は月曜日・火曜日・水曜日・金曜日、再診は月曜日・金曜日、処置および再診は火曜日で毎日診療を行っている。なお、水曜日・木曜日にも随時再診患者を診察している。また、月曜日、火曜日と木曜日を中心にパッチテスト、皮膚生検を随時行い、木曜日は光線療法や腫瘍切除を中心に診療を行っている。しかし、これら処置も曜日にとらわれず随時対応している。

２）手　　術：必要に応じて、随時皮膚科外来で行っている。

３）入院診療：感染症、慢性皮膚疾患、手術、紫斑症などの疾患で外来診療に影響がでない範囲で積極的に入院加療を行っている。

４．診療実績

外来延患者数は 3,347 人、入院延患者数は 145 人である。平成 22 年５月より診療体制が変更になり、１人体制となっている。きめ細かい診療を心がけるようにしているため、診療に時間をさくことが多くなっている。当科での診療を希望する患者やリピーターは増加していると考える。外来通院での加療を希望する患者が多いため、入院患者数はやや減少してきている。

手術の症例数は形成外科での手術もあって減少している。炎症性皮膚疾患の症例数は徐々に増加している。また帯状疱疹や蜂巣炎などの感染症はやや増加傾向にあると考える。光線療法は横

ばい。今後は、現在主流となっているnarrowband ＵＶＢの設置が必要と考える。

代表的疾病・治療及び手術件数

（単位：件）

良性腫瘍（処置室手術含む）	3
悪性腫瘍（処置室手術含む）	0
手術件数	3
全身麻酔	0
局所麻酔	3
生検	15
炭酸ガスレーザー	0
抜爪	0
光線療法	210

５．教育活動

大阪大学医学部附属病院皮膚科主催で関連病院皮膚科合同の症例検討会を行った。また、２か月に１回の南大阪皮膚科症例検討会に参加し、難治症例の検討や最新の皮膚科学のレクチャーを受けた。さらに、毎月の複数病院参加による検討会（通称３病院症例検討会）にも参加した。地方会、総会も参加した。

リハビリテーション科の現況

１．スタッフ

医　　長　　三岡　智規（兼整形外科部長）
嘱託医師　　新子　祐介（平成 29. ３. 31 退職）
係長（理学療法士）　岩﨑　　悟
係長（理学療法士）以下理学療法士４名、作業療法士１名

２．診療内容

運動器リハビリテーションとして、整形外科手術後（骨折に対する観血的整復固定術、人工関節置換術、スポーツ関連手術、脊椎手術）のリハビリ、形成外科手術後（手指の切断、手指接合術）のリハビリ。脳血管リハビリテーションとして、脳神経外科手術後、脳梗塞のリハビリ。廃用症候群リハビリテーションとして、癌、心疾患、外科手術後などで長期臥床となった患者や日常生活が困難となった患者のリハビリを行っている。

３．診療体制

診察医が４月から杉田医師から新子医師に変更となった。例年通り、毎週水曜日の午前がリハビリ診察日となっている。各科医師より依頼を受け、新子医師がリハビリ必要と判断した患者を対象にリハビリを行っている。整形外科手術後や脳外科手術後、脳梗塞などリハビリに急を要する場合は、各科医師より新子医師に直接連絡をしてもらい対応するようにしている。

４月より平成 26 年度に退職した人員の補充ができ、その人材が他院でかなりのキャリアを積んだ逸材なのですごく頼りとなっている。既存の療法士も良い刺激を受けている。

９月より週２回（火曜日、金曜日の８時 45 分～15 時）の作業療法が、週３回（火曜日、木曜日、金曜日の８時 45 分～17 時 15 分）となった。

４．診療実績

平成 28 年度リハビリテーション総単位数は 17,615 単位で平成 27 年度の 15,151 単位を上回ることになった。この要因は、理学療法士が１名増えたことと、作業療法士の勤務時間が増えたことにある。内訳は運動器リハビリテーションが約 80%、脳血管リハビリテーションが約９％、廃用症候群リハビリテーションが約 10%であった。

５．教育活動

平成 28 年度も畿央大学４回生の８週間実習を１名、大阪電気通信大学４回生の 10 週間実習を１名受け入れた。

麻酔科の現況

１．スタッフ

部　　長　　小多田　英貴
医　　長　　蔵　　昌宏（兼緩和ケアセンター部長）
　　土屋　典生、東　　浩司、谷本　　敬、橋村　俊哉、
　　薮田　浩一（兼集中治療部医長）、山本　奈穂
副 医 長　　義間　友佳子

２．診療内容

当科では、午前８時30分からは集中治療室患者のカンファレンスを主治医とともに行っている。産科の緊急症例についても対応しており、地域の周産期医療の一端を担っている。集中治療分野においては、24時間麻酔科医が常駐し、重症患者に対して主治医とともに集中管理を行っている。ペインクリニックにおいては、外来診療（月曜日・水曜日・木曜日）を行っている。また、感染対策チーム（ＩＣＴ）、呼吸器ラウンドチーム（ＲＳＴ）、緩和ケアチームなど、院内のチーム医療にも積極的に参加している。臨床研修医に対しては初期研修で習得すべき基本的手技・知識を始め、救急診療で必要な技能の取得を目標に教育している。

３．診療体制

１）麻 酔 管 理　　：手術の麻酔を毎日５列管理している。
２）集 中 治 療　　：ＩＣＵ５床の管理を担当医主治医制で行っている。
　　24時間、集中治療医として麻酔科スタッフが常駐している。
３）ペインクリニック外来　　：月曜日、水曜日、木曜日に行っている。
４）緩 和 ケ ア　　：病棟ラウンド業務を週２回（水曜日・金曜日）、カンファレンスを週１回（水曜日）担当している。
５）感染対策チーム（ＩＣＴ）：ラウンドを週１回担当している。
６）人工呼吸サポートチーム（ＲＳＴ）：ラウンドを週１回、カンファレンスを週１回担当している。
７）術 前 診 察　　：月曜日から金曜日の午前中に行っている。

４．診療実績

全身麻酔件数	2,812件
脊椎麻酔件数	554件
ペインクリニック外来延患者数	3,060人（初診 40人）
ＩＣＵ延患者数	1,587人（実数610人）

５．教育活動

手術室勉強会を５回開催した。八尾市消防署の救急救命士３名に対して気管挿管実習を、10名に対して特殊気管挿管具（Airway scope®）使用での気管挿管実習を行った。

放射線科の現況（放射線科・放射線診断科）

１．スタッフ

部　　長　　荒木　　裕、吉田　重幸
医　　長　　金澤　　達
非常勤医師　　６名（ＣＴ、ＭＲＩ読影）すべて放射線診断専門医
技 師 長　　平井　良介
技師長以下技師 17 名、看護師５名

２．診療内容

一般撮影検査、Ｘ線ＣＴ検査、磁気共鳴断層（ＭＲＩ）検査、消化管造影検査、血管造影検査、核医学（ＲＩ）検査など、画像検査全般およびその診断を行っている。

また、画像を治療に応用する以下のような手技（ＩＶＲ；interventional radiology）を行っている。

・肝腫瘍に対する抗癌剤動注・塞栓術
・動脈性出血に対する緊急塞栓術
・バルン閉塞下逆行性胃静脈瘤塞栓術（Ｂ－ＲＴＯ）
・画像（超音波、Ｘ線透視、ＣＴ）ガイド下のドレナージ・生検など

他院からの依頼については原則的にＣＤ－Ｒへの出力を行い、依頼元の医療機関に読影所見とともに提供している。

また、他院から当院に紹介された症例の検査画像について、フィルム、デジタル・データともに当科の画像データ・サーバーに取り込みを行っている（画像ファイリング）。

３．診療体制

１）現在稼働中の検査機器

一般撮影装置	３台	
乳房撮影装置（トモシンセシス撮影可能）	１台	
Ｘ線テレビ装置	２台	（１台は内視鏡検査室に設置）
多列（80 列）　Ｘ線ＣＴ撮影装置	１台	
ＭＲＩ検査装置（1.5Ｔ）	２台	
血管撮影装置（cone-beam ＣＴ撮影可能）	２台	
核医学検査装置（ＳＰＥＣＴ）	１台	

２）一般撮影、乳房撮影、ＣＴ検査、ＭＲＩ検査、ＲＩ検査は毎日（月曜日から金曜日の午前・午後）に施行している。
いずれの検査についても地域医療連絡室経由での近隣の医療機関からの依頼に対応している。
一般撮影、乳房撮影は随時、その他の画像検査は原則予約制で行っているが、いずれの検査についても緊急の依頼には通常の診療時間内外を問わず随時対応している。

また、ＣＴ検査は地域医療連絡室経由での近隣の医療機関からの依頼を中心に、土曜日午後にも検査を行っている。

３）乳がん検診（土曜日）のマンモグラフィ撮影も行っている。

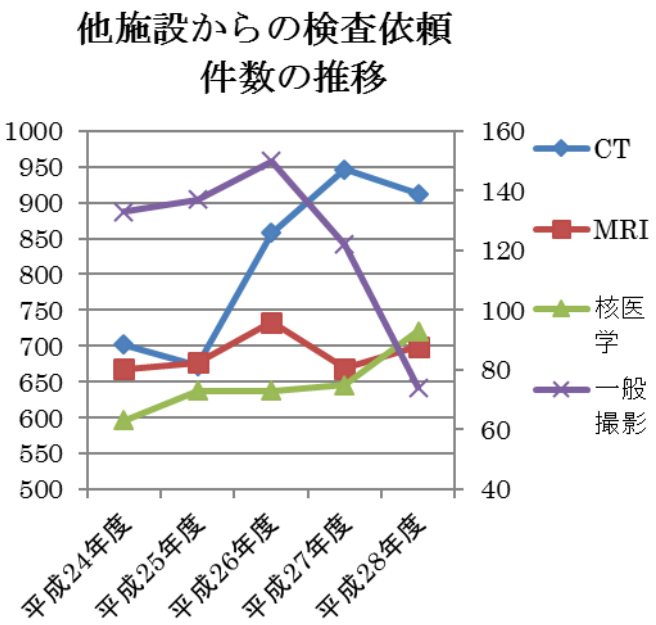
４）診療放射線技師は２交代制、24 時間体制で診療に当っている。

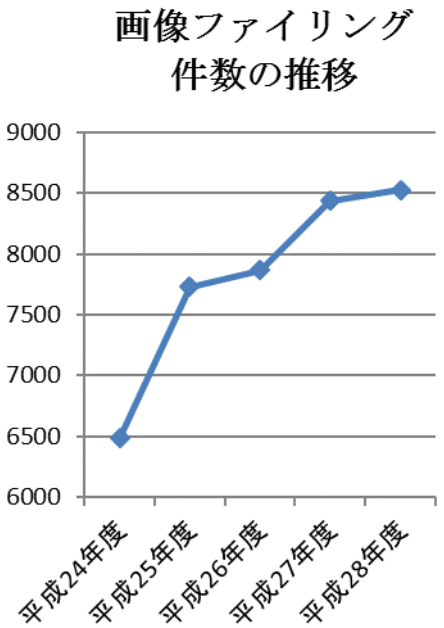
５）ＣＴ、ＭＲＩ、核医学検査については、常勤医師を中心に、非常勤医師、他科医師の支援のもと、全例について読影・診断を行っており、「画像管理加算－Ｉ」を算定している。
一般撮影については、読影依頼のあるものについて診断を行っている。

６）人間ドックについても、胸部Ｘ線撮影、消化管造影を当科にて施行し、読影を行っている。

４．診療実績

代表的な検査についての最近５年間の件数の推移を示す。いずれについても継続的に増加傾向である。





Ｘ線ＣＴ検査は、今後さらに検査依頼件数の増加が見込まれるが、１台の稼働で対応できる限界の件数に達しつつあり、検査の予約待ちが２－３週間となっている。既存の他の機器（64 列）の利用、あるいは機器の新規増設など、早急な対応が望まれる。

５．教育活動

日本医学放射線学会から「放射線学会専門医総合修練機関」に認定されている。

八尾地区の近隣病院と連携して「八尾画像懇話会」を年１回開催している。

スタッフは研究会、講演会、学会に積極的に参加し、研鑽に励んでいる。

診療放射線技師専門学校の学生を、実習生として 年間 数人受け入れている。

平成 28 年度　診療科別検査件数

（単位：件）

検査種類	一般撮影検査			透視造影検査			血管造影検査			核医学検査		
件数／診療科	全件数	内、入院件数	日平均	全件数	内、入院件数	日平均	全件数	内、入院件数	日平均	全件数	内、入院件数	日平均
内科	3,510	538	14.4	15	9	0.1	364	357	1.5	407	143	1.7
血液内科	491	274	2.0	2	2	0.0	0	0	0.0	4	2	0.0
消化器内科	1,476	768	6.1	259	256	1.1	61	61	0.2	8	3	0.0
循環器内科	2,366	1,623	9.7	1	1	0.0	979	951	4.0	292	74	1.2
腫瘍内科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
外科	7,377	4,392	30.4	252	236	1.0	55	55	0.2	3	0	0.0
乳腺外科	3,769	54	15.5	1	1	0.0	0	0	0.0	259	138	1.1
脳神経外科	388	208	1.6	0	0	0.0	15	15	0.1	42	17	0.2
整形外科	8,233	1,558	33.9	101	23	0.4	4	4	0.0	0	0	0.0
形成外科	1,041	59	4.3	0	0	0.0	4	4	0.0	0	0	0.0
産婦人科	547	133	2.3	18	3	0.1	3	3	0.0	1	0	0.0
小児科	3,305	830	13.6	24	23	0.1	0	0	0.0	3	0	0.0
眼科	1	1	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
耳鼻咽喉科	838	36	3.4	1	1	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
泌尿器科	2,419	459	10.0	185	96	0.8	2	2	0.0	134	3	0.6
皮膚科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	26	6	0.1	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
麻酔科	11	6	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
放射線科	192	29	0.8	2	0	0.0	0	0	0.0	129	32	0.5
歯科口腔外科	1,137	105	4.7	3	3	0.0	0	0	0.0	1	1	0.0
病理診断科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
救急診療科	3,499	92	14.4	5	2	0.0	59	46	0.2	1	1	0.0
健診センター	3,248	0	13.4	250	250	1.0	0	0	0.0	0	0	0.0
合計	43,874	11,171	180.6	1,119	906	4.6	1,546	1,498	6.4	1,284	414	5.3

検査種類	Ｘ線ＣＴ検査			ＭＲＩ検査			骨密度			画像ファイリング			
件数／診療科	全件数	内、入院件数	日平均	全件数	内、入院件数	日平均	全件数	内、入院件数	日平均	取込み	ﾌﾟﾘﾝﾄ	合計	日平均
内科	1,284	144	5.3	331	48	1.3	18	3	0.1	297	489	786	3.2
血液内科	373	122	1.5	70	35	0.3	0	0	0.0	28	28	56	0.2
消化器内科	1,358	357	5.6	609	72	2.5	22	8	0.1	209	234	443	1.8
循環器内科	352	154	1.4	92	22	0.4	0	0	0.0	49	272	321	1.3
腫瘍内科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
外科	3,327	407	13.7	503	69	2.0	0	0	0.0	545	371	916	3.8
乳腺外科	778	17	3.2	125	0	0.5	394	0	1.6	333	90	423	1.8
脳神経外科	711	220	2.9	1,275	101	5.2	0	0	0.0	102	292	394	1.6
整形外科	573	208	2.3	602	58	2.5	25	2	0.1	632	973	1,605	6.6
形成外科	89	11	0.4	112	1	0.5	0	0	0.0	57	95	152	0.6
産婦人科	298	40	1.2	306	17	1.3	4	0	0.0	99	66	165	0.7
小児科	57	20	0.2	255	61	1.0	7	3	0.0	189	125	314	1.3
眼科	3	0	0.0	7	0	0.0	0	0	0.0	2	5	7	0.0
耳鼻咽喉科	732	23	3.0	337	12	1.4	0	0	0.0	193	110	303	1.3
泌尿器科	1,391	89	5.7	478	23	2.0	0	0	0.0	204	87	291	1.2
皮膚科	0	0	0.0	4	0	0.0	0	0	0.0	1	0	1	0.0
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	4	4	0.0
麻酔科	9	1	0.0	64	2	0.3	0	0	0.0	16	9	25	0.1
放射線科	974	7	4.0	775	5	3.2	34	0	0.1	84	1,581	1,665	6.9
歯科口腔外科	583	22	2.4	31	2	0.1	0	0	0.0	245	188	433	1.8
病理診断科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急診療科	1,991	26	8.2	142	3	0.6	0	0	0.0	55	147	202	0.8
健診センター	1	0	0.0	185	0	0.8	49	0	0.2	0	18	18	0.1
合計	14,884	1,868	61.2	6,303	531	25.9	553	16	2.2	3,340	5,184	8,524	35.1

放射線科の現況（放射線治療科）

１．スタッフ

部　　長　　西山　謹司（兼副院長・がん相談支援センター長）
副 医 長　　豊福　隆将

２．診療内容

当科ではがんの放射線治療を担当している。治療対象は脳腫瘍、頭頸部がん、肺がん、乳がん、食道がん、直腸がんなどの消化管がん、肝がん、膵臓がんなどの消化器がん、前立腺がん、膀胱がんなどの泌尿器がん、子宮頸がんなどの婦人科がんなどほとんどすべてのがんにわたっている。また、骨転移の疼痛緩和などの緩和照射、良性疾患であるケロイドの発生予防の照射も行っている。

平成 28 年３月からは照射装置（リニアック）が更新され、強度変調放射線治療（ＩＭＲＴ：対象疾患は前立腺がん、頭頸部がん、肺がん、脳腫瘍など）、体幹部定位照射（ＳＢＲＴ：対象疾患は早期肺がん、転移性肺がん、肝がん、転移性肝がんなど）なども可能となっている。

３．診療体制

１）初診外来：月曜日の午前・午後（西山）
　　木曜日の午前・午後（豊福）
　　院内だけではなく、院外の初診患者も当科で直接受け付けている。
２）放射線治療中、治療後の患者の診察：放射線治療後の患者
　　火曜日の午前・午後（西山）
　　水曜日の午前・午後（豊福）
３）院外からの放射線治療についての電話の問合せにも応じている。

４．診療実績

代表的な新患症例

（単位：例）

乳癌	108	肝・胆・膵癌	23
前立腺癌	80	消化管癌（食道癌・直腸癌など）	22
肺癌	67		

平成 28 年度の新患者数は 349 例であり、主な疾患は上記のとおりである。この中で近隣の主要病院から放射線治療科に直接紹介された患者は 53 例（15.2%）あった。

照射件数は 8,098 件であり、その中で強度変調放射線治療（ＩＭＲＴ）は 174 例に対して 4,245 件（52.4%）を占める。ＩＭＲＴの主な対象疾患は前立腺癌 68 例、肺癌 48 例などであった。体幹部定位照射（ＳＢＲＴ）は肺癌 16 例、肝癌５例の合計 21 例に行った。

歯科口腔外科の現況

１．スタッフ

部　　長　　濵口　裕弘
副 医 長　　山本　奈穂
歯科衛生士　　永岡　照美、山本　かおり

２．診療内容

歯科口腔外科では外来ならびに入院診療を行っている。診療は、歯肉の切開や骨の削除を必要とする埋伏歯の抜歯はもとより腫瘍や嚢胞・外傷・感染症をはじめとする顎口腔疾患の治療を行っている。また、心臓疾患などの基礎疾患を有する患者の抜歯や歯科処置は院内各科との連携をとりながら行い、病院歯科として地域医療に貢献できるよう取り組んでいる。なお、当科での診療は、基本的には一般のかかりつけ歯科医院からの紹介により口腔外科を主体とした臨床を行っており、う蝕や歯周病･歯牙欠損による補綴などの一般歯科治療は入院患者のみを対象としている。平成 25 年度から外科系の手術前後の口腔ケア（周術期口腔ケア）を行っている

３．診療体制

１）外来診療：午前は初診、再診患者の診察を行い、午後は外来手術を行っている。
外来手術は埋伏歯抜歯術が半数以上を占めている。その他、のう胞摘出術、腫瘍摘出術、インプラント植立術なども行っている。
２）入院診療：ベッド数は５床であり、手術は毎週金曜日に行っている。

４．診療実績

外来初診患者数	2,603 人
新入院患者数	195 人
紹介率	51.1%
外来手術件数	1,191 件
入院手術件数	204 件
全身麻酔症例	88 件

前年度に比較して初診患者数は２年連続で 2,500 人を越え右肩上がりで増加した。入院手術件数は増加したものの外来手術件数は低下した。入院患者数は減ったが手術件数が増えたのは複数の手術を同時に行った結果である。全身麻酔手術件数も 80 件台までにとどまった。紹介率はほぼ 50%で、これは周術期口腔ケアの患者が増えた影響と考えられる。

入院ではベッド数は定床５に対して 3.7、平均在院日数約 5.9 日で稼動していた。入院手術は例年の如く抜歯術と顎骨のう胞摘出術が多数を占めていた。その他、顎骨骨折、悪性腫瘍手術を行った。悪性腫瘍手術では腫瘍の切除は 16 例とやや減少した。今年度は前腕皮弁による遊離皮弁再建を４例行った。

代表的な入院手術件数

（単位：件）

のう胞摘出術	71
消炎術（含：腐骨除去）	12
抜歯術	54
骨折手術	5
顎下腺摘出術（含む唾石）	0
顎変形症手術	1
歯肉癌手術	8
舌癌手術	7
その他の口腔癌手術	1
遊離皮弁再建	4
全頚部郭清術	4
気管切開術	4
インプラント植立術	1

代表的な外来手術件数

（単位：件）

歯根のう胞摘出術・歯根端切除術	28
口腔内消炎手術	18
口唇粘液のう胞摘出術	16
創傷処理口腔内外縫合術	17
埋伏歯抜歯術	614
難抜歯術	111

外来では埋伏歯抜歯が手術件数の半数以上を占め、ついで難抜歯術・のう胞摘出術・歯根端切除術など歯牙関連疾患の手術がほとんどで、これは例年の傾向と同様であった。

５．教育活動

平成 28 年度も引き続き大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修プログラムＡ（複合型）に参加し歯科研修医を受け入れている。今年度は当科で１人研修を受けた。

行岡学園、大阪歯科学院専門学校の歯科衛生士の実習を受け入れており、今年度も実習を受けた。

病理診断科の現況

１．スタッフ

部　　長　　竹田　雅司
嘱託医師　　西岡　陽介
応援医師　　眞能　正幸、笹平　智則、田原　紳一郎
係　　長　　政岡　佳久（臨床検査技師）
係長以下臨床検査技師５名

２．診療内容

病理診断科では、病理専門医１名と病理専修医１名、技師５名が緊密な協力体制をとって手術・生検標本の病理組織診断と細胞診、病理解剖を行っている。さらに、国立病院機構大阪医療センター、大阪大学、奈良医科大学より病理専門医の応援を得て、迅速･正確な病理診断・細胞診断ができるような体制を構築している。当院は地域がん診療連携拠点病院でもあり、腫瘍の診断・治療が診療の大きな柱となっており、悪性腫瘍か良性病変かの病理診断が非常に大きなウエイトを占めている。有効ながん治療を行うために、良悪の判定のみならず、悪性度判断や治療に対する反応性予測の参考となるよう、必要に応じて院内での免疫組織化学染色や外注検査による遺伝子学的検索も行い、最終診断とともに臨床に対して付加的な情報提供を行っている。がん手術の現場においては、術中迅速組織診をおこない、およそ 20 分で術中病理検索が可能な体制をとっている。平成 28 年度は組織診件数・細胞診件数など、病理検査数が横ばいからやや増加傾向にあり、少ない病理医での対応は厳しいものがあるが、全員の協力、臨床各科の協力により対応している。日常業務とともに病理専修医の教育も必要であるが、専修医の能力が上がるにつれ業務の効率は徐々に良くなってきている。技師とともに診断の質を保ち、がん治療に有益な病理診断報告を常に心がけ業務にあたっている。平成 23 年初めより開始した乳癌・胃癌のＨＥＲ２遺伝子増幅検査は順調に件数を増やしている。

診断困難症例については他院病理医へのコンサルテーションや病理学会コンサルテーションシステムも活用している。細胞診についても、液状細胞診を導入し細胞検査士と細胞診専門医の両者の協力、および随時臨床医との検討も行い、できるだけ正確な情報を臨床に与えることができるように心がけている。

通常の診療に加え、乳腺外科医、放射線診断医、放射線治療医、細胞検査士、超音波検査士、乳癌専門看護師と共に乳腺カンファレンスを週１回、婦人科医、放射線診断医、細胞検査士と共に婦人科臨床・病理についてのカンファレンスを月１回行っている。さらに、病理専修医が婦人科術前カンファレンス、消化器内視鏡カンファレンスに参加するようになり、臨床科との連携も強化された。剖検例については全例に対し臨床病理検討会（ＣＰＣ）を施行、多数の職員の参加を得て今年度は５回行った。

３．診療体制

病理組織診・術中迅速組織診・細胞診・病理解剖のいずれも月曜日から金曜日の毎日、受付を行い、対応している。生検組織診については、おおむね２～３日、手術標本については約４週間以内に最終診断ができるような体制をとっている。細胞診に関しては、およそ１週間で結果報告をしている。

４．診療実績

	件数(件)	標本枚数(枚)
病理組織診	6,159	27,712
術中迅速組織診(内数)	390	1,030
免疫組織染色	936	—
細胞診	6,620	10,038
病理解剖	6	—

病理診断件数は、組織診件数は 30 件程度減少したが標本枚数は 1,000 枚程度増加、術中迅速組織診、免疫組織化学染色件数は 70 件程度の増加となった。細胞診件数は約 200 件の増加となった。病理解剖は６件で、ＣＰＣは５回行うことができた。病院規模に比べ病理検査件数は多く、病院の活発な診療実績を反映している。

５．教育活動

竹田雅司部長は、大阪市立大学医学部の非常勤講師として、医学部の３回生に乳がんの病理についての講義を年１回行っている。

集中治療部の現況

１．スタッフ

部　　長　池田　嘉一
医　　長　薮田　浩一（兼麻酔科医長）

２．診療内容

当院ＩＣＵは外科系患者、循環器をはじめとした内科患者、救急患者、小児患者の重症例の受け入れを行っているGeneral ＩＣＵの特徴がある。

【主要疾患】

胸部外科術後患者、腹部外科術後患者、脳神経外科術後患者、重篤な合併症を有する外科系術後患者の集中治療を行っている。また敗血症患者、心筋梗塞患者、心不全、重症肺炎などの内科系疾患の集中治療、小児重症患者にも対応している。

【主要検査】

血液ガス分析、電解質乳酸分析、循環動態モニター、各種エコー（経食道エコーはなし）、ＨＤ（ＣＨＤＦはレンタル）

３．診療体制

麻酔科医師９名が交代制で365日24時間常駐し、臨床工学士１名が対応できる体制をとっている。

主治医、麻酔科医師、各チーム医療スタッフと看護師19名（救急看護認定看護師１名、呼吸ケア認定看護師５名、透析技術認定士３名）が、迅速に連携して、常に最善の集中治療とケアを遂行できるようにしている。

ベッドは６床で運営しており、毎朝８時30分から集中治療室患者のカンファレンスを主治医とともに行っている。

４．診療実績

平成28年度ＩＣＵ延患者数は1,587人であった。７日以内の入床が90%以上、８-14日の入床は16人、14日超入床患者は18人であった。人工呼吸施行患者は108人、血液浄化（ＨＤ、ＣＨＤＦ、ＰＥ）施行患者は21人であった。

救急診療科の現況

１．スタッフ

部　　長　　福島　幸男
看護係長　　中尾　由美子
看護係長以下看護師３名

２．診療体制および業務内容

通常日勤時間帯は内科系、外科系のレジデント、および、福島/前期研修医が分担して救急診療を行っている。専門性を要する場合は各科オンコール当番医に依頼する。日勤時間帯はほぼ全科の受け入れも可となっている。また、当院への転院搬送患者の初療、入院手続きなどもその時の救急担当医が行うほか、当院からの搬出患者の移送業務も救急外来が担当している。

休日および時間外２名の当番医が交代で業務を担当する。救急標榜は内科、外科が主であるが、当院かかりつけ患者は、原則として、全科の受け入れを義務としている。
整形外科、形成外科、脳外科などは専門医の協力下に、積極的に救急搬送依頼を受け入れている。

さらに、救急外来は、診療業務以外に、時間外の外部に開かれた当院の唯一の公的な窓口としての役割も大きく、患者からの受診相談だけでなく、警察、他院からの問い合わせなどもすべて取り扱っている。

３．診療実績

平成 28 年度の救急取扱延患者数は 21,002 人（入院 2,518 人）、うち搬送患者は 4,064 人（入院 1,025 人）である。なお、ＣＰＡ患者数は 44 人、うち蘇生入院数は５人である。

４．教育活動

救急外来は研修医の on job training の場としての役割も大きい。救急業務開始に先立ち、年度初めには２ヶ月間、週１回早朝カンファレンスを行い基本的な指導を行っている。当院では前期研修医は主として、救急外来で初診患者の診察、検査、投薬などの修練を積むことになる。上級医の指導下に週１回程度の、日勤、当直業務を行い、２年間でほぼ所定の目標レベルに達しているものと考えている。
その他、ＢＬＳ、ＡＣＬＳの院内講習も救急診療科看護師が主として担当している。

中央手術部の現況

１．スタッフ

部　　長　　上水流　雅人（兼泌尿器科医長）
看護師長　　神田　ゆか
看護師長以下看護師 25 名

２．活動状況

平成 28 年度は常勤眼科医不在となり眼科手術が実施されず､総手術件数は 4,076 件と減少した。しかし平成 27 年度の眼科を除いた手術件数は 3,930 件であり眼科以外の手術件数としては増加している。全麻患者に対する術前後の病棟訪問も従来通り継続しており、術中のみならず、周術期の身体的および精神的ケアに寄与している。手術部看護師はこれまで同様、患者・部位・術式を術前に担当医および麻酔科医と厳重に確認し、ミス予防を図っている。手術看護認定看護師の認定資格を取得した看護師もおり、技術の向上に努めている。

以上、患者が安心して快適に手術治療を受けられるようにスタッフ一同努力している。

３．診療実績

手術件数の推移

（単位：件）

平成 26 年度	4,428
平成 27 年度	4,497
平成 28 年度	4,076

手術件数及び麻酔項目

（単位：件）

手術件数	4,076
全身麻酔	2,812
脊椎麻酔	554

通院治療センターの現況

１．スタッフ

部　　長　　井出　義人（兼消化器外科医長）
看護係長　　柚木原　和子
看護係長ほか看護師５名

２．診療内容

近年、がん治療の中で抗がん剤を使った化学療法の果たす役割が大きくなっている。また、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬といった新薬も次々に開発され、多くの患者の福音となっている。通院治療センターではこのような治療が外来で安全に行われ、患者のＱＯＬが保たれるような治療環境を提供するよう心掛けている。現在、化学療法前ルート確保を通院治療センター看護師（ＩＶナース）が行っており、穿刺が難しい患者などにも適切に対応している。また、平成 27 年６月８日より４階へ移転、９床から 16 床へ増床となり、より快適な治療環境を提供できるようになった。

３．診療実績

平成 28 年度の化学療法総数は 4,624 件と過去最高となった。化学療法前オリエンテーションを通院治療センターでは積極的に行っているが、平成 28 年度は新規患者の 96.2%に対し施行でき、施行率は年々上昇している。今後、全ての患者に提供できるよう、化学療法担当医師への協力をお願いしている。

４．教育活動

化学療法に対する知識の共有・啓蒙活動として、院内セミナーを定期的に実施している。平成 28 年度は５月 20 日、６月 10 日に抗がん剤曝露対策勉強会をハンズオンセミナーの形で開催し、多くの院内スタッフに参加いただいた。また、10 月３日に『当院のがん薬物療法におけるアピアランスケア支援への取り組み』との題で通院治療センター看護師　島田敏江を講師として、講演会を開催、大変な好評を得た。今後もできる限り多くの講演会を開催したいと考えている。

◆診療科別　外来化学療法・ホルモン療法延べ人数

（単位：人）

	28年									29年			年度計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
外科	51	52	65	52	49	47	46	55	44	76	59	65	661
消化器外科（大腸）	80	76	89	66	94	80	77	79	84	77	79	77	958
呼吸器外科	18	19	21	15	11	18	15	20	19	25	23	29	233
乳腺外科	112	120	147	121	148	130	124	113	122	126	127	119	1,509
消化器内科	8	8	17	11	14	11	11	8	7	11	9	25	140
血液内科	29	11	16	14	22	15	29	38	36	35	27	46	318
泌尿器科	37	34	44	35	38	36	38	33	35	32	26	31	419
産婦人科	34	30	31	32	35	29	26	25	19	18	20	25	324
口腔外科	8	5	4	4	6	8	4	2	4	4	6	7	62
化学療法計	377	355	434	350	417	374	370	373	370	404	376	424	4,624
乳腺外科	23	22	23	14	23	19	15	12	12	14	20	26	223
泌尿器科	105	128	100	108	103	88	105	99	88	108	95	95	1,222
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホルモン療法計	128	150	123	122	126	107	120	111	100	122	115	121	1,445
総数	505	505	557	472	543	481	490	484	470	526	491	545	6,069

内視鏡センターの現況

１．スタッフ

ｾﾝﾀｰ長　　上田　高志（兼消化器内科医長・内科医長）
応援医師　　中瀬　栄之、長井　健悟
看護係長　　蛭田　澄枝
看護係長ほか看護師４名

２．診療内容

１）上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、小腸ダブルバルーン内視鏡検査
　　⇒うちＮＢＩ拡大内視鏡検査、経鼻内視鏡検査（上部消化管）も適宜施行。
２）内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ＥＲＣＰ）、超音波内視鏡検査（ＥＵＳ・ＩＤＵＳ）
３）粘膜下腫瘍、膵腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診検査（ＥＵＳ－ＦＮＡ）
４）吐血時などの緊急内視鏡検査、引き続き行う内視鏡的止血術
　　⇒hot biopsy や薬物注入による止血、アルゴンレーザーによる止血（ＡＰＣ）
５）早期胃がん、大腸腫瘍などに対する、内視鏡的粘膜下層剥離術（ＥＳＤ）
６）胃、大腸腫瘍に対する、内視鏡的粘膜切除術（ＥＭＲ）、ポリープ切除術（polypectomy）
７）静脈瘤に対する、内視鏡的静脈瘤結紮術（ＥＶＬ）、内視鏡的硬化療法（ＥＩＳ）
８）総胆管結石に対する、内視鏡的乳頭切開術（ＥＳＴ）、内視鏡的乳頭拡張術（ＥＰＢＤ）
９）胆、膵など悪性腫瘍による閉塞性黄疸に対する、内視鏡的胆道ドレナージ（ＥＢＤ）
10）誤嚥、胃内圧改善のための、胃瘻造設術（ＰＥＧ）
11）異物誤飲に対する、内視鏡的異物除去術
12）経鼻内視鏡を使用したイレウス管挿入
13）消化管悪性狭窄（食道、胃、十二指腸、大腸）に対する、内視鏡的消化管ステント留置術
14）食道アカラシアや術後狭窄に対する、内視鏡的消化管拡張術
15）気管支鏡検査
など主に内視鏡を使用し行う検査、治療全般。
また他に以下のような超音波を使用した処置も行っている。
・ＰＴＣＤ（経皮的胆道ドレナージ）
・ＰＴＡＤ（経皮的肝膿瘍ドレナージ）
・肝嚢胞穿刺

３．診療体制

月曜日から金曜日の午前を主に検査、午後より治療がメインの処置を行っている。また夜間緊急内視鏡検査も適宜行っている。

４．診療実績

検 査 件 数

（単位：件）

上部消化管内視鏡	3,318
下部消化管内視鏡	2,112
超音波内視鏡	70
気管支鏡検査	43
ＥＳＤ	100
ＥＲＣＰ、ＥＳＴ、ＥＰＢＤ	163
ＥＩＳ、ＥＶＬ	28
ＰＥＧ	10

５．教育活動

臨床研修医向けの勉強会を行った。上部・下部内視鏡トレーニングモデルを用いている。

糖尿病センターの現況

１．スタッフ

センター長　　木戸　里佳（兼内科医長）
医　　長　　辻　　真由美（兼内科医長）
副 医 長　　小川　義高（兼内科副医長）
嘱託医師　　吉田　朋世（兼内科医師）
応援医師　　正田　英雄

２．診療内容

１階の糖尿病センターで、糖尿病専門外来を行っている。糖尿病専門医の他に、糖尿病センター専属の看護師、管理栄養士、医師事務作業補助者がスタッフとして常駐し、多職種から成る『糖尿病チーム』を構成して、糖尿病診療を行っている。平成 27 年９月からは、限定的ではあるがチームに臨床心理士も加わり、より多面的に糖尿病患者の指導を行うべく工夫を重ねている。また早期腎症以上の腎臓合併症を有する患者を対象に、透析予防を目的として、毎回受診時に、看護師による問診･療養指導、管理栄養士による個別の食事指導を行っている (糖尿病透析予防指導)。透析予防指導対象外の患者についても、必要に応じて、療養指導、栄養指導、薬剤指導など個別の指導を随時行っている。腎臓内科医をはじめとする他科への紹介も積極的に行い、集学的治療を目指している。患者毎に胸部Ｘ線、心電図をはじめ、心臓・腹部・頸動脈の超音波検査などを定期予定検査として実施し、糖尿病患者に多くみられる大血管障害（動脈硬化）や悪性疾患の早期診断・治療にも取り組んでいる。合併症の進行した患者の足切断につながる足壊疽などの予防を目的に、看護師による足および神経障害のチェックを含めたフットケアも定期的に実施している。下肢血流評価も実施し、必要に応じて循環器内科医および形成外科医と積極的な連携を図っている。

平成 25 年度から１型糖尿病あるいは妊婦をおもな対象とするインスリンポンプの導入を開始し、持続血糖モニター（ＣＧＭ）も導入した。機器も年々進化しており、現在は個人用のＣＧＭと連動する新たなインスリンポンプ（ＳＡＰ）が主流となっている。さらに、新しいタイプの血糖測定器（ＦＧＭ）（注；29 年３月時点では保険未収載）や同タイプのＣＧＭ機器を、今後導入の予定である。新しい機器も含めて、対象となる患者には積極的に導入を勧め、チームでの管理・指導を継続して行っている。またインスリンポンプ導入症例を主な対象者として、カーボカウント法の指導も行っている。このようにより専門的診療が可能になっており、他のメディカルスタッフとともによりよい糖尿病診療、とくにチーム医療の実践に取り組んでいる。糖尿病治療においては自己管理が非常に重要であり、とくに糖尿病教育に重点を置き、教育入院も積極的に行っている。

地域連携および地域の糖尿病診療のレベル向上を目的に、他の医療機関で糖尿病診療に携わる医療スタッフとの勉強会を定期的に開催するなど、地域医療への貢献にも、糖尿病チームとして積極的に取り組んでいる。

３．診療体制

外来診療：月曜日から金曜日の毎日、予約制の専門外来を行っている。初診外来は、月曜日、水曜日、金曜日の午前に予約制で診療している。平成 27 年１月から地域の医療機関より新規に患者をご紹介頂く際に使用できる新たな連絡票の運用を開始し、ご要望に対してより適切な対応を行うことで、さらなる地域連携の活性化を目指している。療養指導、フットケア、個別食事指導、服薬指導は、必要に応じて随時行っている。

４．診療実績

外来延患者数は 4,679 人であり、そのうち糖尿病透析予防指導管理料を算定した延患者は 1,236 人、糖尿病合併症管理料を算定した延患者は 241 人、在宅療養指導料を算定した延患者は 252 人、在宅自己注射導入期加算を算定した延患者は 365 人であった。糖尿病教育入院患者数は 202 人であった。８月を除く毎月第３木曜日（13 時～）に、医師・薬剤師・管理栄養士など糖尿病チームスタッフによる糖尿病教室を開催しており、当院糖尿病患者会（いちょう会）会員をはじめ多くの一般市民に参加頂いている。延参加者数は 305 人、月平均 25.4 人であった。

５．教育活動

臨床研修医４名に対して、入院患者を中心にした診療の研修を行った。また大阪大学医学部の学生２名（５回生）の臨床実習を受け入れ、５日間実施した。

健診センターの現況

１．スタッフ

特任部長　　山本　俊明
看 護 師　　１名

２．診療内容

健診の主な業務として、
１）特定健診、大腸がん検診、乳がん検診
２）企業健診、就職・受験時健診、海外渡航時などの健診
３）公害検診、被爆者検診
４）人間ドック、脳ドック
５）予防接種（インフルエンザなど）を行っている。
人間ドックの受診希望者数はほぼ一定している。全受診者数ほぼ前年と変わりない。
乳がん検診は増加し、脳ドックは、減少傾向である。

３．診療体制

月曜日から金曜日の午前中に特定健診・一般健診、午後に予約検診・予防接種を行っている。
半日人間ドックを週２回（月曜日・水曜日）、脳ドックを月２回（火曜日）行っている。

４．診療実績

（単位：件）

	28 年									29 年			年度計
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	
特定健診	5	95	80	56	62	52	97	47	49	47	101	166	857
一般健診	39	53	40	35	24	37	47	29	35	36	35	54	464
人間ドック	45	40	51	39	55	41	67	61	53	42	47	49	590
脳ドック	0	0	0	3	2	1	1	0	2	0	2	4	15
脳MRＩ／MRＡ	10	8	20	11	16	12	20	14	13	10	11	12	157
乳がん検診	107	113	109	161	151	156	203	156	124	120	108	151	1,659
子宮がん検診	66	45	71	59	54	49	59	58	34	18	26	51	590
公害検診	60	50	44	38	36	21	37	30	30	27	27	33	433
大腸がん検診	3	14	21	13	8	10	19	11	9	6	17	24	155
企業健診	4	2	0	9	5	0	0	7	17	5	33	7	89
被爆者検診	0	57	0	0	0	0	64	0	26	32	0	0	179
職員健診	13	3	24	5	15	3	0	3	1	2	5	4	78
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	51	750	236	4	0	0	1,041
肺炎球菌ワクチン	0	15	16	6	2	9	19	20	11	7	3	16	124
Ｂ型肝炎ワクチン	0	0	1	36	37	0	0	0	0	34	1	0	109
計	352	495	477	471	467	391	684	1,186	640	390	416	571	6,540

中央検査部の現況

１．スタッフ

医　　長　　服部　英喜（兼血液内科部長）
技 師 長　　浅岡　伸光
技師長以下臨床検査技師 21 名（市職員 10 名、市嘱託職員３名、ＰＦＩ協力企業職員８名）

２．診療内容

◆検体検査

検体検査室では、生化学検査、血液・凝固学検査、一部の免疫学検査、尿一般検査、輸血検査の５分野について院内検査項目として 365 日 24 時間の緊急検査体制を実現し、常に迅速且つ正確な検査結果の報告を心掛けている。また、染色体検査や遺伝子検査などの高精度な特殊検査についても臨床医のニーズに合わせ、外注検査項目として幅広い検査分野の委託を可能にしている。

◆細菌検査

細菌検査室では、一般細菌の塗抹検査、培養・同定検査、薬剤感受性検査、抗酸菌の塗抹検査を実施している。また、検査業務に加え、院内感染情報を集計・解析し情報提供することで院内感染の防止に積極的に貢献している。

◆生理検査

生理検査室では、心電図検査、脳波検査、呼吸機能検査、血圧脈波検査、自律神経検査、超音波検査を行っている。心電図や呼吸機能検査などの予約のない検査では、待ち時間が長くならないよう、スタッフ間の連携を保ち効率よく検査が進むように努めている。

超音波検査では、約７名の技師（超音波検査士６名、血管診療技師４名）で検査を行っている。検査項目は心臓、血管（頚動脈、腎腹部血管、末梢動脈、末梢静脈、血管内皮機能）、腹部、甲状腺、乳腺、整形外科領域と多岐にわたる。基本予約制であるが、近年の緊急依頼の増加にも柔軟に対応している。また、病診連携では地域医療連携室を通した院外の超音波検査を随時受け入れている。

３．教育活動

細菌検査室では、臨床研修医オリエンテーションにてグラム染色手技の指導などを行い、リンクナースに対して細菌検査についての講義を行っている。

超音波検査室では、研修医に対する超音波検査の講義や技術指導を積極的に行い、中河内地区における勉強会も積極的に開催し、院外の医師や技師との交流を深めている。また、部内カンファレンスを定期的に開催し、検査の幅広い知識や技術向上に努めている。

◆検体検査

（単位：件）

	28年																		29年						年度計
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合計
血液ガス	92	140	97	167	133	175	97	177	133	177	57	118	138	147	111	151	95	168	98	189	51	124	108	184	3,127
尿検査	515	2,211	529	2,249	591	2,295	500	2,317	537	2,324	445	2,149	603	2,369	510	2,314	532	2,453	592	2,997	497	2,705	601	2,629	35,465
糞便等検査	22	130	16	146	22	156	12	115	20	117	8	105	15	138	15	137	8	138	7	102	7	126	17	136	1,715
血液学検査	2,285	4,638	2,363	4,792	2,430	5,002	2,356	5,027	2,612	5,011	2,199	4,912	2,497	5,110	2,348	4,794	2,386	4,755	2,419	4,941	2,298	4,743	2,600	5,416	87,934
凝固検査	424	936	465	1,012	498	1,032	450	993	559	1,017	389	1,048	512	987	484	998	420	974	500	1,000	390	997	490	1,077	17,652
生化学(Ⅰ)	2,397	4,656	2,410	4,872	2,573	5,088	2,426	5,109	2,705	5,087	2,263	4,992	2,548	5,205	2,436	4,913	2,451	4,783	2,502	4,992	2,348	4,815	2,672	5,453	89,696
生Ⅱ内分泌	202	666	187	659	234	725	206	674	214	679	144	663	201	713	203	677	207	622	227	660	189	693	241	859	10,745
生Ⅱ甲状腺	32	282	26	270	28	313	38	290	40	298	26	265	21	281	27	282	25	238	34	258	39	292	41	351	3,797
生Ⅱ腫瘍	97	1,502	128	1,460	137	1,501	99	1,471	98	1,432	113	1,582	125	1,568	134	1,547	105	1,482	131	1,574	121	1,510	127	1,631	19,675
免疫学検査	43	193	36	164	48	201	37	188	46	212	37	166	59	179	57	163	39	190	52	173	43	199	56	226	2,807
感染症検査	105	670	102	678	125	774	116	749	117	766	89	707	101	786	117	710	125	726	115	704	103	746	124	811	10,166
肝炎検査	94	792	116	780	128	889	92	857	93	819	92	824	94	856	111	856	95	839	97	823	93	871	107	906	11,324
自己抗体	44	194	33	185	42	222	32	221	38	226	31	182	47	200	35	208	25	177	37	173	33	184	42	245	2,856
アレルギー	13	96	8	67	10	66	5	61	8	75	2	52	11	89	12	56	7	65	7	50	6	92	7	96	961
微生物検査	37	137	40	140	32	149	33	148	43	161	32	154	45	171	49	166	35	137	48	163	37	137	45	149	2,288
病理検査	0	5	0	7	3	13	0	7	2	8	3	11	2	8	0	12	3	8	0	5	1	5	3	13	119
負荷検査	2	16	0	10	1	21	3	12	2	21	2	12	2	15	2	15	0	20	0	30	2	16	3	14	221
薬物検査	16	41	15	28	21	28	23	33	16	37	23	25	32	36	17	24	10	35	15	36	16	29	21	38	615
輸血検査	50	382	51	408	77	444	64	417	62	414	51	376	53	432	61	395	56	376	50	426	75	419	60	437	5,636
細胞機能	5	36	15	32	16	28	6	23	9	37	9	32	11	25	14	31	14	34	15	27	11	42	11	37	520
その他	30	253	30	275	45	323	39	275	28	247	19	311	40	297	32	320	32	353	23	342	16	313	34	353	4,030
総件数	6,506	17,967	3,667	18,401	7,194	19,445	6,634	19,164	7,382	19,165	6,034	18,686	7,157	19,612	6,775	18,769	6,670	18,573	6,969	19,665	6,376	19,058	7,410	21,061	311,349

◆細菌検査

（単位：件）

	28年																		29年						年度計
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合計
一般細菌塗抹	264	205	301	230	290	210	266	194	295	240	210	199	307	184	266	174	211	184	340	200	265	151	279	182	5,647
呼吸器系培養	157	34	157	42	162	45	161	33	171	41	131	33	144	33	133	27	132	30	171	38	135	32	158	46	2,246
消化器系培養	40	25	31	25	33	27	32	28	31	28	15	28	29	25	24	18	15	17	35	14	18	11	19	28	596
泌尿･生殖器系培養	25	120	46	105	40	144	21	120	38	134	29	127	42	99	33	108	31	119	34	104	32	115	21	118	1,805
血液･穿刺液系培養	109	65	128	84	122	72	96	62	128	91	91	74	126	79	132	85	91	65	157	77	141	44	134	54	2,307
その他の材料の培養	30	16	39	26	36	13	43	20	28	25	29	15	43	16	23	12	23	24	34	26	13	15	36	14	599
一般細菌嫌気培養	185	100	195	139	197	125	171	113	195	141	143	117	189	124	186	114	143	108	236	139	206	79	193	111	3,649
培養検査総件数	546	360	596	421	590	426	524	376	591	460	438	394	573	376	531	364	435	363	667	398	545	296	561	371	11,202
一般細菌感受性検査	357	210	385	232	378	214	349	196	387	225	292	206	383	192	342	178	288	189	430	204	340	160	365	191	6,723
感受性　1菌種	50	65	62	60	55	53	42	51	70	64	51	46	52	47	34	44	39	42	51	46	67	47	67	48	1,253
感受性　2菌種	18	8	18	8	14	10	15	10	21	15	9	13	14	10	15	3	13	7	17	12	15	7	15	5	292
感受性　3菌種以上	14	5	8	4	13	4	13	5	13	4	7	9	15	5	12	4	12	4	11	4	6	2	9	2	185

（単位：件）

	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合計
抗酸菌塗抹	7	21	18	13	19	20	16	15	21	15	9	20	10	23	15	12	9	19	19	22	22	21	14	24	404
結核菌群ＰＣＲ	6	12	15	6	17	13	15	9	15	15	8	14	6	12	12	7	7	11	19	15	23	13	13	14	297
抗酸菌ＰＣＲ	6	11	10	7	16	6	14	5	8	12	8	12	6	11	9	6	7	11	17	12	22	11	10	14	251
抗酸菌液体培養	5	3	10	7	6	14	12	11	6	8	7	3	6	6	7	4	4	3	14	5	14	5	10	14	184
抗酸菌固体培養	1	16	9	6	13	7	1	5	12	6	1	16	3	17	8	8	5	16	3	17	9	16	4	10	209
抗酸菌同定検査	0	2	0	1	0	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4	0	3	0	2	0	1	0	2	21
抗酸菌感受性検査	0	2	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	2	13

◆生理検査

（単位：件）

		28年																		29年						年度計
		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		
		入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合計
心電図		108	680	109	811	106	874	102	765	116	771	87	696	98	823	107	773	105	652	110	743	108	864	148	961	10,717
負荷心電図		1	12	0	11	0	21	0	13	0	13	0	8	0	10	0	11	0	21	0	8	1	11	0	15	156
トレッドミル		1	24	0	17	1	16	1	17	0	11	0	18	0	22	0	19	0	14	0	17	0	14	0	19	221
ホルター心電図		3	61	3	61	5	64	5	47	7	34	2	58	6	55	6	60	9	53	2	67	2	64	5	75	754
自律神経機能検査(CVRP)		2	42	0	42	1	42	0	34	0	36	8	34	4	36	4	41	11	34	7	57	8	34	16	55	548
血圧脈波検査		45	120	47	130	41	118	50	114	40	123	34	102	46	114	44	117	36	108	28	117	40	116	50	148	1,928
携帯型心電図		0	0	0	0	0	3	0	2	3	1	2	6	0	5	0	4	0	1	0	4	0	6	0	6	43
皮膚灌流圧(ＳＰＰ)		5	6	15	2	7	2	7	11	6	3	2	5	9	5	12	3	2	6	7	6	10	5	8	9	153
簡易ＰＳＧ検査		1	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	1	2	14
肺機能		13	253	14	267	9	342	5	306	7	278	5	250	16	266	29	241	11	248	11	262	13	271	12	315	3,444
脳波		3	26	4	19	0	23	4	32	2	57	9	25	6	21	5	19	5	33	2	24	0	20	1	47	387
心エコー	心臓エコー	73	317	57	323	60	378	72	338	78	330	65	307	69	325	80	339	73	314	84	341	79	344	87	407	4,940
	経食道エコー	7	3	9	3	6	0	13	3	10	4	6	3	4	1	2	3	7	5	7	5	9	2	11	5	128
腹部エコー	腹部エコー	66	426	60	384	81	497	62	420	77	406	45	429	61	429	55	427	50	399	53	363	54	387	54	424	5,709
その他	頚部血管エコー	31	41	30	45	39	37	45	35	40	55	33	40	26	65	37	52	17	64	20	68	14	68	22	75	999
	末梢静脈エコー	12	42	13	44	10	55	14	45	13	49	15	37	9	45	14	37	15	37	12	33	19	42	12	32	656
	末梢動脈エコー	15	20	16	14	25	21	20	21	18	27	17	23	21	21	14	22	17	23	12	27	14	20	30	29	487
	血管内皮機能検査(FMD)	9	11	11	3	8	7	17	4	16	5	15	3	9	7	12	12	12	8	10	8	17	8	21	6	239
	腎･腹部血管エコー	4	6	1	7	1	10	2	7	5	7	3	7	2	11	6	8	2	6	2	6	3	7	5	6	124
	甲状腺エコー	2	70	5	59	1	66	0	63	0	65	0	60	1	71	0	57	2	56	2	56	3	61	1	55	756
	乳腺エコー	0	9	0	10	0	12	0	21	0	55	0	73	0	66	0	52	0	57	1	45	0	55	1	45	502
	体表エコー	0	11	1	10	2	29	4	20	0	29	0	14	1	29	3	30	1	34	1	32	6	34	5	33	329
	整形エコー	6	12	2	17	2	18	1	17	0	18	4	20	0	12	0	24	1	13	2	8	2	20	0	22	221

ＭＥセンターの現況

１．スタッフ

センター医長　　渡部　徹也（兼循環器内科部長）
臨床工学技士　　長山　俊明
ＰＦＩ協力企業職員　　５名

２．業務内容

１）臨床部門：高度な医療技術の進歩に伴い、ＭＥ機器の複雑多様化が進む中、それらの操作を行っている。臨床での医師をはじめとした、スタッフと医療機器を、円滑に結びつける医療工学の境界面を、簡便でより安全性の高いものにしている。中核病院としての機能を維持し、安全で良質な医療を提供している。多様性と専門性を両立し、患者、医療従事者にとって不可欠な存在となっている。激変する医療に対応できる柔軟な思考の醸成を行っている。
２）機器管理部門：医療機器の中央管理体制をとり、機器の効率的利用と同時に、保守点検・整備・管理業務を担う事で、必要な時に・必要な機器を・必要な部門に、高い安全性をもって供給し、医療機器のライフサイクルコスト・デッドタイムの短縮を図っている。

３．業務体制

１）臨床部門：臨床工学技士１名にて、心臓カテーテル検査、集中治療室、透析室、手術室などにて業務を行っている。夜間・休日・緊急時にはオンコール体制をとっている。
２）機器管理部門：ＰＦＩ協力企業職員（臨床工学技士３名、業務スタッフ５名）にて機器管理、運営を行っている。夜間・休日・緊急時にはオンコール体制をとっている。

４．業務実績

◆平成 28 年度　機器修理件数集計　（単位：件）

部　署	外注修理	ME修理	合計	部　署	外注修理	ME修理	合計
5　階　西	62	74	136	中央手術部	159	138	297
5　階　東	26	53	79	MEセンター	4	1	5
6　階　西	25	32	57	外　来	103	99	202
6　階　東	36	70	106	救急外来	15	34	49
7　階　西	29	87	116	中央検査部	25	16	41
7　階　東	33	93	126		5	7	12
8　階　西	21	62	83	内視鏡センター	33	35	68
8　階　東	10	37	47	放射線科	49	19	68
ＩＣＵ	29	27	56	薬剤部	59	23	82
ＮＩＣＵ	27	23	50	その他	128	66	194

◆人工呼吸器　（単位：件）

	患者数	件数		患者数	件数
5 階 西	0	0	8 階 西	3	8
5 階 東	5	104	8 階 東	4	10
6 階 西	0	0	ＩＣＵ	121	556
6 階 東	0	0	ＮＩＣＵ	13	44
7 階 西	9	132	救急外来	1	1
7 階 東	3	90			

◆ペースメーカー（単位：件）

フォローアップ件数	390
新規埋め込件数	41
電池交換件数	10

◆補助循環　（単位：件）

	患者数	件数
ＩＡＢＰ	23	54
ＰＣＰＳ	3	4

◆カテーテル検査　（単位：件）

ＣＡＧ件数	504	上肢造影件数	5
待機的ＰＣＩ件数	245	上肢ＰＴＡ件数	40
緊急ＰＣＩ件数	51	下肢造影件数	85
（Ｃｒｙｏ件数）	(61)	下肢ＰＴＡ件数	136
ＥＰＳ件数	32	腹部造影件数	2
ＡＢＬ件数	152	腹部ＰＴＡ件数	7
心筋生検	10	ＩＶＣフィルタ件数	8

◆血液浄化（単位：件）

	患者数	件数
ＨＤ（７東）	84	413
HD（ＩＣＵ）	17	28
ＣＨＤＦ	6	60
ＰＥ	0	0
ＤＨＰ	4	6
ＳＰＰ	0	0
ＰＢＳＣＴ	1	2
ＬＣＡＰ	0	0
ＧＣＡＰ	0	0
ＣＡＲＴ	－	9

◆平成 28 年度　機器定期点検件数集計（日常点検は除く）

（単位：件）

機種名	部署	点検件数	点検者	機種名	部署	点検件数	点検者
麻酔器	手術室	13	ME/メーカー	造影剤注入装置(MRI ｲﾝﾃﾗ)	放射線科	1	メーカー
人工呼吸器	各部署	36	ME	造影剤注入装置(MRI ｱﾁｰﾊﾞ)	放射線科	1	メーカー
体外式ペースメーカ	アンギオ室	4	ME/メーカー	造影剤注入装置(アンギオ)	放射線科	2	メーカー
ＰＣＰＳ	アンギオ室	2	ME/メーカー	マンモグラフィー装置	放射線科	2	メーカー
ＩＡＢＰ	アンギオ室	1	ME	アンギオ撮影装置	放射線科	2	メーカー
保育器	5西、6西、NICU	9	ME	上部消化管Ｘ線テレビ装置	放射線科	1	メーカー
インファントウォーマー	5西、手術室、NICU、手術室	7	ME	一般Ｘ線撮影装置	放射線科	3	メーカー
搬送用保育器	5階西、NICU	4	ME	移動型Ｘ線撮影装置	放射線科	4	メーカー
除細動器	各部署	17	ME	全身骨密度測定装置	放射線科	1	メーカー
心電計	各部署	4	ME	移動型Ｘ線透視装置	放射線科	1	メーカー
セントラルモニター	各部署	17	ME	外科用Ｘ線透視装置	放射線科	1	メーカー
ベットサイドモニター	各部署	41	ME	基準線量計	放射線科	2	メーカー
電気メス	各部署	36	ME	結石破砕装置	放射線科	2	メーカー
マルチカラーレーザー	眼科外来	1	メーカー	調剤支援システム(薬袋プリンタ)	薬剤部	2	メーカー
ＹＡＧレーザー	眼科外来	1	メーカー	薬液滅菌装置	薬剤部	1	メーカー
ＣＯ２レーザー	耳鼻咽喉科外来	1	メーカー	卓上型滅菌装置	手術室	1	メーカー
輸液ポンプ	各部署	82	ME	安全キャビネット	薬剤部	1	メーカー
シリンジポンプ	各部署	81	ME	安全キャビネット	細菌検査	1	メーカー
低圧持続吸引器	各部署	9	ME	自動血液ガス分析装置	ＮＩＣＵ	2	メーカー
人工透析装置	7東、ICU	6	メーカー	ＰＡＣＳ	放射線科	1	メーカー
ＲＯ水製造装置	7東、ICU、薬剤部	3	メーカー	超音波白内障手術装置	手術室	1	メーカー
自動精算機	医事課	4	ME	歯科デンタル撮影装置	歯科口腔外科外来	1	メーカー
自動再来受付システム	医事課	3	ME	放射線パノラマ撮影装置	放射線科	1	メーカー
リライトカードリーダライタ	医事課、救急外来、地域医療連携室	7	ME	サーベイメーター	ＲＩ室	2	メーカー
診察券発行機	医事課、救急外来、地域医療連携室	3	ME	ナビゲーションシステム	手術室	1	メーカー
リニアック	放射線科	5	メーカー	ＧＰＳシステム	手術室	1	メーカー
マルチスライスＣＴ	放射線科	4	メーカー	メイフィールド頭部固定装置	手術室	1	メーカー
位置決めＣＴ	放射線科	2	メーカー	排ガス装置	中央材料室	2	メーカー
ＲＩ	放射線科	3	メーカー	ホルマリン消毒装置	洗濯室	1	メーカー
ＭＲＩ（インテラ）	放射線科	2	メーカー	血液成分分離装置	7西	1	メーカー
ＭＲＩ（アチーバ）	放射線科	2	メーカー	製氷機	各病棟	16	メーカー
造影剤注入装置(マルチｽﾗｲｽ CT)	放射線科	1	メーカー	製氷機	ＩＣＵ	2	メーカー
造影剤注入装置(位置決め CT)	放射線科	1	メーカー	合計		474	

◆平成 28 年度　機器貸出件数集計

（単位:件）

	輸液ポンプ	シリンジポンプ	ベッドサイドモニタ	自己血回収装置	人工呼吸器	低圧持続吸引器	合計		輸液ポンプ	シリンジポンプ	ベッドサイドモニタ	自己血回収装置	人工呼吸器	低圧持続吸引器	合計
5階西	19	6	0	0	0	0	25	ＮＩＣＵ	0	1	1	0	30	1	33
5階東	9	17	2	0	4	2	34	中央手術室	1	18	0	0	0	1	20
6階西	34	10	0	0	3	0	47	外来	0	1	0	7	0	1	9
6階東	11	6	1	0	0	1	19	救急外来	1	4	0	0	4	1	10
7階西	11	20	0	0	0	0	31	通院治療センター	13	1	0	0	0	0	14
7階東	21	7	0	0	1	1	30	内視鏡センター	0	1	0	0	0	0	1
8階西	9	8	0	0	2	5	24	放射線科	1	3	0	0	1	0	5
8階東	5	9	1	0	0	5	20								
ＩＣＵ	26	31	0	0	151	3	211	合計	161	143	5	7	196	21	533

がん相談支援センターの現況

１．スタッフ

センター長　　西山　謹司（兼副院長・放射線治療科部長）
看護師長　　佐藤　美代子（兼看護部科長・地域医療連携室看護師長）
係　　長　　大和　裕香（医療ソーシャルワーカー）
臨床心理士　　外堀　直子、陶山　由季子

２．業務内容

がんに関する病状、治療、薬剤、看護、介護、食事、検診、医療費、精神的不安などのあらゆる疑問や悩み事、心配事に対する相談窓口として、平成 20 年２月より活動を開始している。対象者は当院受診の有無を問わず、がん患者、家族、知人、医療関係者など様々な方から相談を受けている。その他がんに関する情報提供を行うなど、情報発信の場所としても機能している。

３．業務体制

１）相談業務

相談については予約制になっており、電話または直接来院で受け付けている。まず医療ソーシャルワーカー・臨床心理士などの支援相談員が受け、相談内容を確認。必要に応じて院内の各専門スタッフ（各種専門相談員）と連携をとり、相談にあたっている。相談費用は無料。セカンドオピニオン､外来患者の継続的な心理カウンセリングは有料（１回3,240円／50分)。その他、院内の緩和ケアチームの一員として活動し、院内の各専門職としてがん相談以外の相談業務も行っている。

２）情報提供・啓蒙活動

・外来待合付近やがん相談支援センター横に各がんについてなどの小冊子の設置。その他インフォメーションコーナーにて医療講演やイベントの紹介などを掲示した。図書コーナーにがんに関する本やＤＶＤを設置。閲覧いただき、希望の方には貸し出しも行った。

・がん患者やご家族などを対象とした「がん相談支援センターミニ勉強会」を計４回開催した。

４月「アピアランスケア（外見的ケア）～自分らしくキラキラ輝きませんか～」
８月「がん情報の集め方」
11 月「アピアランスケア（外見的ケア）～自分らしくキラキラ輝きませんか～」
１月「がん患者・家族のための心のケア」

講義終了後に意見交換等の時間を設け、参加者同士の交流の場の役割も担っている。他院の患者や他機関の方の参加もあり、地域の方が気軽に参加できる会となっている。

・その他、市立病院公開講座、八尾市政だより、地方の情報誌などにて、がん相談支援センターの紹介。市立病院公開講座では病院まで来院されなくても情報が得られるよう、各がん冊子の設置と配布なども行った。

３）がん診療地域連携クリティカルパス

５大がん（肝臓癌・肺癌・乳癌・胃癌・大腸癌）地域連携クリティカルパスに加え、緩和ケア地域連携クリティカルパスを実施した。

連携機関としては八尾市を中心に、近隣の大阪市、東大阪市、柏原市が多いものの、大阪府下の他市とも連携している。

４）大阪府がん診療拠点病院　各部会への参加

大阪府がん診療連携協議会、相談支援センター部会、地域連携クリティカルパス部会・運営部会、中河内ネットワーク協議会へ参加。大阪府認定のがん診療連携拠点の役割を担えるよう、各拠点病院と連携をとり、大阪府全体の質の向上をめざしている。

４．相談実績

◆入院・外来別件数

（単位：件）

	入院	外来	その他	合計
４月	88	35	0	123
５月	88	23	0	111
６月	116	10	7	133
７月	60	19	2	81
８月	76	18	1	95
９月	91	7	1	99
10 月	77	14	0	91
11 月	72	46	5	123
12 月	59	48	1	108
１月	49	37	3	89
２月	36	22	0	58
３月	19	28	12	59
合計	831	307	32	1,170
平均	69.25	25.58	2.67	97.5

◆新規件数

（単位：件）

	新規
４月	67
５月	54
６月	62
７月	44
８月	58
９月	57
10 月	49
11 月	76
12 月	49
１月	53
２月	31
３月	42
合計	642
平均	53.5

※がん相談内容（相談内容は複数にまたがるため、主となる相談内容のみをカウント）

◆がん地域連携クリティカルパス件数

（単位：件）

年度		肝臓	肺	乳腺	胃	大腸	緩和	合計
23～27	新規	13	10	117	13	24	33	210
	中止	2	2	12	3	4	22	45
	終了	0	0	0	2	4	11	17
	運用	11	8	105	8	16	0	148
28	新規	2	2	35	0	6	0	45
	中止	0	0	1	0	0	0	1
	運用	2	2	34	0	6	0	44
23～28	運用	13	10	139	8	22	0	192

※　中止は、状態悪化などの理由から中止となった件数。
　　終了は、各がん地域連携クリティカルパスの期間を終え終了となった件数。
　　運用は、平成 29 年３月 31 現在の運用中の件数。

５．心理相談実績

当院ではがん相談に加え、がん疾患以外の心理相談にも幅広く対応している。平成 26 年８月より臨床心理士２名体制で活動している。平成 27 年度は従来の緩和ケアチーム回診に加え、ＩＣ同席、糖尿病外来、ＮＩＣＵへの介入など活動の幅を広げてメンタルケアの充実を図っている。

平成 28 年度は、新規依頼 249 名（がん疾患 124 名、がん疾患以外 125 名）、延面接件数 1,452 件（がん疾患 664 件、がん疾患以外 788 件）面接を担当した。対応内容の内訳としては、心理面接 488 件、自費面接 519 件、心理検査 55 件、ＩＣ同席・行動観察 390 件であった。

当院に精神科はないが、入院患者は、精神科医（週２回　応援医師勤務）と連携して、外来心理カウンセリングでは、必要に応じて地域の心療内科、精神科医と連携して援助にあたっている。

◆心理相談件数

（単位：件）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	計
心理面接 ※1	50	44	57	29	39	46	42	41	39	50	28	23	488
自費面接 ※2	51	48	46	44	44	40	36	48	45	45	35	39	521
心理検査	3	4	2	3	7	4	8	6	7	5	2	4	55
IC 同席・行動観察	34	36	53	30	32	33	34	36	41	11	19	31	390
総件数	138	132	158	106	122	123	120	131	132	111	84	97	1,454

※1　心理面接とは、入院患者相談、外来無償相談、スタッフ相談件数を示す。
※2　自費面接とは、外来心理カウンセリング（3,240 円／1 回 50 分）の件数を示す。

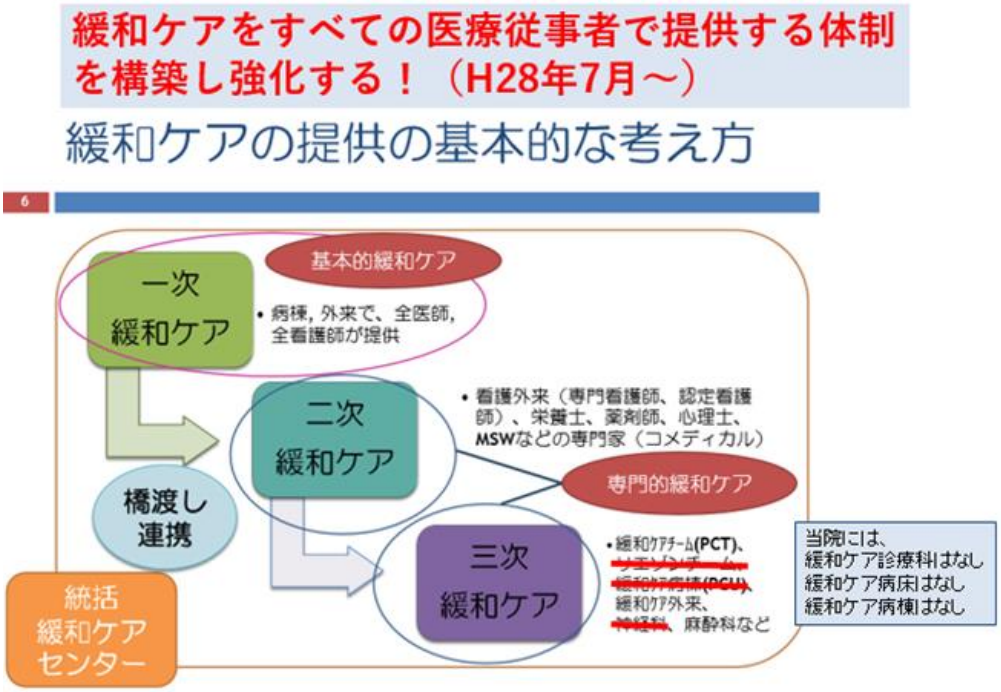
緩和ケアセンターの現況

１．スタッフ

部　　長　　蔵　　昌宏　（兼麻酔科医長）
嘱託医師　　江川　　功、大橋　順子
看護係長　　小林　啓子

２．診療内容

当院は平成 27 年４月から、地域がん診療連携拠点病院として、がん対策基本法ならびに第二期がん対策基本計画に準じた緩和ケアを提供できるよう診療体制の整備を進めている（下図)。



平成 28 年度７月から、緩和ケアセンター所属スタッフは、主科のある院内紹介患者に対し、併診による緩和ケア提供を行いサポートすることを目的とした外来診療業務を担当した。

３．診療体制

・緩和ケア看護専門外来	随時	（担当：小林・本多）
・身体症状緩和外来	金曜日	（担当：蔵(麻酔科)）
・精神症状緩和外来（入院患者のみ）	火曜日	（担当：大橋）
	水曜日	（担当：江川）

４．診療実績

緩和ケア外来延患者数は、998 人であった。

５．教育活動

１）院内教育活動

ＰＥＡＣＥ緩和ケア研修会主催１回、院内緩和ケア研修会開催（４回/年)、緩和ケアリンクナース委員会勉強会、研修医講義、看護師ステップ３・４教育講義、など精力的に教育活動へ協力することで、院内の知識と技術の向上へ努めている。

２）院外教育活動

他院開催ＰＥＡＣＥ緩和ケア研修会への開催協力、なにわ緩和ケアカンファレンス、中河内緩和ケアカンファレンス、大阪緩和ケア連携カンファレンスなどへの研究会への協力・発表・参加を精力的に行い、院内だけでなく、院外連携スタッフの知識と技術の向上や啓蒙に努めている。

３）その他

・地域における緩和ケア診療体制

問題点や課題の抽出や協議は地域がん診療連携拠点病院運営委員会において行っている。

・院内の緩和ケア提供体制

緩和ケアチーム委員会、緩和ケアリンクナース委員会などが主体となり、ＰＤＣＡサイクルに則った院内診療機能の評価や問題点を抽出し改変を行っている。

・大阪府や中河内における連携体制

大阪府がん診療連携協議会緩和ケア部会や中河内がん診療ネットワーク協議会へ参加し、当院で整備すべき緩和ケア診療体制などの情報を各部署へ伝達した。

栄養科の現況

１．スタッフ

係　　長　　黒田　昇平（管理栄養士）
係長以下管理栄養士３名、ＰＦＩ協力企業職員 40 名

２．業務内容

１）病院給食業務

治療の一環として食事をとらえ、食事を通して疾病の改善に努めることを目標に食事提供を実施している。適時適温給食の実施、選択食の実施、行事食の導入により、美味しく食事をしていただくための努力をしている。

２）栄養指導業務

食生活などの改善を目的とし、個々の疾病と生活習慣に合わせた個人栄養指導と、「糖尿病食事療法のための食品交換表」を用いて、糖尿病食事療法について理解して頂くことを目的とした集団栄養指導を実施している。

糖尿病センターにおけるチーム医療として、糖尿病透析予防指導管理の食事療養について個人栄養指導を実施している。

３）栄養管理業務

栄養管理計画書の作成とＮＳＴ（栄養サポートチーム）への参加により、入院中の栄養管理を行っている。チーム医療の一環として多職種による栄養管理が行われている中で、食事など管理栄養士が担うべき側面から栄養管理活動を実施している。

３．業務体制

病院給食に関しては、ＰＦＩ事業に基づいて運営されている。定例の栄養科会議や栄養士会議などを行うことにより、病院職員とＳＰＣ及びＰＦＩ協力企業職員が一丸となり、病院給食業務が遂行されている。

個人栄養指導に関しては、火曜日・木曜日の午前３枠（９時～・９時 45 分～・10 時 30 分～）と、月曜日・火曜日・金曜日の午後３枠（13 時～・13 時 45 分～・14 時 30 分～）の栄養指導予約枠を設けている。また、固定の予約枠以外に要請があれば臨時に予約枠を設定している。

集団栄養指導に関しては、毎週木曜日の 13 時 30 分～定員 10 名枠の栄養指導予約枠を設けている。集団栄養指導については、糖尿病食事療法を対象とした指導内容となっている。

糖尿病センターにおける個人栄養指導業務に関しては、糖尿病センターの診療日時に合わせて、管理栄養士１名常駐体制で行っている。水曜日と金曜日の午前に関しては、初診・再診の２診体制の為、管理栄養士２名体制で栄養指導業務を行っている。

毎週水曜日の午後にＮＳＴ（栄養サポートチーム）回診など、栄養管理に関する業務を行っている。必要時には、他の曜日にも栄養管理活動が行われている。

４．業務実績

栄養指導実施状況全体については、昨年度実績数より４件の減少で全体数では横這いであったが、糖尿病センター（表区分：センター）を除く栄養指導室などでの栄養指導実施状況については、昨年度実績数を下回り 51 件の減少であった。栄養指導実施状況の内訳においては、腎臓病・脂質異常症・糖尿病センター（表区分：センター）の指導件数が昨年度より増加し、糖尿病・消化管術後・その他の指導件数が昨年度より減少した。糖尿病センターにおける栄養指導は、糖尿病透析予防指導管理に基づいた糖尿病および糖尿病腎症に対する栄養指導を行っている。

給食業務実施状況については、昨年度実績数を上回り 3,839 食の増加であった。一般食と特別食の比率については、58:42 と昨年度と同じ比率であった。特別食（加算）実施状況においては、糖尿病食・腎臓病食・肝臓病食・心臓病食が特別食（加算）実施食数全体の７割以上を占めている。

地域がん診療連携拠点病院における管理栄養士の役割として、本年度より緩和ケアチームに参加し、食事管理など管理栄養士が担うべき側面から緩和医療のサポートを始めた。

５．各種業務状況

◆給食業務状況

区分		食数(食)	比率(%)
食種	普通食	102,848	37.8%
	軟食等	56,076	20.6%
	特別食(加算)	83,733	30.8%
	特別食(非加算)	29,249	10.8%
	合計	271,906	100.0%
1日平均		745	－
1回平均		248	－
一般食の比率(%)		－	58
特別食の比率(%)		－	42

◆特別食（加算）実施状況

区分		食数(食)	比率(%)
食種	糖尿病食	31,651	37.8%
	腎臓病食	8,664	10.3%
	肝臓病食	7,079	8.5%
	心臓病食	17,575	21.0%
	膵臓病食	5,167	6.2%
	潰瘍食	2,642	3.1%
	術後食	3,945	4.7%
	その他	7,010	8.4%
	合計	83,733	100.0%
1日平均		229	－
1回平均		76	－

◆栄養指導実施状況

（単位：人）

区分	
糖尿病	973
腎臓病	68
消化管術後	64
脂質異常症	18
その他	82
センター	1,497
合計	2,702

薬剤部の現況

１．スタッフ

部　　長　　山崎　　肇（兼診療局次長・臨床研究センター長）
部長補佐　　長谷　圭悟
部長以下薬剤師 23 名（正職員 21 名、アルバイト２名）

２．業務内容

平成 28 年度はアルバイト薬剤師２名、新規薬剤師１名の採用があり総勢薬剤師 23 名で業務を行った。病棟薬剤業務は７病棟にて薬剤師の病棟常駐を行い、薬物治療の質や医療安全の向上、さらに医師などの負担軽減にも貢献した。また、市立病院と八尾市内の医療機関（医院や診療所の「かかりつけ医」や歯科医院、薬局）をネットワークで接続し、患者の同意のもと市立病院で受けた検査や画像などの診療情報を、八尾市内の医療機関で閲覧することを可能にする「病院診療所薬局連携システム」も充実を図っている。また通院治療センターにもがん薬物療法認定薬剤師を配置し、外来化学療法での安全で適正な使用に貢献している。

１）調剤業務

調剤業務の安全性向上および調剤業務の効率化・省力化を目的とし、オーダリングシステム情報を利用したシステムにて入院処方せんおよび院内処方せん、時間外救急時の院内処方せんの調剤業務を行っている。

２）薬剤管理指導業務・病棟薬剤業務

平成 25 年８月からの病棟薬剤業務実施加算の算定開始に伴い、今年度も７病棟に専任薬剤師を継続的に配置し、入院患者への適正な医薬品の供給を基本に、持参薬確認、服薬説明、医師や看護師等への医薬品情報提供、病棟配置薬の管理、チーム医療への参画など医薬品に関わる業務を各病棟で推進した。また糖尿病教育入院において、薬剤師が行っていた入院時の初回面談と退院時指導に加え、薬物療法の個別指導についても患者指導を引き続き行っている。

またＩＣＵに薬剤師を配置し、今後の新たな病棟業務の展開に着手している。

３）医薬品情報管理業務

年６回開催される薬事委員会事務局としての業務を行っており、院内採用医薬品の適正化に向けて資料の作成や院内調整を行った。あわせて、医薬品情報の発信源として医師、薬剤師、看護師をはじめとした院内スタッフからの問い合わせや相談に対応した。

また、国の施策である後発医薬品使用促進のため、引き続き院内採用医薬品の後発医薬品への切り替えを推進し、年間を通した後発医薬品の使用割合が 80%を維持できた。さらに、院外処方箋の疑義照会及び病診薬連携システムを介し、地域保険薬局との連携強化にも努めた。

教育分野では、大阪大学薬学研究科課題解決型高度医療人材養成プログラム「地域チーム医療を担う薬剤師養成プログラム」に「八尾ユニット」として参加し、病院・薬局実務実習期間内での学生によるトライアル研修・実習を実施した。

４）医薬品管理業務

院内採用医薬品の後発医薬品への切り替えに伴い、先発医薬品から後発医薬品への切り替えを順次行い、院内での医薬品の供給に滞りが出ないよう管理を行っている。

医薬品の中で、特に法的に規制のある医薬品である毒薬、向精神薬、麻薬については施錠された金庫・保管庫に保管し、厳重に管理している。

それ以外の医薬品も定期的に薬剤部とＳＰＣ、ＳＰＤが情報の共有を行い、効率的な医薬品の使用動向について検討するとともに使用量と医事データとの突合、不一致原因の追究を実施している。また昨年度に引き続き使用期限が切迫した医薬品の使用促進を図ることで不良在庫の軽減も行った。

5）注射薬調製業務

電子カルテレジメン機能を利用して、がん化学療法のプロトコール管理と抗癌剤調製を行っている。また、閉鎖式接続器具を導入し、がん化学療法の抗がん剤調製時及び投与時の安全性向上に寄与している。また通院治療センターの増床により、抗がん剤調製やスタッフの教育など対応を行った。

6）ＴＤＭ業務

塩酸バンコマイシン、硫酸アルベカシン及び注射用テイコプラニンの投与設計件数は 116 件であった（昨年度 97 件）。また、これらの薬剤における初期投与量設計件数は 77 件であった（昨年度 67 件）。投与設計件数、初期投与量設計件数はともに増加を認め、昨年度と同様、ＴＤＭ業務は院内での抗菌薬の適正使用に貢献したと考える。

	初期投与量設計件数（件）	投与設計件数（件）
塩酸バンコマイシン	72	107
硫酸アルベカシン	4	4
注射用テイコプラニン	1	5

7）通院治療センター業務

平成 27 年度より薬剤師の常駐業務を開始し外来での抗がん剤治療患者への服薬指導、抗がん剤治療オリエンテーションなどの業務を行っている。平成 27 年 12 月より「がん患者指導管理料３」の算定を開始しており、平成 28 年度は 44 件の算定を行った。

３．研究・研修活動

1）院内研修

医薬品安全講習会

・医療機関における医薬品・医療用具に関連する医療事故防止対策　平成 28 年 11 月 28 日

部内勉強会（週１回）

2）院外研修

第 55 回全国自治体病院学会　富山

日本薬学会第 137 年会（仙台）

医薬品安全管理研修会 2016 年度　秋季

医薬品安全管理研修会 2016 年度　春季

平成 28 年度全国自治体病院協議会薬剤部長部会研修会

第 12 回ＮＨＡ医薬品分野委員会　東京　オブザーバー出席

第 54 回日本癌治療学会学術集会　横浜

第 18 回ＮＳＴ専門療法士スキルアップセミナー

第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会　京都

医薬品安全管理教育セミナー　2016　春季

2016 年度（第１回）麻薬教育認定薬剤師認定研修会　東京

第 10 回日本緩和医療薬学会年会・教育セミナー　浜松

第 21 回日本緩和医療学会学術大会　京都

医療薬学フォーラム 2016／第 24 回クリニカルファーマシーシンポジウム　大津

平成 28 年度全国都市立病院薬局長協議会・研修会　京都

第 14 回日本臨床腫瘍学会学術集会　神戸

第 26 回日本医療薬学会年会　京都

平成 28 年度全国自治体病院協議会薬剤管理研修会　東京
平成 28 年度 がん専門薬剤師集中教育講座　福岡
平成 28 年度日本病院薬剤師会　医薬品安全管理責任者等講習会　大阪
全国都市立病院薬局長協議会　東京
臨床研究・治験活性化協議会　大阪
第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会　岡山
第 38 回日本病院薬剤師会近畿学術総会　神戸
第 45 回新入局薬剤師研修会　大阪

４．薬学部学生実務実習（11 週間実習）の受入

１）平成 28 年５月９日～平成 28 年７月 24 日
大阪大谷大学（１名）、大阪薬科大学（１名）、近畿大学（２名）
２）平成 29 年１月 10 日～平成 29 年３月 27 日
大阪薬科大学（２名）、近畿大学（２名）

５．体験学習の受入

１）平成 28 年８月４日　小学生（４名）
２）平成 28 年８月９日　小学生（４名）

６．薬剤部統計

（ア）採用医薬品数（平成 29 年３月現在）　（単位：薬品数）

	先発品	後発品	後発率（%）	総　数
院内採用医薬品数	850	271	24.2%	1,121
患者限定院内採用薬	181	3	1.6%	184
院外採用医薬品数	451	14	3.0%	465
患者限定院外採用薬	59	1	1.7%	60
合　　計	1,541	289	15.8%	1,830

（イ）外来処方せん枚数　（単位：件数）

	院外処方			疑義照会	院内処方			合計			院外処方
	枚数	件数	薬剤	枚数	枚数	件数	薬剤	枚数	件数	薬剤	発行率
４月	6,229	13,356	19,323	129	964	1,762	2,402	7,193	15,118	21,725	86.6%
５月	6,097	12,879	18,794	143	989	1,735	2,254	7,086	14,614	21,048	86.0%
６月	6,485	13,773	19,790	154	806	1,451	1,927	7,291	15,224	21,717	88.9%
７月	6,353	13,368	19,390	123	1,001	1,788	2,412	7,354	15,156	21,802	86.4%
８月	6,681	14,220	20,498	164	957	1,709	2,296	7,638	15,929	22,794	87.5%
９月	6,282	13,321	19,252	142	781	1,436	1,970	7,063	14,757	21,222	88.9%
10 月	6,583	14,120	20,250	141	874	1,624	2,170	7,457	15,744	22,420	88.3%
11 月	6,476	13,591	19,694	148	994	1,846	2,389	7,470	15,437	22,083	86.7%
12 月	6,803	14,025	20,094	166	1,417	2,756	3,418	8,220	16,781	23,512	82.8%
１月	6,801	13,922	20,003	148	1,621	3,187	3,872	8,422	17,109	23,875	80.8%
２月	6,573	13,240	19,117	140	1,070	2,041	2,606	7,643	15,281	21,723	86.0%
３月	7,425	15,203	21,863	204	833	1,525	1,960	8,258	16,728	23,823	89.9%
合 計	78,788	165,018	238,068	1,802	12,307	22,860	29,676	91,095	187,878	267,744	86.5%

（ウ）入院処方せん枚数

（単位：枚数）

		28年									29年			総計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
処方区分別	定期	126	107	142	110	103	78	135	96	120	173	194	171	1,555
	定期つなぎ	21	33	12	25	14	22	46	54	21	28	28	21	325
	臨時	2,729	2,562	2,531	2,547	2,640	2,246	2,515	2,625	2,648	2,681	2,567	2,715	31,006
	緊急	1,267	1,242	1,304	1,417	1,403	1,214	1,505	1,258	1,327	1,520	1,235	1,453	16,145
	退院	717	733	708	743	762	695	736	670	757	643	608	775	8,547
合計	枚数	4,860	4,677	4,697	4,842	4,922	4,255	4,937	4,703	4,873	5,045	4,632	5,135	57,578
	件数	7,707	7,249	7,428	7,654	7,944	6,668	7,480	7,487	7,735	7,971	7,528	7,912	90,763
	剤数	55,505	48,577	47,246	50,196	52,314	45,041	49,695	51,533	56,101	51,609	50,248	54,065	612,130

（エ）外来注射件数

（単位：オーダ数）

		28年									29年			総計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
区分別	予約注射	305	232	260	284	304	286	410	361	357	347	426	432	4,004
	通院治療センター	171	185	167	159	177	143	164	147	156	169	150	163	1,951
	抗がん剤注射	2,547	2,477	2,937	2,415	2,788	2,557	2,537	2,540	2,446	2,670	2,497	2,727	31,138
	実施済注射	1,078	1,185	1,123	1,307	1,350	1,071	1,244	1,079	1,154	1,153	1,050	1,167	13,961
	当日注射	507	495	641	627	453	328	368	336	352	280	257	333	4,977
合計		4,608	4,574	5,128	4,792	5,072	4,385	4,723	4,463	4,465	4,619	4,380	4,822	56,031

（オ）入院注射件数

（単位：オーダ数）

		28年									29年			総計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
処方区分	定期注射	16,503	17,586	17,832	18,923	20,024	16,443	19,926	18,775	19,652	18,094	17,473	19,381	220,612
	緊急注射	4,411	4,587	4,702	4,698	5,364	3,951	5,117	4,401	4,499	5,217	4,157	5,669	56,773
	臨時注射	5,626	6,358	6,005	5,981	7,312	5,630	5,961	6,413	6,010	6,556	5,441	6,317	73,610
	抗がん剤注射	861	926	783	741	1,076	821	683	783	764	1,024	945	912	10,319
	実施済注射	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	4
合計		27,401	29,459	29,322	30,343	33,776	26,845	31,688	30,372	30,925	30,891	28,016	32,280	361,318

（カ）がん化学療法無菌調製件数

（単位：算定件数）

		28年									29年			総計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
外来	内科	24	9	13	11	20	14	25	27	22	17	13	18	213
	消化器内科	6	7	15	10	11	9	8	6	6	8	8	20	114
	外科	255	256	313	245	285	261	252	257	259	296	280	277	3,236
	産婦人科	34	31	31	32	35	29	26	25	18	17	19	25	322
	泌尿器科	16	15	20	14	14	9	13	9	11	8	5	7	141
	放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3
	歯科口腔外科	8	5	4	4	6	8	4	2	4	3	6	7	61
入院	内科	47	33	25	14	29	29	19	22	27	23	42	25	335
	消化器内科	1	4	3	2	1	1	2	5	2	2	11	10	44
	外科	30	45	35	37	50	51	46	46	47	67	54	60	568
	形成外科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	産婦人科	4	4	3	2	1	1	0	2	3	2	0	0	22
	泌尿器科	3	15	20	23	30	16	10	11	5	14	9	13	169
	放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	歯科口腔外科	16	11	0	3	4	0	0	0	6	12	7	1	60
合計		444	435	482	398	486	428	405	412	410	472	455	463	5,290

（キ）高カロリー輸液製剤調製件数

（単位：算定件数）

		28年									29年			総計
		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	
入院	内科	18	44	8	15	63	66	73	46	21	26	41	70	491
	消化器内科	0	9	2	15	0	17	0	0	0	0	0	0	43
	循環器内科	0	0	21	28	39	25	28	35	43	0	11	0	230
	外科	18	14	16	36	16	11	25	29	12	37	39	98	351
	麻酔科	0	0	1	15	0	0	0	0	0	0	0	0	16
	泌尿器科	8	38	41	24	0	0	4	7	27	8	0	0	157
	産婦人科	0	0	9	0	1	0	0	0	0	1	0	0	11
	歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
合計		44	105	98	133	119	119	130	117	103	72	91	173	1,304

（ク）院内製剤数量

品名	数量	品名	数量
１％フラジール軟膏	12,600 g	ボアラ軟膏+ヒルドイド（１：１）	7,020 g
１０％硝酸銀液	150 mL	マンドル氏液	250 mL
２％ピオクタニンブルー液	100 mL	ルゴール氏液（内視鏡）	1,600 mL
３％酢酸水	3,500 mL	院方ルゴール	1,500 mL
ＡＩＭ用２％酢酸液	300 mL	柿煎	48,000 mL
ＣＭＣアズノール軟膏	800 g	含嗽用アロプリノール液	5,500 mL
ＣＭＣ亜鉛華単軟膏	1,800 g	鼓膜麻酔液	12 mL
Ｇ－１軟膏	400 g	白色ワセリン+ヒルドイド（１：１）	10,930 g
アズノール・クリダマシン軟膏	950 g	皮膚インク（ﾌｸｼﾝ・ﾚｿﾞﾙｼﾝ入り）	100 mL
ウリナスタチン膣坐薬	679 個	滅菌２％ピオクタニン液	680 mL
チラーヂンＳ１００μｇ坐薬	15 個	滅菌オリーブ油	7,000 mL
バンコマイシン点眼液	10 mL	滅菌墨汁	120 mL
ブロー氏液	400 mL		

（ケ）薬剤管理指導業務

（単位：算定件数）

科名	28年									29年			総計
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	
内科	89	102	90	76	107	64	74	79	65	93	88	63	990
血液内科	94	98	79	71	80	79	80	65	70	69	91	89	965
消化器内科	127	120	123	142	112	129	124	134	99	115	92	120	1,437
循環器内科	156	138	132	135	135	126	153	136	126	161	142	197	1,737
外科	165	176	186	189	211	185	181	216	202	197	181	238	2,327
乳腺外科	29	34	33	28	27	28	35	48	34	40	19	31	386
脳神経外科	17	17	14	23	19	8	21	14	13	8	7	14	175
整形外科	57	62	52	43	70	54	50	52	67	59	57	66	689
形成外科	34	35	37	19	31	33	44	26	29	22	27	40	377
産婦人科	114	127	121	141	145	112	130	111	110	113	99	118	1,441
小児科	105	88	110	81	110	110	104	81	76	63	48	79	1,055
耳鼻科	105	92	130	112	143	115	116	111	102	93	103	122	1,344
泌尿器科	80	116	108	98	112	106	101	112	76	101	100	109	1,219
皮膚科	5	3	1	2	2	4	5	2	0	4	2	1	31
麻酔科	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6
放射線治療科	7	1	5	4	2	3	3	14	9	3	1	3	55
歯科口腔外科	24	25	17	15	17	15	22	19	22	17	22	34	249
救急診療科	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	1,211	1,237	1,239	1,180	1,323	1,171	1,243	1,220	1,100	1,158	1,079	1,324	14,485

（コ）製剤別血液及び血液成分製剤の使用本数　　（単位：本）

		A-	A+	AB-	AB+	B-	B+	O-	O+	計	前年度
自己血	1単位	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
	2単位	0	9	0	15	0	11	0	19	54	73
濃厚赤血球（MAP）（全て白血球除製剤）	1単位	0	35	0	0	0	0	0	0	35	0
	2単位	4	565	0	180	2	204	7	337	1,299	1,552
新鮮凍結血漿（FFP）	1単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2単位	0	66	0	28	0	29	0	29	152	158
	4単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
濃厚血小板（PC）（HLA 適合製剤を含む）（白血球除製剤を含む）	総単位	0	2,020	10	850	0	760	0	1,360	5,000	7,640
	2単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10単位	0	179	1	77	0	56	0	119	432	509
	15単位	0	14	0	4	0	8	0	10	36	138
	20単位	0	1	0	1	0	4	0	1	7	24
人全血	1単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1単位＝200ml 献血由来相当分
※集計対象日は輸血実施入力日

（サ）薬効別医薬品使用状況

項目	割合	分類番号	主な薬効分類	割合
1　神経系及び感覚器官用医薬品	1.55%	11	中枢神経系用薬	1.55%
		12	末梢神経系用薬	0.38%
		13	感覚器官用薬	0.04%
2　個々の器官系用医薬品	10.55%	21	循環器官用薬	1.25%
		22	呼吸器官用薬	0.49%
		23	消化器官用薬	2.32%
		24	ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	8.80%
		25	泌尿生殖器官及び肛門用薬	0.14%
		26	外皮用薬	0.35%
		27	歯科口腔用薬	0.04%
3　代謝性医薬品	7.41%	31	ビタミン剤	0.06%
		32	滋養強壮薬	0.74%
		33	血液・体液用薬	4.78%
		34	人工透析用薬	0.07%
		39	その他の代謝性医薬品	3.76%
4　組織細胞機能用医薬品	40.09%	42	腫瘍用薬	47.84%
		43	放射性医薬品	2.98%
		44	アレルギー用薬	0.08%
5　生薬および漢方処方に基づく医薬品	19.69%	51	生薬	0.00%
6　病原生物に対する医薬品	16.86%	61	抗生物質製剤	2.59%
		62	化学療法剤	6.87%
		63	生物学的製剤	11.90%
		64	寄生動物用薬	0.05%
7　治療を主目的としない医薬品	2.80%	71	調剤用薬	0.06%
		72	診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	2.87%
		73	公衆衛生用薬	0.02%
		79	その他の治療を主目的としない医薬品	0.61%
		52	漢方製剤	0.03%
8　麻薬	1.03%	81	アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	0.31%
		82	非アルカロイド系麻薬	0.96%
9　不明	0.03%	99	不明	0.04%

（シ）科別血液及び血液成分製剤の使用本数　　（単位：本）

科＼区分	自己血	ＭＡＰ	ＦＦＰ	ＰＣ	ＨＬＡＰＣ	人全血	ＷＲＣ	計	前年度
内科	0	1,673	120	4,425	230	0	26	6,474	8,794
一般内科	0	84	0	90	60	0	0	234	588
血液内科	0	1,033	38	4,120	170	0	26	5,387	7,308
消化器内科	0	476	76	130	0	0	0	682	614
循環器内科	0	80	6	85	0	0	0	171	274
腫瘍内科	0	0	0	0	0	0	0	0	10
外科	0	356	110	90	0	0	0	556	827
一般外科	0	266	90	90	0	0	0	446	827
呼吸器外科	0	90	20	0	0	0	0	110	211
乳腺外科	0	0	0	0	0	0	0	0	56
脳神経外科	0	14	20	40	0	0	0	74	95
整形外科	0	122	0	0	0	0	0	122	178
形成外科	6	10	0	0	0	0	0	16	18
産婦人科	37	68	28	70	0	0	0	203	246
小児科	0	6	4	10	0	0	0	20	2
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	16
耳鼻咽喉科	0	12	0	0	0	0	0	12	6
泌尿器科	64	196	20	125	0	0	0	405	509
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	4
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	2	0	0	0	0	0	0	2	62
救急総合診療科	0	150	2	10	0	0	0	162	248
合計	109	2,607	304	4,770	230	0	26	8,046	11,272

※１単位＝200ml 献血由来相当分で、上記本数は１単位分の本数
※集計対象日は検査依頼日（輸血予定日）

（ス）病棟薬剤業務実施加算件数　　（単位：算定件数）

	28年									29年			総計
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	
件数	1,806	1,839	1,829	1,832	1,970	1,703	1,809	1,783	1,735	1,795	1,639	1,963	21,703

ＤＰＣ係数のため出来高請求に置き換えた場合としての値

（セ）通院治療センター業務

	平成 26 年度		平成 27 年度			平成 28 年度		
	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ件数	通院治療ｾﾝﾀｰ指導件数	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ件数	通院治療ｾﾝﾀｰ指導件数	がん患者指導管理料	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ件数	通院治療ｾﾝﾀｰ指導件数	がん患者指導管理料
４月	7	5	7	27		14	64	6
５月	5	21	8	24		11	66	6
６月	9	54	7	43		8	63	2
７月	4	48	13	38		14	41	3
８月	3	40	5	32		15	35	4
９月	4	37	6	38		13	37	3
10 月	7	41	11	34		12	41	4
11 月	12	40	16	47		14	62	3
12 月	7	33	6	55	1	19	53	7
１月	3	24	9	59	2	11	52	6
２月	3	36	21	78	7	5	60	2
３月	3	28	13	65	2	9	52	2
合計	67	407	122	540	12	145	626	48
月平均	5.6	33.9	10.2	45	3	12.1	52.2	4

臨床研究センターの現況

１．スタッフ

センター長　　山崎　　肇（兼診療局次長・薬剤部長）
センター長補佐　　香川　雅一

２．業務内容

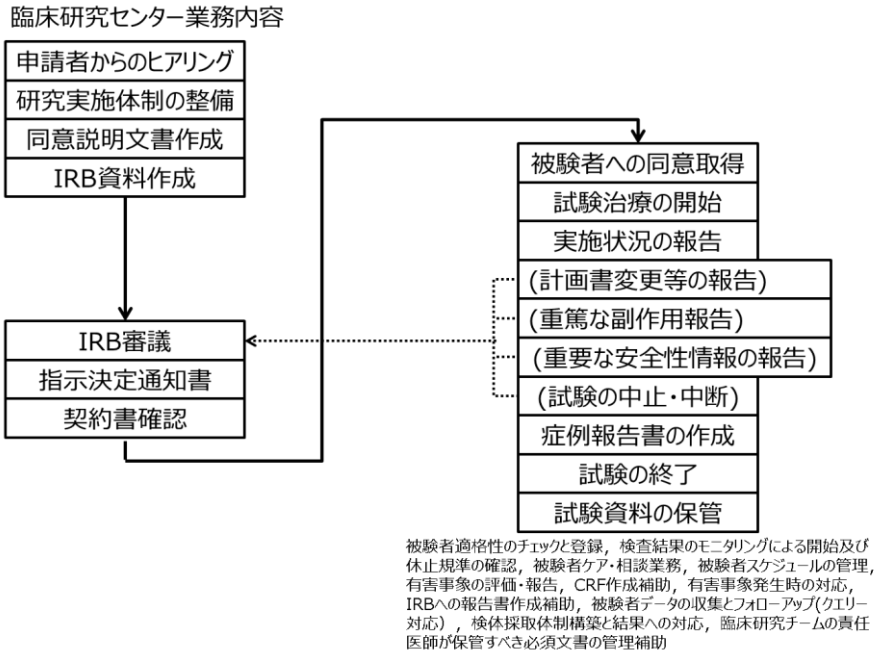
臨床研究センターでは、治験・調査及び臨床研究のすべてを区別せず、一体化した運営を図り、多くの試験・調査に携わることによって、各診療科の医師や院内スタッフとの連携をさらに密にし、円滑な試験の運営を目指している。

平成 28 年度は、臨床研究審査委員会での新たな審査対象として、医薬品及び医療機器の未承認・適応外使用や新医療技術実施に係る倫理面についても審査を行うこととなった。

臨床研究センターでは、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の施行以降、研究実施において求められる対応は増加しているが、未だ十分に行えているとは言い難い状況にある。さらに平成 29 年度は改正個人情報保護法施行、臨床研究法成立と臨床研究を取り巻く環境は劇的に変化する。人材育成や充実した実施体制の整備は必須であり、猶予はない。

３．業務体制

部署での業務は、臨床研究審査委員会事務局業務、治験・臨床研究事務局業務、クリニカルリサーチコーディネーター（データマネージャー含む）業務に大別される。



４．業務実績

臨床研究審査委員会業務（フルサポート）

研究区分	審議内容	件数
医師主導 臨床研究	《試験の実施の妥当性・科学性》	14
	《安全性情報に伴う試験実施の継続》	0
	《迅速審査　実施計画書等の軽微な変更に伴う試験実施の継続》	21
	《迅速審査　実施計画書の妥当性・科学性》	27
開発治験	《試験の実施の妥当性・科学性》	0
	《安全性情報に伴う試験実施の継続》	0
	《迅速審査　実施計画書等の軽微な変更に伴う試験実施の継続》	0
製造販売後 調査	《実施計画書の妥当性・科学性》	19
	《副作用報告》	7
	《実施計画書等の軽微な変更に伴う試験実施の継続》	29
未承認医薬品等 院内製剤 新医療技術等	《未承認薬・院内製剤・新規医療技術の実施の倫理性》	3

治験・臨床研究事務局業務

診療科	対象疾患	介入/観察	件数
形成外科	皮膚付属器悪性腫瘍	観察	1
外科	GIST	観察	2
	胃癌	観察	9
		介入	26
	下部消化管手術	観察	1
	下部消化管穿孔手術	介入	1
	肝細胞癌	介入	1
		観察	1
	肝切除術	観察	1
	急性胆道炎	観察	2
	食道癌	介入	2
	膵癌	介入	1
	腹腔鏡下肝切除	観察	1
	腹部外科手術	介入	1
	肝胆膵外科手術	介入	1
	膵頭十二指腸切除術後膵液瘻	観察	1
	大腸癌	観察	4
		介入	26
血液内科	CML	介入	3
	悪性リンパ腫	介入	1
	多発性骨髄腫	観察	1
呼吸器外科	気胸	観察	1
	胸膜中皮腫	観察	1
	肺癌	観察	3
耳鼻咽喉科	耳科手術	観察	1
	歯性上顎洞炎	介入	1
循環器内科	ST上昇型急性心筋梗塞	観察	1
	心不全	観察	2
	心房細動	観察	1
	心房細動	介入	1
	非弁膜症性心房細動	観察	2
	閉塞性動脈硬化症	観察	1

診療科	対象疾患	介入/観察	件数
消化器内科	B型肝炎	観察	2
	C型慢性肝炎	観察	8
	C型慢性肝炎	介入	2
	NASH	観察	1
	胃癌	介入	1
	肝細胞癌	観察	3
	自己免疫性肝疾患	観察	2
	膵癌	介入	1
	炎症性腸疾患	観察	1
	原発性胆汁性肝硬変	観察	1
	胃内視鏡的粘膜下層剥離術後出血	介入	1
小児科	BRCA1/2遺伝子の未確定変異	観察	1
	小児アレルギー	観察	7
	血液凝固異常症	観察	1
	重症RSウイルス感染症	観察	1
	小児慢性疾患	観察	1
	乳幼児突然死	観察	1
	周産期ネットワーク	観察	1
	壊死性腸炎	介入	1
乳腺外科	乳癌	介入	15
		観察	15
脳神経外科	グリオーマ	観察	1
泌尿器科	前立腺癌	介入	1

クリニカルリサーチコーディネーター(データマネージャー含む)業務

試験名	実施症例数	登録症例数	サポート内容(CRC)
POTENT	16	16	被験者適格性のチェックと登録，検査結果のモニタリングによる開始及び休止規準の確認，被験者ケア・相談業務，被験者スケジュールの管理，有害事象の評価・報告，CRF作成補助，有害事象発生時の対応，IRBへの報告書作成補助，被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応)，検体採取体制構築と結果への対応，臨床研究チームの責任医師が保管すべき必須文書の管理補助
OMC-BC03	1	1	
AXEPT	2	2	
KBCSG-TR-1315		13	
KBC-SG1402		5	
SPOT-TRIAL	3	12	
BSI研究	2	2	
HORSE-BC	1	1	
ABROAD	1	1	
JBCRG-M05	1	1	
JFMC-46	1	1	
OCUU-CRPC(イクスタンジ)	8	8	
JACCRO GC-07	16	16	
C-Cubed	3	3	
Cancer-VTE	1	1	被験者適格性のチェックと登録，CRF作成補助，被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応)
JBCRG-C05	5	5	CRF作成補助，被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応)
JFMC-47	1	1	CRF作成補助，被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応)
J-ELD AF	24	24	被験者適格性のチェックと登録，CRF作成補助，検体採取体制構築と結果への対応，採血スケジュール管理，採血管準備，検体回収
Nab-Paxlitaxel観察	29	29	被験者適格性のチェックと登録，CRF作成補助，被験者データ・患者日誌の収集とフォローアップ(クエリー対応)
FN研究	45	45	
J-START		727	
STAR-ReGISTry	2	2	CRF作成補助，被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応)
NY-ESO1抗体研究	10	43	検体採取体制構築と結果への対応，採血スケジュール管理，採血管準備，検体回収
DCV_ASV(OLF研究)	25	25	
SOF_RBV臨床研究	35	35	
SOF_LDV臨床研究	39	39	
NS5A薬剤耐性変異	47	141	

調査名	実施症例数	登録症例数	サポート内容(CRC)
ロンサーフ(大腸癌)	1	5	CRF作成補助，被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応)
イーフェンバッカル(胃癌)	3	3	
TS-1 OD配合錠(胃癌)	5	10	
ランマーク(乳癌)	1	12	
ジオトリフ(肺癌)	2	2	
アレセンサ(肺癌)	1	1	
ハラヴェン(乳癌)	2	2	
ハラヴェン(悪性軟部腫瘍)	1	1	
リュープリンPRO(前立腺癌)	10	10	
リュープリンPRO(乳癌)	10	10	
カドサイラ(乳癌)	1	2	
ダニアレルゲン(小児)	2	10	
オプジーボ(肺癌)	5	5	
タグリッソ(肺癌)	3	4	
副作用報告	5	5	

５．教育活動

薬剤部で受け入れている薬学部学生実務実習（11 週間実習）の学生に対して、治験・臨床研究に関する意義、流れ、被験薬管理、被験者からの同意取得などについて、講義及びロールプレイを行っている。

【研修参加】

平成 28 年度「阪大モニタリング講習」	平成 28 年 6 月 14 日	大阪
第 24 回日本乳癌学会学術総会	平成 28 年 6 月 16 日～ 平成 28 年 6 月 18 日	東京
第 14 回日本臨床腫瘍学会学術集会	平成 28 年 7 月 28 日～ 平成 28 年 7 月 30 日	兵庫
第 10 回 CSP－HOR 年会	平成 28 年 8 月 20 日	東京
第 16 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2016	平成 28 年 9 月 18 日～ 平成 28 年 9 月 19 日	埼玉
第 20 回治験事務局セミナー2016	平成 28 年 11 月 5 日	東京
がん臨床試験のブレイクスルー：まず基盤整備から 第 1 回 CRC の明日を考える	平成 28 年 11 月 6 日	東京
第 37 回日本臨床薬理学会学術総会	平成 28 年 12 月 1 日～ 平成 28 年 12 月 3 日	鳥取
日本臨床試験学会第 8 回学術総会	平成 29 年 1 月 27 日～ 平成 29 年 1 月 28 日	大阪

地域医療連携室の現況

１．スタッフ

室　　長　　福井　弘幸（兼副院長・消化器内科部長・診療情報管理室長）
看護師長　　佐藤　美代子（兼看護部科長・がん相談支援センター看護師長）、尾山　明美
医療ソーシャルワーカー　　北村　尚洋、西　　麻弥
看護師長ほか看護師　２名
ＰＦＩ協力企業職員　常勤　６名、非常勤　２名、広報担当者　２名

２．診療内容

１）広報・地域連携調整業務
広報誌の編集・発行や地域医療機関への訪問。地域医師会との連絡調整など。

①　「やさしいえがお」：患者や一般向けのミニ広報誌。（平成 16 年７月から月１回発行）
900 部発行。

内　　容　　病院の基本理念
病気や治療についてのわかりやすい話、病院からのお知らせ、
院内各科の紹介、かかりつけ医の推奨、紹介・逆紹介の説明、
医療・福祉関連情報

配布場所　　院内　　外来・病棟
院外　　市役所・図書館・出張所・八尾市調剤薬局など
市役所イントラネットの電子書庫及び病院ホームページに掲載

②「地域医療連携室だより」：医療機関向けの広報誌。（平成 17 年２月に第１号発行）
900 部発行。

内　　容　　診療体制の他に講座やイベント、地域連携システムなどの情報提供を２ヶ月に１回作成し、地域医療機関に送付。診療時間予定表については、毎月送付している。また、登録医に対しては、医薬品情報管理室発行の『Ｄｒｕｇ　Ｉｎｆｏｍａｔｉｏｎ　Ｎｅｗｓ』を毎月送付している。

配　　布　　八尾市と登録医を中心とする周辺地域の医療機関及び、大阪府下公立病院・大学病院・奈良県の連携医療機関。

③「地域医療連携室　診療のご案内」：年１回改定（平成 16 年 10 月初版作成）

内　　容　　各科医師の専門分野や当院で可能な検査の説明を、写真を用いて掲載した広報誌。毎年更新している。

活用状況　　医療機関訪問ツールとして、活用し当院への紹介がスムーズに行われるようにしている。訪問時は医療機関の意見、要望を伺い、又当院の状況の説明を行い、より良い医療連携を目指し活動している。平成 28 年度は 1,000 部を印刷発行している。（過去平成 27 年度は 1,000 部・平成 26 年度は 1,000 部）

２）前方支援、後方支援業務および相談業務

看護師の専門性を活かした看護相談と共に医療ソーシャルワーカーによる医療相談を充実させ、外来及び入院患者や家族の様々な相談に対応している。

またニーズに沿った転院や退院の支援を目指し、高齢社会にも対応した保健・医療・福祉サービスの支援を行っている。退院後も在宅支援業者や他の医療機関とも連携し適切な療養が継続できるようにしている。

３）連携事務業務

紹介患者の予約受付と窓口対応を一体として行っている。事前予約受付（診察・各種検査）については、午前８時 30 分～午後８時（夜診のある医療機関対応）までの受入れ体制をとっている。また、ＦＡＸは 365 日 24 時間稼働しており、ＦＡＸによる時間内の予約依頼への返信は、原則 15 分程度としている（繁忙期においては、30 分程度）。入院対応においても当日中に予約票を返信している。

事前予約依頼は平均 41 件／日程度ある。事前予約は当院において最優先で診療される。待ち時間が少なく専門医の診察が受けられるように配慮している。

当日受付の紹介患者来院数は平均 64 名／日となっている。また、逆紹介の患者数は平均 74 名／日となっている。

３．紹介率・逆紹介率の状況

近隣医療機関、介護施設などと連携を積極的に行い、地域の先生方に信頼され、患者に満足・安心して医療を受けて頂けるようにしている。地域医療支援病院の承認後、さらに八尾市医師会を始め、地域の医療機関、関係者の連携強化を図り、紹介率が平成 23 年度は 44.9%、平成 24 年度 46.3%、平成 25 年度 47.7%、平成 26 年度 52.6%、平成 27 年度 52.9%、平成 28 年度 57.5%となっている。逆紹介率では平成 23 年度は 61.7%、平成 24 年度 60.4%、平成 25 年度 64.6%、平成 26 年度 73.5%、平成 27 年度 74.0%、平成 28 年度 83.6%と地域医療支援病院の承認要件をクリアしている。当院が果たすべき医療機能をすすめた成果である。今後も地域の急性期医療を担う中核病院として、医療連携をさらに強固なものとするべく改革している。

４．登録医制度の開始

平成 23 年度に八尾市立病院登録医制度を開始した。中河内２次医療圏においては 315 施設・383 名の先生にご登録いただいている。（内訳　八尾市：237 施設・293 名　柏原市：28 施設・34 名　東大阪市：51 施設・57 名）。医療圏外においても 123 施設・145 名の登録をいただいた。全体として、439 施設・529 名の登録となっている。

各病床に設けた開放型病床は 68 床あり、登録医からの入院依頼に迅速に対応できる体制を整えた。医療機器の共同利用においては、1,526 件の利用があった（上位内訳　ＣＴ：624 件　ＭＲＩ：472 件　内視鏡：142 件）。また、平成 27 年７月に、登録医の医療機関情報案内ツールとして、メディマップ（タブレット）とサイネージ（案内モニター）を導入し、さらなる連携強化に努めている。

診療情報管理室の現況

１．スタッフ

室　　長　　福井　弘幸（兼副院長・地域医療連携室長・消化器内科部長）
ＰＦＩ協力企業職員　　６名(うち診療情報管理士3名)

２．業務内容

１）院内がん登録（地域がん登録・全国集計にデータ提出)、予後調査
２）退院サマリ受取管理、同意書等受取管理
３）診療録監査の実施
４）ＤＰＣ様式１の作成
５）病院臨床指標などの統計データの作成
６）大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム（ＯＲＩＯＮ）への登録

院内がん登録を行い、がん登録全国集計 2015 年症例として 999 件のデータを提出した。また、医師との情報共有のために、2014 年症例の提出データを基に５大癌に関する分析を行い結果をＨＩＭｎｅｗｓで配布した。新たな業務としては、大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム（ＯＲＩＯＮ）への登録を企画運営課から引継ぎ 4,054 件の登録を行った。その他、病院臨床指標データ抽出、病院統計の作成を随時行っている。

１）退院患者統計
①対象患者
平成 28 年４月１日～平成 29 年３月 31 日の期間に退院（転院）した患者
②集計方法
・統計に必要な情報は、退院時要約及び入院カルテより抽出
・１退院を１件として集計
・疾病分類は、厚生労働省大臣官房調査部編第 10 回修正「疾病、傷害および死因統計分類提要ＩＣＤ－10 準拠」を使用
③統計
・ＩＣＤ－10 国際疾病分類統計別退院患者数
・診療科別・上位３疾病退院患者数
・診療科別・男女別・ＩＣＤ－10 国際疾病分類統計別退院患者数
・年齢別・男女別・ＩＣＤ－10 国際疾病分類統計別退院患者数
・悪性新生物患者数（部位別・男女別）
・大分類別・男女別・国際疾病分類統計（死亡統計）
・年齢別・診療科別・国際疾病分類統計（死亡統計）

◆国際疾病分類統計/退院患者数

（単位：人）

章	ICD-10分類	分　類	退院患者		総計
			退院	死亡	
Ⅰ	A00-B99	感染症および寄生虫症	313	8	321
Ⅱ	C00-D48	新生物	2,510	197	2,707
Ⅲ	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	99	0	99
Ⅳ	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	343	2	345
Ⅴ	F00-F99	精神および行動の障害	6	1	7
Ⅵ	G00-G99	神経系の疾患	129	0	129
Ⅶ	H00-H59	眼および附属器の疾患	16	0	16
Ⅷ	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	241	0	241
Ⅸ	I00-I99	循環器系の疾患	1,334	23	1,357
Ⅹ	J00-J99	呼吸器系の疾患	1,362	20	1,382
ⅩⅠ	K00-K93	消化器系の疾患	1,057	14	1,071
ⅩⅡ	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	80	0	80
ⅩⅢ	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	259	2	261
ⅩⅣ	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	585	6	591
ⅩⅤ	O00-O99	妊娠、分娩および産褥	920	0	920
ⅩⅥ	P00-P99	周産期に発生した病態	171	0	171
ⅩⅦ	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	45	0	45
ⅩⅧ	R00-R99	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	56	1	57
ⅩⅨ	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	824	0	824
ⅩⅩ	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因　および保険サービスの利用	1	0	1
総　計			10,351	274	10,625

◆診療科別　上位3位疾病退院患者数

（単位：人）

診療科	ICD-10	病　名	合計
全科	O80	単胎自然分娩	486
	I20	狭心症	392
	T78	有害作用、他に分類されないもの	328
内科	E11	インスリン非依存型糖尿病	180
	J18	肺炎、病原体不詳	65
	E14	詳細不明の糖尿病	51
血液内科	C83	びまん性非ホジキンリンパ腫	32
	D46	骨髄異形成症候群	32
	J18	肺炎、病原体不詳	20
消化器内科	C16	胃の悪性新生物	89
	C22	肝および肝内胆管の悪性新生物	77
	K63	腸その他の疾患	69
循環器内科	I20	狭心症	389
	I70	アテローム硬化（症）	157
	I50	心不全	142
外科	C34	気管支および肺の悪性新生物	278
	C18	結腸の悪性新生物	170
	C16	胃の悪性新生物	132
乳腺外科	C50	乳房の悪性新生物	267
	D48	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物	18
	C78	呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	7
脳神経外科	S06	頭蓋内損傷	24
	I63	脳梗塞	17
	C79	その他の部位の続発性悪性新生物	13
整形外科	S83	膝の関節および靭帯の脱臼、捻挫およびストレイン	81
	S72	大腿骨骨折	66
	M17	膝関節症	49

診療科	ICD-10	病　名	合計
形成外科	S68	手首および手の外傷性切断	69
	I83	下肢の静脈瘤	47
	C50	乳房の悪性新生物	28
産婦人科	O80	単胎自然分娩	486
	O34	既知の母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	88
	D25	子宮平滑筋腫	54
小児科	T78	有害作用、他に分類されないもの	317
	J18	肺炎、病原体不詳	163
	J20	急性気管支炎	127
耳鼻咽喉科	J35	扁桃およびアデノイドの慢性疾患	136
	H91	その他の難聴	107
	J32	慢性副鼻腔炎	81
泌尿器科	C67	膀胱の悪性新生物	178
	C61	前立腺の悪性新生物	164
	N20	腎結石および尿管結石	122
皮膚科	B02	帯状疱疹	13
	L03	蜂巣炎	3
	B01	水痘	2
麻酔科	I46	心停止	1
	C34	気管支および肺の悪性新生物	1
	C53	子宮頚（部）の悪性新生物	1
放射線科	C34	気管支および肺の悪性新生物	14
	C79	その他の部位の続発性悪性新生物	7
	C77	リンパ節の続発性および部位不明の悪性新生物	4
歯科口腔外科	K04	歯髄および根尖部歯周組織の疾患	52
	K09	口腔部のう胞、他に分類されないもの	36
	K01	埋状歯	22

◆診療科別/男女別　国際疾病分類統計

章	ICD-10分類	分　類	内科		血液内科		消化器内科		循環器内科		外科		乳腺外科		脳神経外科		整形外科	
			男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
Ⅰ	A00-B99	感染症および寄生虫症	4	9	7	2	41	35	5	5	2	6	0	0	0	1	0	0
Ⅱ	C00-D48	新生物	5	2	93	67	204	151	9	3	648	341	0	300	14	10	0	3
Ⅲ	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	0	1	8	18	7	9	1	2	3	3	0	2	0	0	0	0
Ⅳ	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	140	122	0	0	5	6	8	7	3	2	0	0	0	0	0	0
Ⅴ	F00-F99	精神および行動の障害	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
Ⅵ	G00-G99	神経系の疾患	2	3	0	2	2	1	3	5	0	1	0	0	9	3	3	2
Ⅶ	H00-H59	眼および附属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅷ	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
Ⅸ	I00-I99	循環器系の疾患	32	30	1	0	7	13	732	390	12	8	0	1	43	21	3	2
Ⅹ	J00-J99	呼吸器系の疾患	59	53	15	13	24	17	47	33	58	11	0	1	1	0	0	2
ⅩⅠ	K00-K93	消化器系の疾患	1	1	1	2	288	240	0	2	202	120	0	0	0	0	0	0
ⅩⅡ	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	2	5	2	0	1	0	2	3	1	0	0	2	0	0	0	0
ⅩⅢ	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	3	4	1	2	3	3	1	0	2	1	0	0	0	5	76	95
ⅩⅣ	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	4	23	2	4	5	13	9	12	0	4	0	1	0	0	0	0
ⅩⅤ	O00-O99	妊娠、分娩および産褥	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅥ	P00-P99	周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅦ	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2	1	0
ⅩⅧ	R00-R99	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	2	3	1	1	4	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0
ⅩⅨ	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	1	3	2	0	5	4	4	4	9	8	0	0	16	11	160	134
ⅩⅩ	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因　および保険サービスの利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総　計			254	272	135	111	594	496	822	468	941	508	0	307	83	53	244	238

◆年齢別/男女別　国際疾病分類統計

章	ICD-10分類	分　類	6歳未満		6歳未満合計	6歳以上10歳未満		6歳以上10歳未満合計	10歳以上16歳未満		10歳以上16歳未満合計	16歳以上20歳未満		16歳以上20歳未満合計	20歳代		20歳代合計
			男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性	
Ⅰ	A00-B99	感染症および寄生虫症	51	46	97	25	11	36	24	11	35	4	4	8	9	10	16
Ⅱ	C00-D48	新生物	9	2	11	1	3	4	1	2	3	0	1	1	4	14	29
Ⅲ	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	18	5	23	2	2	4	2	2	4	0	1	1	0	2	1
Ⅳ	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	11	10	21	5	4	9	11	6	17	1	0	1	2	7	9
Ⅴ	F00-F99	精神および行動の障害	0	1	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅵ	G00-G99	神経系の疾患	20	16	36	5	4	9	6	5	11	1	0	1	3	1	1
Ⅶ	H00-H59	眼および附属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅷ	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	14	3	17	10	8	18	10	3	13	2	6	8	4	2	4
Ⅸ	I00-I99	循環器系の疾患	2	0	2	0	0	0	2	1	3	4	0	4	2	0	5
Ⅹ	J00-J99	呼吸器系の疾患	274	236	510	67	67	134	41	33	74	14	13	27	49	44	68
ⅩⅠ	K00-K93	消化器系の疾患	13	10	23	10	2	12	13	10	23	8	8	16	6	19	28
ⅩⅡ	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	7	9	16	1	6	7	3	1	4	2	1	3	5	1	0
ⅩⅢ	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	30	13	43	2	1	3	2	3	5	5	1	6	4	2	4
ⅩⅣ	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	20	8	28	4	1	5	2	6	8	1	2	3	6	15	23
ⅩⅤ	O00-O99	妊娠、分娩および産褥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	17	0	273	291
ⅩⅥ	P00-P99	周産期に発生した病態	96	72	168	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
ⅩⅦ	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	14	3	17	3	2	5	3	1	4	2	1	3	0	3	3
ⅩⅧ	R00-R99	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	18	15	33	2	2	4	0	1	1	0	0	0	1	1	5
ⅩⅨ	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	191	86	277	39	16	55	19	16	35	25	7	32	43	10	51
ⅩⅩ	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因および保険サービスの利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総　計			788	535	1,323	176	131	307	139	101	240	69	62	131	138	405	538

（単位：人）

形成外科		産婦人科		小児科		泌尿器科		皮膚科		耳鼻咽喉科		麻酔科		放射線科		歯科口腔外科		総計	男性総計	男性比率	女性総計	女性比率
男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性					
1	0	0	4	97	67	1	0	9	7	11	7	0	0	0	0	0	0	321	178	55.45%	143	44.55%
20	44	0	219	3	2	396	53	0	0	27	29	0	2	17	11	15	19	2,707	1,451	53.60%	1,256	46.40%
1	0	0	4	22	8	8	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	99	51	51.52%	48	48.48%
2	0	0	0	27	20	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	345	187	54.20%	158	45.80%
0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	2	28.57%	5	71.43%
0	0	0	1	15	18	0	0	0	0	35	24	0	0	0	0	0	0	129	69	53.49%	60	46.51%
4	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	16	4	25.00%	12	75.00%
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110	129	0	0	0	0	0	0	241	110	45.64%	131	54.36%
24	32	0	0	3	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1,357	857	63.15%	500	36.85%
1	0	0	1	320	293	6	0	0	0	248	179	0	0	0	0	0	0	1,382	779	56.37%	603	43.63%
0	4	0	8	24	12	2	2	0	0	8	10	0	0	0	0	56	88	1,071	582	54.34%	489	45.66%
15	7	0	2	10	16	0	0	2	1	5	2	0	0	0	0	1	1	80	41	51.25%	39	48.75%
9	4	0	1	31	15	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	261	129	49.43%	132	50.57%
2	0	0	155	24	14	212	105	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	591	258	43.65%	333	56.35%
0	0	0	908	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	920	0	0.00%	920	100%
0	0	0	3	96	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	171	96	56.14%	75	43.86%
3	4	0	1	8	1	3	1	0	0	11	4	0	0	0	0	2	1	45	29	64.44%	16	35.56%
0	0	0	0	20	18	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	57	29	50.88%	28	49.12%
100	20	0	8	222	101	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	7	824	523	63.47%	301	36.53%
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.00%	1	100%
182	126	0	1,316	922	661	632	162	11	8	459	392	0	4	17	11	79	117	10,625	5,375	50.59%	5,250	49.41%

（単位：人）

30歳代		30歳代合計	40歳代		40歳代合計	50歳代		50歳代合計	60歳代		60歳代合計	70歳代		70歳代合計	80歳代		80歳代合計	90歳以上		90歳以上合計	総計
男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		
3	4	7	4	2	6	8	6	14	15	11	26	23	23	46	12	14	26	0	1	1	321
8	49	57	52	214	266	111	191	302	367	293	660	640	330	970	246	142	388	12	15	27	2,707
0	4	4	3	6	9	3	3	6	7	4	11	11	9	20	4	7	11	1	3	4	99
10	14	24	21	17	38	24	14	38	46	37	83	43	32	75	11	15	26	2	2	4	345
0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	7
5	4	9	5	3	8	4	3	7	8	6	14	5	10	15	7	7	14	0	1	1	129
0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	4	6	1	3	4	0	5	5	0	0	0	16
4	12	16	6	12	18	13	19	32	32	33	65	13	23	36	2	10	12	0	0	0	241
10	5	15	40	24	64	92	23	115	214	110	324	327	195	522	158	123	281	6	19	25	1,357
40	26	66	41	20	61	32	20	52	58	40	98	85	44	129	61	42	103	17	18	35	1,382
23	26	49	59	36	95	75	53	128	120	85	205	160	127	287	85	98	183	10	15	25	1,071
4	4	8	2	1	3	6	3	9	2	5	7	5	3	8	4	3	7	0	2	2	80
5	0	5	9	5	14	12	5	17	24	29	53	24	43	67	12	29	41	0	1	1	261
6	35	41	24	79	103	26	35	61	55	38	93	72	71	143	40	33	73	2	10	12	591
0	550	550	0	80	80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	920
0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	171
2	2	4	1	0	1	1	1	2	1	2	3	1	1	2	1	0	1	0	0	0	45
1	0	1	1	1	2	0	2	2	4	1	5	1	1	2	1	3	4	0	1	1	57
28	10	38	52	15	67	35	13	48	40	36	76	39	46	85	10	35	45	2	11	13	824
0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
149	748	897	321	515	836	442	392	834	996	734	1,730	1,451	962	2,413	654	566	1,220	52	99	151	10,625

◆悪性新生物患者数（部位別/男女別）

（単位：人）

中分類	中分類部位		男性		女性		合計		総計
			退院	死亡	退院	死亡	退院	死亡	
口唇、口腔および咽頭	C02	舌のその他および部位不明	4	0	7	0	11	0	11
	C03	歯肉	1	2	10	1	11	3	14
	C04	口（腔）底	0	0	1	0	1	0	1
	C05	口蓋の悪性新生物	1	0	0	0	1	0	1
合　計			6	2	18	1	24	3	27
消化管	C15	食道	37	7	11	3	48	10	58
	C16	胃	164	26	89	11	253	37	290
	C17	小腸	2	0	1	0	3	0	3
	C18	結腸	90	7	106	20	196	27	223
	C19	直腸S状結腸移行部	0	1	0	0	0	1	1
	C20	直腸	53	6	35	3	88	9	97
	C21	肛門および肛門管の悪性新生物	1	0	0	0	1	0	1
	C22	肝および肝内胆管	139	17	39	5	178	22	200
	C23	胆のう＜嚢＞	6	1	6	0	12	1	13
	C24	その他および部位不明の胆道	16	3	5	3	21	6	27
	C25	膵	48	5	24	6	72	11	83
合　計			556	73	316	51	872	124	996
呼吸器および胸腔内臓器	C32	喉頭	2	0	1	0	3	0	3
	C34	気管支および肺	98	21	63	7	161	28	189
	C38	心臓、縦隔および胸膜の悪性新生物	1	0	0	0	1	0	1
合　計			101	21	64	7	165	28	193
皮膚	C43	皮膚	0	0	0	1	0	1	1
	C44	皮膚のその他の悪性新生物	6	1	0	0	6	1	7
合　計			6	1	0	1	6	2	8
中皮および軟部組織	C45	中皮腫	2	1	0	0	2	1	3
	C48	後腹膜および腹膜	0	0	7	0	7	0	7
合計			2	1	7	0	9	1	10
乳房	C50	乳房	5	0	225	13	230	13	243
合　計			5	0	225	13	230	13	243
女性生殖器	C53	子宮頚（部）	0	0	18	3	18	3	21
	C54	子宮体部	0	0	66	0	66	0	66
	C56	卵巣	0	0	26	1	26	1	27
合　計			0	0	110	4	110	4	114
男性生殖器	C61	前立腺	173	10	0	0	173	10	183
	C62	精巣＜睾丸＞	3	0	0	0	3	0	3
合　計			176	10	0	0	176	10	186
尿路	C64	腎盂を除く腎	16	1	7	1	23	2	25
	C65	腎盂	15	0	1	1	16	1	17
	C66	尿管	19	2	0	1	19	3	22
	C67	膀胱	121	4	28	2	149	6	155
	C68	その他および部位不明の尿路	6	0	0	0	6	0	6
合　計			177	7	36	5	213	12	225
眼、脳および中枢神経系のその他の部位	C71	脳	1	0	3	1	4	1	5
合　計			1	0	3	1	4	1	5
甲状腺およびその他の内分泌腺	C73	甲状腺	3	0	4	0	7	0	7
合　計			3	0	4	0	7	0	7
部位不明確、続発部位および部位不明	C77	リンパ節の続発性および部位不明	9	0	4	0	13	0	13
	C78	呼吸器および消化器の続発性	36	0	31	3	67	3	70
	C79	その他の部位の続発性	12	0	21	1	33	1	34
	C80	部位の明示されない	3	1	9	1	12	2	14
合　計			60	1	65	5	125	6	131
リンパ組織、造血組織および関連組織	C81	ホジキン病	3	0	0	0	3	0	3
	C82	ろ胞性[結節性]非ホジキンリンパ腫	7	0	7	2	14	2	16
	C83	びまん性非ホジキンリンパ腫	26	3	14	3	40	6	46
	C84	末梢性および皮膚T細胞リンパ腫	7	1	1	1	8	2	10
	C85	非ホジキンリンパ腫のその他および部位不明の型	9	0	10	2	19	2	21
	C90	多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	1	0	6	3	7	3	10
	C91	リンパ性白血病	4	4	6	1	10	5	15
	C92	骨髄性白血病	8	4	7	2	15	6	21
	C95	細胞型不明の白血病	2	0	0	0	2	0	2
合計			67	12	51	14	118	26	144
上皮内新生物	D06	子宮頚（部）の上皮内癌	0	0	7	0	7	0	7
	D09	その他および部位不明の上皮内癌	2	0	0	0	2	0	2
合　計			2	0	7	0	9	0	9
総　計			1,162	128	906	102	2,068	230	2,298

◆大分類別/診療科別　国際疾病分類統計（死亡統計）

（単位：人）

章	分類	分類コード	ICD-10	内科		血液内科		消化器内科		循環器内科		外科		乳腺外科		脳神経外科		産婦人科		小児科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		麻酔科		歯科口腔外科		総計
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
Ⅰ	感染症および寄生虫症	A00-B99	A4	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
			B1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			B5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Ⅱ	新生物	C00-D48	C0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
			C1	1	0	0	0	10	9	0	0	29	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	75
			C2	1	0	0	0	15	12	0	0	16	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49
			C3	0	0	0	0	1	0	0	0	20	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
			C4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
			C5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	12	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
			C6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	4	0	0	0	0	22
			C7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
			C8	0	0	4	9	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
			C9	0	0	8	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
			D3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			D4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
Ⅲ	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-D89	D6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Ⅳ	内分泌、栄養および代謝疾患	E00-E90	E1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Ⅸ	循環器系の疾患	I00-I99	I0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			I1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			I2	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			I4	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			I5	0	0	1	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
			I6	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6
			I7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
Ⅹ	呼吸器系の疾患	J00-J99	J1	0	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
			J4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			J6	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
			J8	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ⅩⅠ	消化器系の疾患	K00-K93	K5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			K6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			K7	0	0	0	0	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
			K8	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ⅩⅣ	腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	N1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			N3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ⅩⅥ	周産期に発生した病態	P00-P99	P9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ⅩⅧ	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	R6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			R9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ⅩⅨ	損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	T1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
診療科別/男女別合計				6	7	17	14	37	31	13	8	70	39	0	13	1	4	0	5	1	0	1	1	17	7	1	0	2	1	296
総計				13		31		68		21		109		13		5		5		1		2		24		1		3		

◆年齢別/診療科別　国際疾病分類統計（死亡統計）

（単位：人）

年代別	内科		血液内科		消化器内科		循環器内科		外科		乳腺外科		脳神経外科		産婦人科		小児科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		麻酔科		歯科口腔外科		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
6歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
20歳代	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
30歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
40歳代	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
50歳代	0	0	1	0	5	1	1	0	10	6	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	30
60歳代	1	0	6	1	8	8	1	0	19	9	0	6	0	2	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	0	66
70歳代	3	0	6	1	16	10	5	4	22	13	0	2	0	0	0	4	0	0	0	0	6	4	1	0	1	0	98
80歳代	2	4	4	11	7	8	5	1	16	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	8	1	0	0	1	0	80
90歳以上	0	3	0	0	0	4	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
診療科別/男女別合計	6	7	17	14	37	31	13	8	70	39	0	13	1	4	0	5	1	0	1	1	17	7	1	0	2	1	296
総　計	13		31		68		21		109		13		5		5		1		2		24		1		3		

医療安全管理室の現況

１．スタッフ

室　　長　　池本　慎一（兼診療局次長・泌尿器科部長）
医療安全管理者　　山中　トモエ（兼看護部次長）

２．活動内容

医療安全全体統括のため、医療安全管理室内の会議を定期的に開催し、以下のとおり医療安全に関する活動に取り組んだ。

①インシデント事例報告の収集・分析・評価
②アクシデント報告の収集・分析・評価
③医療事故防止対策の具体的内容の検討
④委員会決定事項の伝達
⑤医療事故防止の教育・啓発
⑥医療事故のサポート
⑦セーフティマネージャーの統括・指導
⑧医療安全推進部会院内ラウンド
⑨患者サポート相談窓口の充実
⑩教育活動への参加

３．活動実績

１）インシデント/アクシデントの分析

インシデント/アクシデントについては、医療安全管理委員会（毎月第２月曜日開催）や医療安全推進部会（毎月第４月曜日開催）を通じ情報の提供・改善内容の周知を図っている。

①月報（インシデント・アクシデントの集計や傾向）　②研修会の内容報告
③インシデント事例から
・転倒・転落に対する対策　・口頭指示受け時の対応対策　・患者誤認に対する対策
・針刺し事故防止対策　・誤薬防止対策

２）医療安全推進部会による院内ラウンドとラウンド後のカンファレンス実施

６月～２月（第４月曜日／月）医療安全に必要な項目（注射点滴手順チェック、麻薬の取扱い、環境、物品・薬剤、器械・器材、基準遵守状況）を院内ラウンドによりチェックし改善対応策を検討するとともに、改善方針の院内周知を図った。

３）部署別セーフティカンファレンスの実施（１回以上／月）

院内で発生したインシデントを分析し、発生部署においてセーフティカンファレンスを行い、改善を図るとともに再発防止に努めた。

４）周術期血栓対策部会の活動

①周術期血栓対策部会（６回／年）を開催し血栓予防対策に関する周知を図った

５）教育・研修の実施

①研修医及び新規採用者・中途採用者（看護師）・ナースエイド・外来クラーク・実施指導者・看護係長などを対象にセーフティ研修を実施した。
②全職員を対象としたセーフティ研修（３回／年　補正研修各２回／年）

年間計画を策定し、様々な視点から、安全な医療への意識向上を目的に研修を実施した。

テーマ　・針刺し損傷の予防について

・医療機関における医薬品、医療器具に関連する医療事故防止対策

・転倒・転落、記録の書き方について

参加状況は 75.9%であった。

6）医療事故防止対策標語の設定（12 枚発行）

7）院内医療安全情報の発行（6 号発行）とインシデント発生によりトピックス情報を発信し注意喚起を図った。

8）大阪府看護協会府東支部　医療安全管理者交流会への参加（4 回/年）と研修会の実施

平成 28 年 12 月 2 日(金)18 時～20 時に八尾徳洲会総合病院　3 階会議室にて、吹田徳洲会総合病院　医療安全管理責任者の水摩明美先生を講師に迎え「コンフリクト・マネジメント」患者家族の複合的なニーズに応える医療メディエーションをテーマに医療安全講演会を開催した。府東支部の医療施設より 96 名の参加あった。講演後のアンケート結果では、ロールプレイやグループワークも取り入れた研修で分かりやすかったと全体評価も良く、医療安全に対する意識向上を図ることができた。

感染対策管理室の現況

１．スタッフ

室　　長　　兒玉　　憲（兼特命院長）
感染管理者　　甲斐　幸代（兼看護係長）

２．活動内容

医療関連感染を防止し、アウトブレイクの発生時には、すみやかに対応し、感染対策防止に努めている。

１）抗菌薬適正使用
　①ＭＥＰＥの適正使用
　②広域抗菌薬の長期投与の把握
２）手指消毒剤の使用
　①毎月の手指消毒剤の使用量の把握
３）環境ラウンド
４）アウトブレイク０を目指して
　①毎月の耐性菌などの検出の把握
５）感染対策地域加算連携

３．活動実績

１）抗菌薬の適正使用
　①ＭＥＰＥの適正使用：平成 28 年度 11 月から毎週火曜日に全科のＭＥＰＥ使用患者を把握し、テンプレートを作成し、入院経過から、抗菌薬の適正使用について検討を行った。
　テンプレートに検討内容を記載し、抗菌薬の変更など提案した。
　②広域抗菌薬の 14 日間以上の使用を把握
　入院経過から、介入が必要な症例をピックアップし、抗菌薬の適正使用に関する提案を行い、症例検討案はカルテに記載を行った。
　平成 28 年度は 67 件の介入施行を行った。主な提案内容は、最適治療への変更で、次に細菌培養の提出依頼などが多かった。
２）手指衛生の徹底
　手指消毒剤の使用量が少ない現状があり、平成 28 年度は、手指衛生に関して２回の講習会を開催した。また、ＩＣＴニュースやポスター掲示にて、啓蒙活動を施行。また、感染リンクナース委員会では、手指衛生に関する勉強会を施行した。今年度は、リンクナースによる直接観察法を取り入れて、ラウンドなどを施行した。また、現在の手指消毒剤の使い勝手も悪く、手指消毒剤の見直しを図りながら、使用しやすい設置場所の検討を行っていく。

３）環境ラウンドの強化

平成 28 年度４月から、４職種による院内ラウンドを開始した。

第１・３火曜日：８階東西、７西、５東、ＩＣＵ、通院治療センター、内視鏡センターなど。
耐性菌の検出の多い病棟や、注意喚起が必要な部署。

第２・４火曜日：７東、６階東西、５西、外来ブース。
水回りを中心に、チェックリストを用いて評価。評価は、各部署へフィードバックした。しかし、改善出来ていないところもあり、来年度からは、チェックリスト項目を直し、詰め所のパソコンや聴診器の管理などの項目を追加する予定。また、環境ふきとり調査も開始し、環境整備の強化も行っていく。

４）アウトブレイク０を目指して

日々の耐性菌の検出状況を把握して、各部署でアウトブレイクしていないか判断し、平成 28 年度は、耐性菌によるアウトブレイクを起こすことはなかった。来年度も引き続きアウトブレイク０を目指して活動を行う。

５）感染対策地域加算

平成 28 年度は、加算１・２連携のカンファレンスを８回開催した。ラウンドも施行し、加算２の施設を１施設施行。毎月の加算１・２連携の施設では、耐性菌の検出状況や抗菌薬の使用状況を報告した。

看 護 部 の 現 況

看護部の現況

看護部理念

1.患者･家族の価値観やニーズを尊重し､満足していただける心ある看護を提供します。
2.高度な医療に伴った質の高い看護を提供します。
3.健全な病院経営の一端を担います。

平成 28 年度看護部目標

1）質の高い看護を提供する為に、教育環境を整え人材育成に取り組みます。
2）安全・安心な看護実践のため、最良の看護体制を考慮し、看護業務の構築を図ります。
3）看護の視点を大切にし、病院経営に参画します。
4）品格のある看護部として接遇教育の充実を図ります。

看護体制

平成 28 年度は常勤看護職員 312 名と非常勤看護職員 88 名の合計 400 名でスタートした。看護体制 7 対 1 、看護補助体制加算 75 対 1 を維持するために人員確保は、最も重要なところであるが、離職率が前年度同様の 7.15%であった。

今年度は診療報酬の改定により重症度、医療・看護必要の基準見直しや施設基準の変更が大幅に見受けられ、基準達成に向けて検証が重要となった。看護部としては、退院支援などの地域連携の強化や認知症ケアなどの看護職員の教育が早急に求められたが、認知症看護認定看護師の育成には至らなかった。しかし、看護師３名が認知症ケア専門士の資格取得を得ることが出来た。また、がん診療連携拠点病院としての役割拡充に向けても対応できるよう、専門性を強化する看護職員の育成が必然であったが、その第一段階として特筆すべきことは、特定行為研修の修了者を輩出したことである。今後の課題としては、特定行為研修を修了した皮膚排泄ケア認定看護師が、褥瘡ケア･創傷ケア等に対し迅速な対応ができるシステムを早急に構築しなければならない。今後も時代を反映した病院の経営方針に則って看護部の組織の体制強化に取り組んでいく。

1）健全経営

看護体制 7 対 1 を維持するためには人員確保は最も重要なところである。今年度も看護専門学校や看護大学へ出向し就職説明会に積極的に参加し、病院のアピールを行った。離職率は今年度 7.15%で、例年と大きな変化はなく、看護職員数も前年度と比較して大幅な増員が望めない結果となった。また、人員確保として院内保育所が設立されたことで、育休による休職が若干減少している。特に、長期（２～３年）が、前年度は８名であったたが、今年度は４名になった。また、曜日に規制はあるが、夜勤にも対応できる体制となった。今後も人員確保と看護職員の定着化をめざして、働きやすい職場づくりを推進していかなければならない。7 対 1 看護配置は、毎月現状確認を密に実施することで助勤体制の確立を図っていた。必要とする看護師配置は外来等の協力により維持できた。重症度、医療・看護必要度は、病棟群としての基準値は達成できているが、病棟単位では基準値を下回る部署もある。今後の傾向を注視して、病棟編成も視野に入れた対応が求められる。ナースエイドは随時採用し、勤務時間を変更するなど

働きやすい勤務シフトを考慮した結果、病棟配置で 75 対 1 をキープすることができた。また、外来においてもナースエイドによる看護業務補助の要望が多く、内視鏡室と放射線科、通院治療センターへ配置し看護師の業務負担軽減を図ることができた。前年度から目標としていた、周産期センターの機能向上への取り組みとして掲げていた、助産外来の設立については、今年度中にシステムの構築ができた。次年度４月から活動を開始する運びとなった。

２）看護の質向上

看護部教育委員会は前年度の評価を踏まえて、研修企画の見直しを行っている。また、学研ナーシングのｅラーニングを引き続き取り入れ、看護職員の教育環境を整えることができた。今年度は、例年以上にｅラーニングの活用を推奨したり、院内での集合研修に活用したりして、受講率は上昇した。引き続いて、ｅラーニングの更なる活用促進に向けての対策を講じていく必要がある。クリニカルラダーに関しては、公立病院協議会看護部長会において、看護管理者用のラダー（Ｍラダー）を作成した。今後は当院に即したＭラダーに修正して、実用化に向けて構築していかなければならない。専門性を持った看護師育成については、特定行為研修修了者と糖尿病看護認定看護師を誕生させることができた。今後の活躍を期待するとともに、専門性を発揮できる環境の構築が急がれる。看護研究の推進については、研究推進委員会と倫理委員会が成果を上げる努力をしていた。院内研究発表を例年通りに実施していたが、今年度は特に実践に活かせる内容であった。次年度に開催される学会においての演題発表に繋がると考える。残念ながら今年度の院外学会発表は、前年度より少なく８題の演題となった。ただし、院外学会発表した内の１題は優秀演題の推薦を受け、全国自治体病院協議会雑誌 2017 年第４号に掲載されるほど、他者からも認められる内容であった。

３）医療安全

医療安全に関しては、今年度も多くのインシデントが発生した。中でも針刺し事故は例年より多く発生していた。それらは基準やマニュアルを遵守しなかったことやコミュニケーション不足から発生している。また、前年度同様に多発していた薬剤に関するインシデント・アクシデントについても引き続き薬剤の作用や管理方法等の理解を深めるよう知識向上のための意識付けを喚起していかなければならない。

平成 28 年度診療報酬改定により、急性期病院としての医療機能を維持するために、重症度、医療・看護必要度の精密な分析と７対１看護体制の堅持が重要となっている。また、時代の要請である地域包括ケアをどのような形でシステム化できるのかも課題である。このように山積する課題の解消に向け、看護部は、病院の基本方針に沿った強固な看護体制の構築に向けた取り組みを一層推進していくものである。

１．看護部委員会活動状況

委員会名	目　的	計　　画	活動内容
業務委員会	1. 看護基準･手順の見直し作成を行い､日々の看護実践に活用し､安全性と標準化を図る。	1. 根拠に基づいた実践的な看護基準・手順であるか内容の見直しと充実を図る。	1. 業務が安全に統一した看護実践が出来るように、ナーシングメソッドの手順内容と当院の看護手順を検証し、見直しを行った。「静脈ポートの穿刺・抜去」や「ヘパリンロック」は手順内容の不備でインシデントが発生したため、内容を検証しわかり易く整理し改善した。ムリ・ムラ・ムダがないか検証をしているが、簡潔に誰が見ても理解しやすくすると共に、根拠の記載の必要性は必須である。また、今後、フローチャート形式も充実させ、誰が見てもわかりやすく整理し使いやすい手順書にしていきたい。看護基準については、今年度、日本看護協会で看護業務基準の改定が行われており、看護を取り巻く状況変化に合わせた内容であるか確認しながら、次年度、看護基準の見直しを行っていきたい。
	2. 看護体制や看護方式の変更､診療報酬改定による業務の見直し･改善を行い効果的な看護サービスを提供する。	2. 業務の問題点を抽出し、業務改善に取り組む。	2. より良い看護サービスを効率的に行えるよう業務の見直しを行った。ＰＮＳでは、日々の担当看護師がわかるように検討し、ベッドサイドに名刺サイズのラベルに名前を記入し表示方法を統一した。12 月に看護師、看護補助者の業務量調査を行った結果、直接看護より間接看護の方が多く、記録や申し送りに時間がかかっていることがわかった。次年度は、明らかになった課題に取り組み、業務改善を行っていく。
		3. 看護補助者業務内容、マニュアルの見直しを行い、協働体制を整える。	3. 看護補助者手順の追加や、休日業務の見直しを行い、看護補助者業務範囲の拡大に向けて取り組んだ。清潔ケアの介助については、1 病棟でしか実施できていない状況である。今後業務内容の見直しと現場での指導を行いながら協働体制を整えていきたい。
	3. 環境面､物品面の整備を行い、業務の統一を図る。	4. 各部署の環境面の整理と使用物品の統一を図る。	4. 安全管理の視点で職場環境を整え、安全に業務が行なえるよう５Ｓ活動を行った。詰所内の掲示物やテーブル、薬品庫などの写真を撮り、整理整頓の意識付けを行った。 洗濯物の提出方法が統一出来ていなかったため、洗濯一覧表を作成した。看護師、ナースエイド共に決められた通り取り扱うことができるようになり円滑に行えるようになった。
教育委員会	1. 専門職業人としての知識・技術を確実に習得し､質の高い看護実践能力を開発する。 2. 患者様を尊重し､心のこもったケア､接遇ができる人格形成を行う。 3. 他職種とのお互いの専門性を理解し合い､チームの一員としての役割行動ができる社会人の育成を行う。	1. 新人看護職員研修の充実を図る。	1. 今年度の新人看護職員は 22 名（助産師４名を含む）であった。新人看護職員研修は努力義務化から６年が経過し定着化している。部署ごとの取り組みも新人看護師の成長に合わせ新人看護師の強みを活かしながら着実な成長を支援できたと考える。 教育委員、実施指導者、プリセプター、プリセプティの自己評価については上級者より「支援を受けている」の項目が高く、指導する側の自己評価として「支援できている」「手順に沿って指導できている」が低い傾向にあり、特にプリセプターでは、その傾向が強く出ている。 指導する側、支える側が自己肯定できるように所属長、教育委員と共に承認とポジティブな働きかけを行い、経験からよりよい学びができることを目指したい。
	4. 主体的に学習し､研究態度をもち、自己研鑽ができる。	2. 看護に必要な最新の知識を習得し、看護実践に結びつく研修を計画する。	2. 課題である教育研修計画については、自施設に求められる役割から考える看護実践能力を高めるための研修プログラムへと修正を繰り返している。 すべての看護職員が学習の機会を得られるように研修計画に組み込むと共に、e ラーニングを活用した学習支援を継続して実施している。 ステップ別研修の参加者延べ人数 905 名､院外研修参加者 459 名、学会参加者 41 名であった。
		3. 認定看護師の育成・支援活動。	3. 認定看護師の育成・活動支援 がん看護関連の認定看護師によるがん看護ベーシックコースを開催し８名が修了した。 企画・講師を担当した認定看護師がモデルナースとなり今後認定看護師を目指したいと考える職員への良い刺激となった。 また、認定看護師は地域の医療従事者、住民への講演など積極的に活動している。 目標であった新たな認定看護師として、糖尿病看護認定看護師が１名誕生した。 今後も看護の質の保証と看護実践能力の向上のためリソースナースの積極的な活用と支援を継続する。

委員会名	目　的	計　　画	活動内容
接遇委員会	1. 接遇マナーの向上を図る。 2. 質の良い看護を提供する。	1. 接遇マナーの実践力を高める。 2. 八尾市立病院の看護師スタイルと接遇マナーを徹底する。 3. 接遇に関する啓蒙活動への取り組みを計画し、実践的な理解ができるようにする。	1. 接遇目標の設定 接遇マナーの向上に向けてスタッフ全員で取り組んだ。目標達成度は総合的に毎月 80%を越えた。 2. 接遇強化月間・接遇ラウンドの実施 院内全体で 10 月の１か月間を強化月間として取り組んだ。接遇強化月間のポスターを作成し各部署に配布した。また、接遇アンケートを実施し接遇に対しての意識向上に努めた。接遇ラウンドは、６月に看護師スタイルの徹底を図るため、身だしなみのチェックを行った。10 月は身だしなみに加え接遇マナーに関するチェックを行い各部署の評価、指導を行った。 3. 勉強会の開催・接遇だよりの発信 接遇マナーに関する題材で毎月勉強会を開催できた。 院内全体でも外部講師による接遇研修が開催できた。 ２か月に１回、接遇だよりを更新して、接遇マナー向上への意識付けを行った。 接遇に関する問題点や意見を情報として検討し、結果を各部署の職員に周知し病院全体の問題点としてとらえ接遇に対する意識を高めた。
臨床指導者会	1. 看護部の看護に対する考えと技術を土台とし、対象の生活場面を通して疾病及び健康への援助を学習させると共に、社会に貢献しうる看護師を育成する。 2. 看護の実践を通して、広い視野での物の見方や判断力、思いやる心の大切さを身に付けさせ、気付かせる。 3. 魅力ある病院での実習をアピールする。	1. 有意義に実習ができる環境を整える。 2. 総合オリエンテーションを各スタッフが円滑に運営できる。 3. 指導システムの構築と、委員会内容の見直しを行う。 4. 学生が目標とする看護師として指導できるよう各部署の指導者を育成する。	1. 副委員長との連携が取れ、不在時の対応や、勉強会開催の中心的役割を任せ、意義のある勉強会が開催された。看護部との連絡も密にとり、臨床指導者会のマニュアルの作成や規約の発行も行うことができた。 各学校の教員との情報交換や、病棟での実習体制についての意見交換も行え、学生がどのような思いでいるかなどの話も聞く機会を得たうえで、個々に部署担当者とも意見交換ができた。 2. 実施については経験があるスタッフに新しいスタッフがサブとしてオリエンテーションに付き、次回に実施するとした方法で行った。経験が浅い為、棒読みになって、学生の方まで見るゆとりが無かったり、時間配分ができず、フォローが必要になることもあるが、経験を持つことで、自分が知らなかった事柄や、新たに付け加える内容の提案ができたりと、学ぶ場にもなっている。 3. 80%のスタッフが、業務中の会議の時間短縮が図れたと答え、勉強会の時間も充実していると思っている。 しかし、教育目標や教育内容の確認は、各委員が責任を持って病棟で活用するよう任されているが、具体的に伝わっておらず、統一性に欠ける 4. 80%が定期的な勉強会の実施により、指導者としてのスキルアップや知識の習得ができた。 ＰＮＳ方式を行うようになり、その方式に慣れない中で学生が入ることによって負担が増すという意見があったが、徐々に方式が確立されると、問題意識も少しずつであるが薄れている。ただ、教員より、カンファへの参加が頂けない事があるという意見があり、この場合は受け持ち以外で参加いただいたり、オリエンテーションなども受け持ち以外での対応が必要と考える。
研究推進委員会	1. 看護研究の取り組みを推進し、看護の専門性を高め、看護実践に活かす。	1. 看護研究・卒後 2 年研究の企画・運営を行う。 2. 院外研究発表ができる研究に取り組む。	1. 卒後２年研究発表（参加者 55 名） 平成 28 年 12 月２日（対象者卒後２年）２題の発表を行った。同時に、研究推進委員会による「院内看護研究における臨床看護師の意識調査」を発表した。 意識調査では、研究をするにあたり、「時間がない」「指導者がいない」などの問題が明確となり、今後課題解決に向け取り組んでいく必要がある。 2. 院内研究発表（参加者 93 名） 平成 29 年３月 17 日６題（西病棟・外来・ＩＣＵ）の発表を行った。 3. 院外研究発表　下記８題の院外発表を行った。 第 55 回全国自治体病院学会で発表した「小児の点滴刺入部の接続の緩みに対する対策」は最優秀演題に選ばれた。 ・第 19 回関西がんチーム医療研究会 「当院での苦痛スクリーニングに関する取り組み」 ・関西チーム医療発表会（平成 29 年３月４日） 「口腔外科領域のがん治療症例に対する栄養価介入を行った１例」

委員会名	目　的	計　　画	活動内容
研究推進委員会（続き）			・第 55 回全国自治体病院学会（平成 28 年 10 月 20～21 日） 「小児の点滴刺入部の接続の緩みに対する対策」 「口腔外科術後の不安への援助 ―パンフレット作成に向けてー」 ・第 54 回日本がん治療学会学術集会 （平成 28 年 10 月 20～22 日） 「予後告知がなく終末医療に移行した青年期のがん患者との関わりと学び」 ・平成 28 年度大阪府看護協会府東支部看護研究発表会 （平成 29 年２月 28 日） 「脊髄疾患における安静臥床患者の食事傾斜台使用の有用性」 「患者との関わりを通しての学びと振り返り －臨床倫理検討シートを用いてー」 ・第 10 回日本医療マネジメント学会　大阪支部学術集会 （平成 29 年３月４日） 「退院支援に関する看護師への意識調査 －退院支援シートを作成してー」
		3. 研究計画書の内容を充実させる	4. 研究計画書の充実と見直しを行い、倫理委員会と連携をとりながら、計画書の審査がスムーズに実施できるよう取り組んだ。 5. 外部講師を招き、研究計画書についての講義を受け、実際に手術室と新生児集中治療部の計画書は、書き方や内容について具体的な指導を受けより充実した研究内容となった。
倫理委員会	1. 看護実践において擁護・責任・責務に則した看護の展開ができる。	1. 看護研究における倫理的な配慮について審議する。	1. 外部講師を招いて看護研究の計画書作成から倫理審査に至るまでの研修を行い、記述式アンケート調査時の承諾書の有無についての講義があり、院内統一で知識の共有が図れた。また。薬剤師の香川先生より倫理審査についてのアドバイス等、意見交換を行った。
	2. 看護倫理の向上を図る。	2. 看護研究における倫理的配慮について審議する（年２回）	2. 外部講師を招き、年２回講義を開催する事が出来た。参加人数、１回目 89 名、２回目は 67 名であった。内容については１回目、看護研究計画書の作成について、２回目はＮＩＣＵと手術室の看護研究計画書を用いて、直接ご指導頂いた。その結果、看護研究の倫理的配慮や文献検索の重要性や方法を学ぶ事ができた。
		3. 看護倫理に関する勉強会、事例検討を委員会内で開催する。	3. 各病棟で、倫理的に困っている症例を委員会で話し合っている。話し合った内容を各委員会が病棟へ持ち帰り、病棟スタッフも倫理の知識を深めるいい機会となった。
		4. 看護倫理に関する院内研修を開催する。（年２回）	4. 昨年度に引き続き、新人研修とキャリア研修を実施した。
		5. 倫理面に考慮したカンファレンスが行えるよう整備する。	5. 倫理カンファレンスについては４分割法を用いて、倫理カンファレンスを行っていたが、実際、活用するまでには至らなかった。外部講師から「トンプソンの看護倫理のための意思決定の 10 のステップ」を倫理カンファレンスに使用してみてはどうかとアドバイスがあったが、職員全体の知識の共有までに至らなかった。現在は各病棟で倫理的に問題だとされる症例について、委員会内で話し合い、その後、病棟へ持ち帰り、各スタッフで情報共有している。 また、マンガで見る倫理では各病棟においてスタッフが情報共有しやすい場所に提示する工夫を行い、看護師及び患者の視点、また家族の視点からみた倫理的観点がそれぞれ学ぶ事が出来た。今回、看護推進委員会と協力して看護倫理の研修を含めた看護研究についての講義を外部講師を招いて行った。今後は患者の権利を尊重した看護活動ができる体制を整えるために、査読する倫理委員、看護研究委員、実践において指導にあたる中堅看護師や師長・係長クラススタッフの倫理的感性を高めることが課題である。 今後は教育委員会と協力し、年間スケジュール等に研修を組み込んでいき、看護師の質の向上に繋げていきたい。

２．認定看護師の活動状況

領域	目　的	計　　画	活動内容
皮膚・排泄ケア認定看護	1.皮膚・排泄ケアの創傷・オストミー・失禁の３部門において専門的知識の普及・技術を伝達し、院内看護師のアセスメント能力と技術の向上を図る。	1.褥瘡 褥瘡対策チーム・褥瘡委員会スタッフと共に褥瘡予防対策と褥瘡発生時や持ち込み患者の悪化予防と創傷管理を行う。 また、地域に向けて褥瘡対策の情報発信し、予防管理を行っていく。	1.褥瘡 ・新人・中堅研修を３回/年間行い指導の徹底を実施。 ・褥瘡対策部会から院内研修２回/年実施。 ・褥瘡ハイリスク患者 884 人の加算を取り、発生予防、悪化予防に対しての管理を行った。 ・褥瘡のデータ管理を行った。 褥瘡持ち込み患者数　48 人/年間 褥瘡院内発生患者数　16 人/年間 褥瘡発生率：平均　0.26%、褥瘡有病率：平均　0.89% ・全病棟エアーマットのレンタル管理を継続し、不足している高機能体圧分散寝具の整備を行った。 ・ポジショニングクッションに関しても、不足しやすい夏季・冬期に増量し、予防管理の徹底を行った。 ・褥瘡対策チームスタッフのレベルアップや、各病棟スタッフに講習会の情報提供を行い各講習会や学会参加を推進した。 ・学会参加し自己研鑽を行った。 ・ＮＳＴ認定士の褥瘡管理に関する講習を実施した。 ・第 10 回大阪在宅褥瘡セミナーを当院で開催し、情報発信を行った。 ・日本褥瘡学会、近畿褥瘡地方会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会、日本創傷オストミー失禁管理学会、関西ストーマケア研究会、関西ストーマ講習会などに参加した。
		2.ストーマ造設患者への支援 術前外来・術直前・術後・退院後外来にて定期的に患者のフォローにあたり精神面・身体面・社会面への介入を実施する。	2.ストーマ ・術前から医師・外来 Ns と連携し、患者の術前の問題や術式に関する不安を知り、早期に介入し精神面の支援を行った。 ・関西ストーマケア講習会の参加を勧め、スタッフのストーマに関する知識向上を図った。 ・術前、ストーマサイトマーキングを病棟スタッフ・医師と共に行い、病状の認識と今後のセルフケアが行いやすい環境調整を行った。関西ストーマケア講習会に参加し、ストーマサイトマーキングを行えるＮｓ育成を行った。 ・術後、社会保障や身障診断・セルフケア自立に向けて装具の選択など病棟スタッフとＭＳＷなどの協力体制のもと在宅への支援を行った。 ・退院後もストーマ外来で装具調整・スキントラブル時の指導を行い自立支援を継続して行っている。 ・看護協会でのストーマケア講習会講師として参加し、スタッフの実習指導に当たった。 ・医療機器店が開催する講習会で、スタッフ向けと、患者対象の講習会講師を行い情報提供と知識技術の促進を図った。
		3.失禁 おむつやカテーテルを使用する環境にある患者のケアや管理方法についての環境改善に努める。	3.失禁 ・術後の失禁相談 ・平成 26 年８月より院内オムツ使用開始（メンリッケ　テーナ）し現在も、スタッフの失禁ケア技術の促進を図った。 ・ＣＳＴ（失禁サポートチーム）委員会より、継続したケア指導を実施している。新採用者にはその都度、選択や使用方法について病棟患者介入時ケア依頼があったときに説明指導を実施。管理状況の把握、おむつやパッド類の選択方法、問題時の指導を行った。 ・洗浄や清潔保持へのケアアドバイスを実施。 褥瘡予防にもつながる理解を深め、その他の失禁用具類の院内備品の使用開始と購入物品などの紹介を行った。また、購入法についても、必要時に依頼があれば紹介できることを伝えた。 ・失禁外来：術後や疾患により失禁のある患者のケアや指導・相談にあたった。 ・依頼があれば、ＣＩＣ指導を実施。 ・病院職員のアンケート調査結果を踏まえ次年度の目標を計画 ・院内研発表でも失禁に関する内容を問題視しＰＨ潤いチェックを行い、失禁ケアの統一を図った８西病棟を参考に委員会でも今後、活動計画に導入していく。
		4.その他コンサルテーション 1)リンパ浮腫指導 2)フットケア 3)瘻孔ケア 4)スキントラブル時のケア 5)創傷処置 ①陰圧閉鎖処置管理 ②緩和的自潰創部管理	4.その他のコンサルテーション対応 1)リンパ浮腫指導・弾性着衣選択と社会保障説明（指示書準備） 2)フットケア ①糖尿病患者やＡＳＯ患者、褥瘡保有者に対するフットケア介入を実施した。 ②市民対象の講習会は、ＤＭ認定看護師に依頼した。 3)瘻孔ケア ①術後の難治性瘻孔ケアのスタッフ指導と実践介入を行う。 4)スキントラブル時のケア ①皮膚欠損時や潰瘍発生時など、ケア介入を行うとともに病棟スタッフに必要な材料の提供と使用方法についての指導を実施。早期回復へ繋げた。

領域	目　的	計　　画	活動内容
救急認定看護	1. 救急蘇生ガイドによる心肺蘇生法の普及を図る。	1. 院内で一次救命処置、二次救命処置研修を開催する。	1. 院内新採用者研修の中でＢＬＳ講習会として研修医、看護師、薬剤師、事務職員を対象にシミュレーション研修を実施した。 中学生・高校生の体験学習でＢＬＳ講習を６回開催できた。 対象に応じたＢＬＳ講習会を開催している。 外来看護師に対し患者急変を想定したシミュレーション研修を３回開催した。 ７東病棟、５西病棟で看護師を対象に院内急変を想定した一次救命処置から二次救命処置について研修を行った。
	2. 救急医療現場において医師及び他の医療従事者と情報を共有し調整的役割を発揮する。	2. 委員会活動を通じて救急医療の構築をする。	2. 危機管理マニュアル部会に委員として参加し、救急医療の現状と問題点を共有し救急医療の構築に参加している。 ・防災訓練の企画運営に参画し防災マニュアルの検証を行っている。 八尾市の広域災害訓練の救護斑として参加することができた。
	3. 救急医療の資質向上を図る。	3. 院内ＡＣＬＳ研修を行う。	3. ＡＣＬＳ大阪の協力を得て、院内でＡＣＬＳ研修を開催し、医師６名看護師 12 名が参加した。 インストラクター参加も定着してきている。
	4. 救急看護領域の発展に寄与する。	4. 院外活動に参加し救急看護の啓蒙活動を実践する。	4. 院外研修に参加した。 ・近畿救急看護学会 5. 大阪マラソンにボランティア看護師として参加し救護所活動に参加した。 6. 八尾市の歯科医師会研修でＢＬＳ研修会を開催し講師を担当した。 7 看護協会の災害支援ナースに登録し熊本地震の際に西原小学校の避難所に派遣された。活動経験を八尾市立病院、八尾市役所、八尾市議会で報告し看護協会災害支援ナースの広報に繋がる活動ができた。
手術看護認定看護師	1. 手術看護の場において、科学的根拠に基づいて熟達した看護を提供する。	1. 手術介助（外回り介助、器械出し介助）を通し、科学的根拠に基づいた手術看護を患者に提供する。	1. 手術介助（外回り介助、器械出し介助）を約 30 件／年行い、手術看護を提供した。
	2. 自らの看護実践を他の看護師に説明し、行動を示すことにより実践モデルとなり、他の看護師の指導を行い、相談（コンサルテーション）を行う。	2. 手術介助（外回り介助、器械出し介助）を通し、自らの看護実践を他の看護師に説明し、行動を示すことにより実践モデルとなり、指導、相談（コンサルテーション）を行う。	2. 新人看護職員ローテーション研修 20 名の指導に携わった。 手術室配属看護師２名の指導及び指導者へのコンサルテーションを行った。
	3. 患者を中心としたチーム医療の中で手術医療を円滑に提供できるように他職種との協働を図る。	3. 安全な手術医療、科学的根拠に基づいた質の高い看護を提供するために必要な業務改善を行う。 4. 院内外の学会、研修に参加し、手術看護の啓蒙活動を行う。	3. 皮膚排泄褥瘡認定看護師と連携し、術中褥瘡予防への取り組みを継続して行った。 4. 院外研修・学会に参加した。 ・日本手術医学会教育セミナー ・日本医療マネジメント学会総会 ・認定看護師フォローアップセミナー ・日本手術看護学会年次大会 ・日本環境感染学会総会 5. 手術看護認定看護師会近畿地区の活動への参加
乳がん看護	1. 乳がん看護において専門知識向上と質の高いケアの提供を図る。	1. 乳がん患者への看護実践を通して役割モデルとなる。	1. 医師と協力し、乳がんと診断された時から介入を行い、治療選択支援や精神面での不安の軽減に努めている。入院している患者へラウンドを行い、医師、病棟や外来スタッフ、ＭＳＷや臨床心理士などとの情報交換を行い、問題点を共有し、連携した看護がはかれるように努めた。また、退院後初回の外来時には診察に同席し、引き続き治療選択支援を行った。今年度は、医師と協力し、乳がんに関する勉強会４回シリーズで行った。
	2. リンパ浮腫に関する専門的な知識の普及を行い、院内看護師のアセスメント能力の向上を図る。	2. リンパ浮腫患者への看護実践を通して役割モデルとなるとともにリンパ浮腫に関する研修を行う。	2. 腋窩リンパ節郭清を行った患者へリンパ浮腫に関する指導を行い、リンパ浮腫を発症している患者に関しては定期的なフォローを行った。また、院内研修（ステップアップ研修Ⅳ）で講義を行い、専門的な知識の普及に努めた。
	3. 乳がん患者の治療選択や治療に伴うボディイメージの変容、心理的・社会的な問題に対して患者や家族へ必要とされる専門的な支援を行う。	3. 集学的治療及び治療に伴う副作用への専門的なケアとセルフケア支援、自己決定の支援、ボディイメージの変容に関する心理的・社会的問題に対する支援を行う。	3. 退院後、初回の外来に同席し治療選択支援を行うとともに治療に伴う有害事象に対して、情報提供や日常で行えるケアを説明した。また、補整下着に関しても創部の状態や患者の生活状況、好みなどを確認し、サンプルを試してもらったり、情報提供を行った。 がん化学療法看護認定看護師と協力し、アピアランスケアに関する講習会を看護師向けに開催した。

領域	目　的	計　　画	活動内容
乳がん看護（続き）			4. 第 16 回乳がん学会近畿地方会にて「乳房再建に関する看護師の意識調査」の発表を行った。 第２回関西乳房再建看護研究会にて「乳房再建の術後ケアと下着選択」で講演を行った。 市民公開講座にて「乳がん看護認定ナースのお仕事」で講演を行った。 市立柏原病院にて「乳がんについて」講義を行った。 看護師向けセミナー「乳がん患者のセルフケア～スキンケアと下着について～」でパネリストとして参加した。
緩和ケア	1. 緩和医療の知識向上と質の高い緩和ケアの提供を図る。	1. 院内で緩和ケア研修会を開催する。	1. 緩和医療・緩和ケアの研修会を、医療スタッフに対して4回/年を行った。 1回　10/22～10/23　厚生労働省指定　緩和ケア研修会 2回　12/7　Ｗｅｂセミナー 「緩和治療薬のエビデンスを実践に生かす」 3回　1/24　「不眠症治療について」 4回　3/23　「オピオイド導入時のConcordace～疼痛日記の活用」 2. 院内の看護師対象に緩和ケアの研修会を実施。 ・ステップアップⅢ（緩和ケア） ・生活のしやすさに関する質問票について ・緩和ケアリンクナースに毎月ミニ勉強会を実施した。
	2. チーム医療のメンバーとして、院内・院外での緩和ケアチームについて周知を図る。	2. 緩和ケアチームによる病棟ラウンドを実施する。	3. 緩和ケアについて介入依頼を受け、担当主治医、各病棟看護師と連携し、患者の状態、状況に応じた緩和ケアの相談を実施。 ・平成28年度 介入件数 128件/年 ・がん患者に対して、医師と共同しがん患者カウセリングを実施（33件/年） ・がん患者に対して、心理的カウンセリングを実施（198件/年）
	3. 多職種と連携し、緩和ケアを必要とする患者・家族に対して緩和ケアを提供する。	3. 病棟ラウンドを実施する。	4. 緩和ケアチームのラウンド時に、介入患者以外に緩和ケアを必要としている患者・家族について情報収集に努め、緩和ケアの相談を実施。 （随時　認定看護師の病棟ラウンド） 5. 緩和ケアチームカンファレンスを１回/週実施。１回/月の定期合同カンファレンス時に介入患者以外の情報を共有し、緩和ケアの必要性を把握し、ケアの向上に努めた。 6. 患者サポートとして婦人科疾患の患者に手術前説明から退院までの精神的ケアを図っている。
		4. 苦痛緩和のためのスクリーニングを実施する。	7. 「生活のしやすさに関する質問票」を用いて外来で聞きとり調査を行い苦痛のある患者に対応し、フォローを実施している。
感染管理	1 手指衛生の徹底	1. 感染防止の為に、手指衛生が出来る。	1. 手指衛生の手指消毒剤の使用量が少ない現実が中河内感染協議会のアンケートから分かり、今年度は、手指衛生の為の講習会を２回開催。前半は、手指消毒のタイミングなどの講習会を開催。後半は、他施設での手指衛生の取り組みを施行。 リンクナースの勉強会では、直接観察法によって、手指衛生のタイミングを評価するための勉強会を施行。 しかし、病院全体の講習会では、手指消毒剤の使用量を増やすことは、難しかった。平成 29 年度は、リンクナースによる直接観察法によるラウンドや現在の手指消毒剤を見直し、より使用しやす消毒剤の見直し等を行う予定。
	2. 環境ラウンド	2. 各病棟や外来の環境ラウンドにて環境面の整備。	2. 環境のチェック（水周りの環境の整備） ＩＣＴにて平成 27 年度より、環境ラウンドを施行した。チェック表を作成し、ＩＣＴの医師、看護師、薬剤師。検査技師の４職種で、毎週１回のラウンドを施行。 水回りを中心に手洗い場や洗浄室等を行った。洗浄室の防護用具の設置が、前半は悪かったが、徐々に整備できるようになった。ただし、パソコンや注射台の環境整備などまだまだ、不十分であり、平成 29 年度は、チェックリストを見直し、詰所の周辺の環境や普段使用しているパソコンや聴診器の設置場所の環境面など環境用ふき取り検査などを施行し、更に強化していく。
	3. 抗菌薬ラウンド		3. 平成 28 年度 11 月から、ＭＥＰＭの適正使用のためのラウンドを開始。 毎週火曜日にＭＥＰＭ使用患者を抽出して頂き、適正使用出来ているのかを、４職種でカンファレンスし、協議した内容をカルテに記載。適正使用のラウンドを開始し、平成 28 年度のＭＥＰＭの使用は、ＡＵＤで 20.13 から、15.60 へと減少。 ラウンドを開始し、使用は減少出来てきているが、重症症例も多く、今後も、抗菌薬使用の為にラウンドを継続していく。

領 域	目 的	計 画	活動内容
がん化学療法認定看護師（外来）	1. がん化学療法薬を投与する際、薬剤の投与量や投与方法を踏まえ、「安全・安楽・確実」に投与を行う。また、出現する副作用のリスクを予測し、症状に合った援助が行えるよう、適切なモニタリングを行う。	1. がん化学療法を受ける患者の看護カンファレンスを行い、各患者に投与されるレジメン内容において、薬剤の特徴や留意点について理解し、投与にあたる。そして、治療経過日数に応じて患者の状況アセスメント、看護実践の結果と評価について話し合い、看護実践が不足していた点、適切な看護が行えていた点を明確にする。	1. 患者に投与されるレジメン内容から、出現する副作用の予測とともに、患者の全体像をとらえ、個別性を踏まえた看護計画を立案した。そして、それぞれの副作用症状に対し、患者ができるだけ主体となって取り組めるよう、症状マネジメントについてチームで話し合い、看護実践を行った。 所属病棟で主に取り扱うレジメン（主に悪性リンパ腫、肺がん、乳がんの初回化学療法）毎に、投与管理の際に必要な観察点、投与中に起こる可能性のある急性の副作用症状に対する根拠等を記したパンフレットを所属病棟のスタッフと共に作成し実践した。パンフレット使用後の評価については、所属病棟スタッフにアンケート調査を実施し、現在分析中である。 造血器腫瘍の患者に関しては、病名告知から抗がん剤治療開始となるまで非常に短期間な経過であることから、患者の受ける衝撃や不安が他のがん腫に比べて非常に大きい。そのため、身体的のみならず精神面での支援においてストレスコーピング理論や危機理論を参考に看護実践に取り組んだ。 固形がんの患者においても、入院から外来治療に移行することを考慮し、自宅での生活習慣の把握に努め、予定の治療が完遂できるよう、患者の個別性を踏まえた看護実践を行った。
	2. がん患者指導管理料算定に向けて説明・指導を行う。	2. がん化学療法看護に関する新しい知識・技術を深め、患者・家族が意思決定をする場面において、認定看護師としてサポートを行う。	2. 通院治療センターで点滴抗がん剤を受ける患者へのオリエンテーション時、経口抗がん剤服用中の患者への副作用マネジメントにおいて、看護外来で説明・指導を行った。また、医師や他部門との連携を図りながら、病名告知、治療内容及び選択等において患者・家族が意思決定をする場面でのインフォームド・コンセントに同席し、がん患者指導管理料の算定を行った。
	3. アピアランスケア支援の取り組みを行い、がん患者のＱＯＬの維持を図る。	3. がん化学療法の副作用に伴う、外見的変化において患者の個別性を踏まえた支援を行う。	3. 患者サポートケアセンターにアピアランスケアコーナーを設置し、主に１ヵ月に２回がん患者の外見的変化への支援やサポートを行った。５月と 11 月にはがん相談支援センターと連携し、「アピアランスケア～自分らしくキラキラ輝きませんか～」というタイトルで実演付き勉強会を行った。
	4. 抗がん剤投与に携わるスタッフに抗がん剤の安全な取り扱い、曝露対策の必要性について、正しく統一した知識の伝達を行い、実践につなげていく。	4. 抗がん剤投与に携わるスタッフが、抗がん剤の安全な取り扱いと曝露対策の必要性について正しい知識を習得できるように、実践モデルとして日々の業務にあたる。	4. 抗がん剤投与に携わるスタッフが、抗がん剤の曝露対策についてどのように認識して実践を行っているかについて情報を把握し、知識の統一が図れるよう、数回勉強会と実技を行った。 通院治療センター内の曝露対策の統一と徹底に向けて、スタッフと話し合いを行い、実践を行った。
	5. がん化学療法看護に関する知識や技術の向上を図るために、自己研鑽を行っていく。	5. がん化学療法看護に関する知識や技術の向上を図るため、がんに関する院内の勉強会に３回以上は参加する。 また、１年に２回以上はがんに関する学会や研修に参加する。	5. 学会関連は、日本臨床腫瘍学会学術集会でミニシンポジウムで当院のアピアランスケアに関する内容の発表行った。日本癌治療学会学術集会、日本がん看護学会学術集会に参加した。 執筆は、日本総合研究所の雑誌オンコロジーナースに当院のアピアランスケア支援への取り組みについて執筆した。 研修関連は、がん化学療法看護認定看護師フォローアップ研修、他、がん分野に関する研修やセミナーに参加し自己研鑽を行った。
ＮＳＴ専従看護師	適切かつ、安全な栄養管理が行なわれることを目標に活動する。		
	1. リンクナース及び病院スタッフの栄養療法に関する知識の向上	1. ＮＳＴ委員会においてリンクナース間で勉強会の実施。 ・ＮＳＴ薬剤師よりＮＳＴリンクナースに向けた勉強会の実施。	1. ＮＳＴリンクナース間で「食道がん患者の周術期栄養管理」、「誤嚥性肺炎の入院患者の栄養管理」をテーマに実施した。 ＮＳＴ薬剤師より、ＮＳＴリンクナース向けに「脂肪乳剤の投与と体重測定の重要性」についての勉強会実施を調整した。
	2. 栄養療法を必要とする患者の抽出強化と早期介入	2. 摂食困難が予測される疾患においては、リンクナースと連携し早期から栄養介入をてサポートし、また、介入件数の増加に繋げる。	2. 口腔外科領域手術、各種癌手術、化学放射線療法症例に対して入院時、及び術後早期からのＮＳＴ介入に取り組んだ。 新規介入件数　113 件（前年度　106 件） ＮＳＴサポート加算　381 件（前年度　231 件）
	3. がん治療において治療進行後の栄養サポート	3. 手術療法、化学放射線療法の治療が進行し有害事象が出現しても、可能な限り経口摂取のサポートを行う。	3. 化学療法・放射線療法・各種の癌により食思不振を呈している症例に対して、管理栄養士と共に食事の聞き取りを行い、個別対応（オーダー食）を行った。 4. 新人研修ＳＴＥＰ１「栄養管理について」を実施した。 5. 日本静脈経腸栄養学会に演題登録し、発表した。 6. 関西がんチーム医療研究会に演題登録した。

３．院外活動状況

項目	内容	関係看護職員
ＯＧＣＳ　　(10)	周産期医療のシステム化のための研究員	髙井美保（10 回/年開催）
両親教室（ママパパ学級）	お産の経過と呼吸法・妊婦体操	助産師１名派遣(14 名、12 回/年)
救護	八尾市少年軟式野球大会	看護師９名派遣
	八尾市こども会親善ソフトボール大会	看護師６名派遣
	中河内ブロックこども会親善ソフトボール大会	看護師１名派遣
	八尾河内音頭まつり	看護師９名派遣
	大阪マラソン	看護師８名派遣
	熊本地震　災害派遣	看護師３名派遣
講師派遣	8/27『現状から考えるこれからの地域連携支援』　大阪糖尿病協会顧問看護師会	平山美紀
	9/10『ストーマ・瘻孔のスキンケア』大阪府看護協会	横山敬子
	9/17『市民公開講座』中外製薬	横山敬子
	10/2『糖尿病合併症の進行を予防』糖尿病療養指導士認定機構	平山美紀
	10/6『乳房再建の術後ケアと下着選択』㈱アラガン	吉野知子
	10/29『第２回ＭＯＤＳカンファレンス講演会』　㈱小野薬品	平山美紀
	11/4『乳がんについて』　市立柏原病院	吉野知子
	11/17『Unite for Diabetes in 中河内』㈱ノルディスク	中村順子
	11/20『大阪ＱＯＬ相談会』㈱大国ヘルスケアサービス	横山敬子
	11/27『乳がん患者のセルフケア』㈱グンゼ	吉野知子
	12/27　『救急救命士分娩研修』八尾市消防署	細川富美　猪之鼻理絵
	1/27『抗がん剤治療薬による曝露予防』市立柏原病院	島田敏江
その他	サードレベル臨地実習　1 件	森明富美子
	通院治療センター見学　1 件	柚木原和子　島田敏江
	アピアランスケア取り組み見学　2 件	島田敏江
	大阪府看護協会　防災・災害看護委員会委員	千種保子
	大阪府看護協会　学会委員会委員	佐藤美代子
	大阪府看護協会　選挙管理委員会委員	柏山康江
	大阪府看護協会　学会委員会委員	佐藤美代子
	大阪府看護協会　府東支部委員	安田幸代
	大阪府看護協会　府東支部委員	畑中邦子
	大阪がん化学療法看護認定看護師研究会	島田敏江
	大阪糖尿病協会顧問看護師委員会委員	平山美貴

４．体験学習受け入れ

１）高等学校生　　10 名　（１日）
２）中学校生　　26 名　（２日）
３）小学生　　20 名　（２時間）
※高校生と中学生には体験学習にＢＳＬ研修を組み入れて、好評であった。

事 務 局 の 現 況

事務局企画運営課の現況

１．スタッフ

事務局長　　植野　茂明
次　　長　　山内　雅之（兼企業出納員）、菱井　義則
課　　長　　朴井　晃
参　　事　　小枝　伸行
課長補佐　　葛原　秀明、宮田　克爾、吉田　正雄（嘱託員）
係　　長　　植村　佳子、高草　恒平、小山　修司、中田　亮太
職　　員　　14 名

２．業務内容

事務局企画運営課は３つの係で病院事務業務を行っている。各係の業務内容は以下のとおり。

１）企画運営係

病院事業の企画運営および事業計画に関する業務、ＰＦＩ事業に関する業務、医療法その他関係法令に基づく諸手続きに関する業務、医療事故および医事紛争ならびに医事業務の総括に関する業務、医療情報開示に関する業務、総合医療情報システムの総括に関する業務、施設の管理の総括に関する業務、公印の管理および文書事務に関する業務、調査・統計に関する業務、その他病院の庶務に関する業務

２）経理係

病院事業の経営分析および財政計画に関する業務、予算・決算および出納検査等企業会計に関する業務、資金計画に関する業務、資産および物品等の会計事務の検査および指導連絡に関する業務、収入および支出の審査に関する業務、現金出納その他会計事務に係る企業出納員所管事務の補助に関する業務、その他病院の経理に関する業務

３）人事係

職員の人事および給与に関する業務、職員の服務・研修および福利厚生に関する業務、労働組合との連絡に関する業務、臨床研修に関する業務

３．主な事務事業

平成 28 年度の主な事業として以下のことを行った。

・八尾市立病院経営計画（Ver.Ⅱ）に基づく経営健全の取り組み
・病院・診療所・薬局連携ネットワークシステムの運用と拡大
・国の地域がん診療連携拠点病院としてのがん診療体制の充実
・衛星電話訓練（９月）・トリアージ訓練（10 月）・緊急メール配信訓練（９月）・参集シミュレーション訓練（９月）
・ＰＦＩ事業のモニタリング
・ＰＦＩ契約期間終了後の八尾市立病院維持管理・運営に関する手法の検討

・診療報酬改定への対応のための要件整備
・院内クリニカルパスの整備
・研修医対象の合同説明会への参加
・採用試験の実施
・中河内地域感染防止対策協議会の運営
・八尾地域医療合同研究会の運営サポート
・八尾保健所地域職域連携推進連絡会議糖尿病重症化予防の取り組みにおける検討会への参加
・がんの教育総合支援事業への参加
・中河内保健医療協議会への参加
・中河内脳卒中等地域連携クリティカルパス連絡会への参加
・全国自治体病院協議会医療の質事業への参加
・市立病院出前講座の開催

４．会議

・大阪府公立病院協議会理事・理事病院事務（局）長合同会議
・大阪府公立病院協議会理事会および定期総会
・大阪府自治体病院開設者協議会定期総会
・大阪府中地区公立病院事務（局）長会議
・全国自治体病院開設者協議会定時総会
・全国公立病院連盟近畿・中国・四国支部総会
・全国自治体病院協議会定時総会
・全国自治体病院協議会近畿・東海地方会議
・八尾地域薬薬連携協議会
・全国病院事業管理者・事務責任者会議
・八尾市病院事務長会
・大阪府がん診療連携協議会
　・緩和ケア部会
　・がん登録・情報提供部会
・中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会
・電子カルテユーザー会
・日本病院会ＱＩプロジェクト
・医療情報システム研究会
・病院ＰＦＩ連絡協議会

５．研修

・全国自治体病院協議会事務長部会研修会
・全国自治体病院協議会院長・幹部職員研修会
・全国自治体病院協議会事務長養成研修会
・三府県公立病院事務（局）長合同研修会
・大阪府公立病院協議会研修会
・大阪府病院協会研修会
・大阪府公立病院ベンチマーク勉強会
・日本ＰＦＩ・ＰＰＰ協会セミナー
・地域医療福祉情報連携協議会セミナー
・日本病院会セミナー
・医療情報学連合大会
・管理職研修
・中堅職員研修
・新規採用職員研修
・マッセＯＳＡＫＡ研修
・クリニカルパス教育セミナー
・自衛消防業務新規講習
・ＣＱＩ研究会

ＰＦＩ事業の現況

八尾医療ＰＦＩ株式会社（ＳＰＣ）の現況

１．スタッフ

代表取締役	門井　洋二（兼ゼネラルマネージャー）		
ゼネラルマネージャー補佐	橋本　将延		
ﾒﾃﾞｨｶﾙｻﾎﾟｰﾄﾏﾈｰｼﾞｬｰ	山本　恵郎	ﾒﾃﾞｨｶﾙｻﾎﾟｰﾄﾏﾈｰｼﾞｬｰ	廣瀬　　淳
ﾒﾃﾞｨｶﾙｻﾎﾟｰﾄﾏﾈｰｼﾞｬｰ	大坪　久美子※１	ＩＴマネージャー	竹内　良平
ファシリティマネージャー	四ツ井　敦※２	財務マネージャー	木元　陽子
常勤監査役	古東　文夫	他職員２名	

※１　平成 29 年３月 13 日就任　※２　平成 28 年４月１日就任

２．事業内容

八尾市立病院の維持管理・運営事業をＰＦＩ方式で運営している。事業内容は以下のとおり。

１）病院施設等の一部整備業務、専らＳＰＣ業務の用途となる設備などの整備業務
　病院施設・設備の一部整備に対する改善提案業務

２）建設・設備維持管理（ファシリティ・マネジメント）業務
　設備管理、外構施設保守管理、警備、環境衛生管理、植栽管理

３）病院運営業務（医療法に基づく政令８業務）
　検体検査、滅菌消毒、食事の提供、医療機器の保守点検、医療ガスの供給設備の保守点検、洗濯、清掃

４）その他病院運営業務
　医療事務、物品管理・物流管理（ＳＰＤ）、医療機器類の整備・管理、医療機器類の更新、総合医療情報システムの運営・保守管理、利便施設運営管理（食堂、売店など）、一般管理（経営改善提案含む）、廃棄物処理関連、その他（危機管理、健診センター、電話交換、図書室運営、会議室管理、院内保育、旧カルテの保管、その他サービス）

３．事業総括・実績

平成 28 年度は、「病院の一部署・一職員として機能する」「八尾市立病院経営計画の達成」「各企業において提供業務の品質管理を定着させ継続実施する」「業務成果・課題の把握と院内発信・プレゼンテーション」を具体的な目標として取り組んだ。

１）病院の一部署・一職員として機能する

毎月開催のＳＰＣ全体会議等を通じてＰＦＩ事業者全体に方針の浸透を図るとともに、病院運営会議内容の報告を通じ病院の一員として必要な情報の共有に努めた。また、ロビーコンサートや市民ギャラリーなど、地域住民との交流イベントの企画・運営や、ＴＱＭ活動などの病院イベントにも積極的に参画した。更に年度末の病院長ヒアリングの調整・記録など、病院の経営をサポートする部署としての取り組みも行った。

２）八尾市立病院経営計画（平成 27 年度からの３か年計画）の達成

市立病院の運営パートナーとして経営計画の達成はＳＰＣの課題でもあり、ＰＦＩ事業者が関与する項目について、積極的・自主的な取り組みを行った。主な取り組みは以下に記述する。

① 地域の医療機関との連携の強化

地域医療支援病院の紹介・逆紹介率の基準を維持するために、地域医療機関向けの情報誌の発行や、地域医療連携室の広報担当者による訪問活動に積極的に取り組んだ。その結果、訪問件数は年間 1,615 件を数え、紹介率 50%以上、逆紹介率 70%以上の地域医療支援病院の要件を維持することができた。

② 地域住民、関係機関に対する情報発信

毎月患者向け広報誌を作成し院内配置するとともに、市政だより平成 29 年１月号と３月号に「市立病院だより」を掲載し病院機能・診療体制のアピールに努めた。また、年５回開催した八尾市立病院公開講座においては、運営サポート及び広報宣伝に努めた。

③ 医療安全対策

医療安全管理委員会の一員として、医療安全マニュアルの改訂版の発行や院内セーフティラウンドへの参画など、安全な業務提供の実践に努めた。

④ 市災害医療センターの機能強化

10 月実施の大規模災害発生時訓練をサポートした。また、２月実施の消防訓練（地震総合訓練）については企画・シナリオ作成など、防火管理者をサポートした。

⑤ チーム医療の強化

チーム医療委員会の対象外となったが、診療情報管理室によるがん登録において、国指定のがん登録データ（2015 年症例）及び予後調査データ（３年生存・５年生存）を適切に登録・提出した。

⑥ 患者満足度の向上

患者アンケートを 12 月に実施した。結果は接遇改善委員会に報告し、改善策などを検討したうえで、院内掲示とホームページへの掲載を行った。また、９月と３月には食事アンケートも実施し、栄養委員会に結果報告を行った。

⑦ 診療単価向上・医業収益の確保

幹部会議及び運営会議で医事統計報告を行い、病院運営状況について医事統計指標の面からの現状把握と課題の共有化に努めた。ＤＰＣ・コーディング委員会においてベンチマークデータなどを活用した増収提案などを積極的に行った。

⑧ 診療材料の適正管理

診療材料費削減活動、共同購入の推進を通じ、診療材料費の適正管理に努めた。削減に関する活動結果については毎月開催の診療材料検討委員会で報告した。

⑨ 医療機器の整備更新

新病院開院時に整備した大型医療機器が更新時期を迎え、平成 28 年度は注射薬自動払出機、Ｘ線テレビシステムの更新や、手術件数増加による腹腔鏡手術３Ｄシステムの増設、循環器疾患対応の増加に伴う血管撮影装置の増設などに対応した。

３）各企業において提供業務の品質管理を定着させ継続実施する

現場スタッフだけでは解決しない問題、見過ごしがちな課題の発見・改善と、年度計画の進捗確認を含め、協力企業による品質管理を重要視している。そのため、担当マネージャーと協力企業担当者、現場責任者で定例会を開催し、都度課題の確認・検討を行っている。

４）業務成果・課題の把握と院内発信・プレゼンテーション

インセンティブでの業務表彰制度を念頭に、各業務における年度計画策定・実行・評価のＰＤＣＡサイクルの遂行に努めた。また、ＰＦＩ事業ベストパートナーズアワードにおいては優秀３業務のプレゼンテーションによる個別業務の院内アピールを行った。

経　営　状　況

１．収益費用明細書（税抜）

（１）収益の部　　（単位：円）

款	項	目	節	金額	備考
病院事業収益				13,169,507,373	
	医業収益			11,941,794,149	
		入院収益		7,735,898,510	
			入院収益	7,735,898,510	
		外来収益		3,572,057,820	
			外来収益	3,572,057,820	
		その他医業収益		633,837,819	
			室料差額収益	178,949,093	
			公衆衛生活動収益	15,053,197	
			医療相談収益	125,411,690	
			一般会計負担金	273,121,000	
			その他医業収益	41,302,839	
	医業外収益			1,218,598,025	
		受取利息及び配当金		15,370,152	
			預金利息	15,370,152	
		他会計補助金		98,678,000	
			一般会計補助金	98,678,000	
		他会計負担金		449,676,000	
			一般会計負担金	449,676,000	
		補助金		33,659,000	
			国庫補助金	5,088,000	
			府補助金	28,571,000	
		長期前受金戻入		549,055,101	
			長期前受金戻入	549,055,101	
		その他医業外収益		72,159,772	
			不用品売却収益	36,805	
			その他医業外収益	72,122,967	
	特別利益			9,115,199	
		過年度損益修正益		9,115,199	
			過年度損益修正益	9,115,199	

（２） 費用の部 （単位：円）

款	項	目	節	金額	備考
病院事業費用				12,999,751,582	
	医業費用			12,214,544,158	
		給与費		5,854,955,928	
			給料	1,795,747,113	
			手当	1,873,196,758	
			賃金	328,560,143	
			報酬	520,349,551	
			法定福利費	747,134,381	
			退職給付費	254,813,982	
			賞与引当金繰入額	282,718,000	
			法定福利費引当金繰入額	52,436,000	
		材料費		3,104,871,883	
			薬品費	1,875,509,951	
			診療材料費	1,229,361,932	
		経費		2,088,819,397	
			厚生福利費	9,705,830	
			報償費	2,076,292	
			旅費交通費	678,250	
			職員被服費	121,600	
			消耗品費	654,480	
			光熱水費	243,916,363	
			燃料費	130,392	
			食料費	197,003	
			印刷製本費	13,540,602	
			修繕費	26,930	
			保険料	22,036,316	
			賃借料	16,237,946	
			委託料	1,758,169,259	
			通信運搬費	4,064,254	
			諸会費	2,442,086	
			手数料	7,306,795	
			負担金	3,441,369	
			交際費	20,000	
			貸倒引当金繰入額	2,958,895	
			雑費	1,094,735	
		減価償却費		1,082,766,219	
			建物減価償却費	254,794,850	
			建物附帯設備減価償却費	438,405,404	
			構築物減価償却費	18,693,998	
			器械備品減価償却費	370,871,967	
		資産減耗費		51,208,952	
			たな卸資産減耗費	5,335,658	
			固定資産除却費	45,873,294	
		研究研修費		31,921,779	
			研究材料費	587,699	
			謝金	46,297	
			図書費	8,425,000	
			旅費	13,700,976	
			研究雑費	9,161,807	
	医業外費用			756,418,613	
		支払利息及び企業債取扱諸費		255,340,953	
			企業債利息	255,340,953	
		長期前払消費税償却		54,495,696	
			長期前払消費税償却	54,495,696	
		雑支出		446,581,964	
			雑費	446,581,964	(消費税雑支出計上分)
	特別損失			28,788,811	
		過年度損益修正損		28,788,811	
			過年度損益修正損	28,788,811	

２.資本的収入及び支出明細書（税抜）

（１）資本的収入の部　　（単位：円）

款	項	目	節	金額	備考
資本的収入				933,821,000	
	企業債			351,000,000	
		企業債		351,000,000	
			企業債	351,000,000	
	負担金			582,821,000	
		他会計負担金		582,821,000	
			一般会計負担金	582,821,000	

（２）資本的支出の部　　（単位：円）

款	項	目	節	金額	備考
資本的支出				1,573,186,045	
	建設改良費			507,303,714	
		資産購入費		484,748,714	
			器械備品	484,748,714	
		工事費		22,555,000	
			工事請負費	22,555,000	
	企業債償還金			1,065,882,331	
		企業債償還金		1,065,882,331	
			企業債償還金	1,065,882,331	

３.比較貸借対照表（税抜）

（単位：円）

項目	平成29年３月31日	平成28年３月31日	増減
有形固定資産	15,289,814,468	15,911,150,267	△ 621,335,799
土地	3,465,722,244	3,465,722,244	0
償却資産	24,598,478,981	24,703,602,110	△ 105,123,129
減価償却累計額	△ 12,774,386,757	△ 12,258,174,087	△ 516,212,670
無形固定資産	141,800	141,800	0
投資その他の資産	356,750,557	411,246,253	△ 54,495,696
流動資産	6,714,436,843	6,106,483,965	607,952,878
現金預金	4,592,742,434	4,077,761,063	514,981,371
未収金	2,059,677,176	1,973,886,313	85,790,863
貯蔵品	53,070,268	45,653,357	7,416,911
前払費用	8,946,965	8,927,882	19,083
前払金	0	255,350	△ 255,350
資産合計	22,361,143,668	22,429,022,285	△ 67,878,617
固定負債	14,742,836,100	15,284,703,976	△ 541,867,876
企業債	13,638,176,980	14,285,540,872	△ 647,363,892
引当金	991,265,852	885,769,836	105,496,016
その他固定負債	113,393,268	113,393,268	0
流動負債	3,317,914,914	3,047,447,345	270,467,569
企業債	998,363,892	1,065,882,331	△ 67,518,439
未払金	1,943,305,486	1,595,925,851	347,379,635
引当金	335,154,000	335,677,000	△ 523,000
その他流動負債	41,091,536	49,962,163	△ 8,870,627
繰延収益	816,634,968	782,869,069	33,765,899
長期前受金	2,647,909,326	2,072,871,100	575,038,226
長期前受金収益化累計額	△ 1,831,274,358	△ 1,290,002,031	△ 541,272,327
資本金	2,497,285,457	2,497,285,457	0
剰余金	986,472,229	816,716,438	169,755,791
資本剰余金	18,025,000	18,025,000	0
利益剰余金	968,447,229	798,691,438	169,755,791
前年度繰越利益剰余金	755,691,438	518,885,680	236,805,758
減債積立金	43,000,000	30,000,000	13,000,000
当年度純利益	169,755,791	249,805,758	△ 80,049,967
負債資本合計	22,361,143,668	22,429,022,285	△ 67,878,617

4.経営分析表

項目	算式	28年度	27年度
病床利用率	年延入院患者数（119,633人）／年延病床数（138,700床）×100	86.3 %	85.1 %
外来入院患者比率	年延外来患者数（200,570人）／年延入院患者数（119,633人）×100	167.7 %	170.5 %
平均在院日数	年延在院患者数（109,008人）／｛（新入院数10,612人）＋（退院数 10,625人）｝×1/2	10.3 日	9.8 日
平均外来1人当り通院回数	年延外来患者数（200,570人）／年延新来患者数（35,405人）	5.7 回	5.5 回
職員1人1日当り患者数	入院 年延入院患者数（119,633人）／年延職員数（155,732人）	0.8 人	0.8 人
	外来 年延外来患者数（200,570人）／年延職員数（155,732人）	1.3 人	1.4 人
	合計 年延入院、外来患者数（320,203人）／年延職員数（155,732人）	2.1 人	2.2 人
患者1人1日当り診療収入	入院 入院収益（7,735,898千円）／年延入院患者数（119,633人）	64,664 円	63,507 円
	外来 外来収益（3,572,058千円）／年延外来患者数（200,570人）	17,810 円	15,580 円
	合計 入院、外来収益（11,307,956千円）／年延入院、外来患者数（320,203人）	35,315 円	33,300 円
職員1人1日当り診療収入	入院、外来収益（11,307,956千円）／年延職員数（155,732人）	72,612 円	71,932 円
患者1人1日当り薬品費	投薬 投薬薬品費（194,229千円）／年延入院、外来患者数（320,203人）	607 円	572 円
	注射 注射薬品費（1,462,784千円）／年延入院、外来患者数（320,203人）	4,568 円	3,857 円
	その他 その他薬品費（218,497千円）／年延入院、外来患者数（320,203人）	682 円	787 円
	合計 薬品費（1,875,510千円）／年延入院、外来患者数（320,203人）	5,857 円	5,216 円
薬品使用効率	薬品収入（1,915,362千円）／薬品払出原価（1,657,013千円）×100	115.6 %	116.9 %
医療材料消費率	医療材料費（3,104,872千円）／入院、外来収益（11,307,956千円）×100	27.5 %	25.8 %
医業収益に対する医療材料費の割合	医療材料費（3,104,872千円）／医業収益（11,941,794千円）×100	26.0 %	24.3 %
医業収益に対する給与費の割合	給与費（5,854,956千円）／医業収益（11,941,794千円）×100	49.0 %	49.3 %
病床100床当り職員数	年度末職員数（577.5人）／年度末病床数（380床）×100	152.0 人	144.9 人
累積欠損金比率	累積欠損金（0千円）／医業収益（11,941,794千円）×100	－ %	－ %
不良債務比率	｛流動負債（3,317,915千円）－企業債（998,364千円）｝－｛流動資産（6,714,437千円）－翌年度繰越財源（0千円）｝／医業収益（11,941,794千円）×100	－ %	－ %

５．財務分析表

項目	算式	28年度	27年度
固定資産構成比率	固定資産 (15,646,707 千円) / 資産合計 (22,361,144 千円) ×100	70.0 %	72.8 %
固定負債構成比率	固定負債 (14,742,836 千円) / 負債・資本合計 (22,361,144 千円) ×100	65.9 %	68.1 %
固定比率	固定資産 (15,646,707 千円) / 資本金(2,497,286千円)＋剰余金(986,472千円)＋繰延収益(816,635千円) ×100	364 %	398 %
固定資産対長期資本比率	固定資産 (15,646,707 千円) / 資本金(2,497,286千円)＋剰余金(986,472 千円)＋固定負債(14,742,836千円)＋繰延収益(816,635千円) ×100	82.2 %	84.2 %
固定資産回転率	医業収益 (11,941,794 千円) / {期首固定資産 (16,322,538 千円)＋期末固定資産(15,646,707 千円)}×1/2	0.7 回	0.7 回
自己資本構成比率	資本金(2,497,286 千円)+剰余金(986,472 千円)+繰延収益(816,635千円) / 負債・資本合計 (22,361,144 千円) ×100	19.2 %	18.3 %
流動比率	流動資産 (6,714,437 千円) / 流動負債 (3,317,915 千円) ×100	202.4 %	200.4 %
現金比率	現金預金 (4,592,743 千円) / 流動負債 (3,317,915 千円) ×100	138.4 %	133.8 %
流動資産回転率	医業収益 (11,941,794 千円) / {期首流動資産 (6,106,484千円)+期末流動資産(6,714,437千円)}×1/2	1.9 回	1.9 回
未収金回転率	医業収益 (11,941,794 千円) / {期首未収金 (1,979,825千円)+期末未収金(2,065,109千円)}×1/2	5.9 回	6.1 回
総資本利益率	当年度経常利益 (189,430 千円) / {期首総資本(22,429,022千円)+期末総資本(22,361,144千円)}×1/2 ×100	0.8 %	1.2 %
総収益対総費用比率	総収益 (13,169,507 千円) / 総費用 (12,999,751 千円) ×100	101.3 %	102.0 %
経常収益対経常費用比率	経常収益 (13,160,392 千円) / 経常費用 (12,970,962 千円) ×100	101.5 %	102.1 %
医業収益対医業費用比率	医業収益 (11,941,794 千円) / 医業費用 (12,214,544 千円) ×100	97.8 %	98.5 %
企業債償還額対減価償却費比率	企業債償還額 (1,065,882 千円) / 減価償却費 (1,082,766 千円) ×100	98.4 %	98.8 %
企業債償還額対料金収入比率	企業債償還額 (1,065,882 千円) / 料金収入 (11,307,956 千円) ×100	9.4 %	8.4 %
企業債利息対料金収入比率	企業債利息 (255,341 千円) / 料金収入 (11,307,956 千円) ×100	2.3 %	2.5 %
企業債元利償還額対料金収入比率	企業債元利償還額 (1,321,223 千円) / 料金収入 (11,307,956 千円) ×100	11.7 %	10.9 %
利子負担率	支払利息 (255,341 千円) / 企業債 (14,636,541 千円) ×100	1.7 %	1.8 %
減価償却率	当年度減価償却費 (1,082,766 千円) / 償却資産 (24,598,479 千円) ×100	4.4 %	3.7 %

業　務　状　況

１．患者状況

（１）外来患者数

◆診療科別外来患者数

	①27年度	②28年度	差異②－①	対前年増減率
内科	19,483人	20,025人	542人	2.78%
血液内科	3,776人	3,773人	△ 3人	△0.08%
消化器内科	16,461人	16,276人	△ 185人	△1.12%
循環器内科	7,031人	7,212人	181人	2.57%
外科	13,171人	14,376人	1,205人	9.15%
乳腺外科	9,579人	9,332人	△ 247人	△2.58%
脳神経外科	3,399人	3,136人	△ 263人	△7.74%
整形外科	7,170人	7,184人	14人	0.00%
形成外科	7,036人	8,327人	1,291人	18.35%
産婦人科	20,995人	19,973人	△ 1,022人	△4.87%
小児科	22,405人	21,055人	△ 1,350人	△6.03%
眼科	6,777人	973人	△ 5,804人	△85.64%
耳鼻咽喉科	13,938人	14,339人	401人	2.88%
泌尿器科	16,291人	16,814人	523人	3.21%
皮膚科	4,298人	3,347人	△ 951人	△22.13%
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	1,054人	1,730人	676人	64.14%
麻酔科	3,871人	3,060人	△ 811人	△20.95%
放射線科	4,975人	9,392人	4,417人	88.78%
歯科口腔外科	9,402人	9,281人	△ 121人	△1.29%
救急診療科	10,575人	10,965人	390人	3.69%
合計	201,687人	200,570人	△ 1,117人	△0.55%

※救急診療科については、救急外来で対応した患者を表記している。

◆１日平均外来患者数（対前年度比較）

	①27年度	②28年度	差異②－①	増減率
4-3月累計実績	830.0 人	825.4 人	△ 4.6 人	△0.6%

◆初診外来患者数

	①27年度	②28年度	差異②－①	増減率
4-3月累計実績	36,800 人	35,405 人	△ 1,395 人	△3.8%

◆１日平均初診外来患者数

	①27年度	②28年度	差異②－①	増減率
4-3月累計実績	151.4 人	145.7 人	△ 5.7 人	△3.8%

◆初診率（初診外来患者数÷外来患者数）

	①27年度	②28年度	差異②－①
4-3月累計実績	18.2 %	17.7 %	△ 0.5 %

（２）入院患者数

◆診療科別入院患者数

	①27年度	②28年度	差異②－①	対前年増減率
内科	8,887人	9,260人	373人	4.20%
血液内科	9,022人	8,965人	△ 57人	△0.63%
消化器内科	14,732人	13,778人	△ 954人	△6.48%
循環器内科	9,239人	12,106人	2,867人	31.03%
外科	20,701人	22,046人	1,345人	6.50%
乳腺外科	2,598人	2,861人	263人	10.12%
脳神経外科	2,289人	2,322人	33人	1.44%
整形外科	11,359人	9,676人	△ 1,683人	△14.82%
形成外科	2,871人	2,722人	△ 149人	△5.19%
産婦人科	10,051人	10,215人	164人	1.63%
小児科	10,234人	9,788人	△ 446人	△4.36%
眼科	1,960人	0人	△ 1,960人	皆減
耳鼻咽喉科	6,141人	6,553人	412人	6.71%
泌尿器科	6,396人	7,212人	816人	12.76%
皮膚科	264人	145人	△ 119人	△45.08%
麻酔科	30人	57人	27人	90.00%
放射線科	36人	572人	536人	1488.89%
歯科口腔外科	1,501人	1,355人	△ 146人	△9.73%
合計	118,311人	119,633人	1,322人	1.12%

◆病棟別　病床利用率

（単位：%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
5階東	90.6	87.3	94.7	90.8	96.0	87.6	94.8	97.5	90.1	88.6	88.7	97.3	92.0
5階西	85.6	79.6	85.9	86.4	79.5	70.9	82.3	57.3	72.8	68.8	74.9	80.7	77.1
6階東	100.7	92.7	98.4	90.2	99.4	93.2	89.0	93.6	95.5	96.9	96.0	98.0	95.3
6階西	72.2	61.3	67.9	66.1	81.7	74.2	67.7	61.4	70.5	51.7	51.4	66.5	66.1
NICU	85.6	62.9	53.9	95.2	68.8	42.8	74.2	57.8	51.1	74.2	47.0	75.8	66.0
7階東	89.9	87.8	90.2	87.0	90.9	80.3	84.7	90.6	85.2	86.4	94.4	90.9	88.2
7階西	96.1	89.3	88.9	93.0	92.8	83.4	91.0	93.1	89.9	92.6	98.2	96.1	92.0
8階東	90.1	85.7	93.5	87.9	92.5	82.2	85.1	86.4	86.6	87.5	93.5	94.7	88.8
8階西	88.5	82.9	91.6	89.9	89.6	82.7	91.6	93.1	85.1	88.8	92.6	92.1	89.0
ＩＣＵ	71.7	67.7	81.7	76.9	81.2	52.2	80.1	79.4	67.2	74.2	57.7	78.0	72.5
合計	89.3	83.4	88.8	87.0	90.2	81.1	86.1	84.9	84.3	83.5	86.4	90.0	86.3

（３）外来・入院別、診療科別、月別患者数

区分	月 / 科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
		人	人	人	人	人	人	人
外来	内科	1,577	1,561	1,685	1,638	1,699	1,656	1,625
	血液内科	307	292	318	288	311	287	343
	消化器内科	1,396	1,317	1,491	1,420	1,318	1,365	1,301
	循環器内科	642	589	621	601	616	573	595
	外科	1,140	1,112	1,293	1,285	1,092	1,244	1,242
	乳腺外科	732	661	752	712	826	806	858
	脳神経外科	282	248	285	228	253	270	256
	整形外科	565	550	640	539	617	584	579
	形成外科	631	647	735	691	751	655	722
	産婦人科	1,610	1,689	1,759	1,707	1,738	1,682	1,637
	小児科	1,660	1,650	1,720	1,816	1,996	1,577	1,847
	眼科	107	88	100	94	79	95	78
	耳鼻咽喉科	1,202	1,128	1,363	1,338	1,261	1,095	1,123
	泌尿器科	1,368	1,316	1,449	1,347	1,434	1,386	1,488
	皮膚科	286	292	356	322	287	231	346
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	115	101	125	105	112	143	156
	麻酔科	312	276	336	265	274	229	229
	放射線科	741	734	669	714	870	616	758
	歯科口腔外科	796	698	881	794	748	733	763
	救急診療科	801	888	764	929	933	739	765
	合計	16,270	15,837	17,342	16,833	17,215	15,966	16,711

診療日数＝　243　日（内科・血液内科・消化器内科・循環器内科・外科・乳腺外科・脳神経外科・整形外科）
（形成外科・産婦人科・小児科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・麻酔科・放射線科・歯科口腔外科）

区分	月 / 科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
		人	人	人	人	人	人	人
入院	内科	794	792	817	634	881	652	846
	血液内科	952	926	609	636	702	662	712
	消化器内科	992	1,130	1,339	1,363	1,196	1,070	1,244
	循環器内科	1,105	903	927	988	1,011	785	1,081
	外科	1,632	1,525	1,752	2,035	1,989	1,804	1,821
	乳腺外科	219	214	216	229	174	209	234
	脳神経外科	218	237	163	211	178	96	216
	整形外科	946	796	868	736	852	806	597
	形成外科	265	227	243	172	194	157	302
	産婦人科	903	882	970	1,001	911	804	950
	小児科	863	810	831	872	985	852	904
	耳鼻咽喉科	555	456	564	569	733	606	565
	泌尿器科	470	706	626	658	687	611	538
	皮膚科	23	13	8	8	9	23	22
	麻酔科	22	14	2	19	0	0	0
	放射線科	39	12	94	53	26	40	35
	歯科口腔外科	187	180	96	62	103	69	76
	合計	10,185	9,823	10,125	10,246	10,631	9,246	10,143

11月	12月	1月	2月	3月	合　計	
					延患者数	1日平均患者数
人	人	人	人	人	人	人
1,665	1,646	1,735	1,657	1,881	20,025	82.4
288	337	313	318	371	3,773	15.5
1,435	1,285	1,274	1,251	1,423	16,276	67.0
582	567	574	594	658	7,212	29.7
1,170	1,153	1,151	1,100	1,394	14,376	59.2
800	867	781	760	777	9,332	38.4
283	255	225	259	292	3,136	12.9
594	589	606	578	743	7,184	29.6
806	712	655	616	706	8,327	34.3
1,649	1,546	1,564	1,586	1,806	19,973	82.2
1,737	1,924	1,806	1,582	1,740	21,055	86.6
82	67	49	64	70	973	4.5
1,106	1,114	1,138	1,147	1,324	14,339	59.0
1,406	1,392	1,369	1,392	1,467	16,814	69.2
224	231	227	261	284	3,347	13.8
169	156	187	180	181	1,730	34.6
221	229	228	204	257	3,060	12.6
818	888	787	801	996	9,392	38.7
809	746	742	729	842	9,281	38.2
817	1,129	1,415	970	815	10,965	30.0
16,661	16,833	16,826	16,049	18,027	200,570	825.4

365 日(救急診療科)　　50 日(リハビリテーション科)
215 日(眼科)

※1日平均患者数の合計欄は、延患者数を
243日で除した数値を表記している。

11月	12月	1月	2月	3月	合　計		
					延患者数	1日平均患者数	平均在院日数
人	人	人	人	人	人	人	日
779	694	930	747	694	9,260	25.4	13.0
755	725	715	797	774	8,965	24.6	37.6
1,259	1,085	1,011	1,008	1,081	13,778	37.7	12.7
1,020	1,011	1,037	1,044	1,194	12,106	33.2	8.6
1,753	1,917	1,893	1,820	2,105	22,046	60.4	14.0
338	292	263	237	236	2,861	7.8	8.4
178	179	215	205	226	2,322	6.4	16.4
612	967	1,003	599	894	9,676	26.5	19.3
223	225	193	240	281	2,722	7.4	7.9
647	830	744	689	884	10,215	28.0	6.8
763	847	686	576	799	9,788	26.8	5.2
530	481	412	511	571	6,553	18.0	6.7
625	501	618	565	607	7,212	19.8	8.1
8	0	15	8	8	145	0.4	6.6
0	0	0	0	0	57	0.1	15.1
128	66	19	34	26	572	1.6	19.1
59	107	86	112	218	1,355	3.7	5.9
9,677	9,927	9,840	9,192	10,598	119,633	327.8	10.3

年間日数＝　365 日

（４）地域別患者数

◆外来患者数

地域	年度	27年度 延患者数	27年度 構成比率	28年度 延患者数	28年度 構成比率	対前年度増減 増減数	対前年度増減 増減比率
		人	%	人	%	人	%
八尾市	本庁地区	23,760	11.8	23,102	11.5	△ 658	△ 2.8
	龍華地区	34,160	16.9	33,393	16.7	△ 767	△ 2.2
	久宝寺地区	8,584	4.3	8,256	4.1	△ 328	△ 3.8
	西郡地区	2,249	1.1	2,019	1.0	△ 230	△ 10.2
	大正地区	10,940	5.4	10,662	5.3	△ 278	△ 2.5
	山本地区	18,139	9.0	18,304	9.1	165	0.9
	竹渕地区	5,107	2.5	4,788	2.4	△ 319	△ 6.2
	南高安地区	5,037	2.5	5,001	2.5	△ 36	△ 0.7
	高安地区	2,945	1.5	2,963	1.5	18	0.6
	曙川地区	11,527	5.7	11,442	5.7	△ 85	△ 0.7
	志紀地区	11,447	5.7	11,436	5.7	△ 11	△ 0.1
	（小計）	133,895	66.4	131,366	65.5	△ 2,529	△ 1.9
大阪市	平野区	31,516	15.6	31,851	15.9	335	1.1
	他の大阪市	3,835	1.9	4,486	2.2	651	17.0
	（小計）	35,351	17.5	36,337	18.1	986	2.8
府下市町村	柏原市	8,995	4.5	8,762	4.4	△ 233	△ 2.6
	藤井寺市	2,955	1.5	2,763	1.4	△ 192	△ 6.5
	東大阪市	10,703	5.3	11,145	5.5	442	4.1
	松原市	894	0.4	787	0.4	△ 107	△ 12.0
	羽曳野市	1,376	0.7	1,562	0.8	186	13.5
	富田林市	151	0.1	207	0.1	56	37.1
	堺市	854	0.4	886	0.4	32	3.7
	府下その他	2,272	1.1	2,370	1.2	98	4.3
	（小計）	28,200	14.0	28,482	14.2	282	1.0
他府県	奈良県	2,320	1.2	2,469	1.2	149	6.4
	和歌山県	202	0.1	172	0.1	△ 30	△ 14.9
	兵庫県	737	0.4	680	0.4	△ 57	△ 7.7
	その他府県	982	0.4	1,064	0.5	82	8.4
	（小計）	4,241	2.1	4,385	2.2	144	3.4
	合計	201,687	100.0	200,570	100.0	△ 1,117	△ 0.6

◆入院患者数

地域	年度	27年度 延患者数	27年度 構成比率	28年度 延患者数	28年度 構成比率	対前年度増減 増減数	対前年度増減 増減比率
		人	%	人	%	人	%
八尾市	本庁地区	13,747	11.6	13,726	11.4	△ 21	△ 0.2
	龍華地区	17,739	15.0	18,625	15.6	886	5.0
	久宝寺地区	4,714	4.0	5,583	4.7	869	18.4
	西郡地区	1,382	1.2	1,038	0.9	△ 344	△ 24.9
	大正地区	6,647	5.6	5,774	4.8	△ 873	△ 13.1
	山本地区	10,248	8.7	10,842	9.1	594	5.8
	竹渕地区	3,202	2.7	3,339	2.8	137	4.3
	南高安地区	2,723	2.3	2,639	2.2	△ 84	△ 3.1
	高安地区	1,515	1.3	1,937	1.6	422	27.9
	曙川地区	6,782	5.7	6,075	5.1	△ 707	△ 10.4
	志紀地区	6,744	5.7	5,973	5.0	△ 771	△ 11.4
	（小計）	75,443	63.8	75,551	63.2	108	0.1
大阪市	平野区	20,775	17.6	20,103	16.8	△ 672	△ 3.2
	他の大阪市	2,176	1.8	2,872	2.4	696	32.0
	（小計）	22,951	19.4	22,975	19.2	24	0.1
府下市町村	柏原市	4,952	4.2	5,429	4.5	477	9.6
	藤井寺市	1,763	1.5	1,535	1.3	△ 228	△ 12.9
	東大阪市	7,628	6.4	8,140	6.8	512	6.7
	松原市	232	0.2	442	0.4	210	90.5
	羽曳野市	760	0.6	715	0.6	△ 45	△ 5.9
	富田林市	62	0.1	92	0.1	30	48.4
	堺市	445	0.4	643	0.5	198	44.5
	府下その他	1,483	1.2	1,410	1.1	△ 73	△ 4.9
	（小計）	17,325	14.6	18,406	15.3	1,081	6.2
他府県	奈良県	966	0.8	1,311	1.1	345	35.7
	和歌山県	199	0.2	64	0.1	△ 135	△ 67.8
	兵庫県	666	0.6	427	0.4	△ 239	△ 35.9
	その他府県	761	0.6	899	0.7	138	18.1
	（小計）	2,592	2.2	2,701	2.3	109	4.2
	合計	118,311	100.0	119,633	100.0	1,322	1.1

（５）診療科別救急取扱患者数

（単位：人）

		28年									29年			合計
		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	
内科	患者数	1	1	0	2	2	0	3	1	3	1	1	1	16
	平日	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	6
	時間外	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	4
	休日	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	0	0	6
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内搬送患者）	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	（内入院）	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
血液内科	患者数	1	1	0	0	0	0	1	4	1	1	0	2	11
	平日	1	1	0	0	0	0	1	4	1	1	0	2	11
	時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内搬送患者）	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	2	7
	（内入院）	1	1	0	0	0	0	0	3	1	1	0	1	8
消化器内科	患者数	1	0	1	2	1	4	3	1	2	2	3	2	22
	平日	1	0	1	2	1	4	3	1	2	1	3	2	21
	時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内搬送患者）	0	0	1	1	0	3	2	0	1	0	1	1	10
	（内入院）	1	0	1	2	1	3	3	1	2	1	2	2	19
循環器内科	患者数	10	6	11	13	4	4	9	9	14	15	10	13	118
	平日	10	6	11	13	4	4	9	8	13	14	10	13	115
	時間外	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内搬送患者）	6	0	4	5	1	2	5	5	5	2	2	7	44
	（内入院）	5	3	4	11	4	2	6	6	8	9	7	9	74
腫瘍内科	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内搬送患者）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内入院）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	患者数	4	3	6	4	5	4	1	3	2	6	1	8	47
	平日	1	1	6	3	1	4	0	3	2	6	1	7	35
	時間外	2	1	0	1	2	0	1	0	0	0	0	1	8
	休日	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内搬送患者）	1	0	2	0	1	1	0	2	1	2	0	3	13
	（内入院）	1	1	4	2	1	2	0	2	1	3	1	6	24
乳腺外科	患者数	4	0	0	3	3	1	1	2	12	6	2	1	35
	平日	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	時間外	1	0	0	1	2	0	0	1	4	2	1	0	12
	休日	3	0	0	2	1	1	1	0	7	4	1	1	21
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内搬送患者）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	（内入院）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
脳神経外科	患者数	6	4	5	3	7	6	7	8	4	3	14	6	73
	平日	6	4	5	3	7	6	7	8	3	3	14	6	72
	時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内搬送患者）	4	1	3	1	1	4	4	6	1	0	5	5	35
	（内入院）	2	0	1	2	1	2	1	2	1	1	0	0	13
整形外科	患者数	32	28	23	28	34	27	29	33	40	32	31	38	375
	平日	23	16	16	20	22	15	16	22	28	24	16	23	241
	時間外	1	0	0	0	1	2	0	3	2	0	2	4	15
	休日	8	12	7	8	11	10	13	8	9	7	11	10	114
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	5
	（内搬送患者）	22	17	14	24	21	17	21	27	33	25	22	27	270
	（内入院）	5	6	7	4	4	3	7	8	9	6	6	4	69
形成外科	患者数	15	8	4	14	10	15	13	6	14	13	12	18	142
	平日	10	7	4	10	8	11	10	5	8	8	9	16	106
	時間外	3	0	0	2	1	3	0	1	1	3	1	2	17
	休日	2	1	0	2	1	1	3	0	5	2	2	0	19
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内搬送患者）	8	5	2	5	5	7	9	4	6	5	6	16	78
	（内入院）	4	3	2	1	4	5	3	4	6	2	4	9	47
産婦人科	患者数	62	76	68	89	65	57	72	61	58	83	44	80	815
	平日	4	6	5	7	4	4	7	9	3	4	5	3	61
	時間外	19	26	17	31	26	16	27	16	16	18	12	34	258
	休日	10	14	13	11	5	11	12	11	15	13	8	8	131
	深夜	29	30	33	40	30	26	26	25	24	48	19	35	365
	（内搬送患者）	1	6	5	4	2	2	3	4	0	6	6	3	42
	（内入院）	38	46	38	59	37	39	48	38	33	58	30	49	513

		28年									29年			合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
小児科	患者数	581	582	513	641	590	473	568	587	752	645	508	436	6,876
	平日	48	47	58	58	78	54	46	50	57	41	51	44	632
	時間外	370	271	277	354	330	257	343	309	346	295	249	238	3,639
	休日	33	90	40	43	35	28	31	40	153	126	89	37	745
	深夜	130	174	138	186	147	134	148	188	196	183	119	117	1,860
	(内搬送患者)	44	47	51	66	44	39	33	53	46	48	47	43	561
	(内入院)	44	44	35	39	36	39	32	22	28	21	24	33	397
眼科	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	患者数	46	52	61	57	28	11	38	32	25	17	37	24	428
	平日	1	2	3	2	1	0	3	3	0	4	4	2	25
	時間外	23	25	30	26	13	5	15	11	10	6	8	10	182
	休日	22	25	28	29	14	6	20	18	15	7	25	12	221
	深夜	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	1	2	5	3	1	0	3	1	0	4	4	1	25
	(内入院)	0	1	4	1	0	0	1	0	1	0	1	0	9
泌尿器科	患者数	3	0	3	1	2	4	0	4	1	1	1	0	20
	平日	3	0	3	1	1	4	0	3	0	0	1	0	16
	時間外	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
	休日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	3	0	1	1	1	1	0	2	0	0	1	0	10
	(内入院)	1	0	2	0	0	2	0	2	0	0	1	0	8
皮膚科	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	患者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	平日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
歯科口腔外科	患者数	4	4	5	2	4	7	7	0	3	4	7	4	51
	平日	0	0	0	0	2	0	2	0	0	1	0	1	6
	時間外	3	3	2	2	1	2	3	0	1	0	5	2	24
	休日	1	1	2	0	1	5	2	0	2	3	2	0	19
	深夜	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	(内搬送患者)	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
	(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急診療科	患者数	877	986	820	1,011	1,021	826	862	899	1,206	1,509	1,049	906	11,972
	平日	161	150	186	160	209	175	162	136	159	181	163	156	1,998
	時間外	350	287	298	342	369	249	284	314	322	408	326	340	3,889
	休日	173	332	150	241	201	218	224	251	446	627	337	217	3,417
	深夜	193	217	186	268	242	184	192	198	279	293	223	193	2,668
	(内搬送患者)	200	234	251	288	280	228	250	251	266	261	222	232	2,963
	(内入院)	98	117	93	108	125	114	133	102	103	124	96	119	1,332
合計	患者数	1,647	1,751	1,520	1,870	1,776	1,439	1,614	1,651	2,137	2,338	1,720	1,539	21,002
	平日	270	240	298	279	338	281	267	255	278	288	278	276	3,348
	時間外	772	613	624	760	747	534	674	656	705	734	604	631	8,054
	休日	253	477	240	337	272	280	307	329	654	791	475	285	4,700
	深夜	352	421	358	494	419	344	366	411	500	525	363	347	4,900
	(内搬送患者)	291	313	339	398	358	304	331	360	360	354	316	340	4,064
	(内入院)	200	223	191	229	213	211	235	192	194	226	172	232	2,518

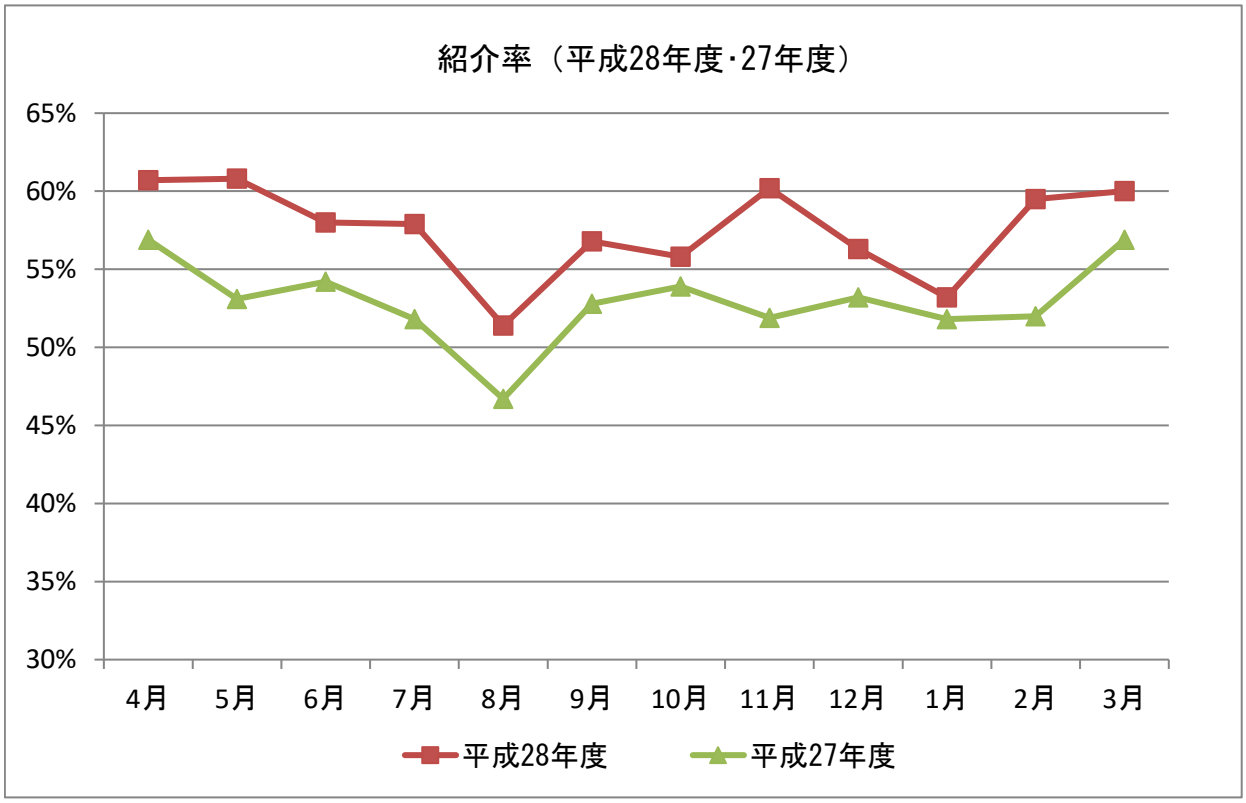
（６）紹介率

◆紹介率算出式

$$\frac{\text{初診紹介患者数}}{\text{初診患者数} - \text{初診救急搬送患者数} - \text{初診休日夜間救急患者数}} \times 100$$

◆紹介率実績推移

	初診患者数(人)	初診紹介患者数(人)	初診救急搬送患者数(人)	初診休日夜間救急患者数(人)	紹介率
28年４月	2, 775	1, 053	195	846	60. 7%
５月	2, 931	1, 079	202	955	60. 8%
６月	3, 014	1, 203	220	722	58. 0%
７月	3, 009	1, 040	262	952	57. 9%
８月	3, 071	1, 046	230	809	51. 4%
９月	2, 666	1, 011	197	691	56. 8%
10月	2, 890	1, 055	210	792	55. 8%
11月	2, 792	1, 011	244	869	60. 2%
12月	3, 142	917	267	1, 249	56. 3%
29年１月	3, 379	915	248	1, 412	53. 2%
２月	2, 906	1, 011	227	980	59. 5%
３月	2, 830	1, 115	235	738	60. 0%
年度計	35, 405	12, 456	2, 737	11, 015	57. 5%



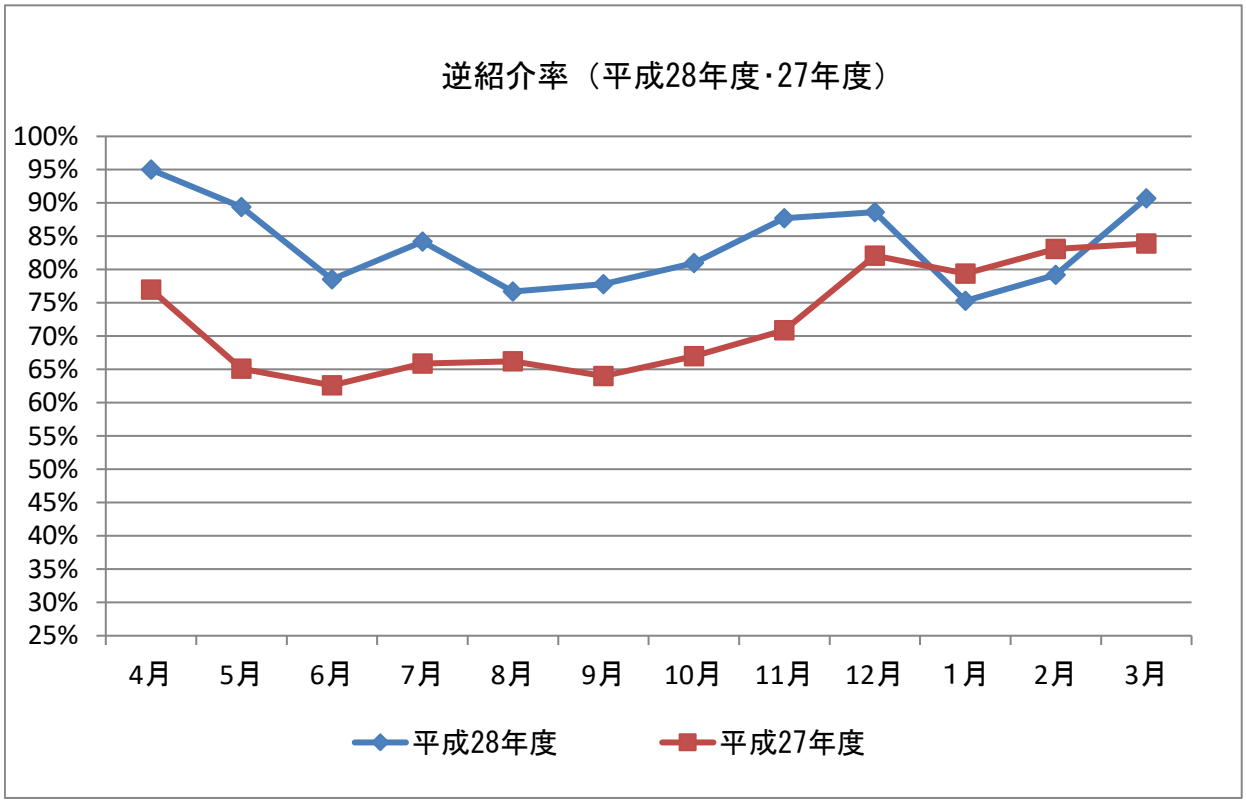
（７）逆紹介率

◆逆紹介率算出式

$$\frac{\text{診療情報提供書算定患者数}}{\text{初診患者数} - \text{初診救急搬送患者数} - \text{初診休日夜間救急患者数}} \times 100$$

◆逆紹介率実績推移

	初診患者数(人)	診療情報提供料算定患者数(人)	初診救急搬送患者数(人)	初診休日夜間救急患者数(人)	逆紹介率
28年４月	2, 775	1, 649	195	846	95. 0%
５月	2, 931	1, 586	202	955	89. 4%
６月	3, 014	1, 627	220	722	78. 5%
７月	3, 009	1, 513	262	952	84. 2%
８月	3, 071	1, 560	230	809	76. 7%
９月	2, 666	1, 385	197	691	77. 8%
10月	2, 890	1, 531	210	792	81. 0%
11月	2, 792	1, 473	244	869	87. 7%
12月	3, 142	1, 441	267	1, 249	88. 6%
29年１月	3, 379	1, 295	248	1, 412	75. 3%
２月	2, 906	1, 347	227	980	79. 2%
３月	2, 830	1, 685	235	738	90. 7%
年度計	35, 405	18, 092	2, 737	11, 015	83. 6%



（８）逆紹介時の診療科別月別診療情報提供数

（単位：件）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
内科	139	151	163	130	161	121	118	151	152	126	130	166	1,708
血液内科	9	10	12	11	9	6	16	22	12	8	12	12	139
消化器内科	189	161	182	183	145	136	158	184	152	129	151	176	1,946
循環器内科	145	126	131	109	126	108	130	129	108	95	101	154	1,462
外科	111	138	134	129	110	116	135	129	149	120	118	130	1,519
乳腺外科	58	50	50	55	52	57	45	27	20	19	44	37	514
脳神経外科	34	43	32	32	57	35	34	31	46	23	41	39	447
整形外科	91	75	98	70	92	74	65	67	67	63	76	112	950
形成外科	2	8	6	3	6	5	5	7	7	5	8	5	67
産婦人科	13	14	13	10	16	9	8	9	15	15	10	19	151
小児科	253	192	187	207	175	155	223	160	188	168	130	159	2,197
眼科	28	18	31	19	21	41	34	24	18	14	11	14	273
耳鼻咽喉科	189	163	155	175	174	144	160	141	156	190	156	241	2,044
泌尿器科	45	52	46	37	38	49	51	39	49	37	50	55	548
皮膚科	9	12	20	7	13	9	17	12	4	10	6	11	130
麻酔科	5	0	0	2	3	1	4	1	0	2	0	1	19
放射線科	162	166	167	156	170	153	148	144	133	103	139	151	1,792
歯科口腔外科	161	182	185	164	181	151	168	182	148	151	148	192	2,013
救急診療科	6	25	15	14	11	15	12	14	17	17	16	11	173
合計	1,649	1,586	1,627	1,513	1,560	1,385	1,531	1,473	1,441	1,295	1,347	1,685	18,092

２．診療収益状況（税抜）

（１）医業収益（外来）

◆診療科別　外来収益・患者数・単価（4-3月累計）

	外来収益（円）	占有率（%）	患者数（人）	占有率（%）	1人1日単価(円)
内　　科	323,181,766	9.0	20,025	10.0	16,139
血液内科	186,511,514	5.2	3,773	1.9	49,433
消化器内科	250,492,752	7.0	16,276	8.1	15,390
循環器内科	95,452,970	2.7	7,212	3.6	13,235
外　　科	677,970,570	19.0	14,376	7.1	47,160
乳腺外科	402,842,527	11.3	9,332	4.7	43,168
脳神経外科	43,225,894	1.2	3,136	1.6	13,784
整形外科	57,921,217	1.6	7,184	3.6	8,063
形成外科	52,273,248	1.5	8,327	4.2	6,278
産婦人科	137,263,187	3.8	19,973	10.0	6,872
小　児　科	444,393,876	12.5	21,055	10.4	21,106
眼　　科	5,730,732	0.2	973	0.5	5,890
耳鼻咽喉科	110,658,403	3.1	14,339	7.1	7,717
泌尿器科	277,825,086	7.8	16,814	8.3	16,523
皮　膚　科	10,892,072	0.3	3,347	1.7	3,254
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	6,568,257	0.2	1,730	0.9	3,797
麻　酔　科	7,869,430	0.2	3,060	1.5	2,572
放射線科	254,618,635	7.1	9,392	4.7	27,110
歯科口腔外科	86,870,705	2.4	9,281	4.6	9,360
救急診療科	139,494,979	3.9	10,965	5.5	12,722
合　　計	3,572,057,820	100.0	200,570	100.0	17,810

（２）医業収益（入院）

◆診療科別　入院収益・患者数・単価（4-3月累計）

	入院収益（円）	占有率（%）	患者数（人）	占有率（%）	1人1日単価(円)
内　　科	384,973,437	5.0	9,260	7.7	41,574
血液内科	421,350,436	5.4	8,965	7.5	46,999
消化器内科	639,014,154	8.3	13,778	11.5	46,379
循環器内科	1,295,718,312	16.7	12,106	10.1	107,031
外　　科	1,472,791,766	19.0	22,046	18.5	66,805
乳腺外科	204,836,227	2.6	2,861	2.4	71,596
脳神経外科	166,680,480	2.2	2,322	1.9	71,783
整形外科	585,730,491	7.6	9,676	8.1	60,534
形成外科	259,297,180	3.4	2,722	2.3	95,260
産婦人科	711,005,138	9.1	10,215	8.6	69,604
小　児　科	631,643,071	8.2	9,788	8.2	64,532
耳鼻咽喉科	399,086,416	5.2	6,553	5.5	60,901
泌尿器科	438,234,748	5.7	7,212	6.0	60,765
皮　膚　科	5,011,861	0.1	145	0.1	34,565
麻　酔　科	1,998,168	0.0	57	0.0	35,056
放射線科	33,270,357	0.4	572	0.5	58,165
歯科口腔外科	85,256,268	1.1	1,355	1.1	62,920
合　　計	7,735,898,510	100.0	119,633	100.0	64,664

◆外来収益（対前年度比較）　（単位：円）

	①27年度	②28年度	差異(②－①)	増減率
4-3月累計実績	3,142,347,062	3,572,057,820	429,710,758	13.7%

◆入院収益（対前年度比較）　（単位：円）

	①27年度	②28年度	差異(②－①)	増減率
4-3月累計実績	7,513,587,595	7,735,898,510	222,310,915	3.0%

◆外来患者数（対前年度比較）　（単位：人）

	①27年度	②28年度	差異(②－①)	増減率
4-3月累計実績	201,687	200,570	△ 1,117	△0.6%

◆入院患者数（対前年度比較）　（単位：人）

	①27年度	②28年度	差異(②－①)	増減率
4-3月累計実績	118,311	119,633	1,322	1.1%

◆外来1日1人単価（対前年度比較）　（単位：円）

	①27年度	②28年度	差異(②－①)	増減率
4-3月累計実績	15,580	17,810	2,230	14.3%

◆入院1日1人単価（対前年度比較）　（単位：円）

	①27年度	②28年度	差異(②－①)	増減率
4-3月累計実績	63,507	64,664	1,157	1.8%

（３）診療科別診療収益

区分 / 診療科	外来収益		入院収益		その他医業収益	合計	
	金額（円）	比率(%)	金額（円）	比率(%)	金額（円）	金額（円）	比率(%)
内科	323,181,766	9.0%	384,973,437	5.0%	―――	708,155,203	6.1%
血液内科	186,511,514	5.2%	421,350,436	5.4%	―――	607,861,950	5.2%
消化器内科	250,492,752	7.0%	639,014,154	8.3%	―――	889,506,906	7.6%
循環器内科	95,452,970	2.7%	1,295,718,312	16.7%	―――	1,391,171,282	11.9%
外科	677,970,570	19.0%	1,472,791,766	19.0%	―――	2,150,762,336	18.4%
乳腺外科	402,842,527	11.3%	204,836,227	2.6%	―――	607,678,754	5.2%
脳神経外科	43,225,894	1.2%	166,680,480	2.2%	―――	209,906,374	1.8%
整形外科	57,921,217	1.6%	585,730,491	7.6%	―――	643,651,708	5.5%
形成外科	52,273,248	1.5%	259,297,180	3.4%	―――	311,570,428	2.7%
産婦人科	137,263,187	3.8%	711,005,138	9.1%	―――	848,268,325	7.3%
小児科	444,393,876	12.5%	631,643,071	8.2%	―――	1,076,036,947	9.2%
眼科	5,730,732	0.2%	0	0.0%	―――	5,730,732	0.0%
耳鼻咽喉科	110,658,403	3.1%	399,086,416	5.2%	―――	509,744,819	4.4%
泌尿器科	277,825,086	7.8%	438,234,748	5.7%	―――	716,059,834	6.1%
皮膚科	10,892,072	0.3%	5,011,861	0.1%	―――	15,903,933	0.1%
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	6,568,257	0.2%	―――	―――	―――	6,568,257	0.1%
麻酔科	7,869,430	0.2%	1,998,168	0.0%	―――	9,867,598	0.1%
放射線科	254,618,635	7.1%	33,270,357	0.4%	―――	287,888,992	2.5%
歯科口腔外科	86,870,705	2.4%	85,256,268	1.1%	―――	172,126,973	1.5%
救急診療科	139,494,979	3.9%	―――	―――	―――	139,494,979	1.2%
室料差額収益	―――	---	―――	―――	178,949,093	178,949,093	1.5%
公衆衛生活動収益	―――	---	―――	―――	15,053,197	15,053,197	0.1%
医療相談収益	―――	---	―――	―――	125,411,690	125,411,690	1.1%
その他の医業収益	―――	---	―――	―――	41,302,839	41,302,839	0.4%
合計	3,572,057,820	100.0%	7,735,898,510	100.0%	360,716,819	11,668,673,149	100.0%

３．ＴＱＭ活動

◆目　的

当院では、平成 21 年度よりＴＱＭ活動を実施しており、今回で 8 回目となる。この活動は、患者の快適・満足を感じていただける医療・環境を創り上げていくために、医師・看護師をはじめ院内全スタッフでチームごとにテーマを設けて取り組み、医療の質や患者の満足度を向上させるために、チームの成果を病院全体で定着化させることが目的である。

当日は、公務で多忙の中、田中誠太 八尾市長も参加され、「この活動を通じてさらなる医療の質の向上に努めてください。」との激励のご挨拶をいただいた。

◆発表チーム

	部　署	チーム名
1	中央検査部・病理診断科	検査のこと知ってほしウィッシュ☆
2	中央手術部	ど根性Ｎｓ　オペ吉
3	７階東病棟	オリエンタルナース
4	栄養科（シダックスフーズサービス）	マツコシダックス
5	薬剤部	おくすりウォッチャーズ
6	新生児集中治療部	とにかく優しいＮＩＣＵ
7	６階東病棟	６東短見隊
8	５階東病棟	We’re perfect drug medicine
9	医事課（ニチイ学館）	ニチイ・デラックス
10	地域医連携室・がん相談センター	ＣＩＫ６７
11	８階東病棟	８東チーム　めざし
12	下関医療センター	招待発表

◆活動状況

【平成 28 年６月 26 日】　ＴＱＭ活動研修会を実施
【平成 28 年７月 12 日】　第１回ＴＱＭ活動実践指導ヒアリングを実施
【平成 28 年 11 月 18 日】　第２回ＴＱＭ活動実践指導ヒアリングを実施
【平成 29 年２月 18 日】　ＴＱＭ活動発表会を開催

今回の第８回ＴＱＭ活動発表会では、

最優秀賞　：　中央検査部・病理診断科
優秀賞２位　：　医事課（ニチイ学館）
優秀賞３位　：　７階東病棟
ポスター賞　：　中央手術部
　　医事課（ニチイ学館）

がそれぞれ受賞した。

来賓挨拶
田中 誠太 八尾市長

総評　人材育成研究所
所長 立川 義博先生

今回は過去活動のレビューを行った。改善活動については一定の成果が見られる一方、活動成果の定着状況は部署によるばらつきが見られた。今後改善活動を継続していく上では、部署のリーダークラスの意識統一・浸透が重要だとの分析結果が得られた。

最優秀賞：中央検査部・病理診断科

４．チーム医療活動

◆目　的

現在の医療は多くの職種が関わりながら進めるチーム医療が重要となっており、当院としては、チーム医療の推進を要としてとらえ、推進を図ってきた。その取り組みは最新の医療環境では重要であり、積極的に取り組むことにより、医療の質の向上、さらには経営の改善にもつながると考えている。

◆推進チーム

八尾市立病院チーム医療推進委員会（委員長：佐々木洋総長）がチーム医療の推進を図り、平成 28 年度は 8 チームにて活動を行った。

・退院調整チーム
・緩和ケアチーム
・褥瘡対策チーム
・呼吸ケアチーム
・周術期血栓対策部会
・院内感染対策チーム(ICT)
・栄養管理チーム(NST)
・化学療法部会

◆活動状況

【平成 28 年 7 月 4 日】　平成 28 年度の各チームの活動の目標設定について報告があった。

【平成 28 年 11 月 29 日】　各チームが設定した目標に対する活動状況の確認を行った。

【平成 29 年 3 月 6 日】　平成 28 年度チーム医療発表会を開催した。

３月 6 日チーム医療発表会はチーム医療推進委員会委員長の佐々木洋総長のあいさつに始まり、17 時 30 分から 19 時 45 分まで各チームとも熱心な発表が行われた。

チーム名	主な取り組み結果
退院調整チーム	退院支援加算 1：752 件/年、介護連携指導料：150 件/年、退院時共同指導料 2：8 件/年。教育・研修面では研修会や事例検討会を年３回実施。チーム医療推進では他職種とのカンファレンスを年９回実施した。
周術期血栓対策部会	麻酔申込時のリスク評価義務化の継続。ＤＶＴ検出件数 214 件中 27 件（検出率 13%）。今年度の周術期肺塞栓症は０件だった。
緩和ケアチーム	新規介入件数は 116 件。院内緩和研修会は年 4 回。院外緩和ケア研修会は年 18 回。市民教育・啓蒙活動では医療従事者と患者の合同検討会議１回。
院内感染対策チーム(ICT)	ＭＥＰＭ使用状況は、ＡＵＤ15.60、ＤＯＴ14.81。緑膿菌のＭＥＰＭに対する感受性率 90%。院内感染対策講習会は年 3 回実施。
褥瘡対策チーム	院内褥瘡発生件数(目標 15 件以内、結果 16 件)。ＯＨスケールで患者の特徴を理解し、マトレス調整により 6 台追加。院内スタッフ研修 5 回実施した。
栄養管理チーム(NST)	新規介入件数の目標 120 件に対して 113 件。栄養サポートチーム加算の算定は 381 件。栄養療法の早期介入は 29 件。
呼吸ケアチーム	病棟ラウンド人数は 17 名。ラウンドのべ回数は 52 名。院内研修会は年 3 回実施。
化学療法部会	外来化学療法オリエンテーション実施状況は目標 95%に対して 96.2%達成。「わたしのカルテ」運用によるコミュニケーション活性化 162 部配布。

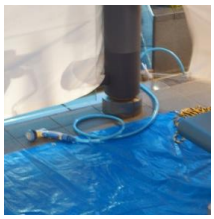
５．大規模災害発生時のトリアージ応急救護訓練

平成 28 年 10 月 6 日（木）17 時 30 分より当院において、『大規模災害発生時のトリアージ応急救護訓練』（以下「訓練」）を実施した。今回で７回目となる本訓練は、大規模災害が発生した際の『災害対策本部・トリアージセンター』などの立ち上げに重点をおいた訓練であった。

いつ発生するか予測できない大規模災害の際に、医療機関が担うべき役割は非常に大きく、一刻も早い指揮命令系統などの体制を確立することができるように、本番さながらの訓練を実施した。

災害対策本部
対策本部では、各救護所の状況把握を行った。

備品搬送
各部署の必要備品の搬送には、医師・看護師・事務職それぞれが、協力して実施した。



トリアージセンター
今年度から、身体の汚れや傷を洗うための『ホース（水）』を設置した。

軽症者応急救護所

中症者応急救護所

中・重症者入院待機エリア

６．自衛消防訓練

平成 29 年２月 23 日（木）、６階東病棟洗濯室から火災発生という設定で、自衛消防訓練を実施した。

初期消火の対応から、連絡系統・避難経路などの確認及び迅速な患者の避難誘導を行った。看護師の適切な対応により、患者は無事に避難することができた。

屋外では消防署員の方から消火器の取り扱い方法を教えていただいた。また、訓練用水消火器を使用し、多くの医師、看護師等が火災を想定した的を狙って初期消火訓練を行い、火災への意識を高めることができた。

初期消火の対応

患者の避難誘導

訓練用水消火器による消火訓練

７．八尾市立病院公開講座

八尾市立病院公開講座は平成 18 年から開催しており、平成 25 年からは、『看護師による健康相談』、平成 26 年からは、『薬剤師によるお薬相談』も同時開催している。

公開講座

看護師による健康相談
薬剤師によるお薬相談

	開催日	テーマ	演　者	開催場所	参加人数
第 43 回	平成 28 年 6 月 11 日	いつまでも元気に －　健康寿命を延ばそう －	1. ロコモティブシンドロームって？ 整形外科部長　　三岡　智規 2. サプリメントのウソ、ホント 整形外科副医長　辻井　聡 3. 膝が痛くて歩けない。さあ、どうしよう」 整形外科医長　　平松　久仁彦	院内	62 名
第 44 回	平成 28 年 7 月 30 日	女性にとって大切な話 ～産婦人科医と助産師から～	1. 性感染症について －あなたのために、大切な人のために、知っておきたいこと－ 看護師長　　助産師　安田　幸代 2. 今日からもう悩まない、生理痛のはなし 産婦人科医師　　中野　和俊 3. 当科でおこなっている小さな傷の手術 － 腹腔鏡下手術について － 産婦人科医長　　佐々木　高綱	院内	30 名
第 45 回	平成 28 年 9 月 22 日	Take! ABI in YAO 2016 足の血圧でわかる脳や心筋梗塞の危険度	1. 脳・心臓などの全身動脈をひそかに侵す「動脈硬化」動脈硬化の早期発見・早期治療 松尾クリニック理事長　松尾　汎 2. 血圧脈波・エコー検査で判ること 中央検査部主任技師　細井　亮二 3. 動脈硬化予防のための食事 栄養科係長　　黒田　昇平 4. カテーテル検査・治療の実際（心臓、末梢血管） 循環器内科副医長　乾　礼興	院内	68 名
第 46 回	平成 28 年 11 月 12 日	「トイレが近くて」困っていませんか？	1. 前立腺肥大症 泌尿器科副医長　村尾　昌輝 2. 過活動膀胱 泌尿器科医長　　町田　裕一 3. 前立腺癌 泌尿器科医長　　上水流　雅人 4. 夜間頻尿 泌尿器科部長　　池本　慎一	院内	78 名
第 47 回	平成 29 年 1 月 28 日	耳鼻咽喉科の病気についてもっと知ろう！　－　当院での現況を中心に　－	1. 耳の病気について 耳鼻咽喉科医長　日尾　祥子 2. 鼻の病気について 耳鼻咽喉科部長　川島　貴之 3. のど・くびの病気について 耳鼻咽喉科医長　佐野　奨	プリズムホール レセプションホール	108 名

８．八尾地域医療合同研究会

『八尾地域医療合同研究会』は平成 22 年度に発足し、八尾市と近隣の柏原市、東大阪市、平野区などの医師・医療関係者を対象に年２回開催している。

開会の辞
総長
佐々木 洋 先生

第１３回八尾地域医療合同研究会

平成 28 年５月１４日（土）シェラトン都ホテル大阪において、『第１３回八尾地域医療合同研究会』を開催した。参加者は 92 名であった。

特別講演
『乳癌診療の現状と今後の展望　～分子診断による、個別化治療の推進～』

講演は長年の臨床経験と研究による検証結果から、乳がん治療の過去と現在の手術、治療の違いを映像を用いて進められた。

演者
大阪大学大学院
医学系研究科
乳腺・内分泌外科学
教授 野口 眞三郎 先生

八尾市立病院からのＴｏｐｉｃｓ

座長
八尾市立病院
病院長
星田四朗先生

演者
『新規導入されたリニアックの高精度放射線治療について～』
八尾市立病院
副院長　西山謹司先生

閉会の辞
八尾市立病院
特命院長
兒玉憲先生

演者
『膵がんに対する手術・化学療法放射線治療の現状と展望』
八尾市立病院
消化器外科部長
久保田勝先生

演者
『Ｃ型肝炎に対する最新治療～当院における現状と展望～』
八尾市立病院
消化器内科部長
宮城琢也先生

第１４回八尾地域医療合同研究会

平成 28 年 10 月 15 日（土）ホテルモントレグラスミア大阪において、『第１４回八尾地域医療合同研究会』を開催した。参加者は 90 名であった。

特別講演
『認知症の診療～ご本人らしさを保つために～』

講演は認知症の方の生活保障４本柱『薬物療法・非薬物療法・リハビリテーション・介護者の対応の工夫』について詳しく語られた。

演者
東海大学医学部
内科学系神経内科学
准教授 馬場 康彦 先生

八尾市立病院からのＴｏｐｉｃｓ

座長
八尾市立病院
副院長
福井弘幸先生

演者
『当院のＥＳＤの実績とＰＰＩの有用性・安全性』
八尾市立病院
内視鏡センター長
上田高志先生

閉会の辞
八尾市立病院
特命院長
兒玉憲先生

演者
『肺癌治療における呼吸器外科の役割』
八尾市立病院
呼吸器外科 医長
馬庭知弘先生

9. 業績集

(1)刊行論文、著書

題名	著者	雑誌名、巻号
Age at onset is associated with the seasonal pattern of onset and exacerbation in inflammatory bowel disease	Araki S, Fukui T et al	J Gastroenterol. 2017 Feb 6
outflow tract pacing -Importance of heart rotation at pacemaker implantation-	Watanabe T	Journal of Clinical Case Reports 2016, 6:707
Dabigatran therapy resulting in the resolution of rivaroxaban-resistant left atrial	Watanabe T	Internal Medicine: in press
Age- and sex-related differences in diastolic function and cardiac dimensions in a hypertensive population	Hoshida S	ESC Heart Fail; 2016 Dec
Appendage thrombus in patients with atrial fibrillation: a report of two cases	Watanabe T	Heart and Vessels (2017)32:326-332
Effects of an Oral Elemental Nutritional Supplement on Post-gastrectomy Body Weight Loss in Gastric Cancer Patients: A Randomized Controlled Clinical Trial.	Imamura H,Nishikawa K, Kishi K, Inoue K, Matsuyama J, Akamaru Y, Kimura Y, Tamura S, Kawabata R, Kawada J, Fujiwara Y, Kawase T, Fukui J, Takagi M,Takeno A,Shimokawa T	Ann Surg Oncol,2016,23(9),2928-35
Influence of previous abdominal surgery on surgical outcomes between laparoscopic and open surgery in elderly patients with colorectal cancer: subanalysis of a large multicenter study in Japan.	Yamamoto S,Yamamoto S, Hinoi T, Niitsu H, Okajima M, Ide Y, Murata K, Akamoto S, Kanazawa A, Nakanishi M, Naitoh T, Kanehira E, Shimamura T, Suzuka I, Fukunaga Y, Yamaguchi T, Watanabe M	J Gastroenterol.,2016,18(6),221-23
Single-port versus multi-port laparoscopic surgery for colon cancer in elderly patients.	Tokuoka M, Ide Y, Takeda M, Hirose H, Hashimoto Y, Matsuyama J, Yokoyama S, Fukushima Y, Sasaki Y	Oncol Lett.,2016,12(2),1465-70
Lower body mass index predicts worse cancer-specific prognosis in octogenarians with colorectal cancer.	Adachi T, Hinoi T, Kinugawa Y, Enomoto T, Maruyama S, Hirose H, Naito M, Tanaka K, Miyake Y, Watanabe M	J Gastroenterol.,2016,51(8),779-87
平成25年度学会賞受賞記念講演 肝臓外科(肝局所療法～肝切除まで)の医療現場一筋	佐々木洋	日臨外会誌,2016,76(3),447-65
肝癌に対する局所療法(経肝動脈治療と腫瘍穿刺治療)	佐々木洋	癌と化学療法,2016,42(7),771-77
Editorial: Has lobe-specific nodal dissection for early-stage non-small cell lung cancer already become standard treatment?	Maniwa T, Kodama K	J Thorac Dis 2016;8:2407-10
Anaplastic lymphoma kinase-positive squamous cell carcinoma of the lung: A case report	Yamamoto Y, Kodama K, Maniwa T, Takeda M, Kishima H	Molecular and Clinical Oncology 2016;5:61-3
Successful treatment of advanced thymic carcinoma with lymph node and pleural metastases: A case report	Yamamoto Y, Kodama K, Maniwa T, Kishima H	Molecular and Clinical Oncology 2016;5:550-2
Natural history of pulmonary subsolid nodules: A prospective multicenter study	Kakinuma R, Noguchi M, Ashizawa K, Kuriyama K, Maeshima AM, Koizumi N, Kondo T, Matsuguma H, Nitta N, Ohmatsu H, Okami J, Suehisa H, Yamaji T, Kodama K, Mori K, Yamada K, Matsuno Y, Murayama S, Murata K	J Thorac Oncol 2016;11:1012-28
Homozygous inactivation of CHEK2 is linked to a familial case of multiple primarylungcancerwithaccompanying cancers in other organs	Kukita Y, Okami, J, Kato NY, Nakamae I,Kawabata T, Higashiyama M, Kato J, Kodama K, Kato K	Cold Spring Harb Mol Case Stud 2 doi: 10.1101/mcs.a001032,2016
Boundary between N1 and N2 Lymph Node Descriptors in the Subcarinal Zone in Lower Lobe Lung Cancer: A Brief Report.	Isaka M, Kondo H, Maniwa T, Takahashi S, Ohde Y	J Thorac Oncol 2016;11:1176-80
Prophylactic middle lobe fixation for postoperative pulmonary torusion	Higashiyama M, Tokunaga T, Kusu T, Ishida H, Okami J, Kodama K	Asian Cardiovascular & Thoracic Annals doi: 10.1177/0218492316682669 2016
Heterogeneity if tumor sizes in multiple pulmonary metastases of colorectal cancer as a prognostic factor	Maniwa T, Mori K, Ohde Y, Okumura T, Boku N, Hishida T, Sakao Y, Yoshiya K, Hyodo I, Kondo H.	Ann Thorac Surg 2017;103:254-60
Thymic and mediastinal lymph node metastasis of colon cancer	Yamamoto Y, Kodama K, Ide Y, Takeda M	Ann Thorac Surg 2017;103:e13-5
Continuous paravertebral block using a thoracoscopic catheter-insertion technique for postoperative pain after thoracotomy: a retrospective case-control study.	Yamauchi Y, Isaka M, Ando K, Mori K, Kojima H, Maniwa T, Takahashi S, Ando E, Ohde Y.	J Cardiothorac Surg. 2017 25;12:5
Impact of biomarker changes during neoadjuvant chemotherapy for clinical response in patients with residual breast cancers	Enomoto Y, Morimoto T, Nishimukai A, Higuchi T, Yanai A, Miyagawa Y, Murase K, Imamura M, Takatsuka Y, Nomura T, Takeda M, Watanabe T, Hirota S, Miyoshi1 Y	Int J Clin Oncol (2016 April) 21:254-261
ACL再建術前後の脛骨位置変化:受傷時期による違いの検討	平松久仁彦	JOSKAS 40,1.3, 2016.

題名	著者	雑誌名、巻号
Optimization of human mesenchymal stem cell isolation from synovial membrane: Implications for subsequent tissue engineering effectiveness	Sugita N	Regererative Therapy 5
注入療法 多血小板血漿(PRP)療法	楠本健司、三宅ヨシカズ、福田 智	患者満足度ベストを目指す 非手術・低侵襲美容外科 -形成外科学に基づいた考え方とテクニックの実際 高柳進 編 162-169南江堂
薬剤血管外漏出によって重篤な組織壊死を認めた3例	仲野雅之、福田 智、三宅ヨシカズ、楠本健司	形成外科 59(4):434-439,2016
PRPの創傷手術時の創への使用	三宅ヨシカズ、楠本健司、福田 智	形成外科 59(9);944-949,2016
PRPの滑液嚢胞への応用	三宅ヨシカズ、楠本健司、福田 智	形成外科 59(9);950-955,2016
PRP療法の美容医療(シワ)への応用	福田 智、三宅ヨシカズ、楠本健司	形成外科 59(9);956-963,2016
VASK graft法による皮膚および伸筋腱欠損に対する新たな同時再建法	三宅ヨシカズ、楠本健司	日本形成外科学会誌 37(2):53-59,2017
汎発性腹膜炎を併発後、シスプラチン単独療法を行った中間リスク群肝芽腫の1例	藪本仁美、石原 卓、本田晃正、金廣裕道、越智聡史、竹下泰史、嶋 緑倫	日本小児血液・がん学会雑誌 53(1):16-20, 2016
Impact of biomarker changes during neoadjuvant chemotherapy for clinical response in patients with residual breast cancers	Enomoto Y, Morimoto T, Nishimukai A, Higuchi T, Yanai A, Miyagawa Y,Murase K, Imamura M,Takatsuka Y, Nomura T, Takeda M, Watanabe T, Hirota S, Miyoshi M	Int J Clin Oncol (2016) 21:254-261
地域医療連携における病院薬剤師と薬局薬剤師の連携	長谷圭悟	大阪市立大学学位論文(修士)2017 1-94頁
アピアランスケア	島田敏江	オンコロジーナース10(2):22-28,2016
論文執筆のすすめ	朴井 晃	ネットわークVol.166P.6-7 2016.5 マッセOSAKA
③地域連携パスの現状とこれから	小枝伸行	「在宅医療のKEY&NOTE-薬学の知識と臨床が出会う場所-」P. 51～57 薬ゼミファーマブック 2017/2/7
人口減少社会での地域医療のあり方～医療・介護のシームレスな体制の構築に向けて～	朴井 晃	マッセOSAKA研究紀要第20号P. 113～129

(2)学会発表

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
がん拠点病院における 担がん脳梗塞患者の検討	大江洋介、都築 貴、有田都史香、クーウィミン	第58回日本老年医学会学術集会 2016/6/8 金沢市
SGLT2阻害薬服用中に脳梗塞を来した2例	澤田允宏、吉田朋世、小川義高、辻本和徳、辻真由美、上田高志、木戸里佳、大江洋介、有田都史香、都築 貴	内科学会第215回近畿地方会 2017/3/25 神戸市
当院での消化管粘膜下腫瘍に対するLECSの検討	前川祐樹、伊藤資世、中村昌司、木津 崇、巽 理、上田高志、宮城琢也、福井弘幸、松山 仁	第91回日本消化器内視鏡学会総会 2016/5/12 東京都
当院における大腸癌イレウスに対して施行した大腸ステント留置症例の有効性と安全性の検討	中村昌司、木津 崇、伊藤資世、前川祐樹、巽 理、上田高志、宮城琢也、福井弘幸	第91回日本消化器内視鏡学会総会 2016/5/12 東京都
NASH症例における肝線維化進展に関連する因子および長期予後についての検討	卜部彩子、平松直樹、福井弘幸、竹原徹郎 他	第52回日本肝臓学会総会 2016/5/19 東京都
B型慢性肝炎の病態におけるNK細胞活性型レセプターNKp46および抑制型レセプターNKG2Aの意義	吉岡鉄平、巽 智秀、宮城琢也、竹原徹郎 他	第52回日本肝臓学会総会 2016/5/19 東京都
C型慢性肝炎におけるダグラタスビル・アスナプレビル併用療法治療成績ならびに薬剤耐性変異の解析	森下直紀、平松直樹、宮城琢也、竹原徹郎 他	第52回日本肝臓学会総会 2016/5/19 東京都
Genotype 2型 C型慢性肝疾患に対するSofosbuvir/Ribavirin併用療法の治療成績および安全性について	卜部彩子、平松直樹、宮城琢也、竹原徹郎 他	第52回日本肝臓学会総会 2016/5/19 東京都
急性肝炎様の発症を呈したびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例	岡本正幸、木津 崇、伊藤資世、前川祐樹、中村昌司、巽 理、上田高志、宮城琢也、福井弘幸	第105回日本消化器病学会近畿支部例会 2016/9/17 大阪市
5ASA注腸製剤にて薬剤性膵炎を発症した1例	井上創輝、前川祐樹、木津 崇、岡本正幸、伊藤資世、中村昌司、巽 理、上田高志、宮城琢也、福井弘幸	第105回日本消化器病学会近畿支部例会 2016/9/17 大阪市
当院におけるDaclatasvir/Asunaprevir療法およびLedipasvir/sofosbuvir療法の効果と副作用に関する検討 (シンポジウム1)	伊藤資世、宮城琢也、上田高志、福井弘幸	第105回日本消化器病学会近畿支部例会 2016/9/17 大阪市
Genotype 2型 C型慢性肝疾患の special population に対する Sofosbuvir/Ribavirin併用療法の有用性	卜部彩子、平松直樹、宮城琢也、竹原徹郎 他	第20回日本肝臓学会大会 2016/11/4 神戸市
画像上、乳癌多発肝転移と診断されたトキソカラ感染症の1例	山田佳那、前川祐樹、伊藤資世、中村昌司、木津 崇、巽 理、上田高志、宮城琢也、道下新太郎、竹田雅司	第214回日本内科学会近畿地方会 2016/12/3 大阪市
B型慢性肝炎患者に発症した肝原発形質細胞腫の1例	長岡達郎、木津 崇、岡本正幸、前川祐樹、中村昌司、巽 理、上田高志、福井弘幸、服部英喜、竹田雅司	第215回日本内科学会近畿地方会 2017/3/25 大阪市
Association between Atrial Fibrillation and Ventricular Arrhythmia in Patients with Implantable Cardioverter Defibrillator: Results from Sub-analysis of Multicenter Prospective Study in Japan	渡部徹也	第9回植込みデバイス関連連冬季大会 2017/2/16-18 福岡市

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
Effect of Prophylactic Anti-arrhythmic Drugs during Blanking Period after Atrial Fibrillation Catheter Ablation: a multicenter, randomized trial	渡部徹也	第80回日本循環器学会学術集会 2016/3/18-20 仙台市
Phase II study of S-1 plus docetaxel as first-line treatment for elderly patients with advanced gastric cancer (OGSG0902).	Matsuyama J, Imamura H, Kawabata R, Kawase T, Okada K, Nishikawa K, Kurokawa Y, Fujitani K, Shimokawa T, Satoh T	2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017.1.19-21,San Francisco
A phase II study to examine the effectiveness of nutritional support with elemental diet for stage II/III gastric cancer patients receiving adjuvant chemotherapy with S-1 (OGSG 1108).	Kawada J, Imamura H, Matsuyama J, Fukui J, Nishikawa K, Kawase T, Shimokawa T, Kurokawa Y, Satoh T, Furukawa H	2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017.1.19-21,San Francisco
A phase II trial of trastuzumab combined with irinotecan in patients with advanced HER2-positive chemo-refractory gastric cancer: OGSG1203 (HERBIS-5).	Sugimoto N, Sakai D, Kawada J, Kawabata R, Nishikawa K, Kawase K, Oka Y, Shimizu T, Nishijima J, Hasegawa H, Endo S, Isozaki Y, Kimura Y, Matsuyama J, Kurokawa Y, Shimokawa T, Fujitani K, Satoh T	2016 ASCO Annual Meeting,2016.6.7-10,Chicago
Effects of an Oral Elemental Nutrition Supplement in Gastric Cancer Patients with Adjuvant S-1 Chemotherapy After Gastrectomy: A Phase II Study (OGSG1108)	Matsuyama J,Imamura H, Fukui J, Nishikawa K, J. Kawada J, Kawase T, Kurokawa Y, Shimokawa T, Satoh T	Society of Surgical Oncology 70th Annual Cancer Symposium,2017.3.15-18,Seattle,Wa.
地域包括ケアシステムのあるべき姿	佐々木洋	第18回大阪病院学会 2016/11/15 大阪市
病院・診療所・薬局間のICTによる地域連携システムの構築ー　がん診療への展開	佐々木洋、横山茂和、橋本安司、福島幸男、松山　仁、井出義人、永井健一、廣瀬　創、森本　卓、道下新太郎	第77回日本臨床外科学会 2016/11/26-28 福岡市
ペルフルブタン(ソナゾイド)を用いた術中超音波検査が肝腫瘍の微小肝転移局在診断に有用であった一例	久保田勝、橋本安司、野間貴之、杢谷友香子、永井健一、廣瀬　創、井出義人、松山　仁、福島幸男、佐々木洋	第78回日本臨床外科学会総会 2016/11/24-26 東京都
胃癌術前管理に中心静脈栄養を要した症例についての検討	松山　仁、永井健一、山本陽子、馬庭知弘、道下新太郎、橋本安司、廣瀬　創、井出義人、横山茂和、森本　卓、福島幸男、兒玉　憲、佐々木洋	第88回日本胃癌学会総会 2016/3/17-19 別府市
イリノテカン+トラスツズマブ併用療法の進行・再発HER2 陽性胃癌既治療例に対する多施設第II 相試験OGSG1203 (HERBIS-5) : TTF解析	松山　仁、坂井大介、川田純司、西川和宏、川端良平、川瀬朋乃、岡　義雄、杉本直俊、清水　健、西嶌準一、長谷川裕子、遠藤俊治、磯崎　豊、木村　豊、黒川幸典、下川敏雄、藤谷和正、佐藤太郎	第102回日本消化器病学会総会 2016/4/21-23 東京都
食道癌・胃癌の同時性重複癌治療における腸瘻栄養管理	松山　仁、野間貴之、杢谷友香子、橋本安司、馬庭知弘、永井健一、広瀬　創、井出義人、久保田勝、木村幸男、福島幸男、兒玉　憲、佐々木洋	第54回日本癌治療学会学術集会 2016/10/20-22 横浜市
ONSを用いた胃癌術前栄養管理	松山　仁、野間貴之、杢谷友香子、橋本安司、馬庭知弘、永井健一、広瀬　創、井出義人、久保田勝、木村幸男、福島幸男、兒玉　憲、佐々木洋	第78回日本臨床外科学会総会 2016/11/24-26 東京都
進行直腸癌に対する術前補助化学療法後腹腔鏡下切除術	井出義人、廣瀬　創、橋本安司、永井健一、馬庭知弘、松山　仁、横山茂和、福島幸男、兒玉　憲、佐々木洋	第71回日本消化器外科学会総会 2016/7/14-16 徳島市
80歳以上高齢者大腸癌手術で開腹術既往の有無が手術成績に及ぼす影響　腹腔鏡および開腹手術での後向き調査	山本聖一郎、檜井孝夫、川口康夫、服部　稔、岡島正純、井出義人、赤本伸太郎、金澤旭宣、中西正芳、渡邊昌彦	第71回日本消化器外科学会総会 2016/7/14-16 徳島市
当院におけるISRの現状と課題	井出義人、廣瀬　創、徳岡優佳、山本陽子、橋本安司、永井健一、松山　仁、横山茂和、福島幸男、兒玉　憲、佐々木洋	第84回大腸癌研究会 2017/1/15 熊本市
切除不能進行大腸癌に対するBevacizumab+TAS102療法	井出義人、廣瀬　創、橋本安司、永井健一、馬庭知弘、松山　仁、横山茂和、福島幸男、兒玉　憲、佐々木洋	第14回日本臨床腫瘍学会学術集会 2016/7/28-30 神戸市
L-OHPを使用した大腸癌化学療法における悪心・嘔吐リスク因子および性差に関する解析	井出義人、西村順一、武元浩新、福永　睦、中田　健、工藤敏啓、三宅泰裕、小森孝通、佐藤太郎、森田俊治、辻江正樹、畑泰司、水島恒和、土岐祐一郎、森　正樹	第54回日本癌治療学会学術集会 2016/10/20-22 横浜市
肛門管近傍直腸癌に対する腹腔鏡下ISR	井出義人、廣瀬　創、杢谷友香子、野間貴之、橋本安司、永井健一、松山　仁、久保田勝、福島幸男、竹田雅司、西岡陽介、佐々木洋	第71回日本大腸肛門病学会学術集会 2016/11/18-19 三重市
当院における腹腔鏡下側方郭清術定型化の工夫	井出義人、廣瀬　創、杢谷友香子、野間貴之、橋本安司、永井健一、馬庭知弘、松山　仁、久保田勝、福島幸男、兒玉　憲、佐々木洋	第78回日本臨床外科学会総会 2016/11/24-26 東京都
腹腔鏡下骨盤内臓全摘術の有用性と問題点	井出義人、廣瀬　創、杢谷友香子、橋本安司、永井健一、松山　仁、久保田勝、福島幸男、佐々木洋	第29回日本内視鏡外科学会総会 2016/12/8-10 横浜市
術前XELOXIRI療法が奏功し、腹腔鏡下括約筋間直腸切除術(ISR)にて根治切除しえた進行直腸癌の1例	廣瀬　創、井出義人、松山　仁、橋本安司、永井健一、横山茂和、福島幸男、佐々木洋	第84回大腸癌研究会 2017/1/15 熊本市
仙骨前面のdermoid cystに対する腹腔鏡下切除術の1例	長岡達朗、廣瀬　創、松山　仁、橋本安司、永井健一、井出義人、横山茂和、福島幸男、佐々木洋	第26回中河内消化器病研究会 2017/3/12 大阪市
腹腔内出血をきたした神経線維腫症1型に合併したGIST の1切除症例	長岡達朗、廣瀬　創、松山　仁、橋本安司、永井健一、井出義人、横山茂和、福島幸男、佐々木洋	第199回近畿外科学会 2016/5/14 大阪市
仙骨前面のdermoid cystに対する腹腔鏡下腫瘤切除術の一例	長岡達朗、廣瀬　創、松山　仁、橋本安司、永井健一、井出義人、横山茂和、福島幸男、佐々木洋	第71回日本消化器外科学会総会 2016/7/14-16 徳島市
イレウスを伴った閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対し一期的に腹腔鏡下ヘルニア修復術(TAPP)を施行した一例	井上創輝、廣瀬　創、松山　仁、杢谷友香子、橋本安司、永井健一、井出義人、横山茂和、福島幸男、佐々木洋	第27回中河内消化器病研究会 2016/9/10 大阪市
前立腺癌小線源療法後の肛門管扁平上皮癌に対し腹腔鏡下マイルズ手術を施行した1例	廣瀬　創、井出義人、杢谷友香子、松山　仁、橋本安司、永井健一、横山茂和、福島幸男、佐々木洋	第71回日本大腸肛門病学会学術集会 2016/11/18-19 三重市
イレウスを伴う腸管嵌頓ヘルニアに対して腹腔鏡下にて還納後、ヘルニア修復術(TAPP)を施行した2例	廣瀬　創、井出義人、杢谷友香子、松山　仁、橋本安司、永井健一、横山茂和、福島幸男、佐々木洋	第29回日本内視鏡外科学会総会 2016/12/8-10 横浜市

演題名	発表者	学会名、日時、会場（都市）
私、女性外科医やってます！私のスタイル紹介	杢谷友香子、久保田勝、野間貴之、橋本安司、永井健一、井出義人、松山　仁、福島幸男、道下新太郎、森本　卓、廣瀬　創、馬庭知弘、木村幸男、児玉　憲、佐々木洋	第78回日本臨床外科学会総会 2016/11/24-26　東京都
集学的治療により長期生存が得られているⅣ期胸腺癌の1例	山本陽子、兒玉　憲、馬庭知弘、竹田雅司、貴島弘樹	第33回日本呼吸器外科学会総会 2016/5/12-13　京都市
進行肺腺癌にEGFR-TKIを使用し根治的切除を行った2例	山本陽子、兒玉　憲、馬庭知弘、竹田雅司、貴島弘樹	第57回日本肺癌学会総会 2016/12/19-22　福岡市
左上葉肺癌対側縦隔リンパ節転移（N3)症例に対して全身化学療法後にSalvage手術を施行した2例	馬庭知弘、山本陽子、木村幸男、貴島弘樹、兒玉　憲	第57回日本肺癌学会総会 2016/12/19-23　福岡市
The Efficacy and Safety of 4 cycles of Tri-weekly Nanoparticle Albumin-bound Paclitaxel (nab-PTX) followed by 4 cycles of FEC (5-fluorouracil, epirubicin, cyclophosphamide) as Neoadjuvant Chemotherapy for Patients with HER2-negative Primary Breast Cancer - A Multicenter Phase II Study (KBCSG-TR1213)	Tanaka K, Masud N, Matsunami N, Takashima T, Morimoto T, Mizutani M, Yoshidome K, Yasojima H, Morishima H, Hata K, Shiba E, Tominaga S, Nishi S, Kamigaki S, Yoshinami T, Munakata S, Takeda M, Tsujimoto M, Nakayama T	EBCC10 9-11 MAR 2016 Amsterdam
Participants in a randomized-controlled trial (SELECT BC) had longer overall survival than non-participants: a prospective cohort study	Narui K, Ohno S, Mukai H, Hozumi Y, Miyoshi Y, Yoshino H, Doihara H, Suto A, Tamura M, Morimoto T, Zaha H, Chishima T, Nishimura R, Ishikawa T, Uemura Y, Ohashi Y, SELECT BC study group	ASCO2016 3-7 June 2016 Chicago
手術可能HER2陰性乳癌におけるnab-Paclitaxel(q3W) followed by FECによる術前化学療法（KBCSG-TR1213）	松並展輝、増田慎三、高島　勉、森本　卓、水谷麻紀子、吉留克英、八十島宏行、森島宏隆、畑　和仁、芝　英一、富永修盛、西　敏夫、神垣俊二、吉波哲大、田中希世、棟方　哲、竹田雅司、辻本正彦、中山貴寛	第24回日本乳癌学会学術総会 2016/6/16-18　東京都
術前化学療法についての臨床試験における中央病理診断の意義－KBCSG-TR1213での経験	竹田雅司、辻本正彦、棟方　哲、松並展輝、高島　勉、森本　卓、吉留克英、畑　和仁、芝　英一、富永修盛、西　敏夫、神垣俊二、中山貴寛、増田慎三	第24回日本乳癌学会学術総会 2016/6/16-18　東京都
乳がん術後に専門科（理学療法士・作業療法士）がリハビリテーションに早期に関わることの有効性について（ Kinki Multidisciplinary Breast Oncology Group : KMBOG0913 臨床試験）	中村香織、山口正秀、奥平由香、久保美音子、松田直人、野口明美、廣中　愛、森本　卓、野村　孝、増田慎三、村田博昭、竹田　靖	第24回日本乳癌学会学術総会 2016/6/16-18　東京都
トモシンセシスマンモグラフィ(3D-MMG)の有用性の検討（検診への導入に向けて）	野村　孝、道下新太郎、森本　卓、竹田雅司、藤田倫子、松之木愛香、井口千景、山本　仁、芝　英一	第24回日本乳癌学会学術総会 2016/6/16-18　東京都
PER+HER+DTX 投与後PER+HER維持療法	森本　卓、道下新太郎、竹田雅司、吉野知子	第24回日本乳癌学会学術総会 2016/6/16-18　東京都
再発・転移乳癌に対するT-DM1療法の検討	道下新太郎、竹田雅史、吉野知子、森本　卓	第24回日本乳癌学会学術総会 2016/6/16-18　東京都
腫瘍遺伝子変異から見た転移性脊髄腫瘍に対する治療効果	有田都史香、兒玉　憲、森本　卓、西山謹司、竹田雅司、都築　貴	第31回日本脊髄外科学会 2016/6/9　東京都
腫瘍遺伝子変異から見た転移性脊髄腫瘍に対する治療効果	有田都史香、兒玉　憲、森本　卓、西山謹司、竹田雅司、都築　貴	日本脳神経外科学会第75回学術総会 2016/10/1　福岡市
Pterional keyhole approachを応用した通常大の前頭側頭開頭によるクリッピング術	都築　貴、有田都史香、クーウィミン、谷口理章、瀧　琢有	STROKE2017 第46回日本脳卒中の外科学会学術集会　2017/3/16　大阪市
広範囲・全周性石灰化病変に対する頸動脈内膜剥離術における工夫	有田都史香、クーウィミン、谷口理章、都築　貴	STROKE2017 第46回日本脳卒中の外科学会学術集会　2017/3/18　大阪市
手術中に局所のヘモジデリン沈着を認めた未破裂脳動脈瘤の2例	有田都史香、都築　貴	STROKE2017 第46回日本脳卒中の外科学会学術集会　2017/3/16　大阪市
高位病変に対しても安全に施行可能な整容性に配慮した血栓内膜剥離術	都築　貴、有田都史香、クーウィミン、谷口理章、大森一美	STROKE2017 第46回日本脳卒中の外科学会学術集会　2017/3/16　大阪市
超音波検査を用いたアキレス腱縫合術術後早期修復過程に影響を与える因子の検討	平松久仁彦	第89回日本整形外科学会学術集会 2016/5/12-15　横浜市
小児下腿骨急性塑性変形の治療経験	松村宣政	第27回日本小児整形外科学会学術集会 2016/12/1-2　仙台市
胸椎椎体と連続する硬膜外血管腫により脊髄障害を呈した1例	辻井　聡	第127回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会　2016/9/30-10/1　松本市
胸骨偽関節に対してプレート固定とテリパラチド製剤投与を施行し骨癒合に至った一例	松村宣政	第127回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会　2016/9/30-10/1　松本市
ベンチプレス動作で発症した翼状肩甲の1例	平松久仁彦	第8回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　2016/7/28-30　福岡市
メディカルチェックによる柔軟性改善効果の検討 - 2015大阪トレセン(OTTC)におけるオンコート介入の効果についての検討―	平松久仁彦	第27回日本臨床スポーツ医学会 2016/11/5-6　千葉市
薬物の内服治療が中心となった下腿、足部潰瘍症例	三宅ヨシカズ、仲野雅之、松岡祐貴	第8回日本下肢救済・足病学会学術集会 2016/5/27-28　東京都
PLATELET-RICH PLASMA AND THE ULCER TREATMENT WITH VARIOUS APPLICATIONS	Kusumoto　K, Miyake　Y, Fukuda　S	5TH CONGRESS OF WUWHS 2016/9/25-29　FLORENCE ITALY
水平方向の血管網を持つ組織による手指再建	三宅ヨシカズ、仲野雅之、松岡祐貴	第43回日本マイクロサージャリー学会学術集会　2016/11/17-18　広島市
頬部アポクリン腺癌の1例	仲野雅之、三宅ヨシカズ、松岡祐貴	第35回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会2017/1/20-21　台湾 台北市
手指伸筋腱欠損に対する外腹斜筋腱膜を用いた再建	松岡祐貴、三宅ヨシカズ、仲野雅之	第22回日本形成外科手術手技学会 2017/2/18　東京都
当院における妊娠糖尿病のスクリーニング基準変更による母児の周産期予後の検討	山田弘次、松浦美幸、中野和俊、山口永子、佐々木高綱、吉澤順子、水田裕久、山田嘉彦	第68回日本産科婦人科学会学術講演会 2016/4/23　東京都

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
当院におけるHPV検査の検討	水田裕久、山田弘次、松浦美幸、中野和俊、山口永子、佐々木高綱、吉澤順子、山田嘉彦	第68回日本産科婦人科学会学術講演会 2016/4/24 東京都
子宮頸癌患者の子宮留膿腫・子宮穿孔に対し子宮内腔ドレーンチューブ留置が奏功した1例	中野和俊、山田嘉彦、山田弘次、松浦美幸、山口永子、佐々木高綱、吉澤順子、水田裕久	第68回日本産科婦人科学会学術講演会 2016/4/23 東京都
当院における妊娠糖尿病のスクリーニング基準変更による母児の周産期予後の検討	山田弘次、松浦美幸、中野和俊、山口永子、佐々木高綱、吉澤順子、水田裕久、山田嘉彦	第134回近畿産か婦人科学会学術集会 2016/6/5 京都市
術前診断では卵巣腫瘍であったが虫垂粘液腫と判明した1例	山田弘次、松浦美幸、中野和俊、山口永子、佐々木高綱、吉澤順子、水田裕久、山田嘉彦	第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2016/9/1 長崎市
当院の単一術者が2年間に担当した全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)について	佐々木高綱、中野和俊、山田弘次、松浦美幸、山口永子、吉澤順子、水田裕久、山田嘉彦	第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2016/9/1 長崎市
気管支喘息に対する免疫療法は早期導入が好ましいか？	濱田匡章、田中一郎	第65回日本アレルギー学会 2016/6/18 東京都
Growing teratoma syndromeを合併した頭蓋内混合性胚細胞腫瘍の1例	藪本仁美、石原　卓、越智聡史、竹下泰史、長谷川真理、朴　永銖、長谷川正俊、大林千穂、野上恵嗣、嶋　緑倫	第58回小児血液がん学会 2016/12/16 東京都
敗血症、DIC様症状を呈したヒトパレコウィルス3型(HPeV3)感染症の新生児例	藪本仁美、濱田匡章、吉川侑子、西川宏樹、近藤由佳、能村賀子、道之前八重、中野智巳、田中一郎	第30回近畿小児科学会 2017/3/12 大阪市
当院における食物経口緩徐免疫療法の検討	濱田匡章、田中一郎、中野智巳、道之前八重、能村賀子、近藤由佳、西川宏樹、藪本仁美、吉川侑子	第30回近畿小児科学会 2017/3/12 大阪市
当科における突発性難聴の検討―Neutrophil to Ly+9:14mphocyte ratio(NLR)との関連―	奥野未佳	第337回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 2016/6/4 大阪市
巨大副甲状腺腫の1例	佐野　奨	第337回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 2016/6/4 大阪市
外耳道神経線維腫の1例	米井辰一	第338回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 2016/9/3 大阪市
緊張部型真珠腫の進展度と骨導聴力の検討	日尾祥子	第339回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 2016/12/3 大阪市
当科で診断したOMAAVの3例	川島貴之	第340回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 2017/3/4 大阪市
内視鏡下で摘出しえた涙嚢腫瘍の1例	米井辰一	第340回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 2017/3/4 大阪市
多発性嚢胞腎患者に対する腎移植症例についての検討	岩井友明、内田潤次、桑原伸介、町田裕一、熊田憲彦、長沼俊秀、仲谷達也	第104回日本泌尿器科学会総会 2016/4/24 仙台市
カバジタキセル投与CRPCにおけるプグフィルグラスチムの骨髄抑制予防効果の検討	森本和也、田中智章、上宮健太郎、井口圭子、町田裕一、松田　淳、仲谷達也	第104回日本泌尿器科学会総会 2016/4/25 仙台市
当院における腎移植後悪性腫瘍に関する検討	岩井友明、内田潤次、桑原伸介、町田裕一、松岡悠大、長沼俊秀、仲谷達也	第52回日本移植学会総会 2016/9/29 東京都
精巣鞘膜悪性中皮腫の1例	村尾昌輝、山本匠真、町田裕一、上水流雅人、池本慎一	第66回日本泌尿器科学会中部総会 2016/10/27 四日市
膿腎症に対する腹腔鏡下腎摘除術の治療経験	町田裕一、山本匠真、村尾昌輝、上水流雅人、池本慎一	第30回日本泌尿器科内視鏡学会 2016/11/18 大阪市
当院におけるHo:YAGレーザー導入後のTULの治療成績	山本匠真、村尾昌輝、町田裕一、上水流雅人、池本慎一	第30回日本泌尿器科内視鏡学会 2016/11/18 大阪市
腎動脈瘤を伴った腎細胞癌に対し腹腔鏡下腎摘除術を施した1例	町田裕一、山本匠真、村尾昌輝、上水流雅人、池本慎一	第30回日本泌尿器科内視鏡学会 2016/11/18 大阪市
The Efficacy and Safety of 4 cycles of Tri-weekly Nanoparticle Albumin-bound Paclitaxel (nab-PTX) followed by 4 cycles of FEC (5-fluorouracil, epirubicin, cyclophosphamide) as Neoadjuvant Chemotherapy for Patients with HER2-negative Primary Breast Cancer - A Multicenter Phase II Study (KBCSG-TR1213).	Tanaka K, MD; Masuda N, MD, PhD; Matsunami N, MD, PhD; Takashima T, MD, PhD; Morimoto T, MD, PhD; Mizutani M, MD, PhD; Yoshidome K, MD, PhD; Yasozima H, MD, PhD; Morishima H, MD; Hata K, MD; Shiba E, MD, PhD; Tominaga S, MD, PhD; Nishi T, MD, PhD; Kamigaki S, MD, PhD; Yoshinami T, MD; Munakata S, MD, PhD; Takeda M, MD, PhD; Tsujimoto M, MD, PhD; Nakayama T, MD, PhD	2016/4/9-11 (AMSTERDAM)
精巣鞘膜に発生した中皮腫の一例	西岡陽介、村尾昌輝、眞能正幸、武田麻衣子、大林千穂、武島幸男、竹田雅司	第105回日本病理学会総会 2016/5/12-14 仙台市
術前化学療法についての臨床試験における中央病理診断の意義－KBCSG-TR1213での経験	竹田雅司、辻本正彦、棟方　哲、増田慎三、松並展輝、高島　勉、森本　卓、吉留克英、畑　和仁、芝　英一、富永修盛、西　敏夫、神垣俊二、中山貴寛、増田慎三	第24回日本乳癌学会学術総会 2016/6/16-18 東京都
手術可能HER2陰性乳癌におけるnab-Paclitaxel(q3W) followed by FECによる術前化学療法(KBCSG-TR1213)	松並展輝、増田慎三、高島　勉、森本　卓、水谷麻紀子、吉留克英、八十島宏行、森島宏隆、畑　和仁、芝　英一、富永修盛、西　敏夫、神垣俊二、吉波哲大、田中希世、棟方　哲、竹田雅司、辻本正彦、中山貴寛	第24回日本乳癌学会学術総会 2016/6/16-18 東京都
多型腺腫由来唾液腺導管癌の一例	三瀬浩二、正岡佳久、福田文美、笹平智則、竹田雅司	第55回日本臨床細胞学会秋期大会 2016/11/18-19 別府市
教育セミナー VABについて(病理の立場から―CNBとの比較)	竹田雅司	第14回日本乳癌学会近畿地方会 2016/12/3 大阪市
切除不能進行大腸癌に対するBV+TAS102療法	井出義人	第14回日本臨床腫瘍学会 2016/7/28-30 神戸市
当院のがん薬物療法におけるアピアランスケア支援への取り組み	島田敏江(シンポジスト)	第14回日本臨床腫瘍学会 2016/7/28-30 神戸市
L-OHPを使用した大腸癌に対する化学療法における悪心・嘔吐のリスク因子解析および性差に関する解析	井出義人(シンポジスト)	第54回日本癌治療学会学術集会 2016/10/20-22 横浜市
当院における妊娠糖尿病(GDM)と糖尿病合併妊娠の検討	小川義高	第59回日本糖尿病学会年次学術集会 2016/5/19 京都市

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
2型糖尿病の治療経過中に1型糖尿病を併発した一例	上田高志	第53回日本糖尿病学会近畿地方会 2016/11/12　大阪市
骨粗鬆症治療薬内服中に発症した上肢深部静脈血栓症の一例	寺西ふみ子	日本超音波医学会第89回学術集会 2016/5/27-29　京都市
腹部大動脈巨大血栓による 急性動脈閉塞の一例	寺西ふみ子	第41回日本超音波検査学会 2016/6/10-12　仙台市
(シンポジウム)心血管超音波検査のパニック(値)について	寺西ふみ子	第65回日本医学検査学会 2016/9/3-4　神戸市
経皮的腎動脈形成術(PTRA)に対し超音波ガイドが有用であった1例	細井亮二	第41回日本超音波検査学会 2016/6/10-12　仙台市
診断に難渋した肝未分化肉腫の一例	駒　美佳子	日本超音波医学会第43回関西地方会、 2016/10/29　大阪市
薬剤師のみの講演による初めての八尾市立病院公開講座の実施について	山崎　肇	医療薬学フォーラム2016　第24回クリニカルファーマシーシンポジウム 2016/6/26　大津市
在宅緩和ケアに向けての薬剤師の退院前カンファレンスの介入について　～薬局薬剤師と病院薬剤師との連携による退院時共同服薬指導の有用性～	長谷圭悟	第9回日本在宅薬学会学術大会 2016/7/17　大阪市
薬学教育実務実習アドバンスプログラム八尾ユニットの現状と課題	小川充恵	第26回日本医療薬学会年会 2016/9/19　京都市
八尾市立病院手術部での新たな麻薬管理業務について	山崎　肇	第55回全国自治体病院学会 in 富山 2016/10/20　富山市
八尾市立病院外来化学療法室での専任薬剤師について	佐藤浩二	第54回日本癌治療学会学術集会 2016/10/20　横浜市
院内製剤10%フェノールグリセリン注射液2mLの新規申請について	山崎　肇	日本薬学会　第137年会 2017/3/26　仙台市
小児の点滴刺入部の接続の緩みに対する対策	徳上美智子	第55回全国自治体病院学会 2016/10/20-21　富山市
口腔外科術後の不安への援助	福若佐和子	第55回全国自治体病院学会 2016/10/20-21　富山市
予後予告なく終末期医療に移行した青年期のがん患者との関わりと学び	谷口日登美	第54回日本がん治療学会学術集会 2016/10/20-22　横浜市
退院支援に関する看護師への意識調査	廣岡　球	第10回日本医療マネジメント学会 2017/3/4　大阪市
外来受診における「お薬手帳」の持参率向上を目指した取り組み	小川充恵、山崎　肇、播本靖子、中尾由美子、渡邊一枝、勝野真由美、森明富美子、小枝伸行	医療薬学フォーラム2016／第24回クリニカルファーマシーシンポジウム　2016/6/26 大津市
病院PFI事業の効果検証の実施結果～次期維持管理運営手法の検討に向けて～	高草恒平、朴井　晃、中田亮太、小枝伸行、植村佳子、山本佳司	第55回全国自治体病院学会 2016/10/21　富山市
地域医療連携システムの利活用に関する地域医師の意識調査	小枝伸行	第36回医療情報学連合大会 2016/11/23　横浜市
これからの薬剤師が知っておくべき地域医療構想と地域連携～がん疾患と糖尿病を中心に～	小枝伸行(シンポジスト)	日本病院薬剤師会　東北ブロック第6回学術大会シンポジウム2 2016/5/22　郡山市
S11-3　地域医療に貢献する薬剤師を育成するための実務実習プログラムの開発と今後の期待	小枝伸行(シンポジスト)	医療薬学フォーラム2016／第24回クリニカルファーマシーシンポジウム 2016/6/27　大津市
地域連携へのICT活用～夢を語ろう～	小枝伸行(シンポジスト)	第17回日本医療情報学会看護学術大会シンポジウム　2016/7/10　神戸市
電子カルテ閲覧による 調剤の質の向上と薬剤師	小枝伸行(シンポジスト)	第49回日本薬剤師会学術大会　分科会9 2016/10/6　名古屋市
シンポジウム　S10-2　地域チーム医療を担う薬剤師養成　八尾市の取り組みの現状と課題	小枝伸行(シンポジスト)	日本薬学会　第137年会 2017/3/25　仙台市
薬剤師・医療情報技師(HIT-Pharmacist)を対象とした現状調査～ 所属医 療機関の調剤支援システムについて	佐藤弘康、荒　義昭、高橋正明、山田仁之、池田和之、岡橋孝侍、木下元一、小枝伸行、関谷泰明、若林　進	第36回医療情報学連合大会 2016/11/23　横浜市
薬剤師・医療情報技師(HIT-Pharmacist)を対象とした現状調査 ～ 薬剤師・医療情報技師の背景、業務および活動について	佐藤弘康、荒　義昭、高橋正明、山田仁之、池田和之、岡橋孝侍、木下元一、小枝伸行、関谷泰明、若林　進	第36回医療情報学連合大会 2016/11/24　横浜市
レジメンシステムに関する実態調査－薬剤師・医療情報技師に対するアンケート調査	佐藤弘康、荒　義昭、高橋正明、山田仁之、池田和之、岡橋孝侍、木下元一、小枝伸行、関谷泰明、若林　進	日本臨床腫瘍薬学会　学術大会2017 2017/3/18　新潟市
地域チーム医療を担う薬剤師育成プログラム」における地域連携医療関連実習について - 薬学部実習生の視点から -	野村加奈子、中　雄一郎、篠原裕子、奥村隆司、小川充恵、小枝伸行、山崎　肇、井上知美、伊藤栄次、西田升三、小竹　武、村岡未彩、西野隆雄、平田收正	日本薬学会　第137年会 2017/3/26　仙台市
地域チーム医療を担う薬剤師育成プログラム」における地域連携医療関連実習について - 薬学部実習生の視点から -	山下佑麻、假屋幸音、小川充恵、小枝伸行、山崎　肇、篠原裕子、奥村隆司、中野道雄、村岡未彩、西野隆雄、平田收正、井上知美、伊藤栄次、西田升三、小竹　武	日本薬学会　第137年会 2017/3/26　仙台市

(3)研究会発表

演題名	発表者	研究会名、日時、会場(都市)
内視鏡センターの現況	上田高志	中河内地域連携消化器病フォーラム 2016/6/18　大阪市

演題名	発表者	研究会名、日時、会場（都市）
血栓塞栓高リスク患者におけるより良い抗凝固療法とは	渡部徹也	心エコー図学会第27回学術集会 2016/4/23　大阪市
大腿骨遠位部分関節内骨折(AO 33-B3, Hoffa fx)の治療経験	松村宣政	大阪大学整形外科骨折カンファレンス 2016/5　大阪市
メディカルチェックによる下肢柔軟性改善効果の検討-大阪トレセン(OTTC)における介入の効果についての検討-	平松久仁彦	第7回日本テニス・スポーツ医学研究会 2017/3/19　仙台市
小児大腿骨転子下骨折後偽関節の症例検討	松村宣政	大阪大学整形外科骨折カンファレンス 2016/11 大阪市
手指伸筋腱欠損に対する外腹斜筋腱膜を用いた3症例	松岡祐貴、三宅ヨシカズ、仲野雅之	SDMeeting　2017/2　大阪市
食育と学校給食～給食の稀な食品摂取からアナフィラキシーを来した2例～	濱田匡章、藪本仁美、田中一郎	第32回大阪食物アレルギー懇話会 2016/5/28　大阪市
濾紙血を用いて最終診断した後天性サイトメガロウイルス感染のMD双胎例	藪本仁美、道之前八重、吉川侑子、西川宏樹、近藤由佳、能村賀子、濱田匡章、井崎和史、中野智巳、田中一郎	第310回NMCS例会 2016/6/17　大阪市
当院で経験した脳炎/脳症および類縁疾患	藪本仁美	第55回中河内小児科談話会 2016/6/18　大阪市
地域基幹病院出生児を対象としたスキンケア外来～2年経過後の現状報告～	濱田匡章	第33回大阪食物アレルギー懇話会 2016/10/29　大阪市
高血圧と肥満を伴った重症IgA腎症の治療中に再燃した1例	濱田匡章、渡邉昭雄、石川智朗、大前隆志、中島　充	第26回小児腎疾患カンファレンス 2016/11/5　大阪市
当院における環境アレルゲン免疫療法の現状について	濱田匡章	第78回臨床アレルギー研究会（関西） 2016/11/12　大阪市
プロプラノロール内服治療が奏功した乳児顔面血管腫の1例	近藤由佳	第56回中河内小児科談話会 2016/12/3　大阪市
ヒトメタニューモウイルス感染に伴い肝機能障害を呈した1例	吉川侑子	第56回中河内小児科談話会 2016/12/3　大阪市
診断に苦慮したネフロン癆疑いの一女児例	近藤由佳、濱田匡章、田中一郎、石川智朗、中島　充、藤丸李可	第27回小児腎疾患カンファレンス 2017/3/4　大阪市
当科における好酸球性副鼻腔炎の検討	奥野未佳	八尾耳鼻咽喉科医会研修会 2016/11/12　八尾市
当科で経験したANCA関連血管炎性中耳炎（OMAAV）について	川島貴之	八尾耳鼻咽喉科医会研修会 2016/11/12　八尾市
当科での2年間をふりかえって	米井辰一	八尾耳鼻咽喉科医会研修会 2017/2/18　八尾市
当科で経験した唾液腺疾患について	佐野　奨	八尾耳鼻咽喉科医会研修会 2017/2/18　八尾市
生体肝移植後腎不全に対し同一ドナーからの生体腎移植を施行した1例	桑原伸介、岩井友明、内田潤次、町田裕一、壁井和也、長沼俊秀、仲谷達也	第32回腎移植血管外科研究会 2016/5/28　姫路市
巨大Oncocytomaの1例	山本匠真、村尾昌輝、町田裕一、上水流雅人、池本慎一	第44回大阪泌尿器画像診断研究会 2016/6/25　大阪市
症例提示	西岡陽介、竹田雅司、橋本安司	第23回中皮腫パネル 2016/10/1　広島市
当院における妊娠糖尿病（GDM）と糖尿病合併妊娠の検討	小川義高	第10回大阪糖尿病臨床カンファレンス 2016/5/7　大阪市
（座長）	木戸里佳	第10回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス　2016/6/4　大阪市
上肢静脈血栓症の一例	寺西ふみ子	大阪血管エコー研究会 2016/7/29　大阪市
八尾市立病院の連携ネットワークを活用した病薬連携の取組み	小川充恵	ノバルティス情報誌「Ricetta」取材 2016/9/25　八尾市
当院での苦痛のスクリーニングに関する取り組み	山田智子	第19回関西がんチーム医療研究会 2016/9/10　大阪市
脊髄疾患における安静臥床患者の食事傾斜台使用の有効性	佐々木泰広	大阪府看護協会府東支部研究発表会 2017/2/28　柏原市
患者との関わりを通しての学びと振り返り	松本雄祐	大阪府看護協会府東支部研究発表会 2017/2/28　柏原市
口腔外科領域のがん治療症例に対する栄養介入を行った一例	中谷摩利子	第20回関西チーム医療発表会 2016/3/4　大阪市
診療報酬改定	小枝伸行	電子カルテフォーラム「利用の達人」＆ 地域医療ネットワーク研究会合同企画　導入／運用ノウハウ事例発表会 2016/9/25　大阪市
医師事務作業補助	小枝伸行	電子カルテフォーラム「利用の達人」＆ 地域医療ネットワーク研究会合同企画　導入／運用ノウハウ事例発表会 2016/9/26　大阪市

（4）講演

演題名	発表者	講演会名、日時、会場（都市）
高血圧の治療について	大江洋介	八尾市薬剤師会従事者研修会 2016/7/10　八尾市文化会館プリズムホール
C型肝炎に対する最新治療	宮城琢也	第13回八尾地域医療合同研究会 2016/5/14　大阪市
C型肝炎に対するIFNフリー治療～ 当院における現状と展望	宮城琢也	中河内肝炎病診連携講演会 2016/7/23　大阪市
当院におけるESDの実績と PPIの有用性・安全性	上田高志	第14回八尾地域医療合同研究会 2016/10/15　大阪市
健康診断で認められる心電図異常とその対応	渡部徹也	第4回中河内・平野循環器病診連携の会 2016/6/9　大阪市
心房細動患者における抗凝固療法の基本	渡部徹也	第5回中河内・平野循環器病診連携の会 2017/2/18　大阪市
当院でのNST活動と胃癌治療の変遷	松山　仁	第3回サロン・ド・大和路ライン 2016/6/14　奈良県北葛城郡王寺町
胃癌の外科治療	松山　仁	八尾市民講座 2016/9/17　八尾市文化会館プリズムホール
最近の肺がん治療　－　その進歩と今後の課題　－	兒玉　憲	がん予防キャンペーン大阪2016年講演会 2016/10/1　大阪市
当院における形成外科診療の現状と病診連携について	仲野雅之	unite for Diabetes in 中河内 2016/11/17　八尾市
褥瘡の局所管理・治療	三宅ヨシカズ	第10回大阪在宅褥瘡セミナー 2017/1/22　大阪市
日常診療で役立つ大腸癌化学療法の実際	井出義人	消化器がん地域医療連携合同勉強会 2016/5/26　大阪市（淀川キリスト教病院）
当院における大腸癌化学療法の実際	井出義人	奈良県消化器癌Meeting 2016/6/24　奈良市
当院における大腸癌化学療法の実際	井出義人	Colorectal Cancer Symposium 2016/2/1　大阪市
最新の知見に基づくSGLT2阻害剤治療のコツ	木戸里佳	糖尿病学術講演会　2016/4/2　大阪市
2型糖尿病におけるデグルデグの有用性 ～ライゾデグ配合注への期待～	木戸里佳	糖尿病学術講演会in八尾 2016/5/11　八尾市文化会館プリズムホール
ライゾデグ配合注の使用経験	小川義高	糖尿病学術講演会in八尾 2016/5/11　八尾市文化会館プリズムホール
糖尿病治療における食事・運動・薬物療法の最良の組み合わせと運動療法のコツ	木戸里佳	第18回八尾地区糖尿病連携会 2016/6/2　八尾市文化会館プリズムホール
糖尿病の治療	木戸里佳	八尾市生活習慣病市民公開講座 2016/6/19　八尾市文化会館プリズムホール
当院におけるスーグラの使用経験	小川義高	糖尿病治療セミナー　2016/7/2　大阪市
糖尿病診療の克服課題へのチャレンジ	木戸里佳	Yamato Riverside Seminar 2016/7/16　アゼリア柏原
八尾地区における糖尿病診療の地域連携について	小川義高（パネリスト）	第19回八尾地区糖尿病連携会 2016/10/6　八尾徳洲会総合病院
インスリンに対する拒否的な患者へのアプローチ	木戸里佳（ファシリテーター）	第2回MODSカンファレンス 2016/10/29　大阪市
糖尿病のチーム医療　～薬局でできる療養指導～	木戸里佳	八尾市薬剤師会学術講演会 2016/11/6　八尾市保健センター
世界糖尿病デー ～糖尿病治療の現状と展望～	木戸里佳	第7回いきいき！糖尿病健康フォーラム 2016/11/26　八尾市文化会館プリズムホール
糖尿病のチーム医療と地域連携　～当院での取り組み～	木戸里佳	地域連携カンファレンス～糖尿病と循環器疾患を考える会～　2017/3/4　大阪市
第1回心エコー読影講座「計測と描出」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 （ベーシックコース） 2016/6/7　大阪医療技術学園専門学校
第2回心エコー読影講座「収縮能とAsynergy」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 （ベーシックコース） 2016/7/5　大阪医療技術学園専門学校
第3回心エコー読影講座「拡張能と心不全」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 （ベーシックコース） 2016/8/2　大阪医療技術学園専門学校
第4回心エコー読影講座「僧帽弁の評価法」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 （ベーシックコース） 2016/9/6　大阪医療技術学園専門学校

演題名	発表者	講演会名、日時、会場（都市）
第5回心エコー読影講座「大動脈弁の評価法」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 （ベーシックコース） 2016/10/4大阪医療技術学園専門学校
第6回心エコー読影講座「心筋症の評価法」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 （ベーシックコース） 2016/11/1　大阪医療技術学園専門学校
第7回心エコー読影講座「症例でおさらい」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 （ベーシックコース） 2016/12/6　大阪医療技術学園専門学校
腎動脈エコー講義・実技講師	寺西ふみ子	第15回神戸血管エコーセミナー 2016/7/16　宮野医療器大倉山別館6F ホール
血管エコー講義・実技講師	寺西ふみ子	大臨技第7回血管エコー実技研修会 2015/8/7　大阪府医師協同組合
心エコー実技講師	寺西ふみ子	大臨技第13回心エコー実技研修会 2016/10/9-10　大阪府医師協同組合
頸動脈エコー講義・実技講師	寺西ふみ子	CCT2016 2016/10/22　神戸国際会議場
腹部エコー実技講師	寺西ふみ子	兵庫県地域医師超音波ハンズオン・セミナー2016　2016/11/3　神戸大学医学部附属地域医療活性化センター
心エコー×腎動脈エコーで高血圧に挑む！　腎動脈エコー	寺西ふみ子	エコー淡路2016 2016/11/14-15　兵庫県立淡路夢舞台国際会議場
症例検討会「上肢腫脹の一例」	寺西ふみ子	京都循環器検査研究会 2016/11/18　京都保健衛生専門学校
スペシャリストのスクリーニング法をマスターする	寺西ふみ子	大臨技第6回腹部エコー実技研修会 2017/1/8　大阪府医師協同組合
腹部血管を極める －腎動脈狭窄、腎動脈瘻－	寺西ふみ子他	大阪超音波技術研究会 2017/1/20　住友病院14階講堂
腎動脈エコーの基本 講義とライブ	寺西ふみ子	心血管エコーセミナー 2017/2/3　大阪市立総合医療センターさくらホール
検査の実体験3　超音波検査のハンズオン	寺西ふみ子	第1回大臨技医学検査学会 2017/2/12　グランキューブ大阪12階
腎動脈エコー講義・実技講師	寺西ふみ子	第9回心血管エコーライブハンズオンセッション　2017/3/5　大阪府医師協同組合
血圧脈波検査でわかること	細井亮二	Take!ABI 2016 in Yao 2015/9/27　八尾市立病院大会議室
血管エコー実技講師	細井亮二	大臨技第7回血管エコー実技研修会 2016/8/7　大阪府医師協同組合
心エコー実技講師	細井亮二	大臨技第13回心エコー実技研修会 2016/10/9-10　大阪府医師協同組合
血管エコー実技講師	細井亮二	第9回心血管エコーライブハンズオンセッション　2017/3/5　大阪府医師協同組合
腹部エコー実技講師	駒　美佳子	大臨技第6回腹部エコー実技研修会 2017/1/8　大阪府医師協同組合
パネルディスカッション　　耐性菌の検出状況の動向と来年の課題	西野多江子	第2回中河内感染防止協議会 2016/2/18　市立東大阪医療センター
動脈硬化予防の食事	黒田昇平	八尾市立病院公開講座　Take！ABI2016 in八尾　2016/9/22　八尾市
食事バランスと減塩の工夫	黒田昇平	八尾市食生活改善推進員養成講座 2017/2/15　八尾市
八尾市立病院の病薬連携　～処方せんの様式変更、疑義照会、病診薬連携システム～	小川充恵	八尾市薬剤師会従事者研修会 2016/7/10　八尾市文化会館プリズムホール
糖尿病に関する検査値について	中谷成美	八尾市保健センター（出前講座） 2017/1/15　八尾市
八尾市立病院におけるDI活動の実際　　～保険薬局との情報連携を目指して～	小川充恵	第418回愛媛県病院薬剤師会　南予支部薬学セミナー　2016/10/29　宇和島市
病院・薬局　情報連携の課題とビジョン～がん・緩和領域を中心に～	小枝伸行	シームレスな薬物療法を作る会　第1回研究会　2016/4/25　新潟市
在宅での経口抗がん剤の服薬管理を支える ～薬薬連携の重要性～八尾市立病院の取り組みから	小枝伸行（シンポジスト）	第19回関西がんチーム医療研究会 2016/9/11　大阪市
地域医療構想における薬剤師の役割～ICT（Information Communication Technology）の活用と地域連携～	小枝伸行	第3回西濃薬剤師連携研究会 2016/10/26　岐阜市
地域医療構想におけるICTを活用した地域医療連携～生活習慣病（がん、糖尿病を中心に）への取り組み～	小枝伸行	愛媛県病院薬剤師会南予支部薬学セミナー　2016/10/30　宇和島市
診療情報（カルテ）閲覧で変わる保険薬局での調剤とその課題	小枝伸行	日本薬学会近畿支部主催第3回在宅医療推進ワークショップ　2016/11/12　大阪市

演題名	発表者	講演会名、日時、会場（都市）
経口抗がん剤の薬・薬連携～現状と今後取り組むべき課題について～	小枝伸行	大阪　薬薬連携推進カンファレンス 2016/11/15　大阪市
地域医療構想と病薬連携～医療の情報を薬剤師が活用するために～	小枝伸行	平成28年度地域医療連携ネットワーク研修会　2017/1/20　大分市
医療情報を有効活用するために～ICT を利用した連携を中心に～	小枝伸行	高知県病院薬剤師会 平成29年2月度例会（中小病院実務研修会） 2017/2/23　高知市
病院PFI事業における公民協働・性能発注・インセンティブの活用	門井洋二	JPI特別セミナー 2016/9/9　東京都

（5）院内研修会

セッション名	司会・座長	研修会名、日時、会場（都市）
頭痛・意識障害	大江洋介	平成28年度レジデント・レクチャー 2017/3/16　1階103会議室
研修医勉強会　消化管緊急内視鏡	伊藤資世	レジデント・レクチャー 2016/9/29　1階103会議室
病棟勉強会 吐下血	前川祐樹	レジデント・レクチャー 2016/1/19　1階103会議室
病棟勉強会　ESD	上田高志	レジデント・レクチャー 2016/2/2　1階103会議室
病棟勉強会　IBD	中村昌司	レジデント・レクチャー 2016/2/16　1階103会議室
病棟勉強会　ERCP	巽　　理	レジデント・レクチャー 2016/3/2　1階103会議室
病棟勉強会　肝炎	木津　崇	レジデント・レクチャー 2016/3/16　1階103会議室
病棟勉強会　HCC	福井弘幸	レジデント・レクチャー 2016/3/30　1階103会議室
乳房再建について	三宅ヨシカズ	乳がん研修 2016/10/26　北館5階大会議室
新生児蘇生講習会　Aコース　講義・実技	道之前八重	新生児蘇生講習会　Aコース 2016/11/25-26　2階小児科外来
人工呼吸について	橋村俊哉	YRCT 2016/10/28　1階101会議室
全身麻酔について	橋村俊哉	手術室Ns勉強会 2017/1/25　3階手術室
第83回院内CPC	司　　会　副院長　　福井　弘幸 症例提示　臨床研修医　山田　佳那 循環器内科　福岡　秀忠 病理解説　臨床研修医　角谷　哲基 病理診断科　西岡　陽介	2016/7/6　1階101会議室
第84回院内CPC	司　　会　副院長　　福井　弘幸 症例提示　臨床研修医　井上　創輝 消化器内科　中村　昌司 病理解説　臨床研修医　澤田　允宏 病理診断科　西岡　陽介	2016/9/7　1階101会議室
第85回院内CPC	司　　会　副院長　　福井　弘幸 症例提示　臨床研修医　渡瀬　晴人 血液内科　服部　英喜 病理解説　臨床研修医　大垣　智慧 病理診断科　西岡　陽介	2016/11/2　1階101会議室
第86回院内CPC	司　　会　副院長　　福井　弘幸 症例提示　臨床研修医　角谷　哲基 消化器内科　前川　祐樹 病理解説　病理診断科　西岡　陽介	2017/1/18　1階101会議室
第87回院内CPC	司　　会　副院長　　福井　弘幸 症例提示　臨床研修医　峯　健太朗 循環器内科　福岡　秀忠 病理解説　病理診断科　竹田　雅司 病理診断科　西岡　陽介	2017/3/1　1階101会議室
鎮静剤使用時の内視鏡検査後の帰宅基準実用化に向けた取り組み	吉本弘深	院内研修会 2017/3/17　北館5階大会議室
入院中の血糖管理について	木戸里佳	院内勉強会（看護部） 2017/2/15　北館5F会議室
院内研修 腹部超音波検査の基礎とハンズオン	寺西ふみ子	研修医超音波研修 2016/6/2　超音波検査室
院内研修 腹部超音波検査の基礎とハンズオン	駒　美佳子	研修医超音波研修 2016/6/2　超音波検査室
院内研修 腹部超音波検査の基礎とハンズオン	細井亮二	研修医超音波研修 2016/6/2　超音波検査室
院内研修 心臓超音波検査の基礎とハンズオン	細井亮二	研修医超音波研修 2016/6/5　超音波検査室
院内研修 心臓超音波検査の基礎とハンズオン	駒　美佳子	研修医超音波研修 2016/6/5　超音波検査室

セッション名	司会・座長	研修会名、日時、会場（都市）
褥瘡の状態にあった薬剤の選択とその理由	中谷成美	褥瘡対策セミナー 2017/1/17 北館5階大会議室
『ミキシッド』製品説明	大塚製薬工場 荘司一実氏	2016/5/18 薬務室
『ウリアデック』製品説明	三和化学 田仲陽子氏	2016/5/24 薬務室
『ポマリスト』製品説明	セルジーン 亀谷直樹氏	2016/6/2 薬務室
『ジャディアンス』製品説明	イーライリリー 田上浩司氏	2016/6/9 薬務室
『ロコアテープ』製品説明	大正富山 水之江一寿氏	2016/6/14 薬務室
心房細動の薬物治療について	トーアエイヨー 秦 太一氏	2016/6/22 薬務室
ワクチンの定期接種スケジュールに関して	田辺三菱 佐野高志氏	2016/6/28 薬務室
輸液に関わる医療機器勉強会 その①	テルモ 福元憲二氏	2016/7/5 薬務室
輸液に関わる医療機器勉強会 その②	テルモ 福元憲二氏	2016/7/12 薬務室
高齢者疑似体験・湿布について	久光 佐藤雄紀氏	2016/7/21 薬務室
『トルリシティ』製品説明	大日本住友 井上 修氏	2016/8/30 薬務室
『シダトレンスギ花粉』『ミティキュアダニ』製品説明	鳥居 阿久津 彩氏	2016/9/7 薬務室
Webカンファレンス「糖尿病治療薬と体内動態」	イーライリリー 田上浩司氏	2016/9/13 薬務室
『フィコンパ』製品説明	エーザイ 金澤眞司氏	2016/9/29 薬務室
Web講演会「高齢者の不眠症治療～認知症、せん妄、そして転倒」	MSD 岩崎庸子氏	2016/10/26 薬務室
静脈血栓塞栓症治療におけるエリキュース錠の有用性	ファイザー 江角英之氏	2016/11/2 薬務室
Web講演会「手術室における薬剤師への期待と理想的近未来像」	MSD 高木俊一氏	2016/11/9 薬務室
『フェブリク錠』新効能効果を含めたご紹介	帝人ファーマ 岡村正行氏	2016/11/15 薬務室
『レパーサ』製品説明	アステラス 清藤結依子氏	2016/11/29 薬務室
『プラザキサ』及び『プリズバインド』の有用性	日本ベーリンガー 堤 勝彦氏	2017/1/18 薬務室
がん化学療法：副作用対策の実際①	日本化薬 藤原範之氏	2017/1/26 薬務室
『エレルサ錠／グラジナ錠』の有効性と安全性の訴求	MSD 松木薗俊明氏	2017/1/31 薬務室
『ビムパット』製品説明	第一三共 工代範明氏	2017/2/7 薬務室
『フルティフォーム』製品説明	杏林 矢ノ口益輝氏	2017/2/15 薬務室
『キイトルーダ』製品説明	MSD 奥川雅史氏	2017/2/21 薬務室
『エクリラ』製品説明	杏林 矢ノ口益輝氏	2017/2/23 薬務室
Web講演会「認知症患者の睡眠障害の特徴」	MSD 芹田 巧氏	2017/2/28 薬務室
保湿剤の塗り方	マルホ 早川政一氏	2017/3/9 薬務室
『スピオルトレスピマット』製品説明	日本ベーリンガー 堤 勝彦氏	2017/3/16 薬務室
『ビオスリー』製品説明	東亜新薬 平原 幸氏	2017/3/22 薬務室
がん化学療法：副作用対策の実際②	日本化薬 藤原範之氏	2017/3/29 薬務室
個人情報の取り扱い方	小枝伸行	院内研修会 2016/6/7 1階101会議室

（6）学会司会

セッション名	司会	日時、会場（都市）
ポスターセッション-100; 鑑三鏡視下手術・高齢者	佐々木洋	第116回日本外科学会定期学術集会 2016/4/14-16 大阪市
ワークショップ3; 肝癌に対する最新の画像診断	佐々木洋	第20回日本肝臓学会大会 2016/11/3-4 神戸市
ビデオシンポジウム09; 安全・正確な肝離断のための工夫	佐々木洋	第78回日本臨床外科学会総会 2016/11/24-26 東京都
国際ワークショップ7 Liver 1; Conversion surgery for patients with metastatic liver cancer	佐々木洋	第28回日本肝胆膵外科学会学術集会 2016/6/2-4 大阪市
一般演題3; 肝切除のためのシミュレーション	佐々木洋	第11回肝癌治療シミュレーション研究会 2016/9/17 大阪市

セッション名	司会	日時、会場（都市）
医療現場一筋の肝臓外科医から若手肝臓外科医へ送るメッセージ	佐々木洋	第11回関西肝臓外科医育成の会 2017/1/30　大阪市
胃・十二指腸 C24-30	松山　仁	第199回近畿外科学会 2016/5/14　大阪市
リンパ腫	馬庭知弘	第33回日本呼吸器外科学会総会 2016/5/12-13　京都市
知っておきたい保湿の重要性 ～アトピー性皮膚炎治療を見直してみる～	田中一郎	第56回中河内小児科談話会 2016/12/3大阪市
一般演題　感染症④	濱田匡章	第30回近畿小児科学会 2017/3/12 大阪市
乳腺4	竹田雅司	第105回日本病理学会総会 2016/5/12-14　仙台市
診断講習会	竹田雅司	第73回日本病理学会近畿支部学術集会 2016/6/25　西宮市
一般演題「血管」	浅岡伸光	日本超音波医学会第89回学術集会 2016/5/27-5/29　京都市
皆で学んで明日から活かそう超音波！「心臓エコー」	浅岡伸光	CCT2016 2016/10/22　神戸市
第Ⅱ部　業務に必要なことを学ぶ	小川充恵	第5回近畿大学医学部附属病院「連携病院会スタッフ交流会」 2016/10/22　大阪狭山市（近畿大学）
シンポジウム 18　薬剤師がスマートプラチナ時代を生き残るためのインスピレーション ～薬剤師が情報連携にいかに関わるのか～	小枝伸行	第26回日本医療薬学会年会 2016/9/17　京都市
薬剤業務	小枝伸行	電子カルテフォーラム「利用の達人」＆ 地域医療ネットワーク研究会合同企画　導入／運用ノウハウ事例発表会　2016/9/25 大阪市
電子パスをもっと活用したい！	小枝伸行	電子カルテフォーラム「利用の達人」＆ 地域医療ネットワーク研究会合同企画　導入／運用ノウハウ事例発表会　2016/9/26 大阪市
院内パス：作成6	小枝伸行	第17回日本クリニカルパス学会 2016/11/25　金沢市
地域へ展開する薬剤師業務～シームレスな薬物治療の実践にむけて～	小枝伸行	第38回日本病院薬剤師会近畿学術総会シンポジウム8　2017/2/26　大阪市
「がん治療」に対峙する薬剤師－中小、へき地、地方からのメッセージ－	小枝伸行	日本臨床腫瘍薬学会　学術大会2017　シンポジウム6　2017/3/17　新潟市

編集後記

平成 28 年度は８月にリオデジャネイロで南米初のオリンピックが開催され、日本は金メダル 12 個を含む過去最多の 41 個のメダルを獲得しました。レスリング女子 58 キロ級で４連覇を達成した伊調馨選手や体操男子個人総合連覇を成し遂げた内村航平選手、バドミントン女子ダブルスで日本初の金メダルを獲得したタカマツペア（高橋礼華・松友美佐紀選手）、陸上男子 400 メートルリレーで銀メダルを獲得した４選手（山縣亮太・飯塚翔太・桐生祥秀・ケンブリッジ飛鳥選手）などアスリートたちの活躍の数々は今も記憶に新しいところです。3 年後に開催される東京オリンピックが今から楽しみです。

さて、今年もみなさまに八尾市立病院年報（平成 28 年度、第 29 号）をお届けいたします。平成 28 年度は、佐々木総長・星田病院長体制の２年目にあたります。この一年間は様々な課題に直面しましたが、職員一丸となった取り組みによりそれらを乗り越え、今年度も最終的に黒字を達成することができました。病院としてまだまだ成長途上であり、現状に甘んじることなく、さらなる診療の質の向上に取り組んでいきたいと思います。

末尾にはなりますが、今回も年報発行にあたり病院内の各部署のみなさま方の多大なご協力をいただきました。編集委員一同、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

編集委員長　　田中　一郎

年 報 編 集 委 員 会

編集　委員長	田　中　一　郎	副院長
編集　副委員長	山　内　雅　之	事務局次長
編集　委　　員	大　江　洋　介	内科部長
	上水流　雅　人	中央手術部部長兼泌尿器科医長
	長　谷　圭　悟	薬剤部長補佐
	平　井　良　介	放射線科技師長
	千　種　保　子	看護部次長
	山　本　恵　郎	ＳＰＣ（ＭＳ）
	原　田　美永子	ＳＰＣ（協力企業）
	坂　手　亜衣子	企画運営課主査
編集事務担当	坂　手　亜衣子	企画運営課主査
	山　本　恵　郎	ＳＰＣ（ＭＳ）

病院年報（第２９号）
平成２９年（２０１７年）１２月発行

■ 編集･発行　八尾市立病院　年報編集委員会
〒581-0069　八尾市龍華町 1-3-1
TEL　(072)922-0881(代)
■ ホームページ:http://www.hospital.yao.osaka.jp/
刊行物番号　Ｈ２９―６５